

KN1108VA/KN1116VA

日本語版ユーザーマニュアル



本ドキュメントについて

本書は ATEN ジャパン株式会社において、KN1108VA/KN1116VA 取り扱いの便宜を図るため、英語版ユーザーマニュアルをローカライズしたドキュメントです。

製品情報、仕様はソフトウェア・ハードウェアを含め、予告無く改変されることがあり、本日本語版ユーザーマニュアルの内容は、必ずしも最新の内容でない場合があります。また製品の不要輻射仕様、各種安全規格、含有物質についての表示も便宜的に翻訳して記載していますが、本書はその内容について保証するものではありません。

製品をお使いになるときは、英語版ユーザーマニュアルにも目を通し、その取扱方法に従い、正しく運用を行ってください。詳細な製品仕様については英語版ユーザーマニュアルの他、製品をお買い上げになった販売店または弊社テクニカルサポート窓口までお問い合わせください。

ATEN ジャパン株式会社

技術部

TEL :03-5615-5811

MAIL :support@atenjapan.jp

2025 年 1 月 3 日

ユーザーの皆様へ

本マニュアルに記載されたすべての情報、ドキュメンテーション、および製品仕様は、製造元であるATEN Internationalにより、予告無く改変されることがあります。製造元ATEN Internationalは、製品および本ドキュメントに関して、品質・機能・商品性および特定の目的に対する適合性について、法定上の、明示的または黙示的であるかを問わず、いかなる保証もいたしません。

弊社製品は一般的なコンピューターのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。高度な動作信頼性と安全性が求められる用途、例えば軍事使用、大規模輸送システムや交通インフラの制御、原子力発電所、セキュリティーシステム、放送システム、医療システムなどにおける可用性への要求を必ずしも満たすものではございません。

キーボード、マウス、モニター、コンピューターなど、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダーの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予期できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能をすべて発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。

本製品および付属のソフトウェア、ドキュメントの使用によって発生した装置の破損・データの損失などの損害に関して、直接的・間接的・特殊な事例・付帯的または必然的であるかを問わず、弊社の損害賠償責任は本製品の代金相当額を超えないものとします。

製品をお使いになる際には、製品仕様に沿った適切な環境、特に電源仕様についてはご注意のうえ、正しくお使いください。

ATEN ジャパン製品保証規定

弊社の規定する標準製品保証は、定められた期間内に発生した製品の不具合に対して、すべてを無条件で保証するものではありません。製品保証を受けるためには、この『製品保証規定』およびユーザーマニュアルをお読みになり、記載された使用法および使用上の各種注意をお守りください。

また製品保証期間内であっても、次に挙げる例に該当する場合は製品保証の適用外となり、有償による修理対応といたしますのでご注意ください。

- ◆ 使用上の誤りによるもの
- ◆ 製品ご購入後の輸送中に発生した事故などによるもの
- ◆ ユーザーの手による修理または故意の改造が加えられたもの
- ◆ 購入日の証明ができず、製品に貼付されている銘板のシリアルナンバーも確認できないもの
- ◆ 車両、船舶、鉄道、航空機などに搭載されたもの
- ◆ 火災、地震、水害、落雷、その他天変地異、公害、戦争、テロリズムなどの予期しない災害によって故障、破損したもの
- ◆ 日本国外で使用されたもの
- ◆ 日本国外で購入されたもの

【製品保証手順】

弊社の製品保証規定に従いユーザーが保証を申請する場合は、大変お手数ですが、以下の手順に従って弊社宛に連絡を行ってください。

(1) 不具合の確認

製品に不具合の疑いが発見された場合は、購入した販売店または弊社サポート窓口にご連絡の上、製品の状態を確認してください。この際、不具合の確認のため動作検証のご協力をお願いすることがあります。

(2) 本規定に基づく製品保証のご依頼

(1)に従い確認した結果、製品に不具合が認められた場合は、本規定に基づき製品保証対応を行います。製品保証対応のご依頼をされる場合は、RMA 申請フォームの必要項目にご記入の上、『お客様の製品購入日が証明できる書類』を用意して、購入した販売店までご連絡ください。販売店が不明な場合は、弊社までお問い合わせください。

(3) 製品の発送

不具合製品の発送は宅配便などの送付状の控えが残る方法で送付してください。

【製品保証期間】

製品保証期間は通常製品/液晶ディスプレイ搭載製品で異なります。詳細は下記をご覧ください。

①通常製品	製品納品日～30日	初期不良、新品交換※1
	31日～3年間	無償修理
	3年以上	有償修理※2
②型番 CL から始まる LCD 搭載製品のみ	製品納品日～30日	初期不良、新品交換※1
	31日～2年間	無償修理
	2年以上	有償修理※2

※1…製品購入日から 30 日以内に確認された不具合は初期不良とし、新品交換を行います。初期不良の場合の送料は往復弊社にて負担いたします。

※2…有償修理の金額は別途製品を購入された販売店までお問い合わせください。

※ケーブル類、その他レールキットなどのアクセサリ類は初期不良の際の新品交換のみ、承りません。

※EOL (生産終了)が確定した製品については、初期不良であっても無償修理対応とさせていただきます。また EOL 製品の修理に関して、上記無償修理期間中であっても、部材調達の都合などにより修理不可になる可能性がございます。そのような場合には、機能同等品による良品交換のご対応となる可能性がございます。また、EOL 製品の型番や、修理可否、後継機種については、随時情報更新を行っておりますので、弊社ウェブページにて最新情報をご確認ください。

※製品保証期間の延長や故障時の代替品などの保証オプションについては、弊社ウェブページをご確認ください。

【補足】

- 本規定は ATEN 製品に限り適用します。
- ケーブル類は初期不良対応に準じます。
- 初期不良による新品交換の場合は、ATEN より発送した代替品の到着後、5 営業日以内に不具合品を弊社宛に返却してください。返却の予定期日が守られない場合は弊社から督促を行います。それにも関わらず不具合品が返却されない場合は、代替機相当金を販売代理店経由でご請求いたします。
- ラベルの汚損や剥がれなどにより製品のシリアルナンバーが確認できない場合は、すべて有償修理とさせていただきます。

【免責事項】

1. 弊社製品は映像関連システムやコンピューターのメインフレームおよびインターフェースの操作・運用・管理を目的として設計・製造されております。しかし、使用環境などによってはその機能が制限されることがあります。弊社では、ご購入前に弊社製品をお試しいただける「評価機貸出サービス」を、無償でご提供しております。評価機貸出サービスに関するお問い合わせは、弊社代理店または弊社ウェブサイト(<http://www.aten.com/jp/ja/>)内の「お問い合わせ」>「ご購入前のお問い合わせ」フォームをご利用ください。
2. キーボード、マウス、モニター、コンピューターなど、弊社製品に接続されるクライアントデバイスは、それぞれベンダーの独自技術によって開発・製造されております。そのため、これらの異なるデバイスを接続した結果、予期できない機器同士の相性問題が発生する可能性があります。また、機器の併用により、それぞれオリジナルで持つ機能をすべて発揮できない可能性があります。異なる環境・異なる機器の組み合わせにより、機能面での使用制限が必要になる可能性があります。
3. 他社製品のKVMスイッチ、キーボード・マウスコンバーター、キーボード・マウスエミュレーター、KVM エクステンダーなどとの組み合わせはサポート対象外となりますが、お客様で自己検証の上であれば、使用を制限するものではありません。
4. 製品に対しての保証は、日本国内で使用されている場合のみ対象とさせていただきます。
5. 製品やサービスについてご不明な点がある場合は、弊社技術部門までお問い合わせください。

製品についてのお問い合わせ

製品の仕様や使い方についてのお問い合わせは、下記窓口または製品をお買い上げになった販売店までご連絡ください。

購入前のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 営業部 TEL:03-5615-5810 MAIL:sales@atenjapan.jp
購入後のお問い合わせ	ATEN ジャパン株式会社 技術部 TEL :03-5615-5811 MAIL :support@atenjapan.jp

目次

ユーザーの皆様へ	i
ATEN ジャパン製品保証規定	ii
製品についてのお問い合わせ	v
目次.....	1
適合性に関する宣言.....	9
安全にお使い頂くために.....	10
全般	10
ラックマウント	12
同梱品.....	13
本マニュアルについて.....	14
マニュアル表記について	16
用語	17
第1章 はじめに.....	18
概要.....	18
特長.....	21
ハードウェア.....	21
管理	22
使いやすいインターフェース.....	22
高度なセキュリティー.....	23
バーチャルメディア	23
バーチャルリモートデスクトップ.....	24
その他	24
システム要件.....	25
全般	25
セカンドコンソール.....	25
コンピューター	25
コンピューターモジュール	26
OS.....	28
製品各部名称	29
フロントカバーの開け方	29
KN1108VA フロントパネル.....	29

KN1116VA フロントパネル.....	29
KN1108VA リアパネル.....	32
KN1116VA リアパネル.....	32
第 2 章 セットアップ方法.....	34
概要.....	34
セットアップの前に.....	34
デバイスの卓上設置とラックマウント.....	35
卓上設置.....	35
ラックマウント.....	36
単体構成でのセットアップ.....	40
単体構成接続図.....	43
コンピューターモジュール接続図.....	44
コンピューターモジュール接続図(続き).....	45
KA7171 接続図.....	45
2 段階カスケード接続のセットアップ.....	46
2 段階カスケード接続 接続図.....	48
ホットプラグ.....	49
モジュール ID 機能.....	49
電源オフと再起動.....	49
ポート ID の割り当て.....	50
ポートの選択.....	51
PDU のセットアップ.....	51
ラップトップ USB コンソールへのログイン.....	54
第 3 章 スーパーアドミニストレーターによる 初期設定.....	55
概要.....	55
初回使用時に必要なセットアップ.....	55
ネットワークの設定.....	57
スーパーアドミニストレーターログインの変更.....	58
その他の管理メニューを操作する場合は.....	60
第 4 章 ログイン.....	61
概要.....	61
ローカルコンソールからのログイン.....	61
ブラウザからのログイン.....	62
WindowsClient からのログイン.....	63
WindowsClient AP の接続画面.....	64
WindowsClient AP を使った接続方法.....	65

ファイルメニュー	66
JavaClient からのログイン	67
JavaClient AP の接続画面	68
JavaClient AP を使った接続方法	69
第 5 章 ユーザーインターフェース	70
概要	70
ウェブブラウザのメイン画面	70
画面内の構成要素	71
ビューア の環境設定	75
製造番号	76
タブメニュー	77
クライアントアプリケーションのメイン画面	78
ローカルコンソール GUI メイン画面	80
バーチャルメディアをローカルでマウントするには	81
コントロールパネル	82
WindowsClient コントロールパネル	82
WindowsClient コントロールパネルの機能	84
ビデオ設定	87
ズーム	90
マウスダイナミックモード	91
オンスクリーンキーボード	94
マクロ	97
バーチャルメディア	107
メッセージボード	111
コントロールパネルのその他の機能	114
マウスポインターの種類	115
Power on Network	116
コントロールパネルの設定のカスタマイズ	117
Java コントロールパネル	118
WebClient コントロールパネル	122
第 6 章 ポートアクセス	125
概要	125
ブラウザ GUI	125
アプリケーション GUI	126
ポート選択バー	128
ポート選択ツリー	128

スキャン	129
アレイモード	130
フィルター	130
サイドバーユーティリティ	132
ポートやアウトレットの名前設定	134
KVM デバイス・ポート - 接続画面.....	136
デバイスレベル	136
ポートレベル.....	137
PoN デバイス - デバイスマニター画面.....	140
メインパネル - PoN 表示.....	141
メインパネル - グループ表示	144
アウトレット設定	145
ブレードサーバー - 接続画面.....	146
ブレード設定画面.....	147
ポートの関連付け.....	148
ポートの関連付け解除	151
履歴.....	152
お気に入り.....	153
セッション	156
アクセス	157
デバイスレベルでのブラウザGUI インターフェース.....	157
ポートレベルでのブラウザGUI インターフェース	159
デバイスレベルでのアプリケーション GUI インターフェース.....	161
ポートレベルでのアプリケーション GUI インターフェース	163
変更内容の保存	164
ポート設定.....	165
デバイスレベル	165
ポートレベル.....	167
第 7 章 ユーザー管理.....	177
概要.....	177
ブラウザGUI.....	177
アプリケーション GUI.....	178
ユーザー	180
ユーザーの作成.....	181
ユーザーアカウントの編集.....	185
ユーザーアカウントの削除.....	186

グループ	187
グループの作成	187
グループの編集	189
グループの削除	189
ユーザーとグループ	190
ユーザータブを使ってユーザーをグループに割り当てる場合	190
ユーザーメニューを使ってグループからユーザーを削除する場合	191
グループメニューを使ってユーザーをグループに登録する場合	192
グループメニューを使ってグループからユーザーを削除する場合	193
デバイスの割り当て	194
ユーザーメニューを使ってデバイスの操作権限を割り当てる場合	194
グループメニューを使ってデバイスの操作権限を割り当てる場合	197
アカウントポリシー	198
第 8 章 デバイス管理	200
KVM デバイス	200
デバイス情報	200
操作モード	203
ネットワーク	205
ANMS	210
OOBC	218
セキュリティー	222
日付と時刻	236
PoN デバイス	238
設定画面	238
アウトレットの設定	239
ブレードサーバー	240
設定画面	240
ブレードサーバーの設定	241
ブレードサーバーの変更・削除	243
ウェブアクセス	244
第 9 章 ログ	245
概要	245
ブラウザー GUI	245
アプリケーション GUI	246
ログ情報	247
フィルター	247

通知設定.....	251
第 10 章 メンテナンス.....	252
概要.....	252
ブラウザーGUI.....	252
アプリケーション GUI.....	253
メインファームウェアのアップグレード	254
ファームウェアアップグレードのリカバリー	255
コンピューターモジュールのファームウェアアップグレード	256
ブラウザーGUI.....	256
アプリケーション GUI.....	257
コンピューターモジュールのアップグレード.....	257
モジュールのファームウェア情報	259
情報の表示.....	261
モジュール表示情報の更新	262
コンピューターモジュールのファームウェア アップグレードリカバリー	263
バックアップ/復元	264
バックアップ	264
リストア	265
ターミナル	266
デフォルト値の復元	267
ポートネームのクリア	267
デフォルト設定に戻す	267
終了時にリセット.....	267
第 11 章 ダウンロード.....	269
概要.....	269
第 12 章 ポート操作	270
概要.....	270
ポートへの接続.....	271
ポートツールバー	273
ツールバーアイコン	274
ツールバーホットキーによるポート切り替え	276
ポートアクセスタブの再呼び出し	278
GUI ホットキー一覧表	278
パネルアレイモード.....	279
パネルアレイツールバー	280
マルチユーザーによる操作.....	282

ユーザーとバス	283
第 13 章 ログサーバー	284
インストール	284
ログサーバーの起動	285
メニューバー	286
設定	286
イベント	287
オプション	290
ヘルプ	290
ログサーバーメイン画面	291
概要	291
リストパネル	292
イベントパネル	292
付録.....	293
製品仕様.....	293
IP アドレスの設定	296
ローカルコンソール	296
IP インストーラー	296
ブラウザ	298
IPv6	299
リンクローカルアドレス	299
ステートレス自動設定	300
信頼された証明書	301
概要	301
証明書のインストール	302
証明書のインストール完了	303
自己署名(プライベート)証明書	304
例.....	304
ファイルのインポート	305
トラブルシューティング	306
管理	306
全般	306
マウス.....	310
バーチャルメディア	313
WindowsClient	314
JavaClient	317

Sun.....	318
Mac	320
Red Hat.....	320
ログサーバー.....	321
パネルレイモード.....	322
ポートの転送.....	325
KA7140 の設定と操作.....	326
設定方法.....	326
操作方法.....	328
KA7140 ピンアサイン	328
キーボードエミュレーション	329
Mac キーボード.....	329
Sun キーボード	330
内部シリアルインターフェースの設定	331
ナビゲーション	331
操作方法.....	332
スイッチレベルでの設定	332
ポートレベルでの設定.....	334
その他のビデオ解像度の設定.....	336
その他のマウス同期方法.....	337
Windows	337
Sun/Linux.....	339
PPP モデム操作.....	340
基本セットアップ.....	340
ダイヤルイン接続 セットアップ例 (Windows XP)	342
シリアルアダプターのピンアサイン	343
対応 KVM スイッチ	343
バーチャルメディア対応.....	344
WindowsClient (ウェブブラウザ版・アプリケーション版共通)	344
JavaClient (ウェブブラウザ版・アプリケーション版共通)	344
WebClient ビューア	344
ログイン情報の消去.....	345
工場出荷時のデフォルト設定.....	347

適合性に関する宣言

連邦通信委員会の干渉に関する声明

本製品は、FCC(米国連邦通信委員会)規則の Part15 に準拠したデジタル装置 Class A の制限事項を満たして設計し、検査されています。この制限事項は、商業目的の使用において、有害な障害が発生しないよう、基準に沿った保護方法を提供するためです。この操作マニュアルに従わずに使用した場合、本製品から発生するラジオ周波数により、他の通信機器に影響を与える可能性があります。また、本製品を一般住宅地域で使用した場合、有害な電波障害を引き起こす場合もあります。その際には、ユーザーご自身の負担で、障害を取り除いてください。

本製品は、FCC(米国連邦通信委員会)規則の Part15 に準拠しています。動作は次の 2 つの条件を前提としています。(1)このデバイスが有害な干渉を引き起こさないこと、(2)このデバイスが、予想外の動作を引き起こす可能性のある干渉を含め、すべての干渉を受け入れなければならないこと。

FCC による注意:本コンプライアンスに対する責任者による明確な承認を得ていない変更または改良を行った場合は、ユーザーの本装置を操作する権利を無効とします。

警告:本製品をご家庭で使用した場合、電波干渉を引き起こす可能性があります。

提案:FCC および CE 規格を確実に順守するために、STP ケーブルを使用するようにしてください。



カナダ産業省による宣言

Class A の本デジタル装置はカナダの ICES-003 に準拠しています。

CAN ICES-003 (A) / NMB-003 (A)

RoHS

本製品は『電気・電子機器に含まれる特定有害物質の使用制限に関する欧州議会及び理事会指令』、通称 RoHS 指令に準拠しております。

安全にお使い頂くために

全般

- ◆ 製品パッケージに同梱のドキュメントはすべてお読みください。またドキュメント類はすべて保存してください。また、弊社ウェブサイトに掲載のオンラインユーザーマニュアルもご確認ください。
- ◆ 本製品は、屋内での使用に限ります。
- ◆ 落下による事故や製品の破損を防ぐため、設置場所は不安定な面(台車、簡易的なスタンドやテーブルなど)を避けてください。製品本体が落下すると、深刻な損傷が生じ、製品保証外による修理対応となります。
- ◆ 水に濡れるおそれのある場所で製品を使用しないでください。
- ◆ 製品は熱源の近く、または熱源の上などで使用しないでください。
- ◆ 筐体によっては必要に応じて通気口が設けられている製品があります。通気口のある製品は過熱を防ぐために、通気口を塞いだり覆ったりしないでください。
- ◆ 製品をベッドやソファ、ラグなどの柔らかいものの上に置かないでください。通気口が塞がれ、適切な通気が確保できずに熱暴走や破損を引き起こすおそれがあります。
- ◆ 製品にいかなる液体もかからないようにしてください。
- ◆ プラグ周りを清掃する際には、電源プラグをコンセントから抜いてください。液体やスプレー式のクリーナーは使用しないでください。また、お手入れには湿らせて固く絞った布を使用してください。
- ◆ 電気回路が過負荷に陥らないようにしてください。電気機器を回路に接続する前に、電源装置の制限を把握し、定格を超えないようにしてください。回路の電氣的仕様を常に見直して、過電流にならないよう確認してください。電気回路の過負荷は火災や機器破損の原因となります。
- ◆ 製品は、ラベル上のタイプに適合した電源に接続して使用してください。電源タイプが不明な場合は、販売店もしくは電気事業者にお問い合わせください。
- ◆ 設置機器への損傷を防ぐために、すべての機器を適切にアース接続してください。
- ◆ 製品付属の電源ケーブルは安全のために3ピンタイプのプラグを使用しています。これは安全性の特徴です。電源コンセントの形状が異なりプラグを接続できない場合には電気事業者にお問い合わせして適切に処置してください。アース極を無理に使用できない状態にしないでください。使用される国や地域の電源形状に従ってください。
- ◆ 電源コードやケーブルの上に物を置かないでください。人が通行するような場所を避けて電源コードを設置してください。
- ◆ 電源の延長コードや電源タップを使用する場合は、合計容量とコードまたはタップの仕様が適

合しているか確認してください。電源コンセントにつながれているすべての製品の合計アンペア数を 15 アンペア以下にしてください。

- ◆ 突然の供給電力不安定や電力過剰・電力不足からお使いのシステムを守るために、サージサプレッサー、ラインコンディショナー、または無停電電源装置(UPS)をご使用ください。
- ◆ 映像・ネットワーク・電源用のケーブルは、丁寧に取り扱いってください。ケーブルの上には何も置かないでください。
- ◆ 危険な電源ポイントへの接触やショートによって、発火や感電のおそれがありますので、キャビネットの空きスロットなどにケーブルの余剰部分を押し込まないようにしてください。
- ◆ 装置をご自身で修理せず、ご不明な点がございましたら技術サポートまでご相談ください。すべての保守については、適格な保守担当者にお問い合わせください。
- ◆ 下記の現象が発生した場合、製品本体をコンセントから外して技術サポートに修理を依頼してください。
 - 装置の上に液体をこぼした。
 - 装置が雨や水に濡れた。
 - 装置を誤って落下させた、ないしはキャビネットが破損した。
 - 装置の動作に異変が見られる。(修理が必要です)
 - 製品マニュアルに従って操作しているにもかかわらず、正常動作しない。
- ◆ 修理が必要となる故障が発生するおそれがありますので、製品マニュアルに従って操作してください。他のコントロールの不適切な調整は、修理する資格のある技術者による広範な作業を必要とする損傷をもたらす可能性があります。

ラックマウント

- ◆ ラックへの搭載作業を始める前に、ラックのスタビライザーがラック本体と床に接しているか、また、ラック全体が安定した場所に置かれているか確認してください。作業する前に、シングルラックにフロントとサイドのスタビライザーを取り付けるか、結合された複数のラックにフロントスタビライザーを取り付けてください。
- ◆ ラックには下から上に向かって、一番重いアイテムから順番に取り付けてください。
- ◆ 機器を拡張する前にラックが水平で安定しているか確認してください。
- ◆ ラックに供給する AC 電源の分岐回路が過剰供給にならないようご注意ください。ラック全体の電源負荷は分岐回路の 80%を越えないように設定する必要があります。
- ◆ ラックに搭載した機器は、電源タップも含め、すべて正しくアース接続しているか確認してください。
- ◆ ラックへの通気を十分に確保し、取り付けた機器を冷却できるよう処置してください。
- ◆ 本製品の保管温度を超えないように、ラックの設置場所の室温を調節してください。
- ◆ ラックに設置した機器の動作中に、機器を踏んだり、機器によじ登ったりしないでください。

同梱品

KN1108VA/KN1116VA 製品パッケージには下記のアイテムが同梱されています。

- ◆ KN1108VA/KN1116VA 1 ローカル/1 リモートアクセス 8/16 ポート IP-KVM スイッチ ×1
- ◆ 電源コード ×2
- ◆ ラップトップ USB コンソールケーブル ×1
- ◆ ラックマウントキット ×1
- ◆ フットパッドセット(4 個入) ×1
- ◆ クイックスタートガイド ×1

本マニュアルについて

このユーザーマニュアルは、KN1108VA/KN1116VA を最大限に活用できるように提供されています。本書では、KN1108VA/KN1116VA の取り付け・セットアップ・操作の方法について解説します。

本書で取り上げる製品は下表のとおりです。

型番	製品名
KN1108VA	1 ローカル/1 リモートアクセス 8 ポート IP-KVM スイッチ
KN1116VA	1 ローカル/1 リモートアクセス 16 ポート IP-KVM スイッチ

マニュアルは下記のとおり構成されています。

- 第1章 はじめに:**KN1108VA/KN1116VA を紹介します。特長、機能概要、および製品各部名称について説明します。
- 第2章 セットアップ方法:**ハードウェアセットアップの手順から、基本的な操作方法の手順について説明します。
- 第3章 スーパーアドミニストレーターによる初期設定:**KN1108VA/KN1116VA のネットワーク環境の設定、デフォルトユーザーのアカウント/パスワードの変更など、スーパーアドミニストレーターが KN1108VA/KN1116VA を最初に利用する際に必要となるセットアップ方法について説明します。
- 第4章 ログイン:**ローカルコンソール、ウェブブラウザー、スタンドアロン版の専用アプリケーション (Windows/Java) を使用し、GUI 経由で KN1108VA/KN1116VA にアクセスする方法について説明します。
- 第5章 ユーザーインターフェース:**KN1108VA/KN1116VA のユーザーインターフェースにおけるレイアウトや各項目について説明します。
- 第6章 ポートアクセス:**「Port Access」(ポートアクセス) タブの詳細と、ポート操作に関する項目の設定方法について説明します。

第7章 ユーザー管理: アドミニストレーター向け操作である、ユーザーの作成・変更・削除、また、ユーザーに対する属性設定の各方法について説明します。

第8章 デバイス管理: アドミニストレーター向け操作である、KN1108VA/KN1116VA の操作全般の設定方法について説明します。

第9章 ログ: KN1108VA/KN1116VA の内部で発生するイベントを、ログファイルユーティリティを使って参照する方法について説明します。

第10章 メンテナンス: KN1108VA/KN1116VA や、これに接続されているコンピューターモジュールのファームウェアアップグレードの方法について説明します。

第11章 ダウンロード: スタンドアロン版のアプリケーションである、WindowsClient、JavaClient、ログサーバー、電源管理デバイス(PoN)用プログラムのダウンロード方法について説明します。

第12章 ポート操作: KN1108VA/KN1116VA に接続されているデバイスへのアクセスおよび操作方法について詳しく説明します。

第13章 ログサーバー: ログサーバーのインストールおよび設定方法について説明します。

付録 製品の仕様および関連する技術情報や操作方法について説明します。

注意:

- ◆ 製品本体や接続機器に対して損傷を与えないように、必ず、本マニュアルに記載されている内容に従ってセットアップや操作を行ってください。
- ◆ 本書の公開後に、製品に対する機能の追加・改良・削除によって、マニュアルの内容を更新する場合があります。最新のユーザーマニュアルについては、<http://www.aten.com/global/en/>にてご確認ください。

マニュアル表記について

[] 入力するキーを示します。例えば[Enter]は**エンター**キーを押します。複数のキーを同時に押す場合は、[Ctrl + Alt]のように表記してあります。

1. 番号が付けられている場合は、番号に従って操作を行ってください。

◆ ◆印は情報を示しますが、作業の手順ではありません。

→ 矢印は操作の手順を示します。例えば、「スタート」>「実行」は、「スタートメニュー」を開き、「実行」を選択します。



重要な情報です。

※本マニュアルに記載されている商品名・会社名などは、各社の商標ならびに登録商標です。

用語

本書において、ローカルとリモートという用語は、IP-KVM スイッチのセットアップ環境に導入されたオペレーターとデバイスに使用されます。

視点に応じて、状況によってはユーザーとサーバーはローカルと見なすことができますし、リモートと見なす場合もあります。

- ◆ IP-KVM スイッチ側から見た場合
 - リモートユーザー - IP-KVM スイッチから離れた場所からネットワーク経由でログインするユーザーです。
 - ローカルコンソール - IP-KVM スイッチに直接接続されているキーボード、マウス、モニターです。
- ◆ ユーザー側から見た場合
 - ローカルクライアントユーザー - 自分のコンピューターに座って、自分から離れた IP-KVM スイッチに接続されたサーバーで操作しているユーザーです。
 - リモートサーバー - ローカルクライアントユーザーから離れた場所にあるサーバーです。

第1章 はじめに

概要

KN1108VA と KN1116VA は、リモート 1 ユーザー/ローカル 1 ユーザー対応の 8/16 ポート IP-KVM スイッチです。本製品の導入により、ローカルとリモートの両側から、1 カ所の KVM (キーボード、モニター、マウス) コンソールを使用し、複数のサーバーのアクセスや監視が行えます。KN1108VA/KN1116VA は単体で最大 8/16 台のサーバーを管理できます。また、本製品を 2 段階カスケード接続した場合は、最大 256 台のサーバーの管理が可能です。

KN1108VA と KN1116VA を比較した場合の類似点と相違点は下表のとおりです。

型番	対応バス数	サイズ	KVM ポート
KN1108VA	ローカル : 1、リモート : 1	1U	8
KN1116VA	ローカル : 1、リモート : 1	1U	16

KN1108VA/KN1116VA は IP 接続を特長とし、ローカルとリモート各 1 ユーザーがコンピュータに同時アクセスして監視が行えます。通信プロトコルとして TCP/IP を使用しているため、LAN、WAN、またはインターネットに接続できる環境であればどこからでも IP アドレス経由でアクセスできます。

KN1108VA/KN1116VA は RJ-45 コネクタを有し、Cat 5e/6 ケーブルを使用してサーバーを接続します。この省スペース設計によって、ケーブルの配線がコンパクトかつ効率的に行えます。また、製品本体とサーバーの接続には、PS/2 や USB といった各種インターフェースに対応したコンピューターモジュールを使って接続するため、Windows、Linux、Mac、Sun のコンピューターやシリアル機器が混在していても KN1108VA と KN1116VA で集約して管理できます。

製品本体には、PS/2 と USB の両方のインターフェースに対応したコンソールポートと、ラップトップ USB コンソール (LUC) ポートが搭載されているため、ネットワーク経由だけでなく、データセンターでローカル側からアクセスしたり管理したりすることも可能です。ローカルコンソール側での操作は、フルスクリーン GUI でキーボードからホットキーを入力することで簡単に行えます。

KN1108VA/KN1116VA の配下にあるコンピューターにローカルコンソールからアクセスするには、マウスで操作可能なグラフィカルな OSD (オンスクリーンディスプレイ) メニューの使用が便利

です。また、オートスキャン機能によって、これらのコンピューターすべてを1台ずつ自動的に切り替えてシステムの状態を監視できます。

リモートユーザーはネットワークにつながる場所であればどこからでも、IP アドレスを使ってウェブブラウザ経由で KN1108VA/KN1116VA に接続できます。ログインに成功すると、ウェブブラウザやスタンドアロンアプリケーションである WindowsClient、JavaClient の各専用ツールを使って KN1108VA/KN1116VA にログインできます。とりわけ、JavaClient は Oracle Java Runtime Environment(JRE)が動作するプラットフォームであれば、Windows、Mac、Linuxといった各種対応 OS で動作が可能です。

本製品の導入によって、アドミニストレーターは GUI アプリケーションのインストールや実行から、BIOS レベルのトラブルシューティング、定期モニタリング、同時メンテナンス、システム管理、再起動、起動前の機能に至るまで、あらゆる運用業務を簡単に行えます。

また、リモートユーザーは、KN1108VA/KN1116VA に接続されたサーバーに対して、現場での作業と同様の操作感で、キーボード、ビデオ、マウスの各信号を送受信できるのも特長です。

強化された機能として、最大8台(KN1108VA)/16台(KN1116VA)のコンピューターのビデオ出力を1画面に表示できるパネルアレイモード(画面分割機能)や、分散したログインユーザー間で円滑なコミュニケーションを実現するメッセージボード機能を提供します。これらの機能で、システム監視を強力にバックアップします。

本製品は、KVM over IP コンソールステーション KA82 シリーズと互換性があります。KA82 シリーズは、複数の KN デバイスを集中管理できるハードウェアベースのスタンドアロン・コンソールソリューションで、特に、PC の使用が許可されていない環境に適しています。KVM over IP コンソールステーションの詳細については、ATEN のウェブサイトを参照してください。

また、WebClient ビューア機能により、ウェブ対応の KVM-over-IP アクセスもサポートされるようになりました。主要なウェブブラウザと互換性があるため、WebClient ビューアは Java やブラウザ・プラグインをインストールせずにブラウザから直接実行できます。Java や Windows プラグインと同様に、WebClient ビューアを使用すると、KN シリーズに接続されているすべてのサーバーと PC にリモートでアクセスできますが、管理と操作のためのより同時に直接的なアクセスオプションのメリットが得られます。

管理の利便性を高めるために、iPad アプリケーションである PadClient も用意されています。直感的なインターフェースにより、サーバーやコンピューターへのリアルタイムアクセスと制御が

モバイルデバイスから簡単に行えます。PadClient の詳細については、ウェブサイトを参照してください。

セットアップに必要な作業は、必要なケーブルを適切に接続するだけで、簡単で時間もかかりません。キーボードの入力信号はそのまま製品本体に送られるため、ソフトウェアの複雑なセットアップも不要で、互換性の問題に悩まされることもありません。

ファームウェアはインターネット経由でアップグレードできるため、最新版を弊社ウェブサイトからダウンロードし、製品本体に適用することで、新しい機能をご利用いただけます。

各地に分散する多数のサーバーのリモート管理を行うにあたり、先端のセキュリティー機能を搭載した KN1108VA/KN1116VA は、スピード、信頼性、費用対効果のいずれの点においても、最も優れた方法を提供します。

特長

ハードウェア

- ◆ 高密度なポートレイアウト - RJ-45 コネクタで配線する設計により 1U の筐体に最大 8 ポート(KN1108VA)/16 ポート(KN1116VA)の搭載が可能
- ◆ ラップトップ USB コンソール(LUC) - 専用 USB ポートにノートパソコンを直接接続することでコンソールからの操作が簡単に
- ◆ 最大 2 バスセッション - ローカル 1 名、リモート 1 名のユーザーが別々のポートに同時アクセス可能
- ◆ 10/100/1000 Mbps ネットワークインターフェースを 2 ポート搭載 - ネットワークの二重化や、異なる 2 つの IP アドレスの割り当てが可能
- ◆ ブレードサーバー対応
- ◆ 接続できる機器のインターフェースは PS/2、USB、シリアル(RS-232)に対応
- ◆ ラップトップ USB コンソールポートを使用して、ノートパソコンを追加ローカルコンソールとして使用可能
- ◆ ローカルコンソールには、PS/2 または USB のキーボード・マウスの接続が可能
- ◆ マルチプラットフォーム(Windows、Mac、Oracle 社 SPARC(Sun)、Linux および VT100 ベースシリアルデバイス)対応
- ◆ オーディオ対応
- ◆ バーチャルメディア対応 - リモート PC 側のメディアなどを製品配下のサーバーにマウント
- ◆ デュアル電源供給対応
- ◆ 高解像度ビデオ - コンピューターから最大 50m 離れたローカルコンソールで最大 1920×1200@60Hz、24 ビット色深度。リモートセッション^{※1} およびローカルコンソールでは最大 1920×1200@60Hz、24 ビット色深度
- ◆ 単体使用で最大 8 台(KN1108VA)/16 台(KN1116VA)、2 段階のカスケード接続^{※2}の構成で最大 128 台(KN1108VA)/256 台(KN1116VA)のコンピューターの監視および操作が可能

-
- 注意:**
1. 解像度 1920×1200 は、KA7166、KA7168、KA7169、KA7175、KA7176、KA7177、KA7170 および KA7178 の使用時にのみサポートされます。
 2. カスケード接続対応 KVM スイッチ - CS1308/CS1316、KH1508A/KH1516A
-

管理

- ◆ 64 個のユーザーアカウントをサポートし、制御と管理のために最大 32 名のユーザーが同時にログイン可能
- ◆ セッション終了機能 - アドミニストレーターはユーザーセッションを手動で終了可能
- ◆ イベントログ、Windows ベースのログサーバー対応
- ◆ 重大なシステムイベントの発生時には SMTP メールで通知。SNMPトラップ、Syslog 対応
- ◆ ファームウェアアップグレード対応
- ◆ アウトオブバンドアクセス - モデムのダイヤルイン/ダイヤルアウト/ダイヤルバック接続に対応
- ◆ モジュール ID 保存機能 - モジュールのポート変更後もデバイス情報を自動認識。製品側では再設定不要
- ◆ ポート共有モードにより、複数ユーザーからサーバーに同時アクセス可能
- ◆ ATEN 統合管理ソフトウェア CC2000 およびビデオセッションレコーダーソフトウェア CCVSR^{※1}による統合が可能
- ◆ ATEN KVM over IP コンソールステーションに対応 (KA8270/KA8280/KA8278/KA8288)
- ◆ KVM ポートを ATEN 製 PDU の電源アウトレットに関連付けることで、製品インターフェースを使ったサーバー電源のリモート管理が可能に
- ◆ 電源管理デバイスとの統合でリモートから電源制御が可能。サードパーティー製 PDU をサポート
- ◆ ウェブブラウザーによるアクセス方法(ブラウザー、http、https)の管理が可能
- ◆ IPv6 対応
- ◆ イベント通知のカスタマイズに対応
- ◆ ローカルログイベント
- ◆ モバイル管理・制御用の iPad 上の PadClient アプリケーションをサポート

注意: 1. リモートセッション経由でアクセスしたコンピューターの操作を記録することができます。

使いやすいインターフェース

- ◆ 日本語対応インターフェース - ローカルコンソール、ブラウザーメニューなどの GUI は多言語に対応しているため、ユーザーの訓練時間を短縮し、生産性の向上が可能
- ◆ マルチプラットフォームクライアント対応 (Windows、Mac OS X、Linux、Oracle 社 SPARC(Sun))
- ◆ 各種ウェブブラウザーに対応 (IE、Edge、Chrome、Firefox、Safari、Opera)
- ◆ ウェブブラウザーベースの UI を使ったリモートアクセス - 事前に Java ソフトウェアパッケージ

をインストールしなくても、ウェブブラウザだけで操作可能

- ◆ HTML5 WebClient ビューアによるウェブフレンドリーな KVM-over-IP アクセスをサポート - Java やブラウザ・プラグインをインストールせずに、すべての接続サーバーと PC にリモートアクセス可能
- ◆ バーチャルリモートデスクトップ画面はフルスクリーン表示、またはリサイズ可能なウィンドウ表示が選択可能
- ◆ パネルアレイモード - 画面を格子状に分割し、製品配下のサーバーのビデオ出力を一画面に同時表示
- ◆ キーボード・マウスブロードキャスト機能 - キーボード・マウスの操作信号を全サーバーへ入力
- ◆ ローカルコンソールとのビデオ同期 - ローカルコンソール用のモニターの EDID 情報をコンピュータモジュール内に保存することで表示解像度を最適化
- ◆ コンピューターの選択方法 - プッシュボタン、ホットキーモード、OSD (オンスクリーンディスプレイ)、ブラウザGUI
- ◆ 対応キーボード言語 - 日本語、英語 (US/UK)、ドイツ語 (ドイツ/スイス)、フランス語、スペイン語、中国語 (繁体字)、韓国語、スウェーデン語、イタリア語、ハンガリー語、トルコ語

高度なセキュリティ

- ◆ 高度なセキュリティ - TLS 1.3 および組み込み FIPS 140-2 認証 OpenSSL 暗号化モジュール (証明書番号 #4282) をサポート
- ◆ 外部認証対応 - RADIUS、LDAP、LDAPS、MS Active Directory
- ◆ ユーザーのログインを保護するために、TLS 1.3 暗号化と RSA 2048 ビット証明書 (暗号化キーは最大 4096 ビット) をサポート
- ◆ キーボード/マウス、ビデオ、バーチャルメディアの各信号を個別に暗号化可能 (56 ビット DES、168 ビット 3DES、256 ビット AES、128 ビット RC4、またはランダムより選択)
- ◆ IP アドレス、MAC アドレスによるフィルタリング機能でセキュリティを強化
- ◆ サーバーのアクセスと操作に関するユーザー/グループの権限は設定変更可能
- ◆ CSR 自動生成機能およびサードパーティーの認証機関による認証に対応

バーチャルメディア

- ◆ バーチャルメディアを使用して、ファイルアプリケーション、OS のパッチ、ソフトウェアのインストールや診断テストが可能
- ◆ バーチャルメディアは USB 対応サーバーにおいて OS および BIOS レベルで動作可能
- ◆ 対応バーチャルメディア - DVD/CD ドライブ、USB マスストレージデバイス、PC ハードドライブ

ブおよび ISO イメージ

- ◆ KA7166/KA7168/KA7169/KA7177/KA7183/KA7188/KA7189 コンピューターモジュールに接続したサーバーでは、スマートカードリーダーに対応

バーチャルリモートデスクトップ

- ◆ 帯域制御機能 - ビデオ画質は帯域幅の変化に応じて調整可能。モノクロ色深度設定、データ圧縮率の閾値/ノイズ設定は環境に合わせて変更が可能
- ◆ フルスクリーンビデオ表示、リサイズ可能ビデオ表示ともに対応
- ◆ リモートユーザーのコミュニケーションに活用できるメッセージボード搭載
- ◆ マウスダイナシク機能 - ローカル/リモートのマウスは自動的に同期
- ◆ キーボードパススルー対応
- ◆ 終了マクロ対応
- ◆ 多言語オンスクリーンキーボード対応
- ◆ BIOS レベルのアクセスに対応
- ◆ 高性能のグラフィックで最高画質を提供

その他

- ◆ FPGA グラフィックプロセッサ搭載で高解像度表示が可能
- ◆ バーチャルメディア転送速度が従来機種 of 2 倍の速さに
- ◆ リモートからの IP アクセスに独立したバスセッションを使用
- ◆ 高度なセキュリティー - FIPS140-2 認定の OpenSSL 暗号モジュールを組み込み、FIPS 140-2 Level 1 セキュリティー標準に準拠 (証明書番号 #1747、#2398、#2473)

システム要件

全般

- ◆ プロセッサが Pentium III 1GHz 以上で、1GB 以上のメモリを搭載したコンピューターをお使いください。(CPU ポート側の PC 要件)
- ◆ TLS 1.2 データ暗号化通信に対応しているウェブブラウザをお使いください。
- ◆ ネットワーク転送速度が 512kbps 以上の環境を推奨します。
- ◆ ログサーバーの動作環境には、Microsoft Jet OLEDB 4.0 以上のドライバーをインストールしてください。

ローカルコンソール

- ◆ 本製品に接続して使用するコンピューターのうち、最も高い解像度の画面が表示できる、VGA、SVGA、またはマルチスキャンに対応したモニター
- ◆ USB マウス
- ◆ USB キーボード

コンピューター

KN1108VA/KN1116VA の KVM ポートに接続されているコンピューターには以下のハードウェア環境が必要です。

- ◆ VGA、SVGA、またはマルチシンクポート
- ◆ USB Type-A ポートおよび USB ホストコントローラー (USB タイプのコンピューターモジュール用、下記参照)。
- ◆ ウェブブラウザで動作する Windows Client Active X ビューアの動作環境に、Direct X 8 をインストールしてください。また、セットアップ後の空きメモリが 150MB 以上あるか確認してください。
- ◆ ウェブブラウザで動作する Java Client ビューアの動作環境に、Oracle Java Runtime Environment(JRE)をインストールしてください。また、セットアップ後の空きメモリが 205MB 以上あるか確認してください。
- ◆ アプリケーション版 WindowsClient の動作環境に、Direct X 8 をインストールしてください。また、セットアップ後の空きメモリが 90MB 以上あるか確認してください。
- ◆ アプリケーション版 JavaClient の動作環境に、Oracle Java Runtime Environment(JRE)をイ

インストールしてください。また、セットアップ後の空きメモリが 145MB 以上あるか確認してください。

- ◆ ログサーバーの動作環境に、Microsoft Jet OLEDB 4.0 以上のドライバーをインストールしてください。

コンピューターモジュール

- ◆ KN1108VA/KN1116VA とコンピューターモジュール間の接続にはストレート配線の Cat 5e/6 ケーブルが必要です。
- ◆ KN1108VA/KN1116VA に対応しているコンピューターモジュールは下表のとおりです。

機能	モジュール
PS/2ポートを備えたデバイスへの接続	KA7120
USBポートを備えたデバイスへの接続(すべてのプラットフォーム-PC、Mac、Sun)	KA7170
レガシーSunコンピューターへの接続	KA7130
シリアルデバイスへの接続	KA7140
USBコンピューターへの接続 (DVI出力、バーチャルメディアおよびスマートカードリーダーに対応)	KA7166
USBコンピューターへの接続 (HDMI出力、バーチャルメディアおよびスマートカードリーダーに対応)	KA7168
USBコンピューターへの接続 (DisplayPort出力、バーチャルメディアおよびスマートカードリーダーに対応)	KA7169
USBデバイスへの接続 (VGA出力、バーチャルメディアに対応)	KA7175
USBデバイスへの接続 (VGA出力、バーチャルメディアおよびオーディオに対応)	KA7176
USBデバイスへの接続 (VGA出力、バーチャルメディアおよびスマートカードリーダーに対応)	KA7177

機能	モジュール
USBコンピューターへの接続 (VGA出力、バーチャルメディア、オーディオおよびデュアル出力に対応)	KA7178
USB-Cデバイスへの接続 (バーチャルメディアに対応)	KA7183
USBコンピューターへの接続 (HDMI出力、バーチャルメディア、スマートカードリーダー、およびオーディオに対応)	KA7188
USBコンピューターへの接続 (DisplayPort出力、バーチャルメディア、スマートカードリーダー、およびオーディオに対応)	KA7189

注意: 既にお使いのコンピューターモジュールを本製品で使用する場合は、ファームウェアを最新のバージョンにアップグレードしてください (p.256 参照)。

OS

- ◆ KN1108VA/KN1116VA にログインする際に使用するリモートユーザーコンピューターの対応 OS は、Windows2000 以降です。また、Windows 以外の環境(Linux、Mac、Sun)では、Java Runtime Environment(JRE) 6 Update 3 以降のバージョンが動作可能であることをご確認ください。
- ◆ 製品本体の KVM ポートに接続できるサーバーの対応 OS は以下のとおりです。

OS		バージョン
Windows		XP 以降
Linux	Red Hat	7.1 以降
	Fedora	Core 2 以降
	SuSE	9.0 以降
	Mandriva (Mandrake)	9.0 以降
UNIX	AIX	4.3 以降
	FreeBSD	4.2 以降
	Sun	Solaris 8 以降
Novell	Netware	5.0 以降
Mac		OS 9 以降
DOS		6.2 以降

製品各部名称

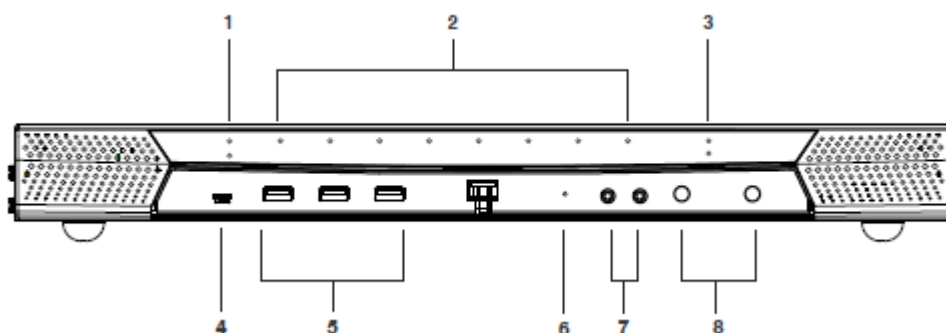
フロントカバーの開け方

KN1108VA/K1116VA のフロントポートにアクセスするには、製品本体のフロントパネルにある ATEN ロゴ(下図参照)を押してください。

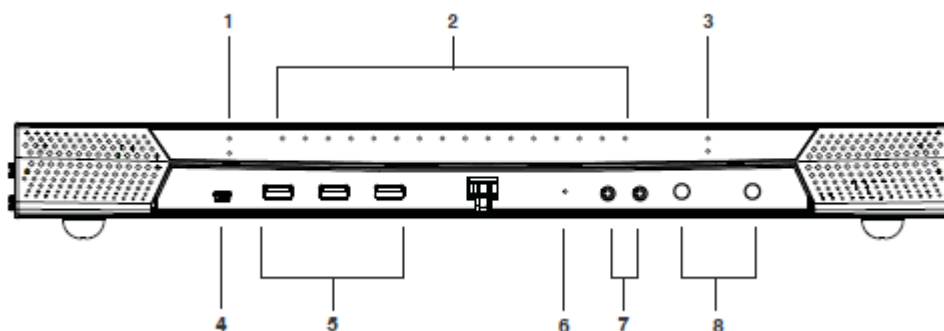


注意: unnecessary磨耗や損傷を避けるため、フロントポートを使用しないときは、製品本体のフロントカバーを必ず閉じてください。

KN1108VA フロントパネル



KN1116VA フロントパネル

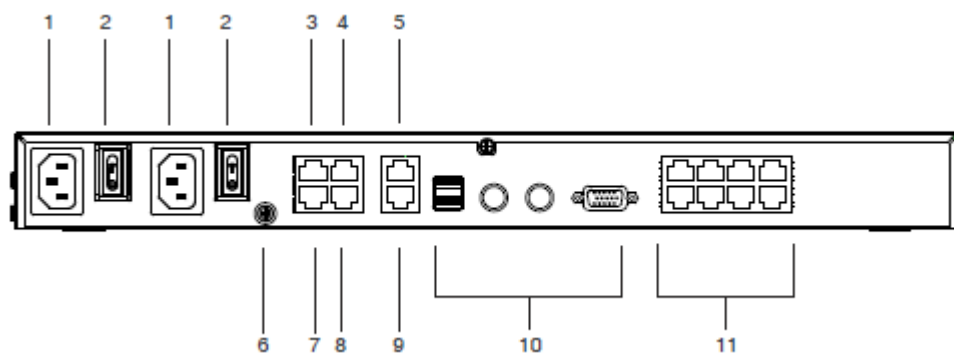


No.	名称	説明
1	電源 LED ランプ	製品本体に電源が入り操作可能になると、この LED ランプが点灯します。
2	ポート LED ランプ	<p>各 LED ランプは、対応する KVM ポートの状態を表します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ グリーン:このポートに接続されているコンピューターがオンラインであることを表します。 ◆ レッド:ユーザーがこのポートに接続されているコンピューターにアクセスしていることを表します。 ◆ グリーン+レッド(オレンジ):このポートに接続されているコンピューターがオンラインで、かつユーザーがアクセスしていることを表します。 <p>通常、この LED ランプは点灯していますが、ポートがオートスキャンモード、またはスキップモードでアクセスされている間は 0.5 秒間隔で点滅します</p>
3	LAN LED ランプ	<p>プライマリーおよびセカンダリーの各インターネットインターフェースのデータ転送速度を表す LED ランプです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ オレンジ:10Mbps ◆ オレンジ+グリーン:100Mbps ◆ グリーン:1000Mbps ◆ ネットワーク経由でのアクセスがあると、この LED ランプが点滅します。
4	ラップトップ USB コンソールポート	ローカルでのアクセスや操作のために、この USB Mini-B ポートにノートパソコンを接続できます。ラップトップ USB コンソールログインの詳細は p.54 を参照してください。
5	USB ポート	USB キーボード、USB マウスを接続するポートです。リアパネルのポートの代わり、もしくはリアパネルのポートに追加してキーボードやマウスを接続できます。また、バーチャルメディアの操作権限が付与されているアカウントは、このポートに CD/DVD ドライブ、ハードディスクドライブ、USB フラッシュメモリなどを接続できます。ただし、暗号化 USB フラッシュメモリ、タッチパネルやプリンター、静脈認証、オーディオインターフェースなど汎用 USB 機器には対応していません。

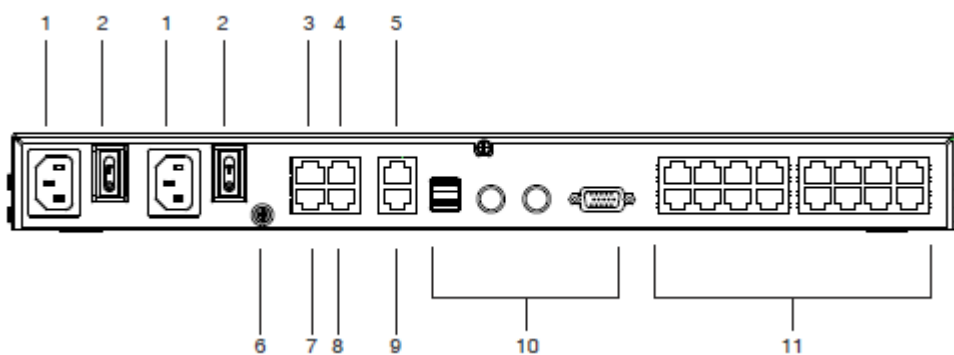
(表は次のページに続きます)

No.	名称	説明
6	リセットボタン	<p>注意:このボタンは、クリップやボールペンのような先の尖った物を使って押してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 製品本体の動作中にこのボタンを押して離すとシステムの再起動を実行します。 ◆ 製品本体の動作中にこのボタンを3秒以上長押しすると、システム設定を工場出荷時のデフォルト値にリセットします。 <p>注意:この操作でユーザーアカウントの情報は消去されません。ユーザーアカウントの消去に関する詳細はp.345「ログイン情報の消去」をご参照ください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ このボタンを押しながら製品本体に電源を入れると、工場出荷時のファームウェアバージョンに戻ります。ファームウェアアップグレードに失敗した場合でも、この操作で作業をやり直せます。 <p>注意:この操作は、ファームウェアアップグレードの結果、製品本体が操作できなくなった場合にのみ行ってください。</p>
7	オーディオポート	スピーカーやマイクを接続します。
8	ポート切り替えボタン	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「PORT DOWN」ボタンを押すと、ローカルコンソールで操作中のポートの前のポートに切り替えます。 ◆ 「PORT UP」ボタンを押すと、ローカルコンソールで操作中のポートの次のポートに切り替えます。

KN1108VA リアパネル



KN1116VA リアパネル



No.	名称	説明
1	電源ソケット	電源ケーブルを接続するソケットです。
2	電源スイッチ	製品本体の電源のオン・オフを操作する標準的なロッカースイッチです。
3	PoN ポート	このポートに電源管理デバイス(PoN デバイス)を接続すると、IP-KVM スイッチに接続したサーバーの電源をリモート操作できます。セットアップの詳細については p.41 の手順 6 をご参照ください。なお、電源管理デバイスに関する詳細は、販売店にお問い合わせください。
4	セカンダリーシリアルポート	シリアルアダプターで、レガシーなシリアルデバイスを接続します。
5	セカンダリーLAN ポート	このポートに LAN ケーブルを接続すると、セカンダリーのバックアップネットワーク(10/100/1000Mbps)として認識されます。
6	接地ターミナル	接地線で製品本体をアース接続します。
7	モデムポート	TCP/IP ネットワークが利用できない場合でも、このポート経由でダイヤルイン接続することで IP-KVM スイッチが使えます。セットアップの詳細については p.41「単体構成でのセットアップ」の手順 7 をご参照ください。
8	プライマリーシリアルポート	シリアルアダプターで、レガシーなシリアルデバイスを接続します。
9	プライマリーLAN ポート	このポートに LAN ケーブルを接続すると、マスター側となるプライマリーネットワーク(10/100/1000Mbps)として認識されます。
10	ローカルコンソールポート	IP-KVM スイッチは、TCP/IP ネットワーク経由、またはローカルコンソールからアクセスできますが、ローカルコンソールで使用する場合は、キーボード、モニター、マウスを、それぞれこの部分に接続します。キーボードとマウスは、PS/2 と USB に対応しています。
11	KVM ポート	コンピューターモジュールにつながっている Cat 5e/6 ケーブルを接続します。

第2章

セットアップ方法

概要

PS/2 コンピューターと USB コンピューターが接続できるように、本製品とサーバーの間の接続には各サーバーのインターフェースに対応したコンピューターモジュールと呼ばれるデバイスを使用します(p.44「コンピューターモジュール接続図」参照)。

コンピューターモジュールは製品本体に接続するサーバーごとに必要となります。本製品に対応したコンピューターモジュールの型番の詳細については p.26「コンピューターモジュール」をご参照ください。

セットアップの前に



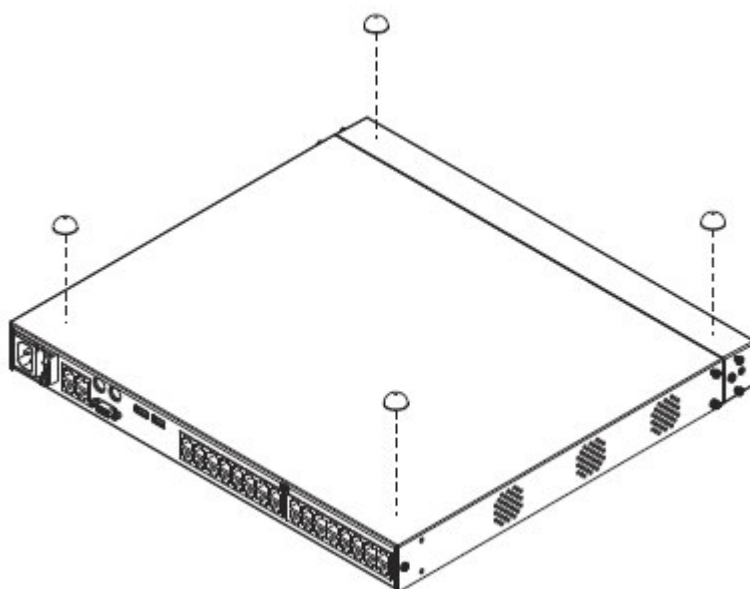
1. 機器の設置に際し重要な情報を p.10 に記載しています。作業の前に、必ず目を通してください。
2. 接続するすべての装置の電源がオフになっているか確認してください。電源ケーブルも抜いてください。
3. 環境温度が高い場合は、機器の表面が過熱するおそれがあるため、注意して操作してください。例えば、環境温度が50°Cに近づくと、機器の表面温度が70°C以上になる場合があります。

デバイスの卓上設置とラックマウント

KN1108VA/KN1116VA は卓上に置いたり、ラックにマウントしたりして使用できます。以下のセクションでは、これらの設置方法について説明します。なお、本セクションにおける製品外観図は、あくまでも参考用であるため、実際の機器とは若干異なる場合があります。

卓上設置

IP-KVM スイッチは、本体の重量と接続ケーブルの重量を安全に支えることができる、適切な平面上に設置できます。IP-KVM スイッチの本体や、これにカスケード接続する KVM スイッチを置く際には、次の図に示すように、製品パッケージに付属のゴム製フットパッドの下部から台紙を取り外し、IP-KVM スイッチ本体の底面パネルの角に貼り付けます。



注意: 機器への通気を確保するために、製品本体の両側面は 5cm 以上、また、背面は配線のスペースを考慮して 15cm 以上の空間を設けるようにしてください。

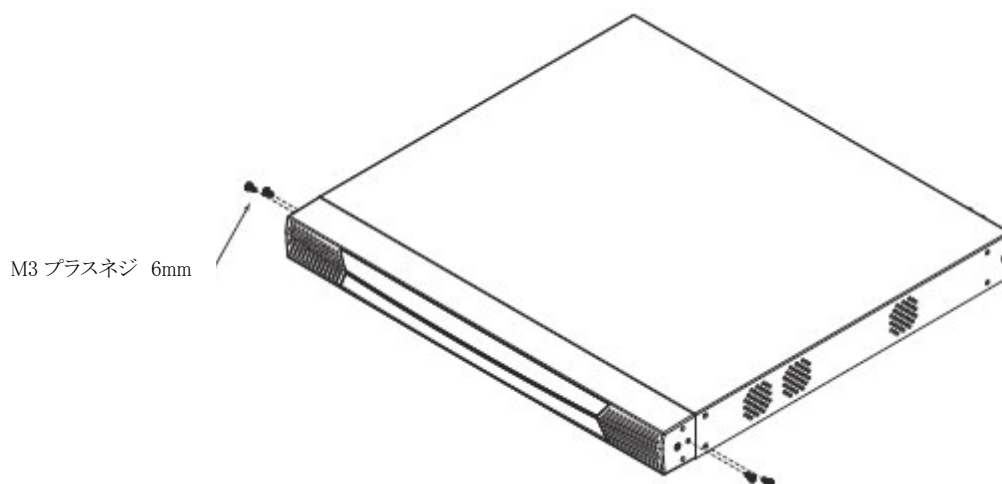
ラックマウント

KN1108VA/KN1116VA は EIA 規格 19 インチラックの 1U サイズでマウントできる製品です。マウントブラケット用のネジ穴は機器のフロント側とリア側に設けてあるため、用途に応じて製品本体をラックのフロント側とリア側のどちらにでも設置できます。なお、本セクションにおける製品外観図は、あくまでも参考用であるため、実際の機器とは若干異なる場合があります。

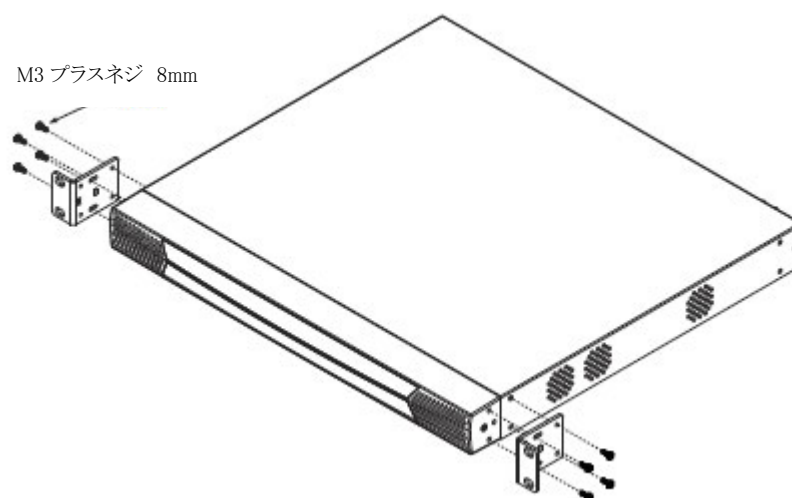
ラックのフロント側にマウントする場合

製品本体をラックのフロント側にマウントする場合は、以下の手順で作業を行ってください。

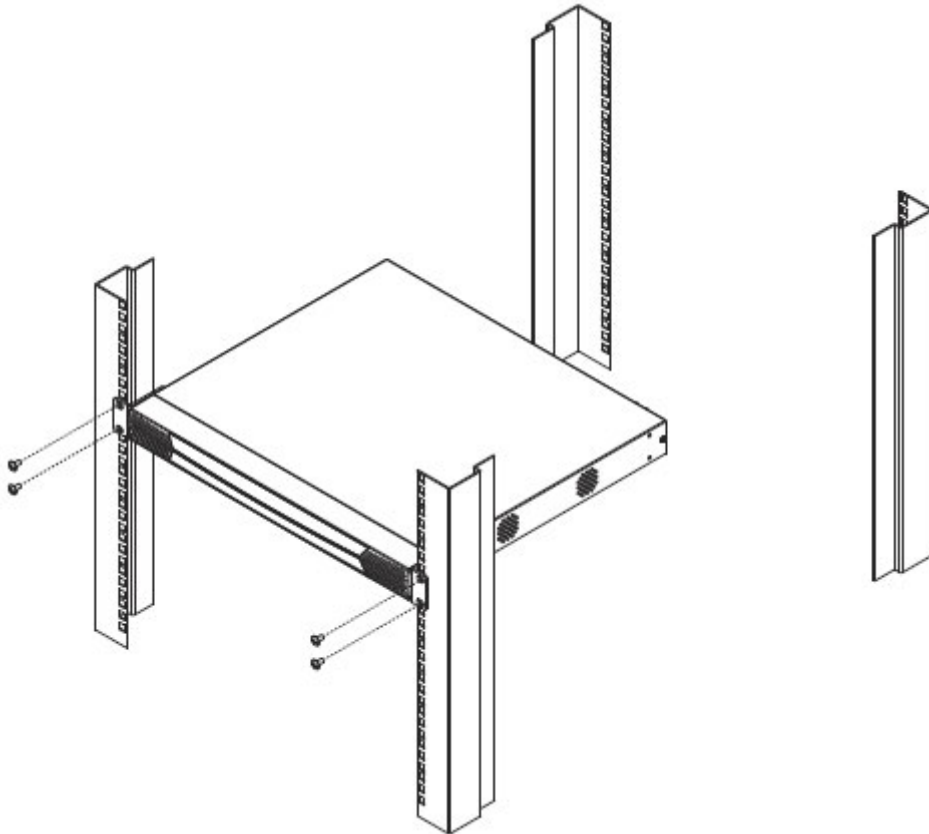
1. 下図のように、製品本体のフロント側についているネジをはずします。



2. 製品に同梱のラックマウントキットにある M3 プラスネジを使用して、マウント用ブラケットを下図のようにフロント側に取り付けます。



3. ブラケットを取り付けた製品本体を、ラックのフロント側にスライドさせて、ブラケットのねじ穴がラックのねじ穴に合うように位置を調節してください。
4. ブラケットをネジでラックに固定してください。

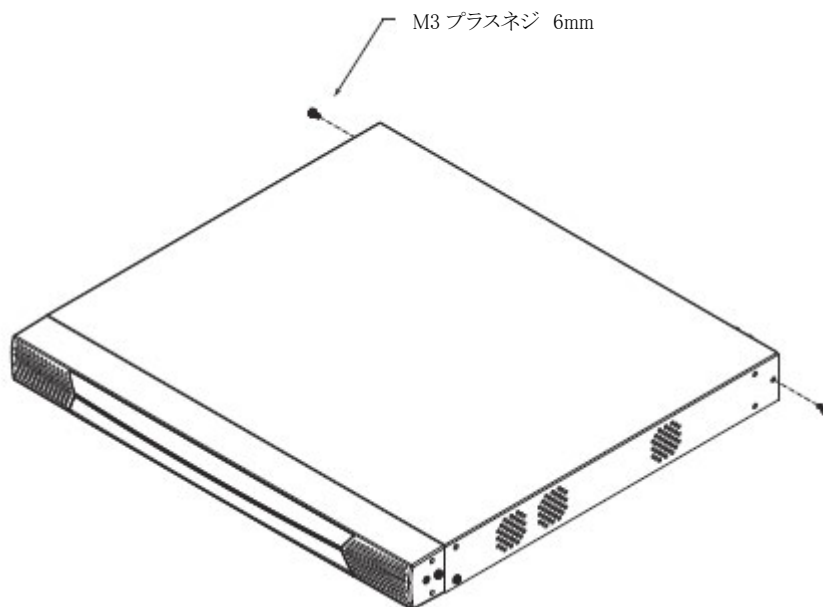


注意: 製品にはビス並びにケージナットは同梱していません。ご使用のラックメーカーが指定するケージナットを別途ご用意ください。

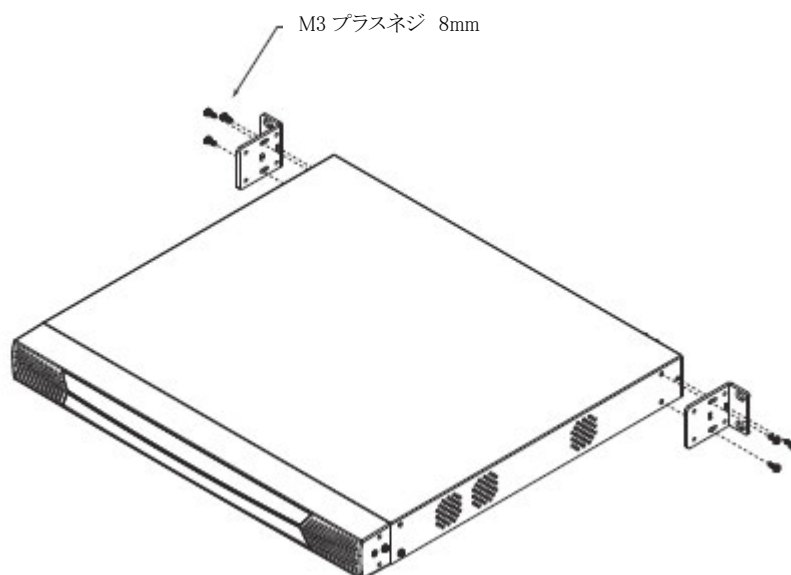
ラックのリア側にマウントする場合

製品本体をラックのリア側にマウントする場合は、以下の手順で作業を行ってください。

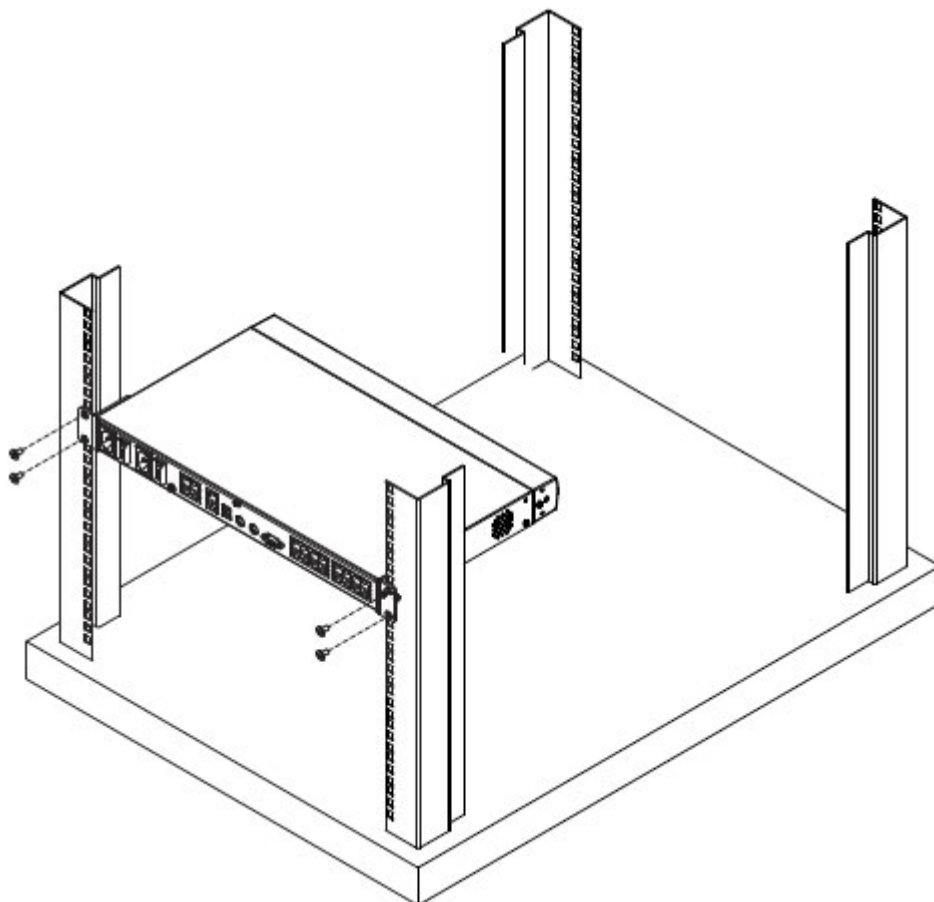
1. 下図のように、製品本体のリア側についているネジをはずします。



2. 製品に同梱のラックマウントキットにある M3 プラスネジを使用して、マウント用ブラケットを下図のようにリア側に取り付けます。



3. ブラケットを取り付けた製品本体を、ラックのリア側にスライドさせて、ブラケットのねじ穴がラックのねじ穴に合うように位置を調節してください。
4. ブラケットをネジでラックに固定してください。



注意: 製品にはビス並びにケージナットは同梱していません。ご使用のラックメーカーが指定するケージナットを別途ご用意ください。

単体構成でのセットアップ

IP-KVM スイッチを 1 台だけで使用する場合は、p.43 の接続図(図内における番号は手順に対応)をご参照の上、以下の手順でセットアップしてください。

1. ローカルコンソールのキーボード、モニター、マウスを製品本体のコンソールポートに接続してください。ポートには容易に識別できるように接続するデバイスのアイコンと PC99 準拠のカラーリングが施されています。

-
- 注意:**
1. キーボードとマウスは PS/2 と USB の両方に対応しています。例えば、ローカルコンソールで、PS/2 キーボードと USB マウスを組み合わせでお使いいただけます。
 2. USB キーボードと USB マウスは、ローカルコンソールポートのほかに、フロントパネルの USB ポートにも接続できます。
 3. 製品本体とローカルモニターの距離が 20m 以内になるようにセットアップしてください。
-

2. ローカル側の操作にラップトップ USB コンソールを使用する場合は、製品本体のフロントパネルにあるラップトップ USB コンソールポートに USB Mini-B ケーブルでノートパソコンを接続してください。

3. サーバーに接続されているコンピューターモジュールと製品本体の KVM ポートを、ストレート配線の Cat 5e ケーブルで接続してください。

-
- 注意:**
1. コンピューターモジュールの詳細については p.26 をご参照ください。
 2. 製品本体とコンピューターモジュール間の距離が、次の制限を越えないようにセットアップしてください。
KA7140:300m、KA71xx:50m (Cat 5e ケーブル使用時は最大 40m、Cat 6 ケーブル使用時は最大 50m)、KA91xx:40m
製品本体とコンピューターモジュール間は独自仕様の通信となります。スイッチングハブなど介在せず、ケーブルで直結してください。
-

4. コンピューターモジュールの各コネクタをコンピューターの対応ポートに接続してください (p.44「コンピューターモジュール接続図」参照)。

5. プライマリーの TCP/IP ネットワークに接続されている LAN ケーブルを製品本体のプライマリー LAN ポートに接続してください。

6. (オプション)セカンダリーの TCP/IP ネットワークに接続されている LAN ケーブルを製品本体のバックアップ(セカンダリー)LAN ポートに接続してください。
7. (オプション)Cat 5e ケーブルを使って、製品本体のリアパネルにある PoN ポートにシリアルアダプターを接続し、このアダプターを電源管理デバイスの PoN 入力ポートに接続してください。

注意:

1. PN5 シリーズや PN7 シリーズの電源管理デバイス(販売終了)をお使いの場合は、GUI における「Device Management」(デバイス管理) > OOB > 「Console Port」(コンソールポート)設定で、ボーレートの値を 38400 bps に設定してください。
2. IP-KVM スイッチと電源管理デバイスの両方で、CC 管理機能が無効に設定されているか確認してください。
3. 本マニュアルでは PN0108 を例に挙げています。その他の本製品に対応した電源管理デバイス(PN)については弊社ウェブサイトでご確認ください。
4. シリアルアダプターに対する信号の方向の割り当てについては、p.343「シリアルアダプターのピンアサイン」を参照してください。

8. (オプション)ストレート配線の Cat 5e ケーブルを使って、製品本体のリアパネルにあるモデムポートにシリアルアダプターを接続し、このアダプターのシリアルコネクタをモデムの DB-9 ポートに接続してください。
9. (オプション)シリアル接続を行う場合は、Cat 5e ケーブルを使って、製品本体にあるシリアル 1 ポートにシリアルアダプターを接続し、このアダプターのシリアルコネクタをシリアルデバイスに接続してください。
10. (オプション)さらにシリアル接続を行う場合は、Cat 5e ケーブルを使って、製品本体のシリアル 2 ポートにシリアルアダプターを接続し、このアダプターのシリアルコネクタをシリアルデバイスに接続してください。
11. 接地線の片方を KN1108VA/KN1116VA の接地ターミナルに、もう片方を適当な接地物にそれぞれ接続し、製品本体をアース接続してください。

注意: この手順は省略しないでください。適切な接地をすることで電圧変化や静電気による機器の破損防止に一定の効果があります。

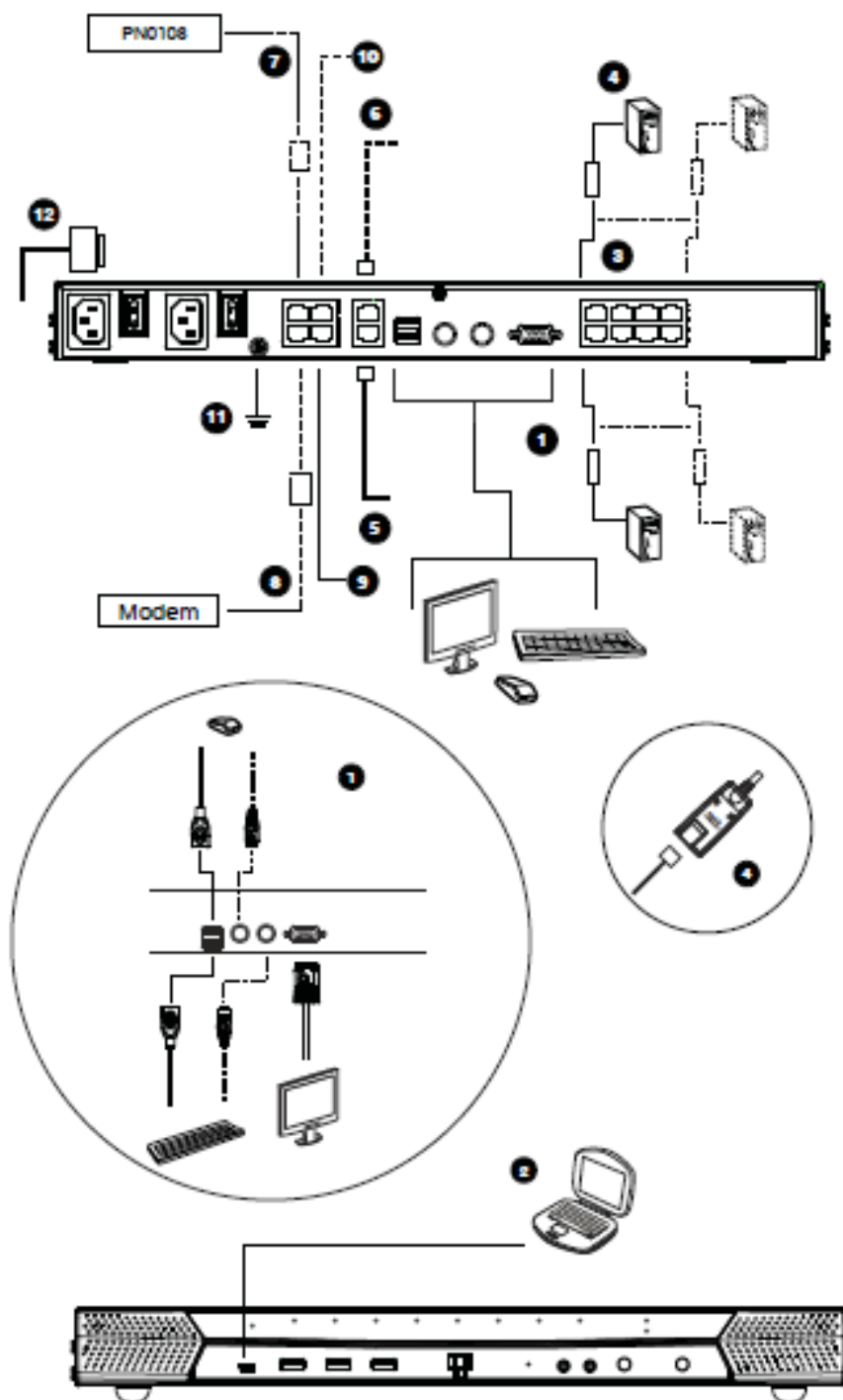
12. 製品に同梱されている電源ケーブルを製品の電源ソケットに接続し、電源ケーブルを電源に接続してください。

片方の電源ソケットのみを使用する場合は、そのソケットに対応する電源スイッチを使って製品本体に電源を入れてください(p.33「電源スイッチ」参照)。両方の電源ソケットを使用する場合、片方のスイッチを使うと製品本体に電源が入り、両方のスイッチを使うと冗長電源を有効にできます。

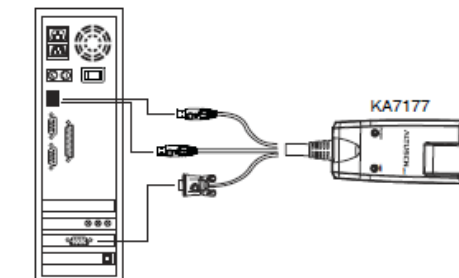
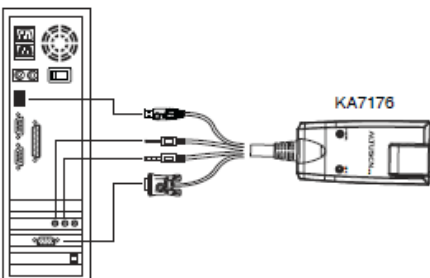
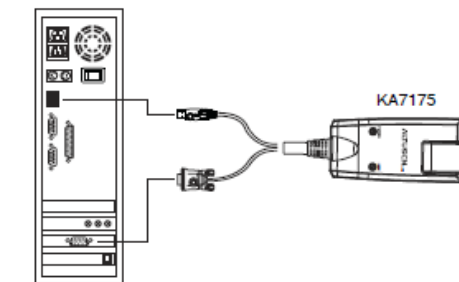
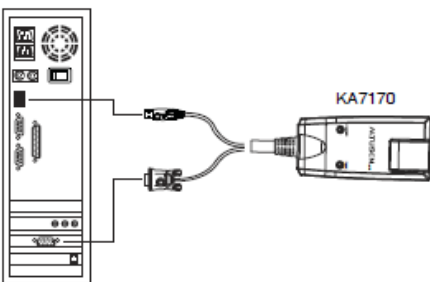
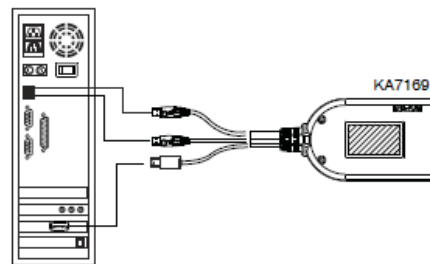
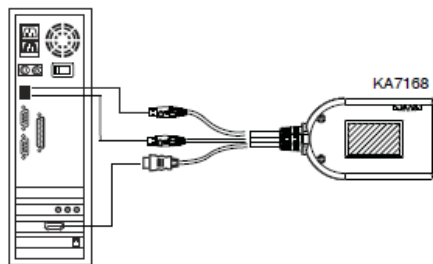
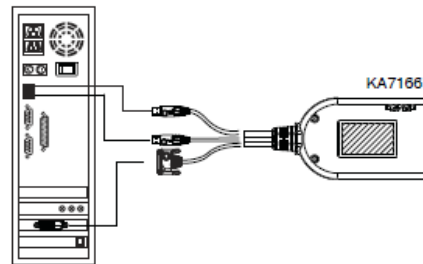
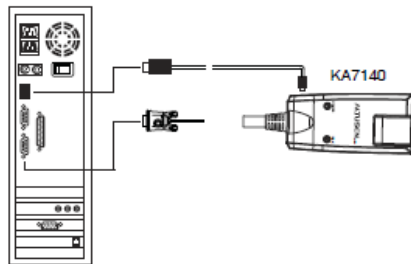
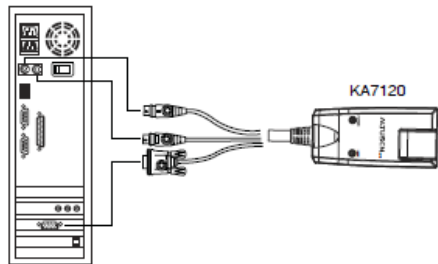
注意: 製品本体にUPSや電源管理デバイス(PN9108/PN0108)を接続して使用する場合には、必ずその機器に付属した電源コードを使用してください。

必要なケーブルの配線が完了したら、製品本体に電源を入れてください。製品本体に電源が入ったら、接続しているサーバーの電源をオンにできます。

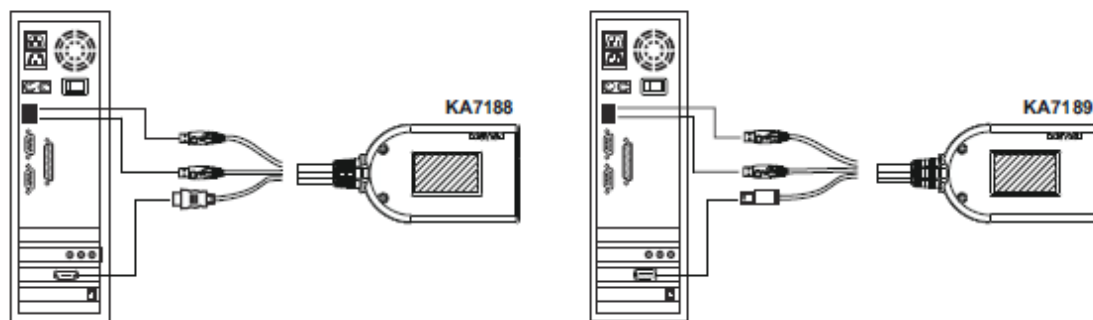
単体構成接続図



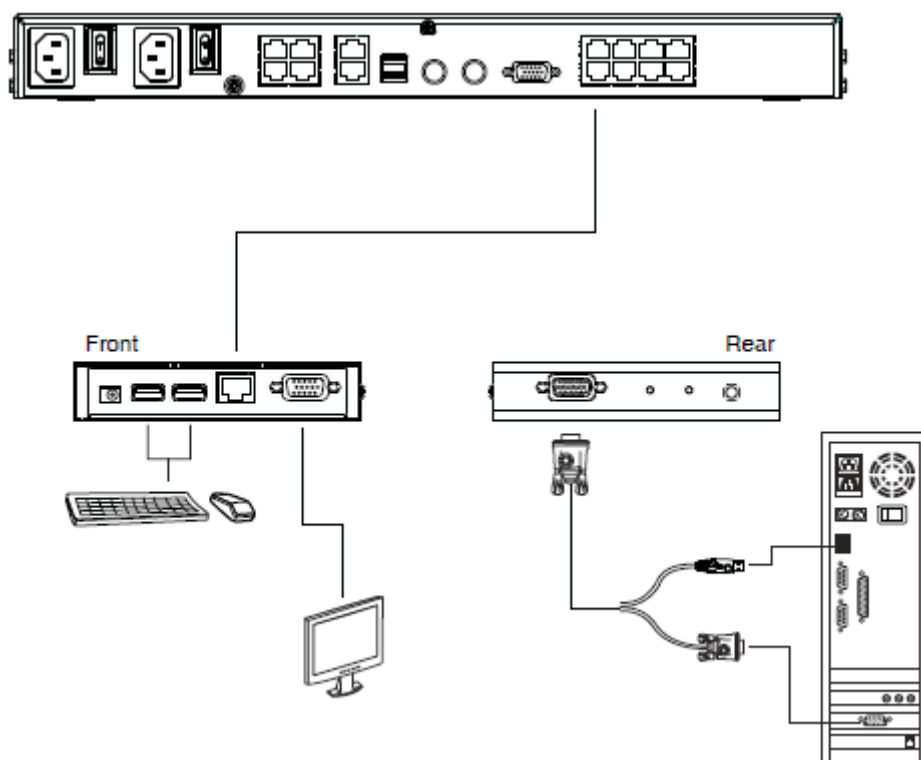
コンピューターモジュール接続図



コンピューターモジュール接続図(続き)



KA7171 接続図



2 段階カスケード接続のセットアップ

KVM スイッチの最大ポート数を超えるサーバーを増設したい場合は、最大 16 台の KVM スイッチをカスケード接続することで対応が可能です。2 段階のカスケード接続によって、最大 256 台のコンピューターを操作できます。

カスケード接続の構成では、KN1108VA/KN1116VA を 1 段階目の KVM スイッチとして、また、ここにカスケード接続する KVM スイッチを 2 段階目の KVM スイッチとして、それぞれ使用します。

注意: ここでは、KH1516A をカスケード接続する場合を例として挙げています。対応 KVM スイッチの詳細については p.343 をご参照ください。

KN1108VA/KN1116VA を 2 段階のカスケード接続の構成で使用する場合は、p.48 の接続図を参考にしながら以下の手順でセットアップしてください。

1. KN1108VA/KN1116VA 以外の既存の機器を含め、セットアップするすべての機器の電源がオフになっているか、また、これらの機器を適切にアース接続しているか、確認してください。
2. ストレート配線の Cat 5e/6 ケーブルで、1 段階目の KVM スイッチ (KN1108VA/KN1116VA) の使用可能な KVM ポートにコンピューターモジュール(KA7120)を接続してください。
3. 手順 2 で接続したコンピューターモジュールのキーボード、モニター、マウスの各コネクタを、2 段階目の KVM スイッチのコンソール部分の対応するポートにそれぞれ接続してください。

注意: 1 段階目と 2 段階目の KVM スイッチ間の距離が 40m(または 50m)を超えないようにセットアップしてください (最大延長距離はコンピューターモジュールの種類によって異なります。詳細はコンピューターモジュールの仕様をご確認ください)。

4. KVM ケーブル(詳細はカスケード接続する KVM スイッチのマニュアルを参照)を使って、2 段階目の KVM スイッチと、ここにつないで使用するコンピューターのキーボード、モニター、

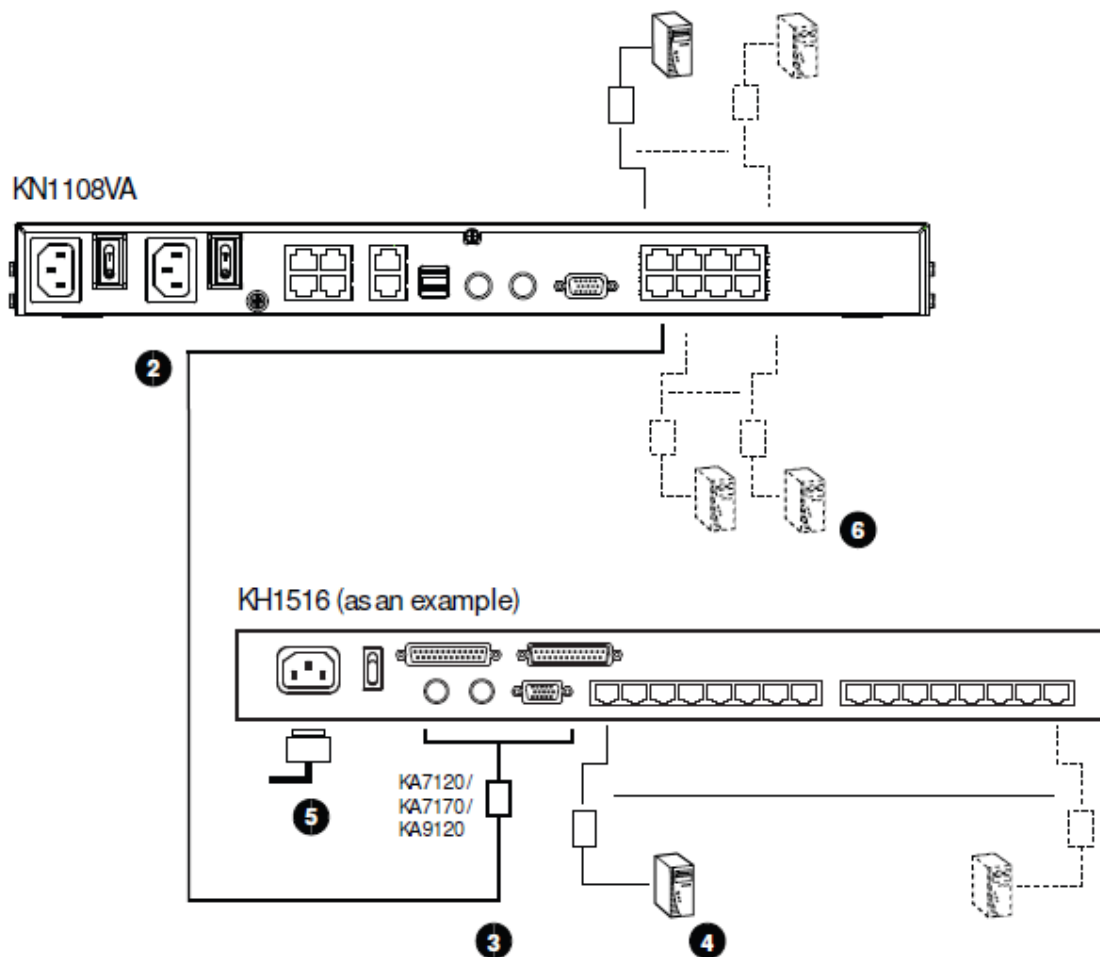
マウスの各ポートを接続してください。

5. KN1108VA/K1116VA とのカスケード接続に使用する KVM スイッチに付属の電源ケーブルを電源ソケットに接続し、電源に接続してください。
6. 2 段階目の KVM スイッチが複数ある場合は、同様の方法でセットアップしてください。
7. 2 段階目の KVM スイッチに電源を入れてから、1 段階目の KN1108VA/KN1116VA に電源を入れてください。
8. KVM スイッチに接続しているコンピューターに電源を入れてください。

注意: 機器の電源を入れる場合は、2 段階目のすべての KVM スイッチに電源を入れてから 1 段階目の KVM スイッチに電源を入れてください。すべての KVM スイッチに電源が入ったら、KVM スイッチに接続されているコンピューターの電源をオンにできます。

なお、カスケード接続した KVM スイッチではバーチャルメディア機能をお使いいただけません。バーチャルメディア機能を必須とする場合は 1 段階目の KVM スイッチにサーバーを接続してご利用ください。

2 段階カスケード接続 接続図



ホットプラグ

KN1108VA/KN1116VA はホットプラグ対応のため、製品本体をシャットダウンすることなく、ケーブルを抜き差しするだけで機器を付け替えられます。

注意: 製品本体に接続されているコンピューターが PS/2 のほか、OS 自体がホットプラグに対応していない場合、この機能はご利用いただけない場合があります。

モジュール ID 機能

モジュール ID、ポートネーム、OS、キーボード言語、アクセスモードなどのコンピューターモジュールの情報はコンピューターモジュール内部のメモリに格納されています。このため、別のポートに繋ぎ替えても再設定する必要はありません。代わりに、モジュール ID 機能は、これらの情報を新しい場所にリストアします。

ただし、これらを別の KVM スイッチに接続した場合は、コンピューターモジュール内に格納されている情報のみが引き継がれるため、これ以外の項目は再設定するか、バックアップ/リストア機能(p.264 参照)を使って設定を復元する必要があります。

ポートの設定はコンピューターモジュール内に保存しているため、コンピューターモジュールを含めずコンピューターのみを新しいポートに変更した場合、また、使用中のアダプターに新しいコンピューターを接続した場合は、そのコンピューターのポート設定を手動で行う必要があります。ポート設定の詳細については p.132「サイドバーユーティリティー」の内容をご参照ください。

電源オフと再起動

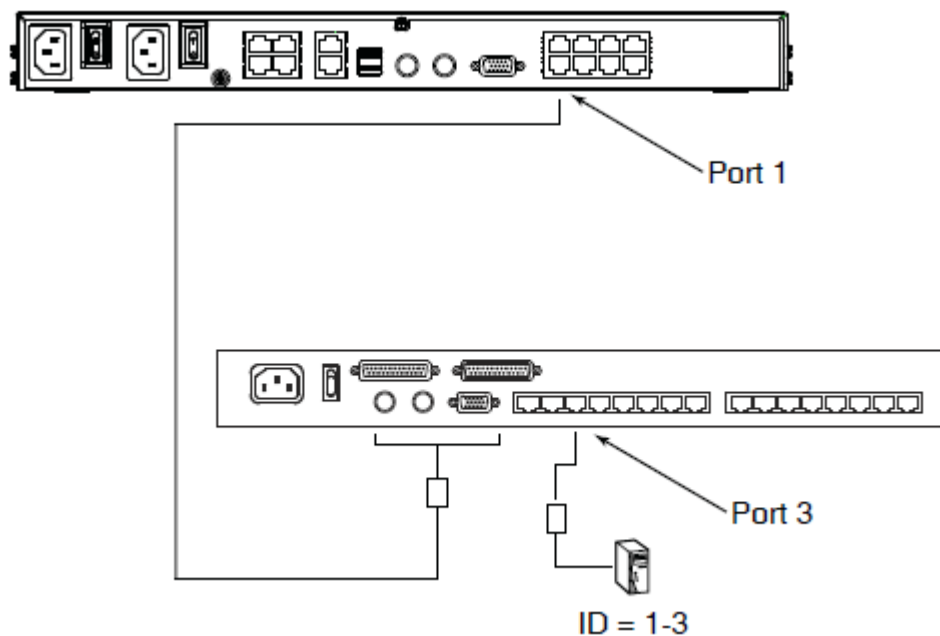
KVM スイッチの電源を切る必要がある場合や再起動が必要になった場合は、製品本体の電源を切ってから 10 秒程度待機した後で電源を入れなおしてください。なお、接続しているコンピューターは、この操作の影響を受けないはずですが、万が一、正常に動作しない場合は再起動してください。

ポート ID の割り当て

KVM スイッチに接続しているコンピューターには、背面印刷の通りにポート ID が割り当てられます。ポート ID は、下記のように決定されます。

- ◆ 1 台目の KVM スイッチに直接接続されているコンピューターには、KVM スイッチ上でそのコンピューターが接続しているポートナンバー(1~8 または 1~16)をポート ID として使用します。
- ◆ 2 段階のカスケード接続の構成の場合、ポート ID は前半と後半の 2 つの番号から構成されます。
 - 後半の部分(1~16)は、2 段階目の KVM スイッチ上で該当のコンピューターが接続している KVM ポートのポートナンバーを表します。
 - 最初の部分(1~8 または 1~16)は、2 段階目の KVM スイッチが接続している 1 段階目の KVM スイッチの KVM ポートのポートナンバーを表します。

例えば、「1-3」というポート ID は、2 段階目の KVM スイッチが 1 段階目の KVM スイッチのポート 1 に接続しており、コンピューターが 2 段階目の KVM スイッチのポート 3 に接続していることを表します。



ポートの選択

ポートの選択は GUI メニューを使って行います。詳細については第 6 章をご参照ください。

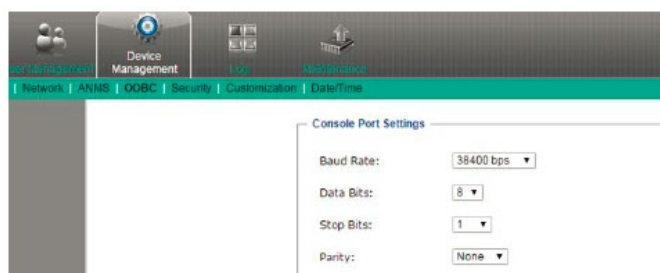
PDU のセットアップ

ATEN の PDU 製品は、PDU に接続した機器に対して TCP/IP 接続でリモートアクセスし、アウトレットレベルで管理できる機能を備えたインテリジェント PDU です。

注意: ここでは凡例として ATEN 製 PDU PE9216r の GUI 画面を例に説明します。本製品に対応した PDU については弊社ウェブサイトでご確認ください。

PDU を IP-KVM スイッチに接続して使用する場合は、下図を参照しながら、以下の手順に従ってセットアップしてください。

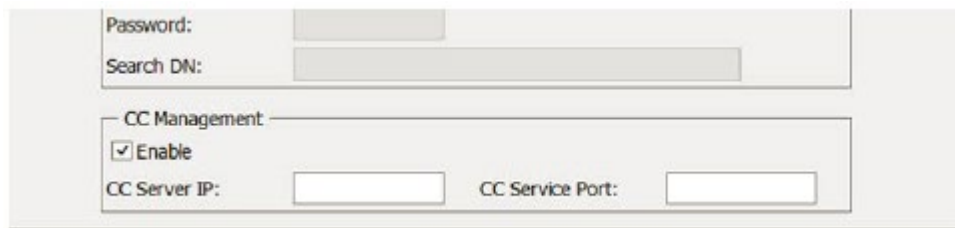
1. IP-KVM スイッチと PDU を、イーサネットスイッチに接続してください。
2. PDU の GUI にて、「Device Management」(デバイス管理)画面の「OOBC」メニューをクリックしてください。その画面の「Console Port Settings」(コンソールポート設定)で、ボーレートを 38400bps に設定してください。



3. 同じく「Device Management」(デバイス管理)画面で、「ANMS」メニューをクリックしてください。その画面の「CC Management」(CC 管理)において、「Enable」(有効にする)のチェックボックスからチェックを外してください。

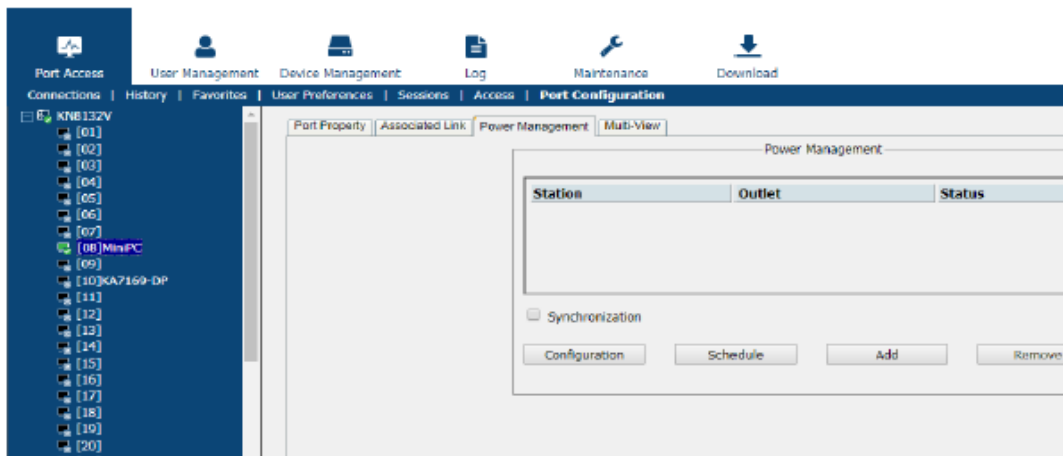


4. 次に、PDU(コンソール PoN IN)を、直接 IP-KVM スイッチ (PoN)に接続してください。
5. そうしたら、IP-KVM スイッチの GUI で、「Device Management」(デバイス管理)→「ANMS」、メニューにアクセスしてください。こちらでも同様に、「CC Management」(CC 管理)セクションにおける「Enable」(有効にする)の項目からチェックを外してください。

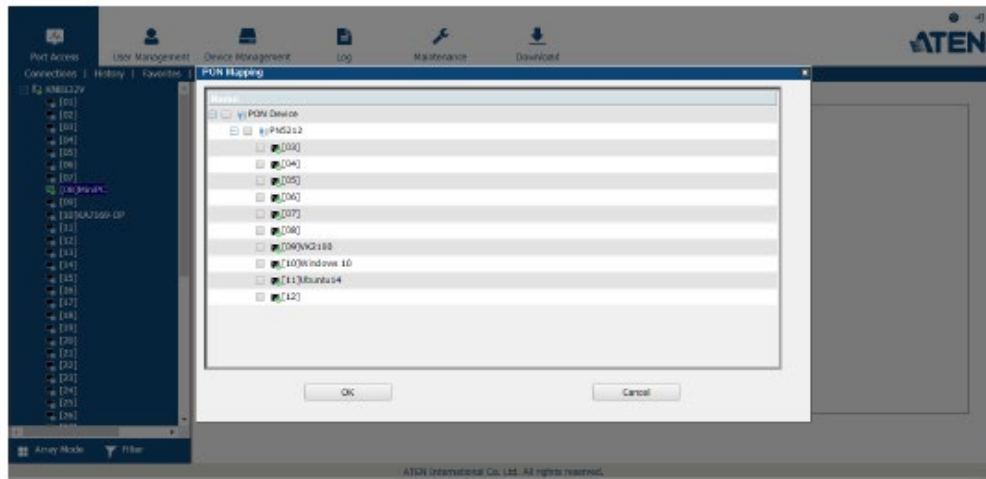


6. 最後に、「Port Access」(ポートアクセス)→「Port Configuration」(ポート設定)の画面から、適切な電源管理の権限が与えられているか確認してください。関連するポート番号を左側のツリーメニューから選択します。

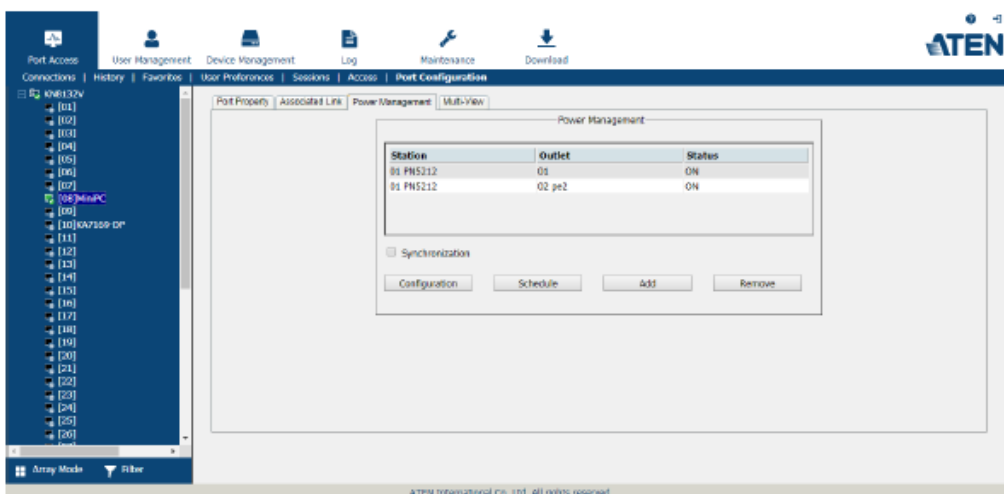
注意: 以下のスクリーンショットは参考用です (KN8132V のウェブ GUI)。KN1108VA/KN1116VA のウェブ GUI は、ポート数が少なく、画面に表示するモデル名が異なる点を除いて、共通です。



(電源デバイスの)「Add」(追加)を選択してください。

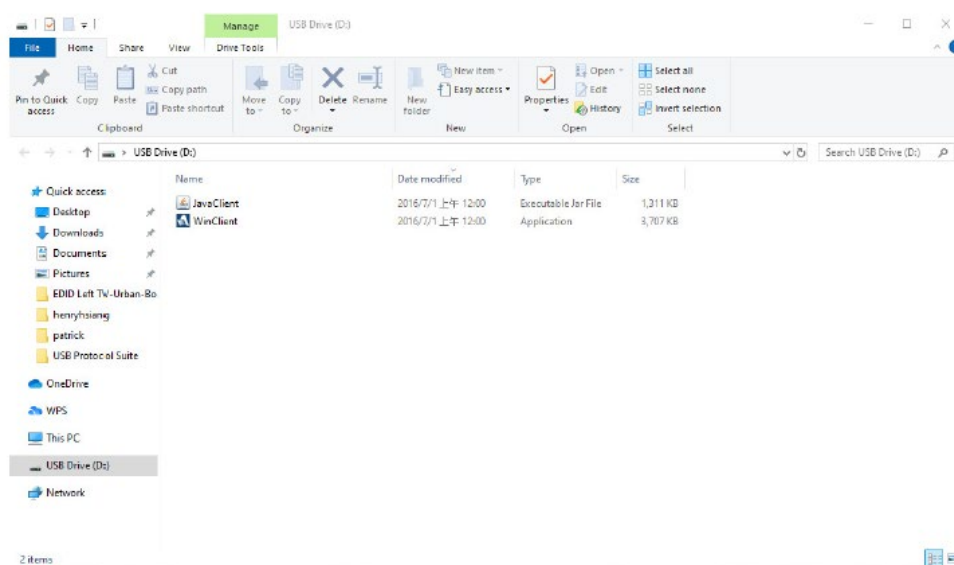


この操作で、選択したポートに電源操作権限を割り当てます。



ラップトップ USB コンソール(LUC)へのログイン

ノートパソコンをKN1108VA/KN1116VAのフロントパネルにあるLUCポートを繋げるとLANケーブルでのリモートアクセス同様に操作・表示ができます。接続手順は、製品パッケージに付属のラップトップ USB コンソールケーブルで接続し、下図のようなポップアップウィンドウが表示されたら、KN1108VA/KN1116VA へのアクセスと制御に使うクライアントを JavaClient または WindowsClient から選択してください。



- ◆ JavaClient の場合: 詳細は、p.69「JavaClient AP を使った接続方法」および p.118「Java コントロールパネル」でご確認ください。
- ◆ WindowsClient の場合: 詳細は、p.65「WindowsClient AP を使った接続方法」および p.82「WindowsClient コントロールパネル」でご確認ください。

第3章

スーパーアドミニストレーターによる 初期設定

概要

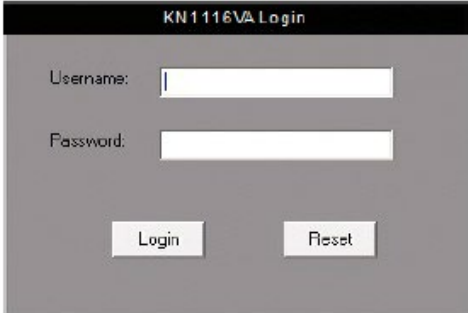
本章では、スーパーアドミニストレーターが製品の初回使用時に行う管理設定方法について説明します。

初回使用時に必要なセットアップ

ハードウェアのセットアップが終わったら、スーパーアドミニストレーターは他のユーザーがKN1108VA/KN1116VA を利用できるようにセットアップする必要があります。セットアップには、ネットワーク関連のパラメーターの設定やスーパーアドミニストレーターのデフォルトユーザーネームおよびパスワードの変更といった作業が含まれます。この作業は、ローカルコンソールから簡単に行うことができます。

注意: ネットワークの設定をリモートから行う場合は p.296「IP アドレスの設定」をご参照ください。

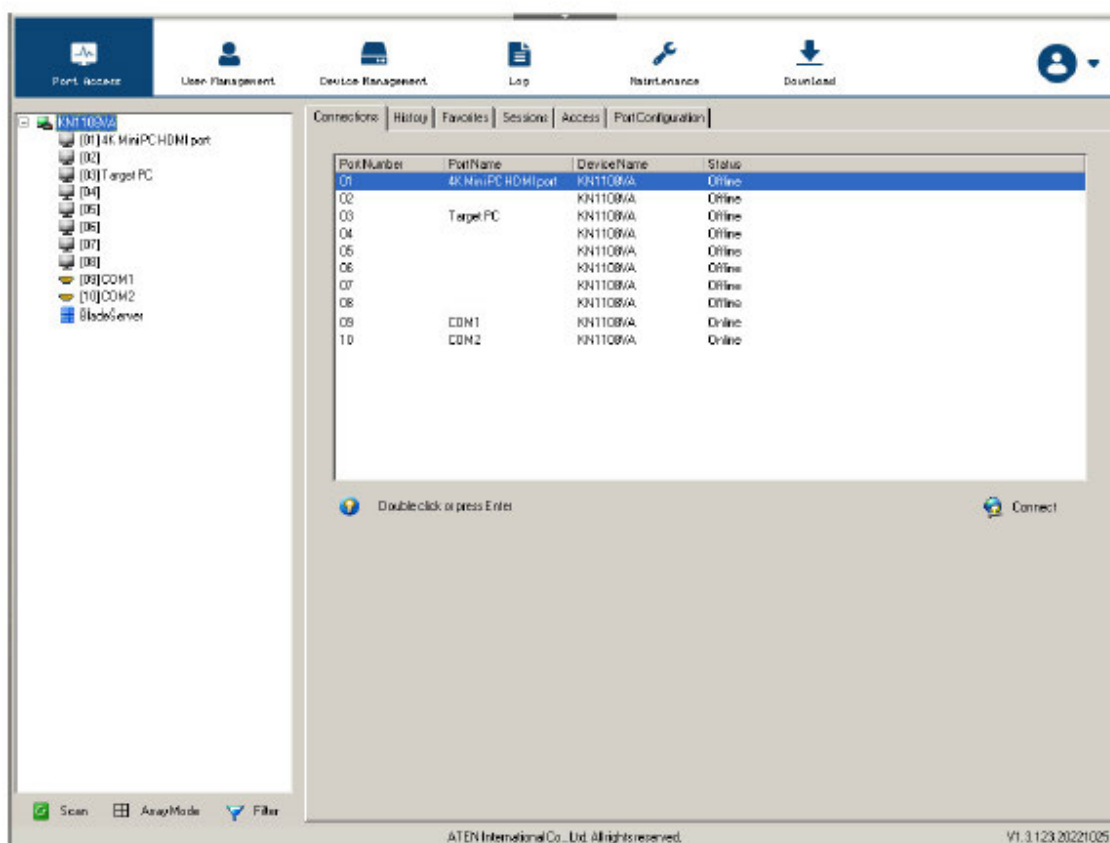
ローカルコンソール側で、コンソールモニターに下図のようなログイン画面が表示されます。このセクションで使用するスクリーンショットは、ファームウェアのバージョンによって、外観が変わる場合がありますので、ご了承ください。



製品に最初にログインする際には、デフォルトのユーザーアカウントを使用してください。ユーザー名は administrator、パスワードは password です。

注意: セキュリティ上の理由から、初回ログイン時にパスワードの変更を要求します。変更後に、改めてログインしてください。

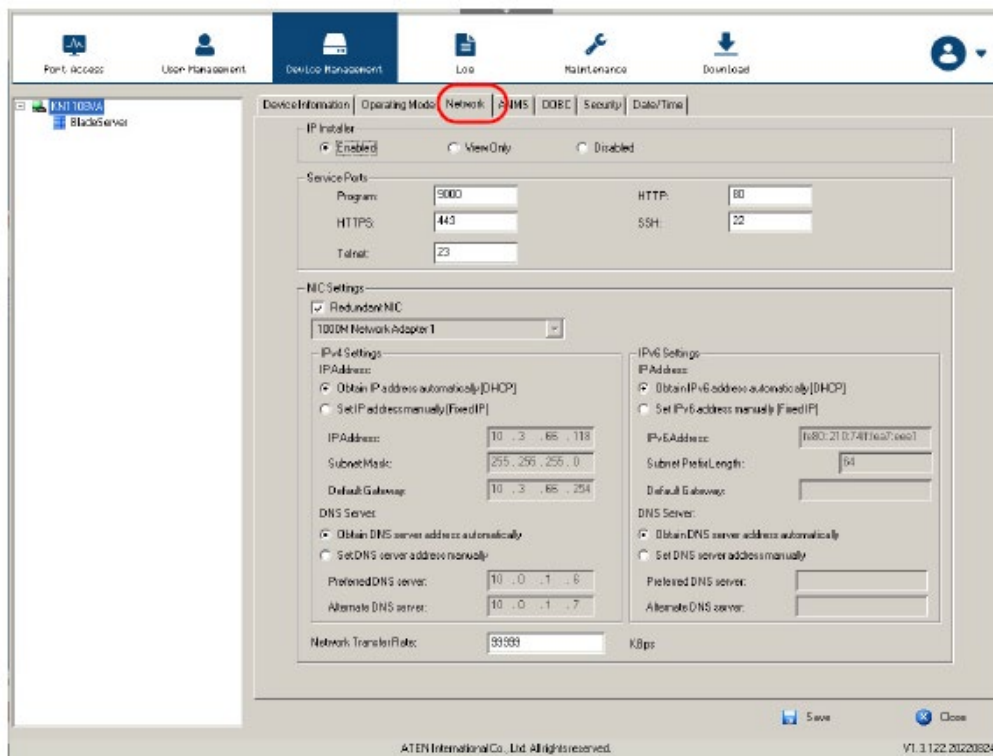
ログインに成功すると、以下のようなローカルコンソールのメイン画面が表示されます。



ネットワークの設定

ネットワークの設定は、以下の手順で操作してください。

1. 「Device Management」(設定)メニューをクリックしてください。
2. 「Network」(ネットワーク)メニューをクリックしてください。

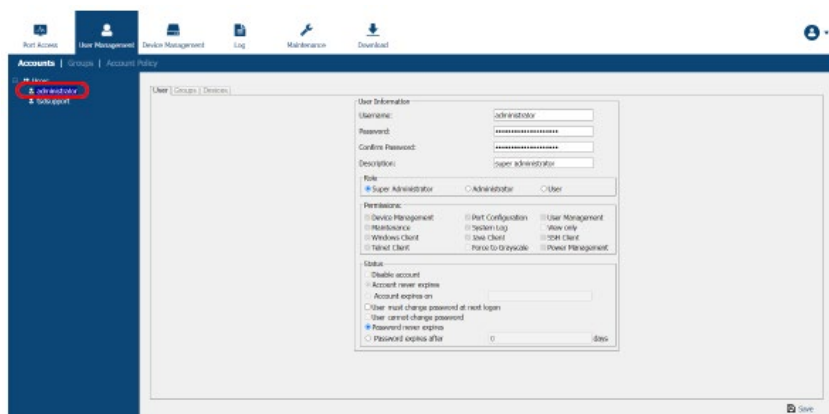


3. p.205「ネットワーク」に記載されている例を参考にしながら、お使いの環境に適した値を入力してください。

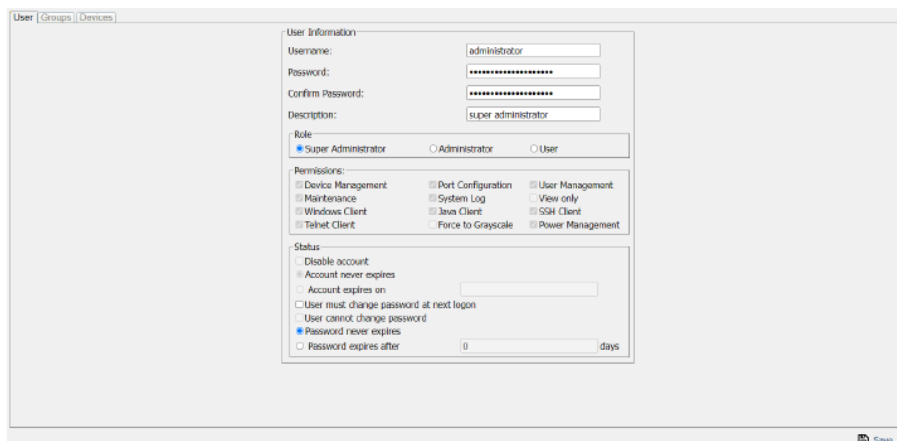
スーパーアドミニストレーターログインの変更

デフォルトのスーパーアドミニストレーターのユーザーネームやパスワードを変更する場合は、以下の手順で操作してください。

1. 画面最上部のメニューにある「**User Management**」(アカウント)メニューをクリックしてください。左側のパネルにユーザーおよびグループの一覧、中央パネルにはユーザー権限の画面表示されます。初回アクセス時は他のユーザーは作成されていないので、一覧には下図のようにスーパーアドミニストレーターしか表示されません。



2. 左側のパネルから「**administrator**」をクリックして、デフォルトのスーパーアドミニストレーターのユーザーネームとパスワードを変更してください。下図のような「ユーザー情報」画面が表示されます。



3. 「Username」(ユーザーネーム)の欄に新しく変更するユーザーネームを、「Password」(パスワード)の欄に新しく変更するパスワードをそれぞれ入力してください。
4. 「Confirm Password」(パスワード確認)の欄に確認用パスワードを入力してください。
5. 「**Save**」(保存)ボタンをクリックしてください。
6. 変更成功という内容のメッセージがダイアログに表示されたら、「**OK**」ボタンをクリックしてください。
7. ローカルコンソールのメイン画面で別のアイテムをクリックすると、このメニューでの操作を終了します。

その他の管理メニューを操作する場合は

スーパーアドミニストレーターアカウントであれば、ユーザー管理、デバイス管理、ファームウェアアップグレードメンテナンスなどのすべての管理メニューにアクセスできます。

これらのメニューは、製品の GUI ユーティリティ(ローカルコンソール、ブラウザ版の Windows GUI、および Java GUI、アプリケーション(スタンドアロン)版の WindowsClient および JavaClient)からアクセスできます。お使いの環境に適したユーティリティを選んでご利用ください。

注意: ファームウェアのアップグレードはローカルコンソールから実行できません。アップグレードを行う際にはリモートアクセスし、メンテナンスタブから実行してください。

第4章 ログイン

概要

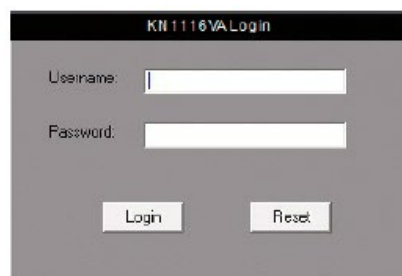
KN1108VA/KN1116VA へのアクセスは、ローカルコンソール、ウェブブラウザ、Windows アプリケーション、および Java アプリケーションからできます。

上記のどの方法でも、IP-KVM スイッチにアクセスするには有効なユーザーネームとパスワードが必要です。無効なアカウントでログインした場合、画面上には「Invalid Username or Password」(ユーザーネームまたはパスワードが正しくありません)または「Login Failed」(ログインに失敗しました)のエラーメッセージが表示されます。このような場合は、ユーザーネームとパスワードを正しく入力し、再ログインしてください。

注意: ログインの連続失敗回数が、管理者が設定したログイン再試行可能回数を超えると、タイムアウト機能が作動します。この場合、次のログインまで、ある一定の時間待機しなければなりません。詳細については p.223「ログイン失敗」をご参照ください。

ローカルコンソールからのログイン

ローカルコンソールのセットアップ(p.40 参照)が完了し、他のユーザーがローカルコンソールを使用していない場合、モニターにはログイン画面が表示されます。なお、このセクションで使用しているスクリーンショットは参考用です。ファームウェアのバージョンによっては、KN1108VA/KN1116VA のローカルコンソールに表示されるログインプロンプトの外観が異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。



ローカルコンソールのメイン画面を呼び出す場合は、ログイン画面に正しいユーザーネームとパスワードを入力し、「**Login**」(ログイン)ボタンをクリックしてください。ローカルコンソールのメイ

ン画面は、ウェブブラウザ、WindowsClient、JavaClient の各メイン画面と同様の構成です。ウェブ画面のメイン画面に関する詳細は p.70 をご参照ください。

ブラウザからのログイン

IP-KVM スイッチには、対応ブラウザからアクセスできます。以下の手順で操作してください。

1. ウェブブラウザを起動し、アクセス対象となる IP-KVM スイッチの IP アドレスを URL バーに入力してください。

注意: 例えば、IPアドレスが「192.168.0.100」に設定されている場合は、URL バーに下記のようにアドレスを入力してアクセスします。

192.168.0.100

お使いの環境における IP アドレスがご不明な場合は、本製品の管理者までお問い合わせください。

2. セキュリティー証明書に関する警告メッセージが表示される場合がありますが、本製品の証明書は信頼できるものですので、これを受け入れてください(詳細は p.301「信頼された証明書」参照)。同様のメッセージが再表示された場合も、同じように受け入れてください。証明書を受け入れると、以下のようなログイン画面が表示されます。

KN1108VA Login	
Username	<input type="text"/>
Password	<input type="password"/>
<input type="button" value="Login"/> <input type="button" value="Reset"/>	

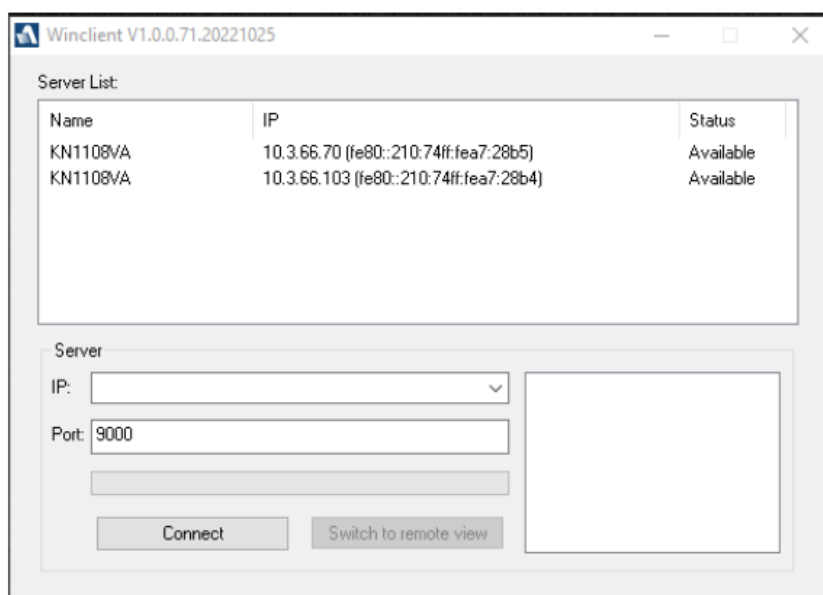


3. ウェブブラウザのメイン画面を表示するには、KN1108VA/KN1116VA で(アドミニストレーターが設定した)有効なユーザーネームとパスワードを入力し、「Login」(ログイン)ボタンをクリックしてログインしてください。ウェブブラウザのメイン画面に関する詳細は、p.70 をご参照ください。

WindowsClient からのログイン

ウェブブラウザから IP-KVM スイッチへのアクセスが許可されていない場合、Windows 環境では WindowsClient アプリケーションを使うことで IP-KVM スイッチに直接リモートアクセスできます (ただし、このアプリケーションは初回のみウェブブラウザからダウンロードする必要があります。詳細は p.269 をご参照ください)。

この方法で IP-KVM スイッチに接続する場合は、事前にコンピューターにダウンロードしておいたアプリケーション版 WindowsClient のフォルダーに移動し、プログラムのアイコン(WinClient.exe) をダブルクリックしてください。この操作で以下のような WindowsClient の接続画面が起動します。



WindowsClient AP の接続画面

接続画面に表示される項目の内容は下表のとおりです。

項目	説明
メニューバー	<p>メニューバーでは「File」(ファイル)、「Help」(ヘルプ)の2つのメニューを提供しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 「File」(ファイル)メニューでは、ユーザーが作成した作業ファイルを新規作成したり、保存したり、開いたりできます(p.66 参照)。 ◆ 「Help」(ヘルプ)メニューでは、WindowsClient のバージョンを確認できます。
Server List (サーバーリスト)	<p>WindowsClient を起動すると、そのツールをインストールしているコンピューターと同じネットワークセグメントにある IP-KVM スイッチを自動検出し、リストに表示します。IP-KVM スイッチにアクセスする場合は、対象となるデバイスをダブルクリックしてください(p.65 参照)。</p> <p>注意:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「Enable Device List」(デバイス一覧を有効にする)の設定が有効になっていないデバイスは一覧に表示されません。詳細については、p.231「動作モード」の内容をご確認ください。 2. 「Program」(プログラム)の「Access Port」(アクセスポート)の設定(p.206 参照)が、このダイアログボックスの「Server」(サーバー)の「Port」(ポート)に設定された番号と一致している KVM スイッチだけが、このリストに表示されます。
Server (サーバー)	<p>IP-KVM スイッチにリモートアクセスする際にこの欄を使用します。IP リストボックスをドロップダウンしてアドレスを選択してください。IP アドレスのリストボックスに目的のデバイスがない場合は、対象デバイスの IP アドレスをこのリストに、また、ポート番号を「Port」(ポート)欄にそれぞれ入力してアクセスすることもできます(ポート番号が不明な場合は、管理者にご確認ください)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ IP アドレスとポート番号を入力したら、「Connect」(接続)ボタンをクリックしてください(p.65 参照)。 ◆ IP-KVM スイッチでの操作が終了し、セッションを切断する場合は「Disconnect」(切断)ボタンをクリックしてください。

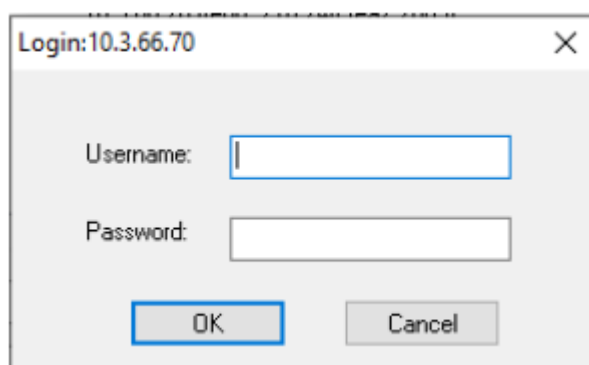
(表は次のページに続きます)

項目	説明
メッセージパネル	IP-KVM スイッチとの接続に関するステータスメッセージが、サーバーパネルの右側のパネルに表示されます。
Switch to Remote View (リモートビューに切り替える)	IP-KVM スイッチとの接続が確立(p.65 参照)して初めて、このボタンが有効になります。このボタンをクリックすると、WindowsClient のメイン画面に切り替えます。WindowsClient のメイン画面の詳細については p.78 をご参照ください。

WindowsClient AP を使った接続方法

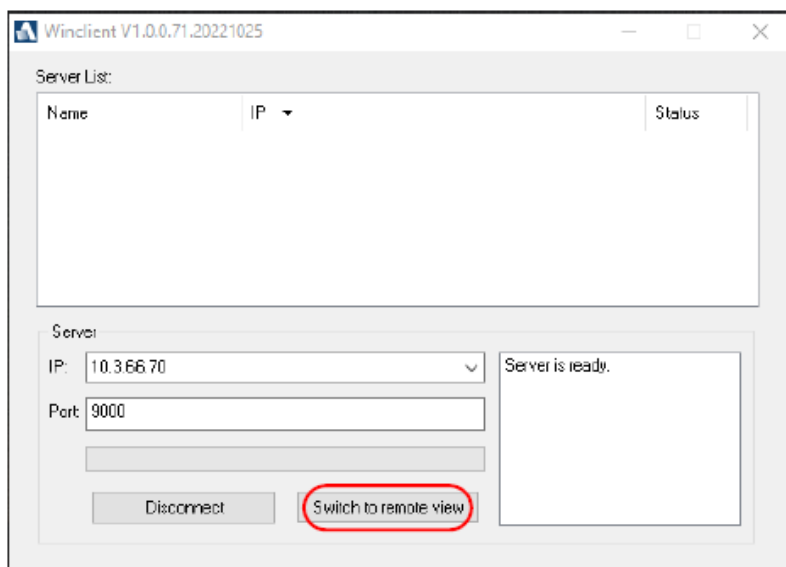
WindowsClient AP を使って IP-KVM スイッチに接続する場合は、下記の手順で操作してください。

- 「Server List」(サーバーリスト)から接続対象となる機器を選択し、**ダブルクリック**してください。
- または -
「Server」(サーバー)における「IP」欄に機器の IP アドレスを、「Port」(ポート)欄にポート番号をそれぞれ入力してください。
- 「**Connect**」(接続)ボタンをクリックしてください。ボタンをクリックすると、下図のようなログインダイアログが表示されます。



The image shows a login dialog box titled "Login:10.3.66.70". It contains two input fields: "Username:" and "Password:". Below the fields are two buttons: "OK" and "Cancel".

- ダイアログにユーザーネームとパスワードを入力して、「**OK**」ボタンをクリックしてください。
- 認証に成功すると、GUI のメイン画面に自動的に遷移します。GUI のメイン画面を閉じると、「Switch to Remote View」(リモートビューに切り替える)ボタンがアクティブになります。このボタンをクリックすると、GUI のメイン画面が起動します。この GUI メイン画面の詳細については p.71 をご参照ください。



ファイルメニュー

「File」(ファイル)メニューでは、ユーザーが作成した作業ファイルの新規作成を行ったり、また、そのファイルを保存したり開いたりできます。この作業ファイルにはクライアントセッションで定義した全情報を格納します。また、「Server List」(サーバーリスト)と「Server IP」(サーバーIP)の項目やホットキーの設定を保存しています。

クライアントプログラムを起動すると、現在の作業ファイルに書き込まれている値を読み込みます。なお、現在の作業ファイルには、前回プログラムが終了した際に有効だった値を保存しています。

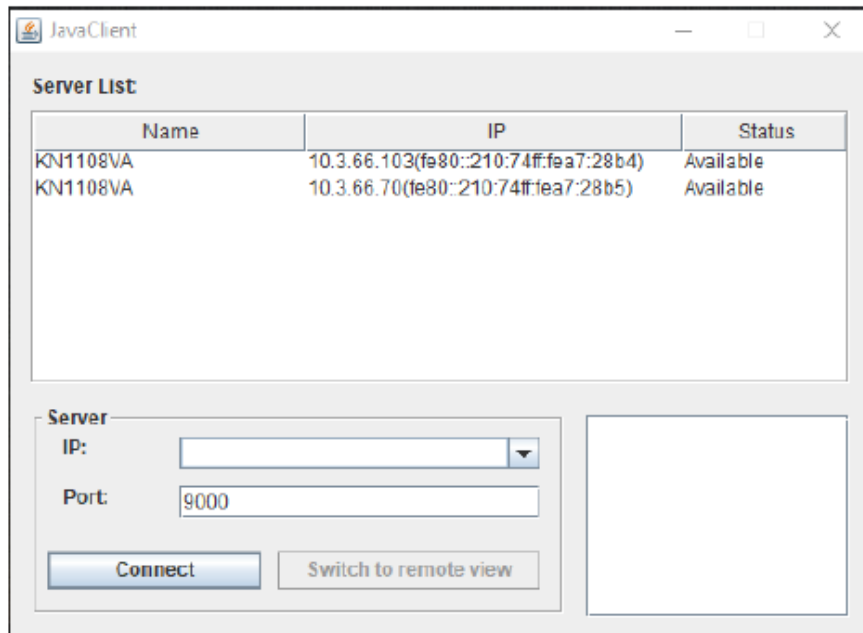
「File」(ファイル)メニューのサブメニューは下表のとおりです。

メニュー	説明
New (新規)	ファイルを新規に作成します。このファイルに現在の値を保存しておくことで、後からその値を呼び出して使用できます。
Open (開く)	過去に保存された作業ファイルを開き、その値を読み込みます。
Save (保存)	現在有効な値を使用中の作業ファイルに保存します。
Exit (終了)	WindowsClient プログラムを終了します。

JavaClient からのログイン

ウェブブラウザから IP-KVM スイッチへのアクセスが許可されていない場合、Windows 以外の環境では、JavaClient アプリケーションを使うことで IP-KVM スイッチに直接リモートアクセスできます(ただし、このアプリケーションは初回のみウェブブラウザからダウンロードする必要があります。詳細は p.269 をご参照ください)。

この方法で IP-KVM スイッチに接続する場合は、事前にお使いのコンピューターにダウンロードしておいたアプリケーション版 JavaClient のフォルダーに移動し、プログラムのアイコン (JavaClient.jar) をダブルクリックしてください。この操作で下図のような JavaClient の接続画面が起動します。



JavaClient AP の接続画面

接続画面に表示される項目の内容は下表のとおりです。

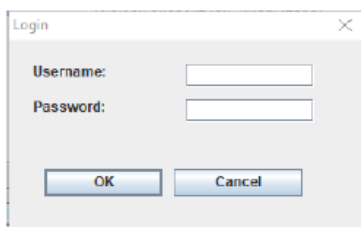
項目	説明
Server List (サーバーリスト)	<p>JavaClient を起動すると、そのツールをインストールしているコンピューターと同じネットワークセグメントにある IP-KVM スイッチを自動検出し、リストに表示します。IP-KVM スイッチにアクセスする場合は、対象となるデバイスをダブルクリックしてください(p.65 参照)。</p> <p>注意:</p> <ol style="list-style-type: none">「Enable Device List」(デバイス一覧を有効にする)の設定が有効になっていないデバイスは一覧に表示されません。詳細については、p.231「動作モード」の内容をご確認ください。「Program」(プログラム)の「Access Port」(アクセスポート)の設定(p.206 参照)が、このダイアログボックスの「Server」(サーバー)の「Port」(ポート)に設定された番号と一致している KVM スイッチだけが、このリストに表示されます。
Server (サーバー)	<p>IP-KVM スイッチにリモートアクセスする際にこの欄を使用します。IP リストボックスをドロップダウンしてアドレスを選択してください。IP アドレスのリストボックスに目的のデバイスがない場合は、対象デバイスの IP アドレスをこのリストに、また、ポート番号を「Port」(ポート)欄にそれぞれ入力してアクセスすることもできます(ポート番号が不明な場合は、管理者にご確認ください)。</p> <ul style="list-style-type: none">◆ IP アドレスとポート番号を入力したら、「Connect」(接続)ボタンをクリックしてください(p.65 参照)。◆ IP-KVM スイッチでの操作が終了し、セッションを切断する場合は「Disconnect」(切断)ボタンをクリックしてください。
メッセージパネル	<p>IP-KVM スイッチとの接続に関するステータスメッセージが、サーバーパネルの右側のパネルに表示されます。</p>
Switch to Remote View (リモートビューに切り替える)	<p>IP-KVM スイッチとの接続が確立(p.65 参照)して初めて、このボタンが有効になります。このボタンをクリックすると、JavaClient のメイン画面に切り替わります。詳細については p.78 をご参照ください。</p>

JavaClient AP を使った接続方法

JavaClient AP を使って KN1108VA/KN1116VA に接続する場合は、下記の手順で操作してください。

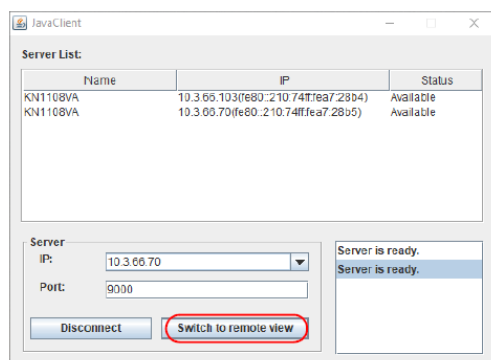
1. 「Server List」(サーバーリスト)から接続対象となるデバイスを選択し、**ダブルクリック**してください。
- または -
「Server」(サーバー)における「IP」欄にデバイスの IP アドレスを、「Port」(ポート)欄にポート番号をそれぞれ入力してください。

2. 「**Login**」(ログイン)ボタンをクリックしてください。ボタンをクリックすると、下図のようなログインダイアログが表示されます。



A small dialog box titled "Login" with a close button (X) in the top right corner. It contains two text input fields: "Username:" and "Password:". Below the fields are two buttons: "OK" and "Cancel".

3. ダイアログに有効なユーザーネームとパスワードを入力して、「**OK**」ボタンをクリックしてください。
4. 認証に成功すると、GUI のメイン画面に自動的に遷移します。GUI のメイン画面を閉じると、「Switch to Remote View」(リモートビューに切り替える)ボタンがアクティブになります。このボタンをクリックすると、GUI のメイン画面が起動します。この GUI メイン画面の詳細については p.70 をご参照ください。



The main GUI window titled "JavaClient" contains a "Server List" table with columns "Name", "IP", and "Status". Below the table are "Server" fields for "IP:" and "Port:". At the bottom are "Disconnect" and "Switch to remote view" buttons. A status area on the right shows "Server is ready." twice.

Name	IP	Status
KN1108VA	10.3.66.103(fe80::210:74ff:fea7:28b4)	Available
KN1108VA	10.3.66.70(fe80::210:74ff:fea7:28b5)	Available

Server IP: 10.3.66.70
Port: 9000

Disconnect Switch to remote view

Server is ready.
Server is ready.

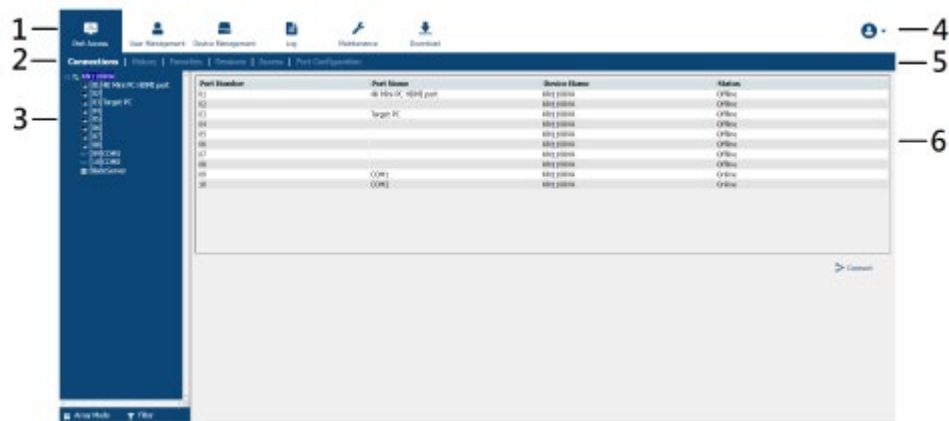
第5章 ユーザーインターフェース

概要

KN1108VA/KN1116VA へのログインに成功すると、メインメニューの画面が表示されます。アクセス方法によって画面の表示は若干異なりますが、基本機能は共通です。各インターフェースは次のセクションで説明しています。

ウェブブラウザのメイン画面

マルチプラットフォーム環境で操作を考慮し、KN1108VA/KN1116VA へのアクセスは標準的なウェブブラウザを使って行います。ユーザーのログイン認証 (p.62 参照) が完了すると、ウェブブラウザのメイン画面の「Port Access」(ポートアクセス)メニューを初期表示します。



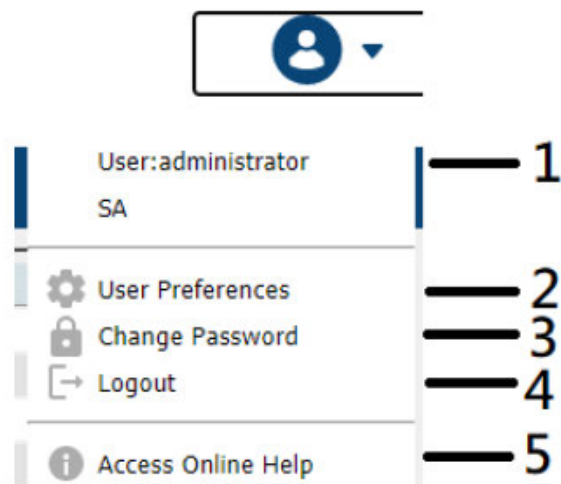
注意: 上図はスーパーアドミニストレーターでログインした場合の表示画面です。ユーザーの種類や権限によっては、表示されないメニューもあります。

画面内の構成要素

ウェブメニューの項目は下表のとおりです。

No.	アイテム	説明
1	タブバー	操作のメインカテゴリーがメニュー別にタブ表示されます。表示タブはユーザーアカウントが作成された際にユーザータイプやユーザーに与えられた権限によって決まります。
2	メニューバー	タブで選択された操作に関連するサブカテゴリーが表示されます。この部分に表示される項目はユーザーアカウントが作成された際にユーザータイプやユーザーに与えられた権限によって決まります。
3	サイドバー	操作中のタブやメニューバーに対応したポートリストがこの部分にツリー形式で表示されます。サイドバーのノードをクリックすると、その詳細画面が表示されます。 サイドバーの下にある「Filter」(フィルター) ボタンを使うと、ツリーに表示されるポートの範囲を変更できます。フィルター機能については p.130 をご参照ください。
4	ユーザー設定	このボタンをクリックすると、ユーザー情報の確認、ユーザーの環境設定、パスワードの変更、ログアウト、オンラインヘルプの参照といった操作が行えます。詳細は p.72「ユーザー設定」を参照してください。
5	ウェルカムメッセージ	ウェルカムメッセージ機能が有効になっている場合、この部分にメッセージが表示されます。
6	詳細表示パネル	メインの作業領域です。選択されたメニューやサイドバーのノードに応じたメニューが表示されます。

ユーザー設定



No.	アイテム	説明
1	ユーザー情報	ユーザー情報と説明を表示します。
2	User Preferences (ユーザー設定)	クリックすると、ユーザー設定を行います。詳細は次の「ユーザー設定」セクションを参照してください。
3	Change Password (パスワードの変更)	クリックすると、ログインパスワードを変更します。詳細は p.75 「パスワードの変更」を参照してください。
4	Logout (ログアウト)	クリックすると、IP-KVM スイッチからログアウトし、セッションを終了します。
5	Access Online Help (オンラインヘルプへのアクセス)	クリックすると、ユーザーマニュアルを自動的に開きます。

ユーザー設定

「ユーザー設定」画面では、ユーザー個人の作業環境をセットアップできます。各ユーザープロファイルに対して、個別の設定レコードを製品本体に保存し、ユーザーがログインダイアログボックスで入力したユーザーネームに基づいて、作業環境を設定します。

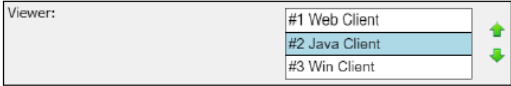
The screenshot shows a 'User Preferences' dialog box with the following settings:

- Language: English
- OSD Hotkey: [Ctrl] [Ctrl]
- ID Display: Port Number + Port Name
- ID Duration: 3 sec
- Scan Duration: 5 sec
- Screen Blanker: 0 min
- Logout Timeout: 0 min
- Toolbar: Enable Disable
- Viewer: #1 Web Client (selected), #2 Win Client, #3 Java Client

Buttons at the bottom: Save, Cancel

各項目の詳細は下表のとおりです。

設定	機能
Language (言語)	インターフェースの表示言語を選択します。
OSD Hotkey (OSDホットキー)	キーボードからメニュー画面を呼び出すホットキーを選択します。 [Scroll Lock][Scroll Lock]がデフォルトです。別の組み合わせを選択するには、ボックスの右側にある矢印ボタンをクリックして、選択肢のリストをドロップダウン表示します。
ID Display (ID表示)	ポートIDの表示方法をポート番号のみ (PORT NUMBER)、ポートネームのみ(PORT NAME)、またはポート番号とポートネーム(PORT NUMBER+PORT NAME)から選択します。デフォルトはポート番号とポートネーム(PORT NUMBER+PORT NAME)です。
ID Duration (ID表示間隔)	ポートを変更した後、ポートIDがモニターに表示される時間を決定します。1～255秒の間で設定できます。デフォルトは3秒です。0(ゼロ)に設定すると、ポートIDが常にオンになります。

設定	機能
Scan Interval (スキャンインターバル)	オートスキャンモードで選択したポートを循環するとき、各ポートにフォーカスが滞留する時間を決定します (p.276「オートスキャン」参照)。1～255秒の値を入力します。デフォルトは5秒です。0に設定すると、スキャン機能が無効になります。
Screen Blanker (スクリーンブランカー)	コンソールからの入力がないまま、本機能で設定した時間が経過すると、画面は空白になります。1～30分の値を入力します。0を設定すると、この機能は無効になります。デフォルトは0(無効)です。 注意: この機能は、ローカルコンソールまたはリモートログインのどちらからでも設定できますが、影響を受けるのはローカルコンソールモニターのみです。
Logout Timeout (ログアウトタイムアウト)	ユーザーからの入力がないまま、この機能で設定された時間が経過すると、ユーザーは自動的にログアウトさせられます。IP-KVMスイッチに再びアクセスするには、ログインが必要です。
Toolbar (ツールバー)	ポートへのアクセス時にポートツールバーを有効にするか選択します (詳細はp.273「ポートツールバー」を参照)。 ツールバー機能はGUIコントロールパネル (p.82参照) から利用できるようにするため、ここでは無効にすることを推奨します。
Viewer* (ビューア*)	この画面のブラウザ版では、「ビューア」セクションを使用できます。ポートに接続するとき、どのビューアの方法を優先するかを選択できます。  詳細については、p.148「ビューアの環境設定」(下記)を参照してください。
Save (保存)	クリックすると、変更内容を保存します。

- 注意:**
1. これらの項目は、ブラウザ版でのみ使用できます。
 2. ローカルコンソールの「ユーザー環境設定」画面には、機器のビープ音をオン(デフォルト)またはオフにするための**ビープ音**設定が追加で(排他的に)提供されています。

パスワードの変更

- ◆ ブラウザーGUIでユーザーのパスワードを変更する場合は、旧パスワードと新規パスワードを、それぞれの入力欄に入力してください。「Confirm」(確認)入力ボックスに新規パスワードを入力し、「Change Password」(パスワードの変更)をクリックすると、変更を適用します。
- ◆ アプリケーションのGUIでは、「Change Password」(パスワードの変更)をクリックし、旧パスワードと新規パスワードを、それぞれの入力欄に入力してください。「Confirm」(確認)入力ボックスに新規パスワードを入力し、「Save」(保存)をクリックすると、変更を適用します。

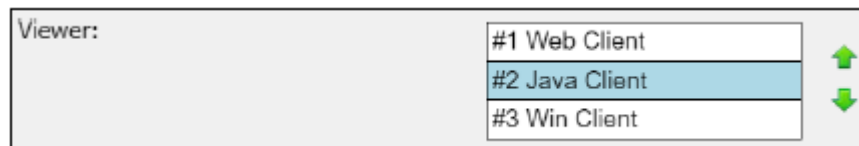
ビューアの実環境設定

このセクションは、ブラウザー版の「ユーザー環境設定」画面にのみ表示され、主にシステムのビューアの自動選択に関連します。

ビューアを手動で選択するには、p.271「ポートへの接続」を参照してください。

使用可能なビューアは、ログイン時のシステムのステータスとブラウザーの種類によって自動的に決まります。





ポートに接続しようとする時(ポートをダブルクリックするか、ポートを選択して「接続」をクリックすると)、ビューアリストに従ってビューアを使用します。以下に例を示します。



- ◆ 最上位の方法が最も推奨される方法であり、#1(デフォルトは「Web Client」)として一覧表示されています。
- ◆ ポートへの接続時に優先方法がサポートされている場合、システムは優先方法を使用して接続を試みます。
- ◆ 方法がサポートされていない場合、システムは次の方法を使用して接続を試行し、最後の方法を最後に試行します。

ビューア環境設定の調整

以下の手順で環境設定を調整します。

1. 方法をクリックして選択し、強調表示します。そうすると、上記の「#2 Java Client」の方法が選択されたとおりに表示されます。
2. 上()または下()の矢印をクリックして、位置を移動します。上向き矢印()は上方向に移動し(優先度が高くなります)、下向き矢印()は下方向に移動します(優先度が低くなります)。

製造番号

「MFG 番号」(製造番号)は、ATEN の工場や技術サポートのスタッフが製品を識別する際に使用する内部的なシリアル番号です。この番号が製品保証期間に影響することはありません。お使いの製品に関して予期しない不具合を発見し、特殊な調査が必要な場合には、製品と型番を識別するために、ATEN の営業または技術サポートのスタッフが確認依頼する場合がございます。その時は、この MFG 番号をお伝えください。

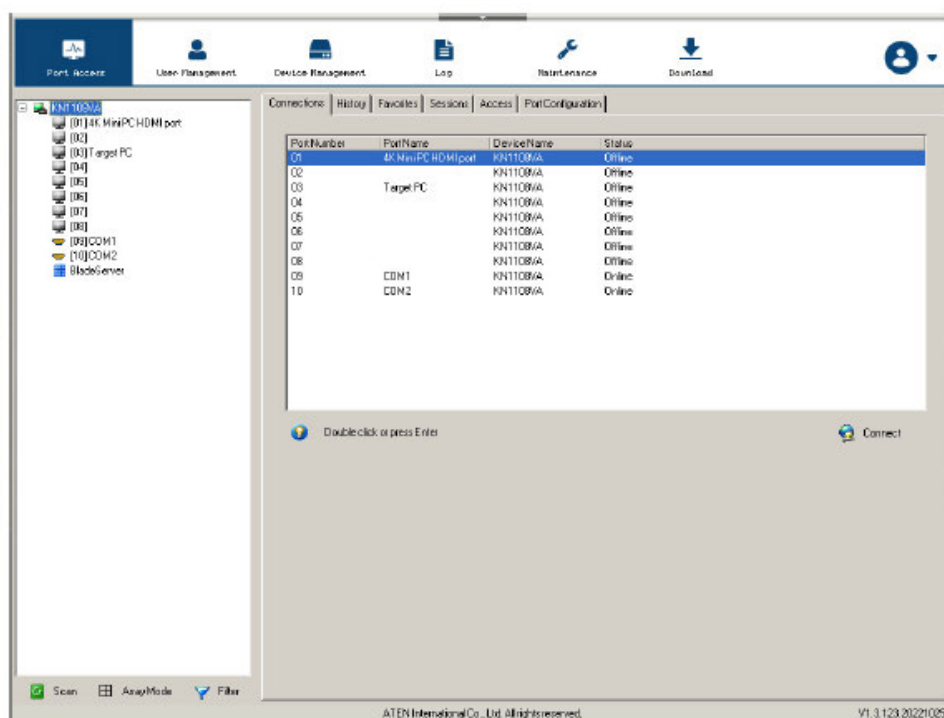
タブメニュー

ページ上部のタブバーに表示されるアイコンの数およびタイプは、ユーザータイプ(スーパーアドミニストレーター、アドミニストレーター、ユーザー)や、ユーザーアカウント作成時にユーザーに付与された操作権限によって決定します。各アイコンが表す機能は下表のとおりです。

アイコン	機能
	<p>Port Access (ポートアクセス)：製品本体に接続されているデバイスへのアクセス・操作を行います。このメニューは各端末へのアクセス権限を持つユーザーだけがアクセス可能です。</p>
	<p>User Management (ユーザー管理)：ユーザーやグループの作成・管理を行います。また、デバイスをユーザーやグループに割り当てることもできます。本メニューの詳細については p.177 をご参照ください。なお、これは、スーパーアドミニストレーターと、ユーザー管理権限のあるアドミニストレーターやユーザーのみアクセス可能なメニューです。これ以外のユーザーがログインした場合、このアイコンは表示されません。</p>
	<p>Device Management (デバイス管理)：製品の操作全般に関する項目の設定・管理を行います。なお、これはスーパーアドミニストレーター、およびデバイス管理権限のあるアドミニストレーターやユーザーのみがアクセス可能なメニューです。これ以外のユーザーがログインした場合、このアイコンは表示されません。</p>
	<p>Log (ログ)：ログファイルの内容を表示します。このメニューの詳細については p.245 をご参照ください。</p>
	<p>Maintenance (メンテナンス)：製品のファームウェアアップグレード、設定およびアカウント情報のバックアップ・リストアおよび ping ネットワークデバイス診断を行います。詳細については p.289 をご参照ください。なお、これはスーパーアドミニストレーター(およびメンテナンス権限のあるアドミニストレーターとユーザー)がアクセス可能なメニューです。それ以外のユーザーがログインした場合、このアイコンは表示されません。</p>
	<p>Download (ダウンロード)：権限のあるユーザーは、このメニューから WindowsClient、JavaClient、ログサーバーをそれぞれダウンロードできます。なお、これはすべてのユーザーがアクセス可能なメニューですが、ダウンロードできるのは操作権限のあるアプリケーションのみです。</p>

クライアントアプリケーションのメイン画面

WindowsClient および JavaClient から KN1108VA/KN1116VA にアクセスした場合、ログイン (p.61 参照) すると下図のようなメイン画面が表示されます。



アプリケーション版のメイン画面はウェブブラウザのメイン画面と基本的に同様ですが、以下の点が異なりますので、ご注意ください。

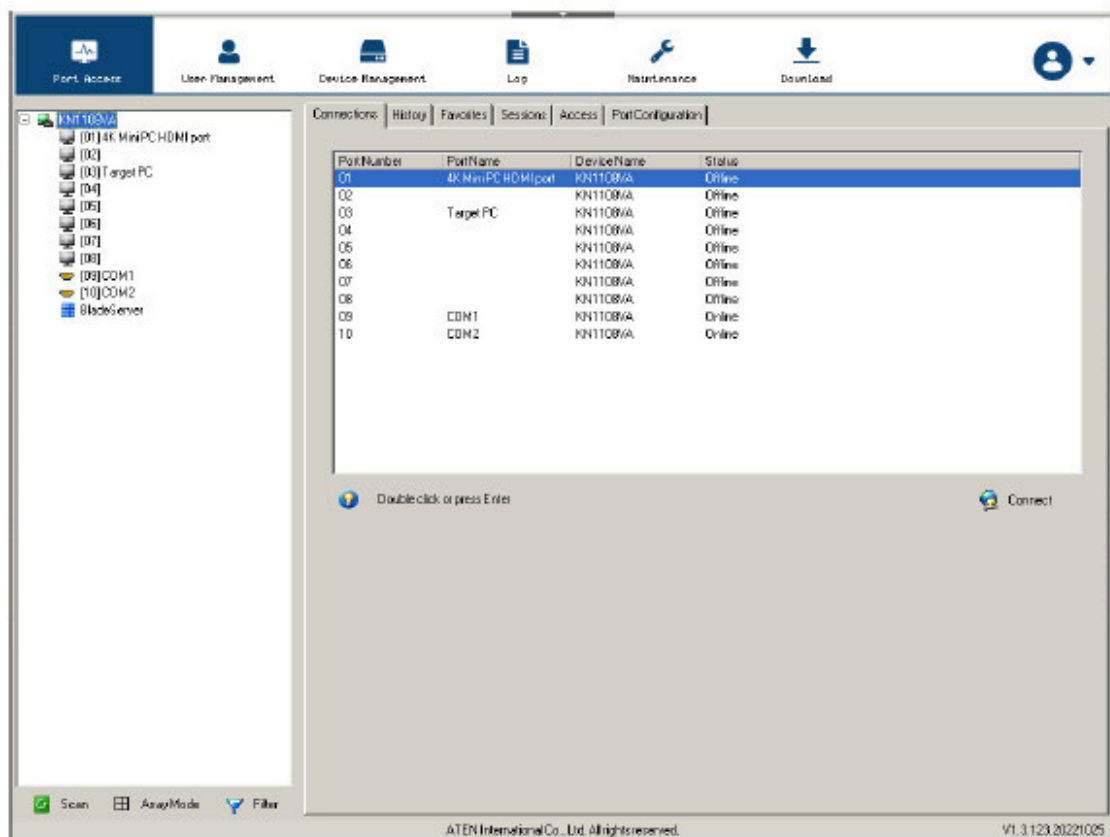
1. アプリケーション版ではタブの下のメニューバーがありません。ウェブブラウザ版のメニューバーに表示されているものはアプリケーション版ではタブメニューとして表示されます。なお、このタブメニューは上部のタブに対応したメニューに切り替わります。
2. アプリケーション版では、「Filter」(フィルター) ボタンの他に、「Scan」(スキャン)、「Array Mode」(アレイモード)の各ボタンがサイドバー下部に表示されます。これらの機能については第6章「ポートアクセス」をご参照ください。
3. アプリケーション版では、画面中央の上部、または下部にマウスカーソルを移動させるとコントロールパネルが表示されます(デフォルトでは画面上部中央に表示)。

4. アプリケーション版では以下のホットキーを使用できます。

キー	アクション
Ctrl + P	「Port Access」(ポートアクセス)タブを開きます。
Ctrl + U	「User Management」(ユーザー管理)タブを開きます。
Ctrl + D	「Device Management」(デバイス管理)タブを開きます。
Ctrl + L	「Log」(ログ)タブを開きます。
Ctrl + M	「Maintenance」(メンテナンス)タブを開きます。
Ctrl + A	「Download」(ダウンロード)タブを開きます。
F1	「About」(バージョン情報)を参照します。
F2	選択されたポートのポート名前を編集します。
F4	サイドバー(左)パネルを選択します。
F5	メイン(右)パネルを選択します。
F7	GUIを終了します。
F8	ログアウトします。

ローカルコンソール GUI メイン画面

ローカルコンソールの GUI メイン画面は、JavaClient と WindowsClient のメイン画面と基本的に同じです。

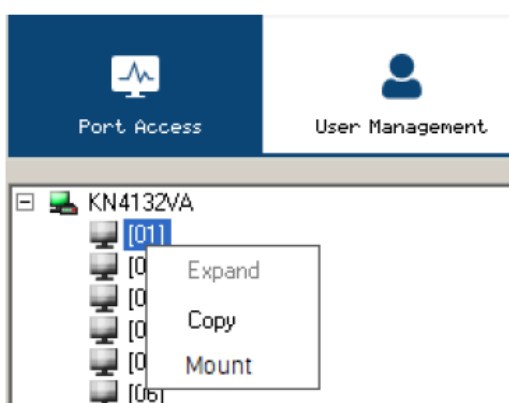


ただし、ローカルコンソールのメイン画面には「Download」(ダウンロード)タブが表示されません。

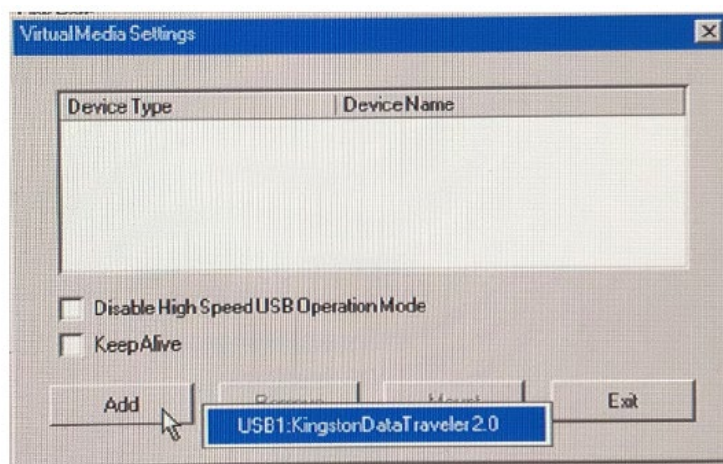
バーチャルメディアをローカルでマウントするには

ローカルコンソールでは、バーチャルメディアをマウントできます。バーチャルメディアをマウントするには、次の手順に従って操作します。

1. ターゲットとなるサーバーのローカルで、USB フラッシュメモリを挿入してください。
2. ローカルコンソールのサイドバーで、サーバーを右クリックし、「Mount」(マウント)をクリックしてください(下図参照)。



3. 「VirtualMedia Settings」(バーチャルメディアの設定)ダイアログボックスが表示されたら、「Add」(追加)をクリックして、バーチャルメディアを選択してください。下図は操作の一例です。



Windows/JavaClient ビューアにおけるバーチャルメディアのマウント方法は同様に行います。詳細については p.107「バーチャルメディアのマウント」を参照してください。

コントロールパネル

WindowsClient コントロールパネル

WindowsClient のコントロールパネルは、ActiveX Web ビューア版(IE11 以前の環境向け)とアプリケーション版における、すべてのユーザーインターフェースのコントロールパネルの機能を網羅しているため、本セクションでは WindowsClient のコントロールパネルについて説明します。Java 版のコントロールパネルは、WindowsClient のコントロールパネルに比べて機能が少ない点を除いて、使用方法は同じです。詳細はこのセクションを参考にしてください。

WindowsClient のコントロールパネルは画面の上部または下部(通常は画面上部)の中央に隠れています。この部分にマウスカーソルを移動させると下図のようなメニューが表示されます。このコントロールパネルは、上段のアイコンと下段のテキストバーから構成されています。



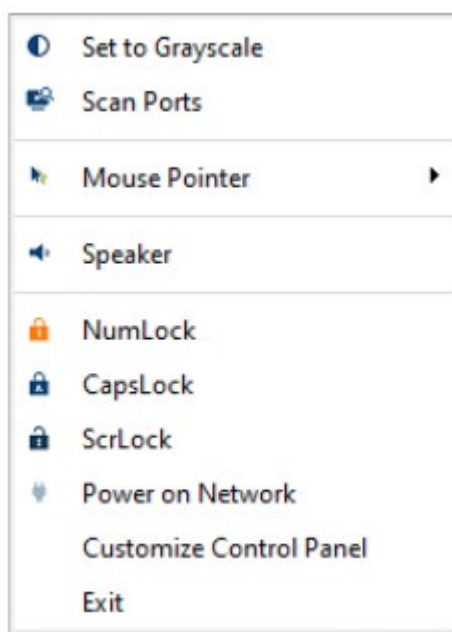
注意: 上図は全メニューが表示された場合のコントロールパネルの外観です。表示するアイコンはカスタマイズが可能です。詳細については p.117「コントロールパネルの設定のカスタマイズ」をご参照ください。

- ◆ デフォルトでは、テキスト行の左側にリモートディスプレイの解像度が表示されます。マウスをアイコンバーのアイコンの上に移動させると、テキスト行に、そのアイコンの機能が表示されます。また、メッセージボードが立ち上がっていないときに、他のユーザーからメッセージを受け取ると、メッセージがこの部分に表示されます。
- ◆ テキストバーの右端には現在アクセス中のデバイスの IP アドレスが表示されます。また、最下段中央の部分では、スラッシュの前にはユーザーが使用中のバス番号が、後ろにはそのバスを使用中のユーザー数がそれぞれ表示されます。

注意:

1. このバスとユーザーに関する情報はこの機能が有効になっている時のみ表示されます。
2. バスの割り当て機能に関する詳細は p.282「マルチユーザーによる操作」をご参照ください。











- ◆ テキスト行でマウスを右クリックすると、ツールバーの内容がメニュー形式で表示されます。また、メニューに付いている右向きの三角マークをクリックすると、さらなるメニューオプションを選択できます。これらの機能については後のセクションで説明します。













- ◆ コントロールパネルを画面上の別の場所に移動させたい場合は、テキストバーの部分をドラッグしてください。

WindowsClient コントロールパネルの機能

コントロールパネルの各機能は下表のとおりです。

アイコン	機能
	コントロールパネルを常に前面に表示します。もう一度このアイコンをクリックすると、通常の状態に戻します。
	アクセスしているポートで GUI を呼び出します。
	ビデオオプションダイアログを起動します。また、右クリックでクイックオートシンク (p.87「ビデオ設定」参照) を実行します。
	表示をフルスクリーンモードまたはウィンドウモードに切り替えます。
	リモートディスプレイのウィンドウをズーム表示します。 注意: この機能は、ウィンドウモード(フルスクリーンモードがオフ)でのみ利用可能です。詳細は、p.90「ズーム」を参照してください。
	リモートディスプレイの表示をカラーまたはグレースケールに切り替えます。
	ビデオとマウスの自動同期操作を実行します。これは、「ビデオオプション」ダイアログボックスにおける「自動同期」ボタンをクリックした時と同じ操作です (p.87「ビデオ設定」参照)。
	ポートへのアクセス中にクリックすると、パネルアレイモードを起動します (p.279「パネルアレイモード」参照)。
	ポートへのアクセス中にクリックすると、オートスキャンモードを開始します。IP-KVM スイッチは、フィルター機能 (p.130 参照) でオートスキャンの対象として選択したポートを自動的に切り替えます。この機能を使用すると、コンピューターを自動的に切り替えて動作を監視できます。
	マウス同期を自動または手動で行います。 ◆ 「Automatic」(自動)を選択すると、アイコンに緑色のチェックマークが表示されます。 ◆ 「Manual」(手動)を選択すると、アイコンに赤色の×マークが表示されます。 この機能に関する詳細については、p.91「マウスダイナミックモード」をご参照ください。

アイコン	機能
	マウスポインターの種類を選択します。 注意: このアイコンは選択されたマウスポインターの種類に応じて変わります (p.115「マウスポインターの種類」参照)。
	オンスクリーンキーボード(p.94 参照)を起動します。
	接続したいポートを選択します。
	リモート画面のスナップショット(画面キャプチャー)を取得します。
	[Ctrl] + [Alt] + [Delete]の信号をリモートコンピューターに送信します。
	「Macro」(マクロ)ダイアログダイアログボックスを起動します(詳細は p.120 参照)。
	ユーザーマクロのドロップダウンリストを表示します。マクロへのアクセスやマクロの実行は、「Macro」(マクロ)ダイアログを使うよりもこの機能を使った方が簡単です。「Macro」(マクロ)ダイアログについては表の上部にあるマクロの項目、または p.97 のマクロに関する記載をご参照ください。
	「Virtual Media」(バーチャルメディア)ダイアログを起動します。バーチャルメディアデバイスがポートで利用可能になると別のアイコンに変わります。詳細については p.107「バーチャルメディア」をご参照ください。 注意: バーチャルメディア機能が無効、または利用不可の状態になると、このアイコンはモノクロで表示されます。
	リモートサーバーからの音声を、ローカルコンピューター側のスピーカーで出力するか(オン)、出力しないか(オフ)を切り替えます。スピーカーがオフになるとアイコンに禁止マーク(赤い円に斜線が入ったもの)が表示されます。
	メッセージボード(p.111 参照)を起動します。

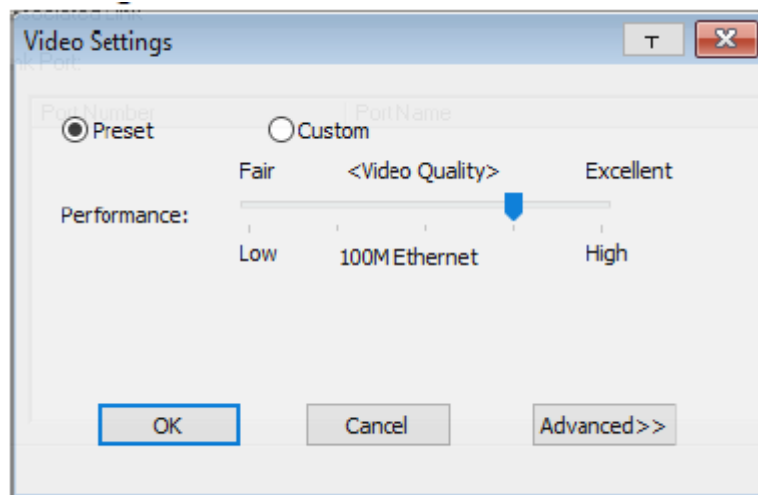
アイコン	機能
	<p>このアイコンは、リモートコンピューターの[Num Lock]、[Caps Lock]、[Scroll Lock]各キーの状態を表します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ロックの状態がオンになっていると、そのキーのLEDがオレンジ色に点灯し、錠前が閉じたアイコンが表示されます。 ◆ ロックの状態がオフになっていると、そのキーのLEDがブルーに点灯し、錠前が開いたアイコンが表示されます。
	<p>アイコンをクリックすると、状態を切り替えます。</p>
	<p>注意:これらのアイコンはローカルキーボードのアイコンと同期します。アイコンをクリックすると、お使いのキーボード上にあるLEDもこのアイコンに合わせてオンまたはオフに切り替わります。キーボードのキーを押した時も同様に、このアイコンの表示が切り替わります。</p>
	<p>このアイコンは、機器が電源管理デバイスに接続されている場合に、その機器の電源のオン・オフ切り替えや再起動を行う際に使用します(詳細は p.238 「PoN デバイス」)。</p> <p>また、この機能に関する詳細は p.116 「電源管理デバイス」を参照してください。</p>
	<p>コントロールパネルのさらなる機能呼び出します。p.114「コントロールパネルのその他の機能」を参照してください。</p>



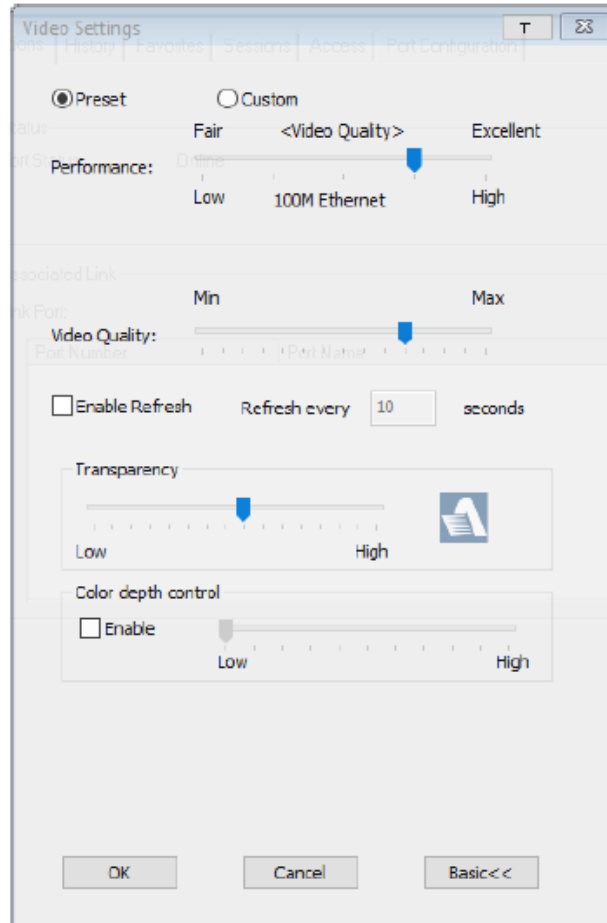
ビデオ設定

コントロールパネル上にある、このアイコンをクリックすると、「Basic Video Settings」(基本ビデオ設定)ダイアログが起動します。このダイアログでのオプションによって、自動同期やパフォーマンスを設定できます。「Advanced」(詳細)のボタンをクリックすると、「Advanced Video Settings」(詳細ビデオ設定)ダイアログが開き、下記に示すように、画質、再描画、透明度、色深度コントロールといった詳細オプションを設定できます。

基本ビデオ設定



詳細ビデオ設定



このダイアログのオプション項目の内容は下表のとおりです。

オプション	機能
Preset/Custom (プリセット/カスタム)	このボタンを使用すると、カスタマイズ済みのビデオ設定値の保存や、デフォルトのビデオ設定値の復元ができます。
Performance (パフォーマンス)	このスライダーバーは、ローカルクライアントコンピューターが使用するインターネット接続タイプを選択するのに使用します。IP-KVM スイッチはここで選択した項目によって、「Video Quality」(ビデオ画質)の項目を自動的に調整し、ビデオの表示画質を最適化します。 ネットワークの状態は一定ではないため、プリセットの選択項目で不都合が生じる場合があるかもしれません。その際は、「Advanced」(詳細)を選択し、「Video Quality」(ビデオ画質)のスライダーバーを使ってお使いの環境に適した値に調節してください。

オプション	機能
Video Quality (ビデオ画質)	スライドバーをドラッグしてビデオ画質を調整します。値が大きくなるにつれて、画像はより鮮明に、また、ネットワークに転送されるビデオデータの量はより大きくなります。ネットワークのバンド幅によっては、高い値を設定すると操作に対してのレスポンス時間に影響を与える可能性があります。
Enable Refresh (リフレッシュを有効にする)	<p>KN1108VA/KN1116VA は、1～99 秒毎に画面全体を再描画し、ブロックノイズなどの歪みを除去します。「Enable Refresh」(リフレッシュを有効にする)の項目にチェックを入れて、再描画の時間間隔を 1～99 の整数で入力してください。IP-KVM スイッチはここで設定された時間間隔で、画面を再描画します。この機能はデフォルトでは無効です。有効にしたい場合は「Enable Refresh」(リフレッシュを有効にする)の隣にあるチェックボックスをクリックしてチェックを入れてください。</p> <p>注意:</p> <ol style="list-style-type: none"> マウスの動作が止まると、KN1108VA/KN1116VA はインターバル時間の計測を開始します。 この機能を有効にするとネットワーク上に送信されるビデオデータの量が増加します。また、設定するインターバル時間の値が小さくなるにしたがって、ビデオデータの転送頻度が高くなります。この値を小さくしすぎると処理全体のレスポンスに影響を与える可能性がありますので、ご注意ください。
Transparency (透明度)	GUI ホットキー(例:[Scroll Lock] [Scroll Lock])を使用した際に表示されるツールバーの透明度を調節します。お好みの透明度になるようにバーをスライドして調整してください。
Color Depth Control (色深度調整)	色情報の値を調整し、ビデオ画面の色深度を調節します。





KVM セッションのネットワーク帯域幅情報

ネットワーク帯域幅を管理するにあたり、理想的な状況では、1920×1080@60Hz のフルスクリーンビデオディスプレイの KVM セッション 1 つあたり約 64Mbps を要します。

上記の情報は、あくまでも理想的な値を提案していますが、各ステーションやセッションのネットワーク環境は異なるため、セッションの滑らかさや品質を保証するものではありません。

ズーム

リモートビューのウィンドウをズーム表示します。KN1108VA/KN1116VA が提供している表示倍率は下表のとおりです。

設定	説明
100%	リモートビューのウィンドウを 100%の倍率で表示します。
75%	リモートビューのウィンドウを 75%の倍率で表示します。
50%	リモートビューのウィンドウを 50%の倍率で表示します。
25%	リモートビューのウィンドウを 25%の倍率で表示します。
	リモートビューのウィンドウを 100%の倍率で表示します。これは 100%の倍率で表示した場合と異なり、リモートビューウィンドウがリサイズされても、表示サイズは変更されません。表示されていない部分を操作したい場合は、マウスをウィンドウの端に移動させスクロールを使用してください。
	
	
	



マウスダイナシンクモード

ローカル/リモートのマウスのポインターは自動または手動で同期できます。

マウスの自動同期(ダイナシンク)




マウスダイナシンク機能を使用すると、リモートとローカルのマウスポインターを自動同期するため、マウスの再同期を定期的に行う手間が軽減されます。

注意: この機能は、使用 OS が Windows または Mac(G4 以降)で、使用しているコンピューターモジュールの属性 OS(attribute OS)の値が Win または Mac に設定されている場合にのみご利用いただけます(p.167 参照)。この場合、使用モジュールが次の型番に含まれているか確認してください。

対応コンピューターモジュール: KA7166、KA7168、KA7169、KA7170、KA7175、KA7176、KA7177、KA7178、KA7188、KA7189

これ以外の環境の場合は、マウスを手動で同期してください(詳細は次のセクションで説明します)。

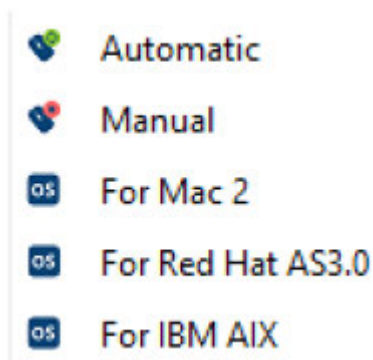
マウスの同期モードを表すツールバーのアイコンは、下表のとおりです。

アイコン	機能
	マウスダイナシンク機能が利用できないことを表します。この場合は、手動でマウスを同期させてください。KA7166、KA7168、KA7169、KA7170、KA7175、KA7176、KA7177、KA7178、KA7189 以外のモジュールをお使いの場合は、これがデフォルト設定になっています。
	マウスダイナシンク機能が利用可能かつ 有効 になっていることを表します。マウスダイナシンク機能が利用可能である場合は、これがデフォルト設定になります(上記の注意書きを参照)。
	マウスダイナシンク機能が利用可能であるものの、 無効 であることを表します。

マウスダイナシンクが利用可能である場合、このアイコンをクリックするとマウスダイナシンクを有効または無効に切り替えます。マウスダイナシンクを無効に選択した場合は、p.93 に記載された手動同期を行う必要があります。

Mac/Linux 環境の場合

- ◆ Mac(10.4.11 以降)をお使いの場合、マウスダイナシク機能が有効であれば、別の方法で同期方法を設定できます。デフォルト設定の同期方法で満足いく結果が得られなかった場合は、「Mac 2」の設定をお試してください。「Mac 2」の項目を選択する場合は、コントロールパネルのテキスト部分を右クリックし、「Mouse Sync Mode」(マウスシンクモード)→「Automatic for Mac 2」(Mac2 用に自動同期)を選択してください。



- ◆ Linux をお使いの場合、ダイナシクモードはサポート対象外ですが、マウスシンクモードメニュー(Red hat AS3.0)の設定を行うことで同期が可能です。USB タイプのコンピューターモジュール(前頁の注意書き参照)をお使いで、デフォルトのマウス同期の方法では満足いく結果が得られなかった場合は、Red hat AS3.0 の設定をお試してください。ただし、上記のいずれの場合においても次のセクションに記載されている手動によるマウス同期の方法で設定する必要があります。

手動設定によるマウス同期

ローカルとリモートのマウスポインターが同期がとれない場合、以下の方法で同期試みてください。

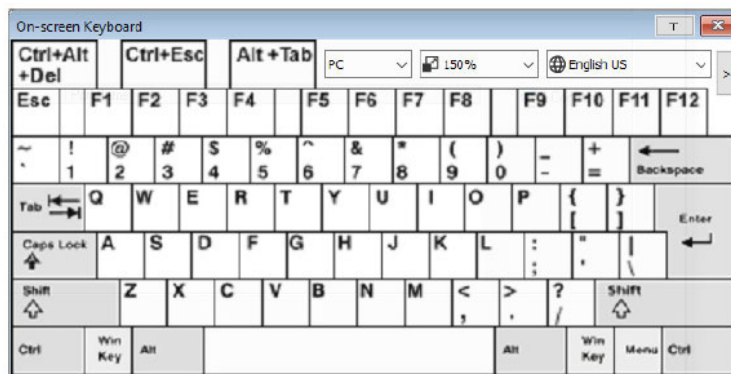
1. コントロールパネルの「Video Settings」(ビデオ設定)のアイコンをクリックして、ビデオとマウスのマウス同期を実行してください(p.87 参照)。
2. 「Video Settings」(ビデオ設定)の「Auto Sync」(自動同期)ボタン(p.87 参照)を使って自動同期を実行してください。
3. 「Adjust Mouse」(マウス調整)ホットキーを使ってマウス調整機能(p.99 参照)を起動してください。
4. 画面の四隅にマウスポインターを動かしてください(動かす順序は問いません)。
5. 画面上のコントロールパネルをドラッグして、別の位置に移動させてください。

製品本体に接続されているコンピューターのうち、マウスの同期に問題のあるものを対象に、マウスポインターのオプション(速度、精度)の設定を行ってください。手順の詳細については p.337 「その他のマウス同期方法」をご参照ください。



オンスクリーンキーボード

本製品は、各言語の標準的なキーボードレイアウトが利用できるオンスクリーンキーボード機能を提供しています。上のアイコンをクリックすると、オンスクリーンキーボードが起動します。



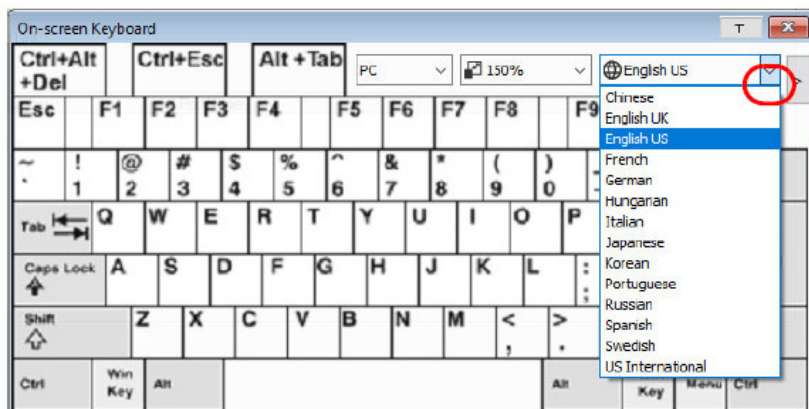
オンスクリーンキーボードを利用するメリットの一つとして、リモート側とローカル側のキーボード言語が異なる場合でも、片方のキーボードの設定を変更することなく操作ができるという点が挙げられます。ユーザーはオンスクリーンキーボードを起動し、アクセス中のポートに接続されているコンピュータで使用されている言語を選択するだけでオンスクリーンキーボードの利用が可能です。

注意: オンスクリーンキーボードの操作はマウスで行い、実際のキーボードはご使用にならないでください。

言語の変更

言語を変更する場合は、以下の手順で操作してください。

1. 現在選択されている言語の隣にある三角ボタンをクリックし、リストを展開してください。

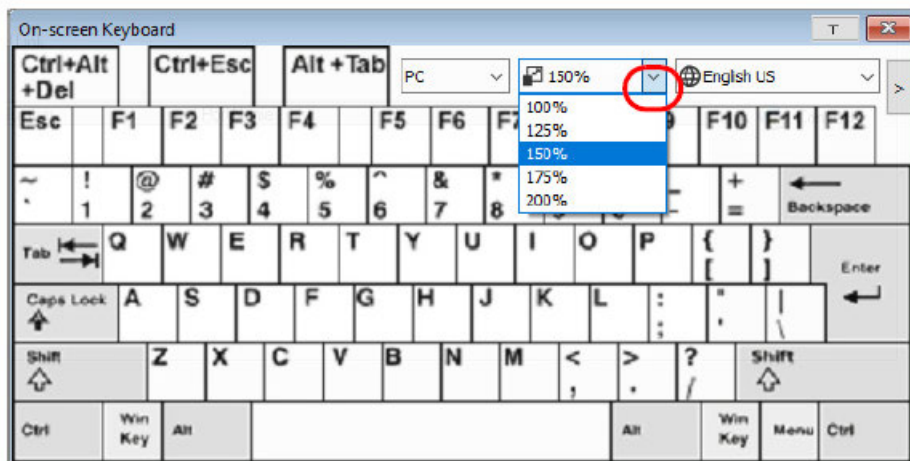


2. 新しい言語をリストから選択してください。

キーボードのリサイズ

キーボードをリサイズするには、次の手順で操作してください。

1. 選択中のキーボードサイズの隣にある下向き矢印をクリックして、サイズのリストを展開してください。

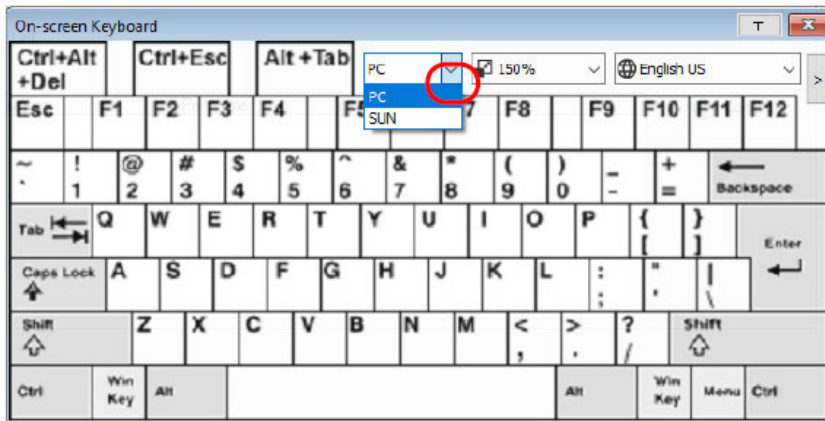


2. 新しいキーボードサイズをリストから選択してください。

プラットフォームの選択

このオンスクリーンディスプレイは、PC の他に Sun プラットフォームにも対応しています。プラットフォームを選択する場合は、下記の手順に従って操作してください。

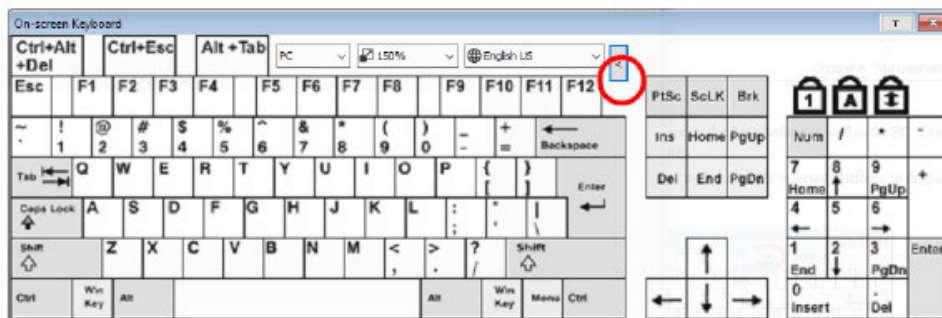
1. 下図に示すプラットフォームリストの隣にある矢印ボタンをクリックして、リストを展開してください。



2. お使いの環境に適したプラットフォームをリストから選択してください。

拡張されたキーボード

拡張したオンスクリーンキーボードを表示または非表示にする場合は、言語選択リストの右隣にある矢印ボタンをクリックしてください。





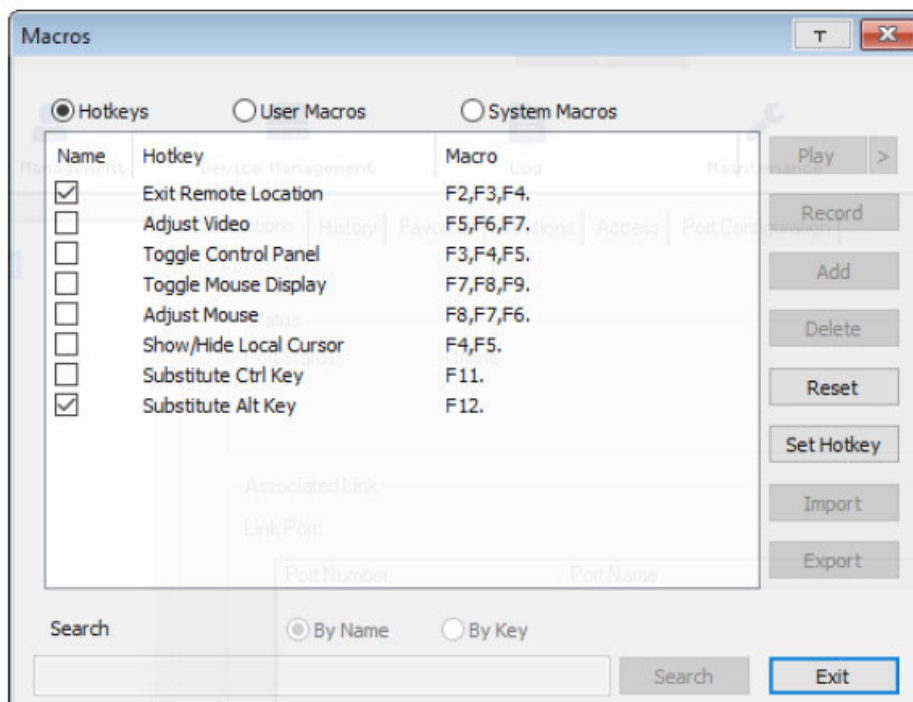
マクロ

この機能を使うと、「Macros」(マクロ)ダイアログが起動し、ホットキー、ユーザーマクロ、システムマクロの管理を行うことが可能です。これらの機能の詳細については以下のセクションで説明します。

ホットキー

KVM スイッチへのさまざまな操作はホットキーを使って実行できます。ホットキーセットアップユーティリティー(アイコンをクリックして起動)を使えば、ホットキーが実行できる操作を設定できます。

右パネルには実行時のホットキーが表示されます。操作名の左にあるチェックボックスを操作するとホットキーを有効または無効に切り替えます。



ホットキー設定を変更する場合、変更手順は以下のとおりです。

1. 変更の対象となるアクションの行を選択し、「**Set Hotkey**」(ホットキーの設定)ボタンをクリックしてください。
2. 新しいホットキーとなるファンクションキーを入力してください(キーは一つずつ押してください)。キーを押すと、そのキーの名前は「Hotkeys」(ホットキー)の欄に表示されます。
 - ◆ キーを入力する順番が同じでなければ、同じキーの組み合わせを複数のアクションに割り当てることができます。
 - ◆ ホットキーの設定をキャンセルする場合は「**Cancel**」(キャンセル)ボタンを、また、アクションの「ホットキー」欄をクリアする場合は「**Clear**」(クリア)ボタンをそれぞれクリックしてください。
3. キーの入力が終わったら、「**Save**」(保存)ボタンを押してください。

すべてのホットキーの設定をデフォルト値にリセットする場合は「**Reset**」(リセット)ボタンをクリックしてください。

ホットキーが実行できる操作は以下のとおりです。

アクション	説明
Exit Remote Location (リモートログインの終了)	IP-KVM スイッチとの接続を終了し、クライアントコンピューターの操作に戻ります。これはコントロールパネルの「終了」アイコンをクリックする操作に相当します。デフォルトでは「F2,F3,F4」に設定されています。
Adjust Video (ビデオの調整)	「Video Settings」(ビデオ設定)ダイアログを起動します。これはコントロールパネルの「Video Settings」(ビデオ設定)アイコンをクリックする操作に相当します。デフォルトでは「F5,F6,F7」に設定されています。
Toggle Control Panel (コントロールパネルの切り替え)	コントロールパネルをオフまたはオンに切り替えます。デフォルトでは「F3,F4,F5」に設定されています。

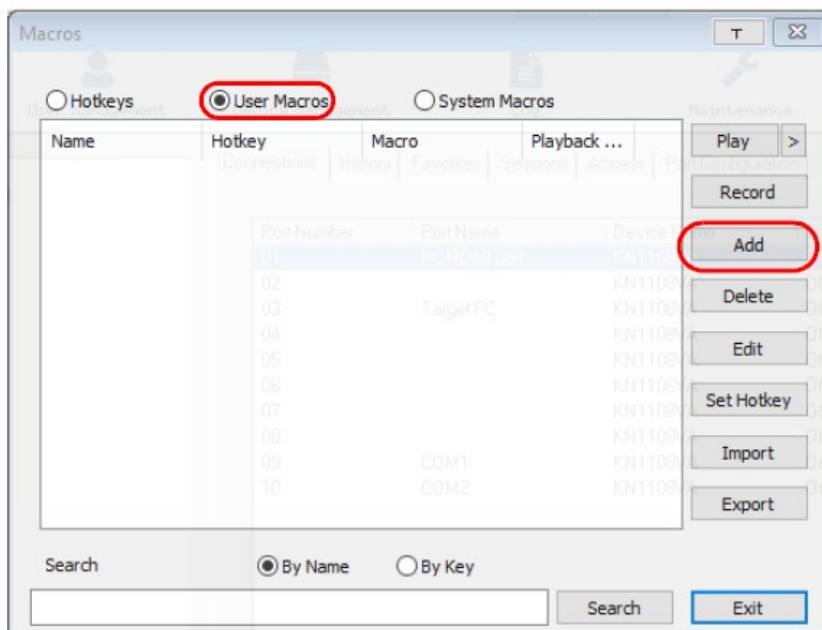
(表は次のページに続きます)

アクション	説明
Toggle Mouse Display (マウス表示の切り替え)	<p>ローカルとリモートの 2 つのマウスポインターが表示されて操作しづらい場合は、この機能を使用してマウスポインターを最小化できます。同じホットキーを再度入力するとマウスポインターを元の状態に戻します。これはコントロールパネルの「Mouse Pointer」(マウスポインター)アイコンをクリックし、「Dot」(ドット)ポインターを選択する操作に相当します。デフォルトでは「F7,F8,F9」に設定されています。</p> <p>注意: Java コントロールパネルにはこの機能はありません。</p>
Adjust Mouse (マウスの調整)	<p>ローカルとリモートのマウスを同期します。デフォルトでは「F8,F7,F6」に設定されています。</p>
Video Auto-Sync (ビデオの自動同期)	<p>ビデオを自動同期します。これはコントロールパネルの「Video Settings」(ビデオ設定)アイコンをクリックする操作に相当します。デフォルトでは「F6,F7,F8」に設定されています。</p>
Show/Hide Local Cursor (ローカルカーソルの表示/非表示)	<p>ローカルマウスのポインター表示をオフまたはオンに切り替えます。オフの場合はローカル側のカーソルを非表示にし、Windows/JavaClient の AP ウィンドウにおけるマウスポインターとキーボードの使用をロックし、なおかつ、コントロールパネルも非表示にします。これはコントロールパネルの「Mouse Pointer」(マウスポインター)アイコンをクリックし、「Null」ポインターを選択する操作に相当します。デフォルトでは「F4,F5」に設定されています。</p>
Substitute Ctrl Key (代替 Ctrl キー)	<p>ローカルコンピューターが[Ctrl]キーの組み合わせをキャプチャーし、ホットキーがリモートシステムに送信されない場合は、[Ctrl]キーの代わりとして使用するファンクションキーを指定することでリモートシステムに送られるようになります。例えば、[F11]キーを[Ctrl]キーの代わりに使用する場合、[F11 + 5]キーを入力すると、リモートシステムでは[Ctrl + 5]キーが押されたこととなります。デフォルトではこの代替キーが[F11]キーに設定されています。</p>
Substitute Alt Key (代替 Alt キー)	<p>IP-KVM スイッチとの接続中は、キーボードの入力は基本的に IP-KVM スイッチ側に送られますが、[Alt + Tab]と[Ctrl + Alt + Delete]は例外となります。リモートシステムに対して[Alt + Tab]と[Ctrl + Alt + Delete]の機能を実行したい場合には、任意のファンクションキーを[Alt]キーの代わりに設定できます。</p> <p>例えば、[F12]を使用すると、上記のキー入力は、それぞれ[F12 + Tab]、[Ctrl + F12 + Delete]で実行できます。デフォルトではこの代替キーが[F12]に設定されています。</p>

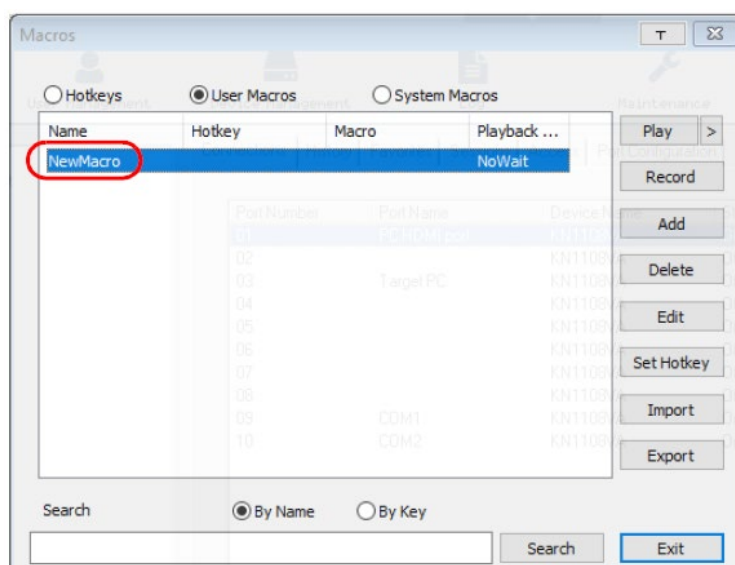
ユーザーマクロ

ユーザーマクロは、特定のアクションをリモートサーバー側で実行する場合に使用します。マクロを作成する場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. 「User Macros」(ユーザーマクロ)ラジオボタンを選択し、「Add」(追加)ボタンをクリックしてください。

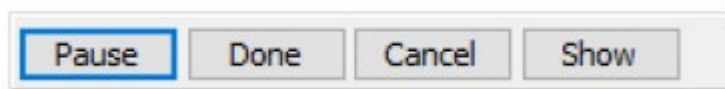


2. 新しいマクロはデフォルトで「New Macro」という名前で作成されます。必要であればダイアログでこの名前を変更してください。



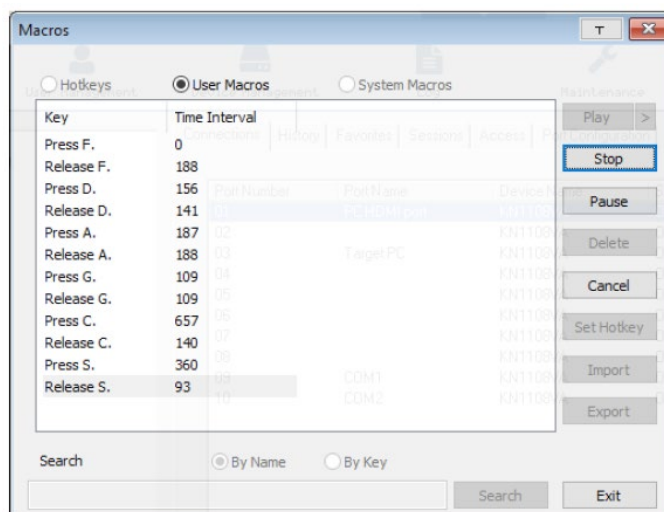
3. 「Record」(記録)ボタンをクリックしてください。

このボタンをクリックするとダイアログボックスが終了し、下図のような小さいパネルが画面左上に表示されます。



4. マクロキーを押してください。

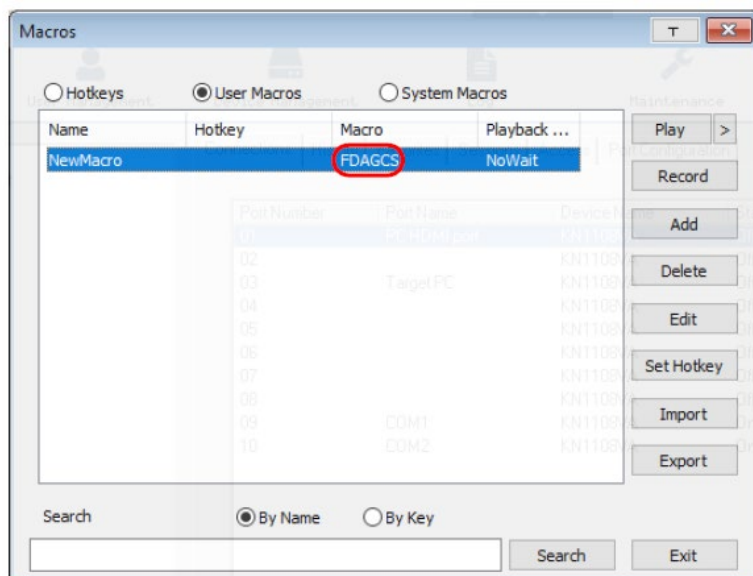
- ◆ マクロの記録を中断する場合は、「Pause」(一時停止)ボタンをクリックしてください。中断していた記録を再開する場合は、もう一度「Pause」(一時停止)ボタンを押してください。
- ◆ 「Show」(表示)ボタンをクリックするとダイアログが立ち上がり、作成したキー入力と、それぞれに要した時間が一覧に表示されます。



- ◆ 「Cancel」(キャンセル)ボタンをクリックすると、キー入力を取り消します。
- ◆ 入力が完了したら「Stop」(停止)ボタンをクリックしてください。これは手順5で説明している、「実行」ボタンをクリックする操作に相当します。

-
- 注意:**
1. 大文字・小文字は区別されません。[A]と[a]は同様に処理されます。
 2. マクロを記録する場合は、リモート画面を選択しておいてください。マクロダイアログを選択した状態では記録できません。
 3. マクロとして記録できるのは直接入力時のキーのみです。日本語入力が有効になっている場合の文字は使用できません。例えば、キーボードが日本語で[A]キーを押した場合、日本語入力がオンになっている場合の[あ]の文字は記録されません。
-

5. 「Show」(表示)ダイアログを立ち上げていない場合は、マクロの記録を終了する際に「Done」(完了)ボタンをクリックしてください。この時、「Macros」(マクロ)ダイアログに戻ると、リストには先ほど入力されたユーザーマクロキーが表示されます。



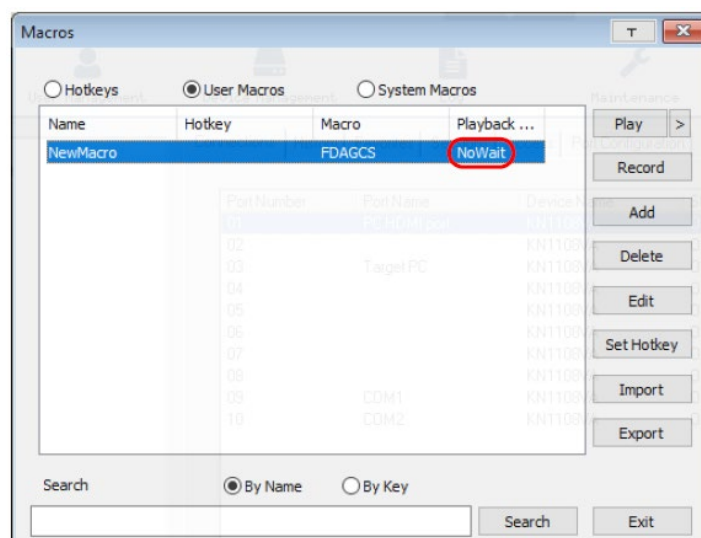
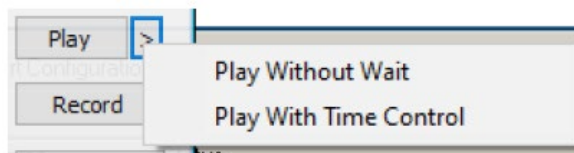
6. 入力キーを変更したい場合は、対象となるマクロを選択し「Edit」(編集)ボタンをクリックしてください。このボタンをクリックすると、「Show」(表示)ボタンを押した時と同様のダイアログが表示され、入力キーの種類や順番を変更できます。
7. 他のマクロを作成する場合は、上記の手順で操作を行ってください。

作成したマクロは、下記のいずれかの方法で実行できます。

1. アクションに割り当てられたホットキーを使用する(ホットキーを割り当てている場合)。
2. コントロールパネルのマクロリストを開き、対象となるマクロをクリックする。
3. このダイアログを開いて、「Play」ボタンをクリックする

このダイアログボックスからマクロを実行する場合、マクロの実行方法を指定できます。

- ◆ 「Play Without Wait」を選択した場合、マクロは入力キーを遅延時間なしで実行します。
- ◆ 「Play With Time Control」を選択した場合、マクロを記録した際のキー入力と、その時のキー入力時間の間隔を再現しながら実行します。オプションを選択する場合は「Play」ボタンの隣にあるボタンをクリックしてください。
- ◆ 一覧を開かずに「Play」ボタンをクリックすると、マクロはデフォルトの方法で実行されます。デフォルトの値(「No Wait」か「Time Ctrl」)が「Playback」列に表示されます。



この値を変更する場合は、現在の設定値(上図では「No Wait」)をクリックした際に表示されるメニューから変更したい内容を選択してください。

-
- 注意:**
1. 検索機能に関する情報は次のセクションをご参照ください。
 2. ユーザーマクロは、各ユーザーのローカルクライアントコンピューターに保存されるため、マクロの数、マクロ名の長さ、実行ホットキーの構成についての制限はありません。
-

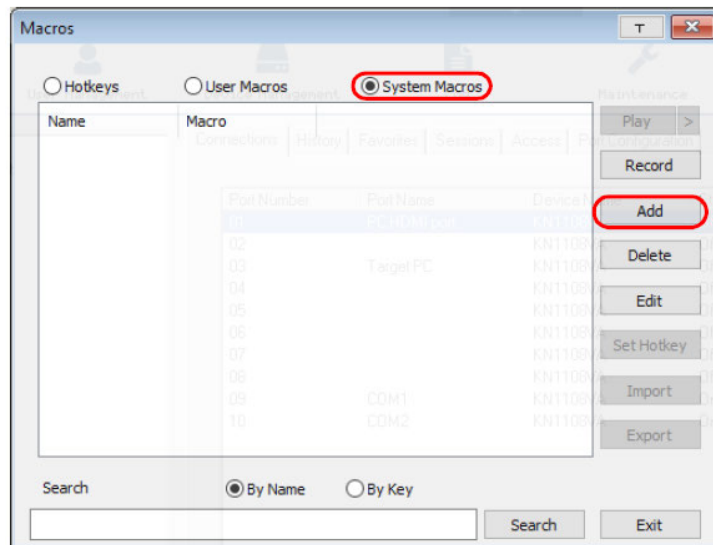
検索

ダイアログの下部にある「Search」(検索)ボタンを使うと、上部の大きいパネルに表示されるマクロ一覧から実行したり編集したりするマクロの絞り込みが可能です。絞り込み条件を名前にするかキーにするかをラジオボタンで選択し、検索に使用する文字列をテキストボックスに入力して「Search」(検索)ボタンをクリックしてください。この文字列に合致するアイテムが上部パネルに表示されます。

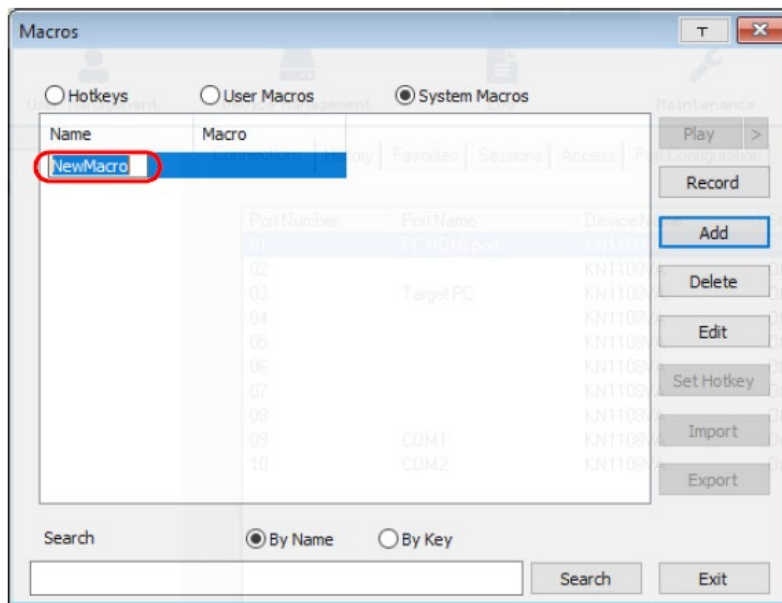
システムマクロ

システムマクロは、セッション終了時に実行する終了マクロの作成に使用します。例えば、[Windows] + [L]キーをログアウト時に実行するマクロを作成しておく、ユーザーがその後にデバイスにアクセスした際には必ずリモートデバイスのログイン画面を表示できるため、セキュリティの強化につながります。マクロを作成する場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. 「System Macros」(システムマクロ)ラジオボタンを選択し、「Add」(追加)ボタンをクリックしてください。

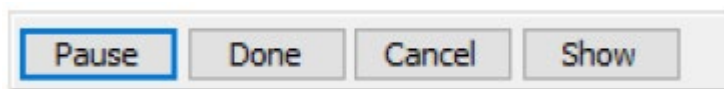


2. 新しいマクロはデフォルトで「New Macro」という名前で作成されますので、必要であればダイアログでこの名前を変更してください。



3. 「Record」(記録)ボタンをクリックしてください。

このボタンをクリックするとダイアログボックスが終了し、画面左上に下図のような小さいパネルが表示されます。



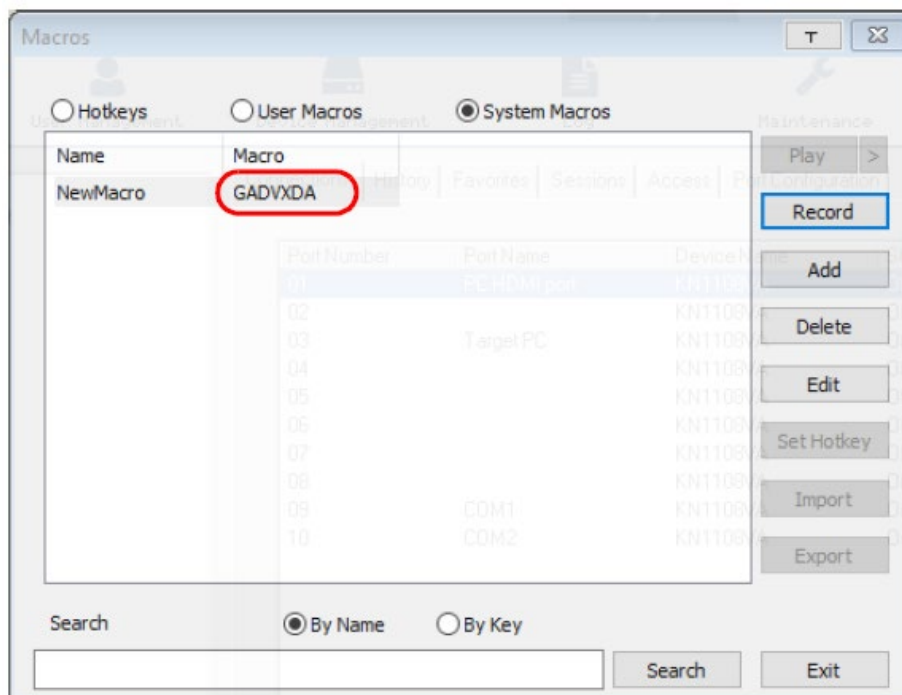
4. マクロキーを押してください。

- ◆ マクロの記録を中断する場合は、「Pause」(一時停止)ボタンをクリックしてください。中断していた記録を再開する場合は、もう一度「Pause」(一時停止)ボタンを押してください。
- ◆ 「Show」(表示)ボタンをクリックするとダイアログが立ち上がり、作成したキー入力と、それぞれに要した時間が一覧に表示されます(p.105 参照)。

-
- 注意:**
1. 大文字・小文字は区別されません。[A]と[a]は同様に処理されます。
 2. マクロを記録する場合は、リモート画面を選択しておいてください。マクロダイアログを選択した状態では記録できません。
 3. マクロとして記録できるのは直接入力時のキーのみです。日本語入力がある場合、日本語入力がある場合の文字は使用できません。例えば、キーボードが日本語で[A]キーを押した場合、日本語入力がオンになっている場合の[あ]の文字は記録されません。
-

5. 「Show」(表示)ダイアログを立ち上げていない場合は、マクロの記録を終了する際に「Done」(完了)ボタンをクリックしてください。この時、「Macros」(マクロ)ダイアログに戻ると、リストに

は先ほど入力されたシステムマクロキーが表示されます。



6. 入力キーを変更したい場合は、対象となるマクロを選択し「Edit」(編集)ボタンをクリックしてください。このボタンをクリックすると、「Show」(表示)ボタンを押したときと同様のダイアログが表示され、入力キーの種類や順番を変更できます。
7. 他のマクロを作成する場合は、上記の手順で操作を行ってください。

作成されたシステムマクロは、ポート単位で使用できます。これらのマクロはポートの「Port Configuration」(ポート設定)→「Port Properties」(ポートプロパティ)画面(p.167「ポートレベル」参照)で選択できます。




-
- 注意:**
1. 検索機能に関する情報は p.104 をご参照ください。
 2. ポートごとに選択できるシステムマクロは 1 つだけです。
 3. システムマクロは、製品本体内部に保存されるため、マクロ名は 64 バイト以内で、ホットキーの組み合わせは 256 バイト以内でそれぞれ設定してください(1 バイトは半角英数字 1 文字です。また、キー 1 つの入力で通常 3~5 バイト使用します)。なお、システムマクロに使えるのは ASCII 文字のみです。
-



バーチャルメディア

バーチャルメディア機能を使うと、リモートユーザーが操作しているクライアントコンピュータのドライブ、フォルダー、イメージファイル、リムーバブルディスクやスマートカードリーダーなどを、IP-KVM スイッチに接続されているサーバーでマウントし、仮想ドライブとして使用できます。

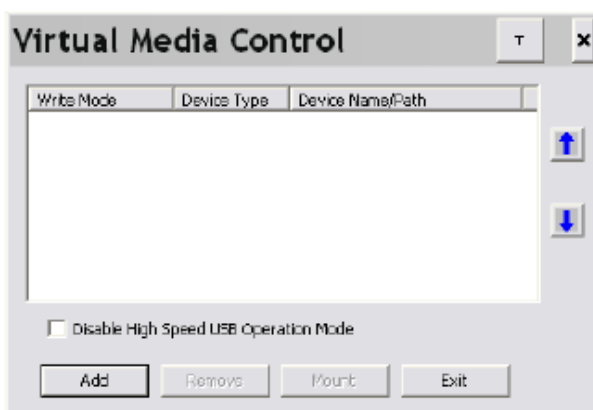
バーチャルメディアのアイコンは、使用ドライブの状態に応じて変化します。各アイコンが示す機能の詳細は下表のとおりです。

アイコン	機能
	バーチャルメディア機能が無効または利用できない場合、このアイコンが表示されます。
	バーチャルメディア機能が利用可能である場合、このアイコンが表示されます。このアイコンをクリックするとバーチャルメディアのダイアログを表示します。
	バーチャルメディアデバイスがリモートサーバー側にマウントされていると、このアイコンが表示されます。このアイコンをクリックすると、リダイレクトされているデバイスはすべてマウントが解除されます。

バーチャルメディアのマウント

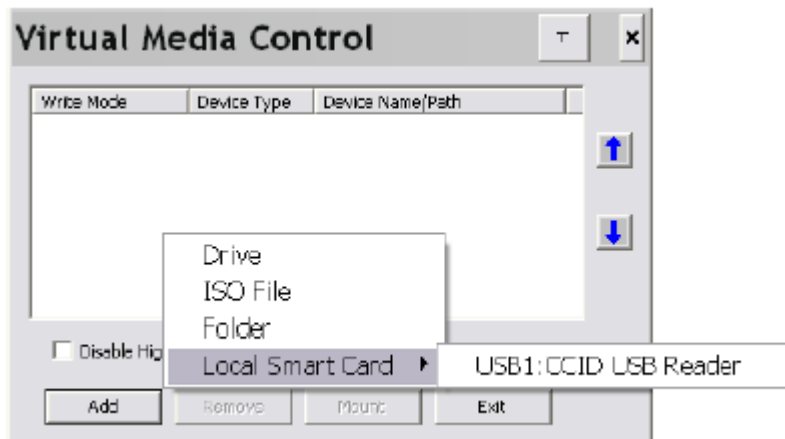
バーチャルメディアデバイスのマウントは、下記の手順に従って操作を行ってください。

1. バーチャルメディアのアイコンをクリックして「Virtual Media Control」(バーチャルメディア操作)ダイアログを起動してください。



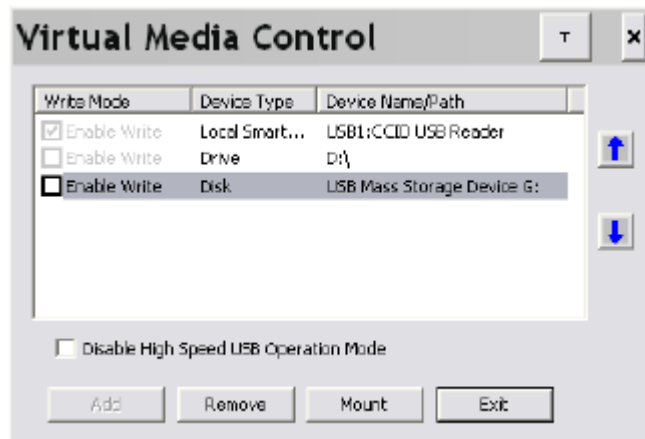
注意: 右上の「T」ボタンをクリックすると、ダイアログボックスの透明度を調整するスライダーが表示されます。調整後は、ダイアログの任意の場所をクリックしてスライダーを閉じてください。

2. 「Add」ボタンをクリックし、ソースメディアを選択してください。



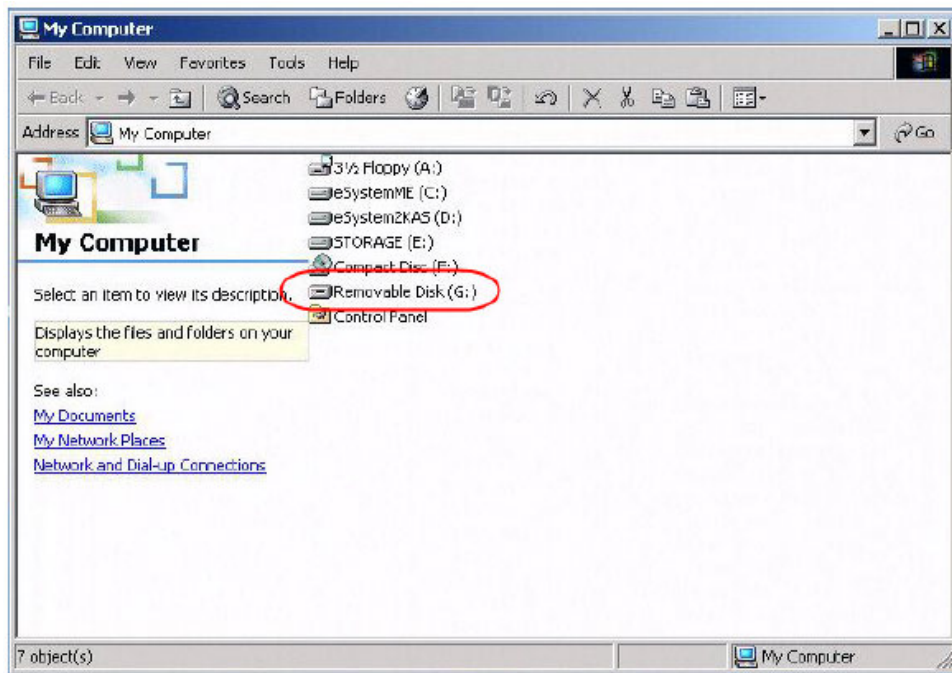
選択した項目に応じて、ドライブ、ISO ファイル、フォルダー、リムーバブルディスクのパスを選択するダイアログが表示されます。対応する各メディアのタイプおよびマウント方法に関する詳細は p.344「バーチャルメディア対応」をご参照ください。

3. お使いのデバイスがフルスピード USB にしか対応していない場合は、「Disable High Speed USB Operation Mode」(高速 USB 操作モードを無効にする)の項目にチェックを入れてください。
4. その他のソースメディアも追加する場合は、「Add」(追加)ボタンをクリックして、必要となるメディアを追加してください。バーチャルメディアは最大 3 つまでマウントできます。また、リストで上から 3 つめまでの項目は、選択済みのデバイスです。バーチャルメディアとスマートカードリーダーは同時にマウントできます。選択した項目の順番を入れ替える場合は、移動させたいデバイスを選択し、上下の矢印ボタンをクリックして順序を決定してください。
5. 「Read」(読み取り)は、リモートサーバーにデータを送信できるリダイレクトされたデバイスを、また、「Write」(書き込み)は、リモートサーバーからのデータが書き込み可能な状態になっているリダイレクトされたデバイスをそれぞれ表しています。リダイレクトされたデバイスの読み取りと書き込みを同時に許可したい場合は、「Enable Write」(書き込みを有効にする)の項目にチェックを入れてください。



注意: リダイレクトされたデバイスに書き込みができない場合は、リスト中ではグレーで表示されます。

- リストから項目を削除する場合は、対象となる項目を選択し、「Remove」(削除) ボタンをクリックしてください。
- ソースメディアの選択後に「Mount」(マウント) ボタンをクリックすると、ダイアログは終了します。このとき、選択されたバーチャルメディアのデバイスがリモートシステムにリダイレクトされ、リモートシステムのファイルシステムでドライブ、ファイル、フォルダーなどとして認識されます。



デバイスをマウントすると、サーバーに実際に挿入したメディアと同様に扱えるため、ファイル

のドラッグやドロップを行ったり、リモートシステムのファイルを開いて編集後にリダイレクトされたデバイスに保存したりできます。

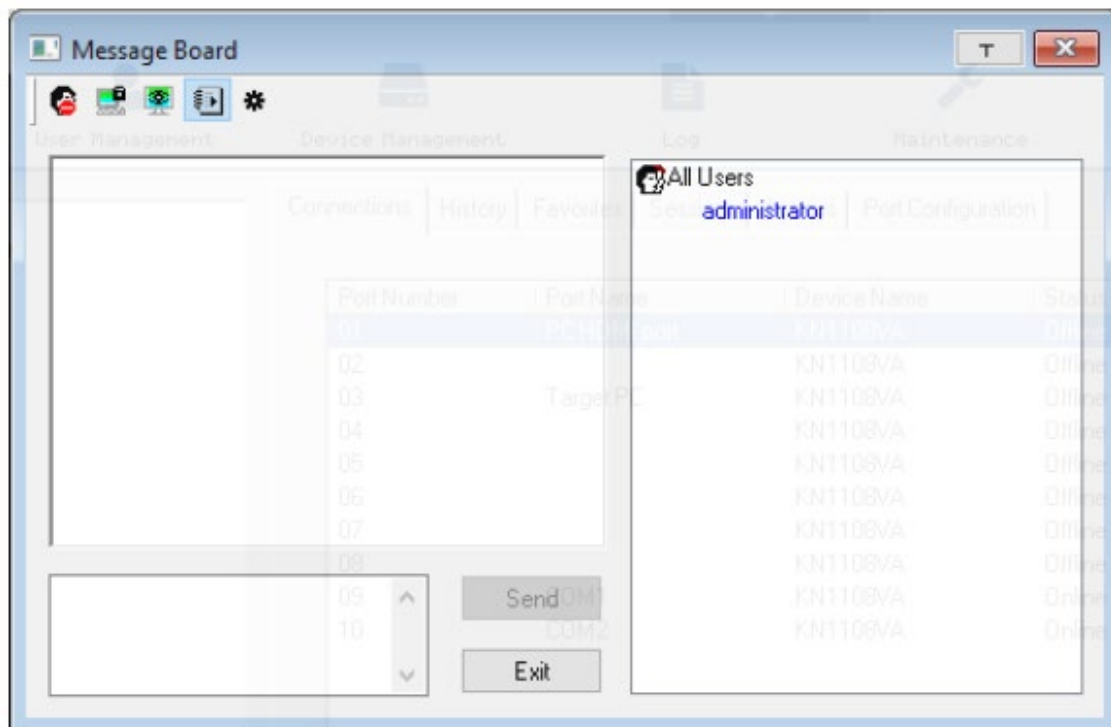
リダイレクトされたメディアに保存したファイルは、実際にローカル側のファイルシステムに保存されています。また、リダイレクトされたメディアからドラッグしたファイルは、実際にローカルシステム側から移動することになります。

8. リダイレクトを終了する場合は、コントロールパネルを起動してバーチャルメディアのアイコンをクリックしてください。マウントされたデバイスはすべて自動的にマウントが解除されます。








メッセージボード

KN1108VA/KN1116VAはマルチユーザーログインに対応していますが、複数ユーザーによる同時アクセスは、誤操作を招くおそれがあります。このため、この問題の回避策として、ログインユーザー間で意思疎通が図れるように、メッセージボード機能を提供しています。



ボタンバー

ボタンバーにあるボタンは各機能のオンとオフを交互に切り替えるトグルボタンです。各ボタンの機能は下表のとおりです。

ボタン	アクション
	チャット機能を有効・無効にします。チャット機能が無効になると、メッセージボードに送信されたメッセージは表示されなくなり、ボタンは網がけされた状態になります。また、この機能を無効にしているユーザーは、ユーザーリストパネルでユーザー名の隣にチャット無効のアイコンが表示されます。
	キーボード・ビデオ・マウスの占有や開放を行います。ポートを占有モードに設定すると、このボタンを使ってキーボード・ビデオ・マウス操作を占有できます。あるユーザーがこれらを占有すると、他のユーザーは画面の参照やキーボード・マウスの操作ができなくなり、ボタンは網がけされた状態になります。また、操作を占有しているユーザーは、ユーザーリストパネルでユーザー名の隣にアイコンが表示されます。
	キーボード・マウスの占有・開放を行います。ポートを占有モードに設定すると、このボタンを使ってキーボードとマウスの操作を占有できます。あるユーザーがこれらを占有すると、他のユーザーは画面の参照はできますが、キーボード・マウスを操作できなくなり、ボタンは網がけされた状態になります。また、操作を占有しているユーザーは、ユーザーリストパネルでユーザー名の隣にアイコンが表示されます。
	ユーザーリストを表示・非表示にします。ユーザーリストを非表示にすると、ユーザーリストパネルを閉じます。また、ユーザーリストが開いている場合、このボタンは網がけされた状態になります。
	メッセージボードのポップアップ設定を行います。このアイコンをクリックすると、メッセージ受信設定でメッセージボードのポップアップ表示を有効にします。

メッセージ表示パネル

ユーザーがメッセージボードに送信したメッセージやシステムメッセージはパネルに表示されますが、チャット機能を無効にしている場合は、メッセージが送信されてもメッセージボード上には何も表示されません。

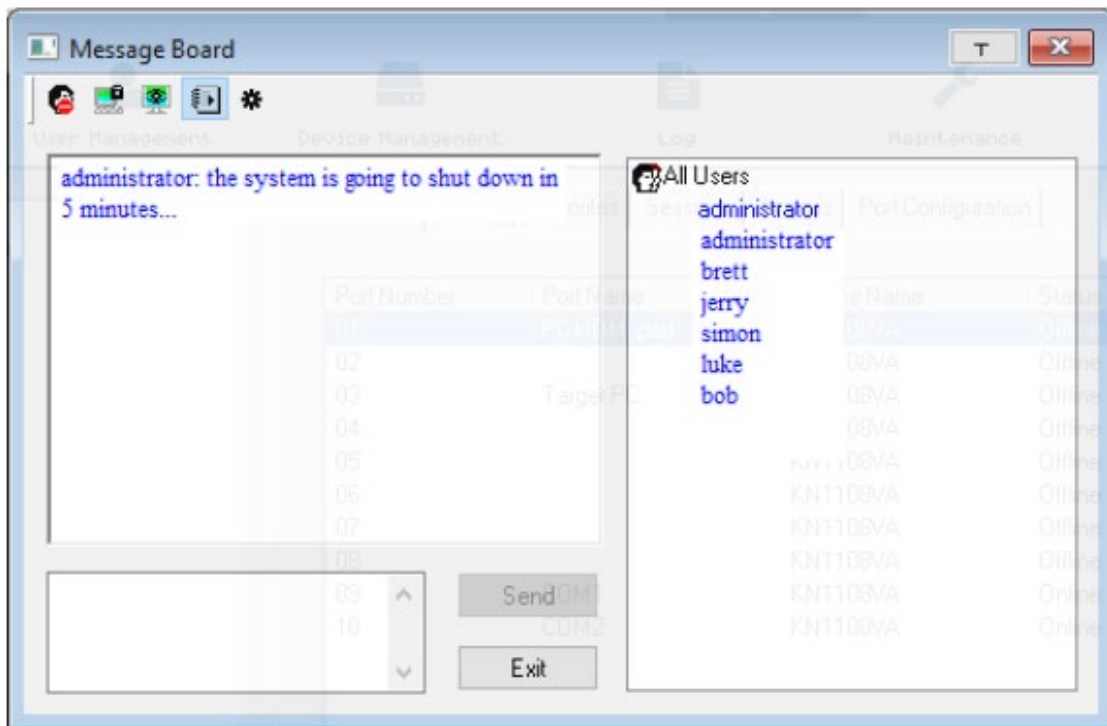
メッセージ編集パネル

メッセージボードに送信したいメッセージをこのパネルで編集してください。「Send」(送信)ボタンをクリック、または[Enter]キーを押すとメッセージがメッセージボードに送信されます。

ユーザーリストパネル

現在ログイン中のユーザーのユーザーネームはこのパネルに表示されます。

- ◆ 自身の名前は青色で、その他のユーザーの名前は黒色でそれぞれ表示されます。
- ◆ デフォルトの設定では、メッセージはすべてのユーザー宛に送信されます。特定のユーザー宛にメッセージを送信したい場合は、宛先となるユーザーを選択してからメッセージを送信してください。
- ◆ 一旦、ユーザーの名前が選択された状態で再び全員宛にメッセージを送信したい場合は、「All Users」(すべてのユーザー)を選択してからメッセージを送信してください。
- ◆ ユーザーがチャット機能を無効にしている場合、機能を無効にしていることを示すアイコンがそのユーザーの名前の前に表示されます。
- ◆ ユーザーがキーボード/ビデオ/マウス、またはキーボード/マウスを占有している場合、デバイスを占有していることを示すアイコンがそのユーザーの名前の前に表示されます。



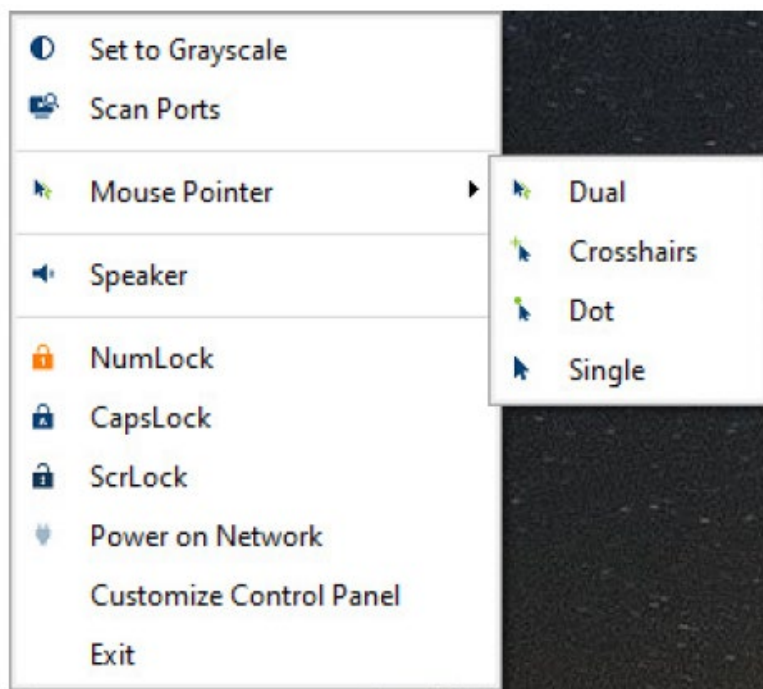
コントロールパネルのその他の機能

コントロールパネルには、この他に次の機能があります。詳しくは下表を参照してください。

アイコン	機能
コントロールパネルの カスタマイズ	クリックすると、コントロールパネルの設定ダイアログボックスを起動します。コントロールパネルの設定に関する詳細は、p.117「コントロールパネルの設定のカスタマイズ」を参照してください。
終了	クリックすると、WindowsClient を終了します。

マウスポインターの種類

本製品は、リモート画面で使用するマウスカーソルのポインターを数種類提供しています。ポインターを変更する場合は、アイコンをクリックして、リストからポインターを選択してください。



-
- 注意:**
1. ポートがアクセスされていない場合は、「Dual」(デュアル)と「Crosshairs」(十字)のみのポインターが Windows ビューアでご利用いただけます。ポートにアクセスすると、上図の 3 種類のポインターがご利用いただけます。
 2. 「Single」(シングル)ポインターは、JavaClient ビューアや JavaClient ではご利用になれません。
 3. 「Single」(シングル)ポインターを選択すると、マウスポインターは「Toggle mouse display」(マウス表示の切り替え)のホットキーを実行した時と同じ状態になります(p.98 参照)。
 4. コントロールパネルのアイコンは、現在使用しているポインターの種類に応じて変わります。
-



Power on Network

「Power on Network」のアイコンを使うと、PoN 対応デバイスのポートに接続された電源のオン・オフや再投入を、コントロールパネルから実行できます(詳細は p.170 「電源管理」参照)。このアイコンをクリックすると下記のオプションが選択できます。

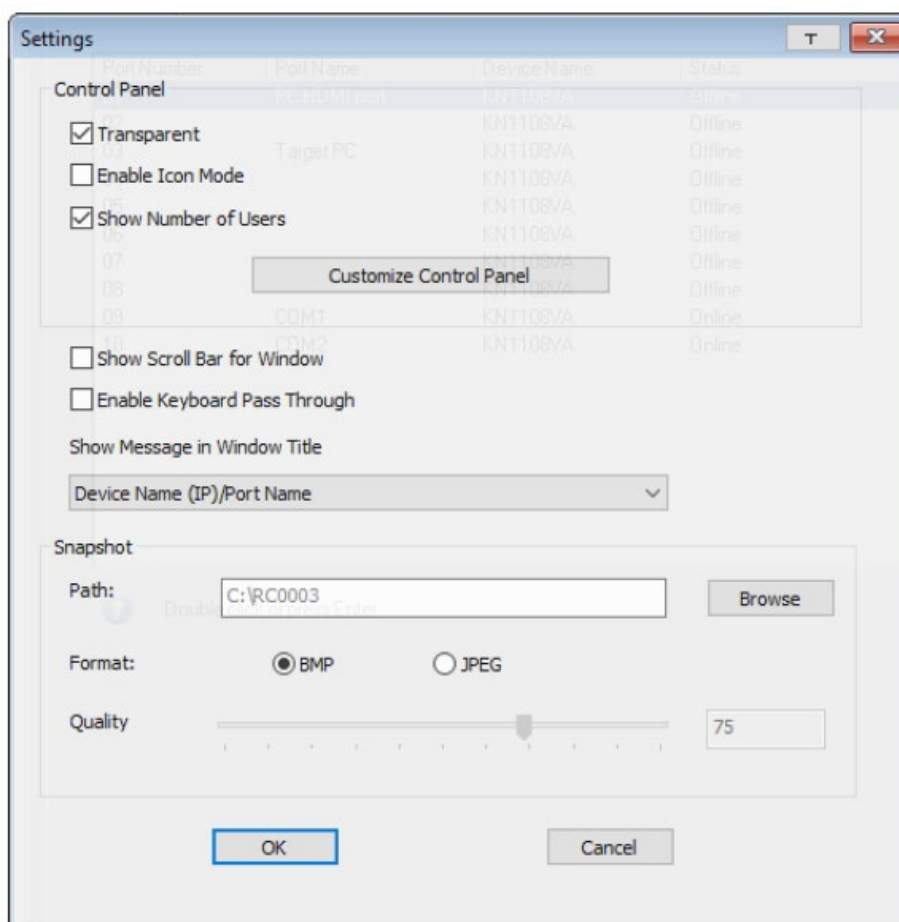


このアイコンをクリックすると、接続しているポートに関連する電源アウトレットのリストが下記のオプションとともに表示されます。

オプション	用途
On⇒Off	選択したアウトレットに対して、電源をオフにする信号を送信します。
On⇒Reboot	選択したアウトレットに対して、電源を再投入する信号を送信します。
Off⇒On	選択したアウトレットに対して、電源をオンにする信号を送信します。
All	すべてのアウトレットに対して、選択した信号(On、Off、Reboot)を送信します。
Pending	アウトレットに送られた信号が現在実行中であることを表します。

コントロールパネルの設定のカスタマイズ

「コントロールパネルの設定のカスタマイズ」アイコンをクリックすると、コントロールパネルの表示アイテムとグラフィックを設定できるダイアログボックスを表示します。



Java コントロールパネル



JavaClient ビューアと JavaClient のコントロールパネルは基本的に WindowsClient のコントロールパネルと同じです。





















主な相違点は以下のとおりです。






- ◆ 「Macros」(マクロ)ダイアログでは、「Toggle Mouse Display」(マウス表示の切り替え)の機能はご利用になれません。
- ◆ 「Single」(シングル)のマウスポインターはご利用になれません。
- ◆ メッセージボードでは、ユーザーリストを表示/非表示にする「Show/Hide」(表示/非表示)ボタンはありませんが、ユーザーリストとメインパネルの間にあるバーの上部にある三角ボタンをクリックすることで同じ機能が使用できます。
- ◆ バーチャルメディア機能は ISO ファイルとフォルダーにのみ対応しています。詳細については、p.344「JavaClient (ウェブブラウザ版、アプリケーション版共通)」をご参照ください。
- ◆ コントロールパネルの「Lock LED」(ロック LED)アイコンはお使いのキーボードに同期する訳ではありませんので、最初に接続した際に表示が実際の状況と異なることがあるかもしれません。このような場合には LED アイコンをクリックして正しく表示するようにしてください。
- ◆ スナップショットのフォーマットは BMP の代わりに PNG がご利用いただけます。
- ◆ 「コントロールパネルのカスタマイズ」にアクセスするには、テキスト行エリアを右クリックして、ツールバーのメニュースタイルのバージョンを呼び出します。そうすると、スクリーンモード、ズーム、マウスポインター、マクロリストの各オプションを選択できます。これらの機能については、後続のセクションで説明します。



アイコン	機能
	コントロールパネルを常に前面に表示します。もう一度このアイコンをクリックすると、通常の状態に戻します。
	アクセスしているポートで GUI を呼び出します。

アイコン	機能
	ビデオオプションダイアログを起動します。また、右クリックでクイックオートシンク (p.87「ビデオ設定」参照)を実行します。
	表示をフルスクリーンモードまたはウィンドウモードに切り替えます。
	リモートディスプレイのウィンドウをズーム表示します。 注意: この機能は、ウィンドウモード(フルスクリーンモードがオフ)でのみ利用可能です。詳細は、p.90「ズーム」を参照してください。
	リモートディスプレイの表示をカラーまたはグレースケールに切り替えます。
	ビデオとマウスの自動同期操作を実行します。これは、「ビデオオプション」ダイアログボックスにおける「自動同期」ボタンをクリックした時と同じ操作です (p.87「ビデオ設定」参照)。
	ポートへのアクセス中にクリックすると、パネルアレイモードを起動します (p.279「パネルアレイモード」参照)。
	ポートへのアクセス中にクリックすると、オートスキャンモードを開始します。IP-KVM スイッチは、フィルター機能 (p.130 参照) でオートスキャンの対象として選択したポートを自動的に切り替えます。この機能を使用すると、ポートを切り替えなくても、コンピューターを自動的に切り替えて動作を監視できます。
	マウス同期を自動または手動で行います。 ◆ 「Automatic」(自動)を選択すると、アイコンに緑色のチェックマークが表示されます。 ◆ 「Manual」(手動)を選択すると、アイコンに赤色の×マークが表示されます。 この機能に関する詳細については、p.91「マウスダイナシンクモード」をご参照ください。
	マウスポインターの種類を選択します。 注意: このアイコンは選択されたマウスポインターの種類に応じて変わります (p.115「マウスポインターの種類」参照)。
	オンスクリーンキーボード (p.94 参照) を起動します。
	接続したいポートを選択します。

アイコン	機能
	リモート画面のスナップショット(画面キャプチャー)を取得します。
	[Ctrl] + [Alt] + [Delete]の信号をリモートコンピューターに送信します。
	「Macro」(マクロ)ダイアログダイアログボックスを起動します(詳細は p.120 参照)。
	ユーザーマクロのドロップダウンリストを表示します。マクロへのアクセスやマクロの実行は、「Macro」(マクロ)ダイアログを使うよりもこの機能を使った方が簡単です。「Macro」(マクロ)ダイアログについては表の上部にあるマクロの項目、または p.97 のマクロに関する記載をご参照ください。
	「Virtual Media」(バーチャルメディア)ダイアログを起動します。バーチャルメディアデバイスがポートで利用可能になると別のアイコンに変わります。詳細については p.107「バーチャルメディア」をご参照ください。 注意: バーチャルメディア機能が無効、または利用不可の状態になると、このアイコンはグレースアウトで表示されます。
	リモートサーバーからの音声を、ローカルコンピューター側のスピーカーで出力するか(オン)、出力しないか(オフ)を切り替えます。スピーカーがオフになるとアイコンに禁止マーク(赤い円に斜線が入ったもの)が表示されます。
	メッセージボード(p.111 参照)を起動します。

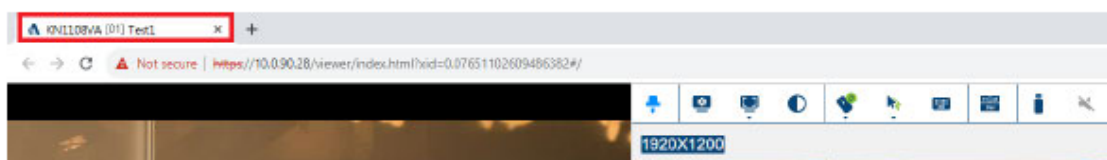
アイコン	機能
	<p>このアイコンは、リモートコンピューターの[Num Lock]、[Caps Lock]、[Scroll Lock]各キーの状態を表します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ ロックの状態がオンになっていると、そのキーのLED がオレンジ色に点灯し、錠前が閉じたアイコンが表示されます。 ◆ ロックの状態がオフになっていると、そのキーの LED がブルーに点灯し、錠前が開いたアイコンが表示されます。
	<p>アイコンをクリックすると、状態を切り替えます。</p>
	<p>注意:これらのアイコンはローカルキーボードのアイコンと同期します。アイコンをクリックすると、お使いのキーボード上にあるLEDもこのアイコンに合わせてオンまたはオフに切り替わります。キーボードのキーを押した時も同様に、このアイコンの表示が切り替わります。</p>
	<p>このアイコンは、機器が電源管理デバイスに接続されている場合に、その機器の電源のオン・オフ切り替えや再起動を行う際に使用します(詳細は p.238 「PoN デバイス」)。</p> <p>また、この機能に関する詳細は p.116 「電源管理デバイス」を参照してください。</p>
	<p>コントロールパネルのさらなる機能呼び出します。p.114「コントロールパネルのその他の機能」を参照してください。</p>

WebClient コントロールパネル







WebClient ビューアは WindowsClient と似ていますが、提供される機能が少ないです。










バージョンが v1.3.125 以降のファームウェアを使用する KN1108VA/KN1116VA では、デバイス名、ポートID、ポートネームが、下図のように WebClient ウィンドウのタブに表示されます。






これらの機能については、後続のセクションで説明します。

アイコン	機能
	コントロールパネルを常に前面に表示します。もう一度このアイコンをクリックすると、通常の状態に戻します。
	ビデオオプションダイアログを起動します。また、右クリックでクイックオートシンク (p.87「ビデオ設定」参照)を実行します。
	表示をフルスクリーンモードまたはウィンドウモードに切り替えます。
	リモートディスプレイの表示をカラーまたはグレースケールに切り替えます。
	ビデオとマウスの自動同期操作を実行します。これは、「ビデオオプション」ダイアログボックスにおける「自動同期」ボタンをクリックした時と同じ操作です (p.87「ビデオ設定」参照)。
	ポートへのアクセス中にクリックすると、パネルアレイモードを起動します (p.279「パネルアレイモード」参照)。

アイコン	機能
	<p>マウス同期を自動または手動で行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 「Automatic」(自動)を選択すると、アイコンに緑色のチェックマークが表示されます。 ◆ 「Manual」(手動)を選択すると、アイコンに赤色の×マークが表示されます。 <p>この機能に関する詳細については、p.91「マウスダイナシクモード」をご参照ください。</p>
	<p>マウスポインターの種類を選択します。</p> <p>注意:このアイコンは選択されたマウスポインターの種類に応じて変わります (p.115「マウスポインターの種類」参照)。</p>
	<p>オンスクリーンキーボード (p.94 参照) を起動します。</p>
	<p>接続したいポートを選択します。</p>
	<p>[Ctrl] + [Alt] + [Delete] の信号をリモートコンピューターに送信します。</p>
	<p>「Virtual Media」(バーチャルメディア) ダイアログを起動します。バーチャルメディアデバイスがポートで利用可能になると別のアイコンに変わります。詳細については p.107「バーチャルメディア」をご参照ください。</p> <p>注意:バーチャルメディア機能が無効、または利用不可の状態になると、このアイコンはモノクロで表示されます。</p>
	<p>リモートサーバーからの音声を、ローカルコンピューター側のスピーカーで出力するか(オン)、出力しないか(オフ)を切り替えます。スピーカーがオフになるとアイコンに禁止マーク(赤い円に斜線が入ったもの)が表示されます。</p>

WindowsClient で出来て、WebClient では出来ない主な相違点は次のとおりです。

- ◆ GUI の呼び出し機能 () は利用できません。
- ◆ ズーム機能 () は利用できません。
- ◆ オートスキャンモード () は利用できません。
- ◆ ドットのマウスポインタータイプは利用できません。

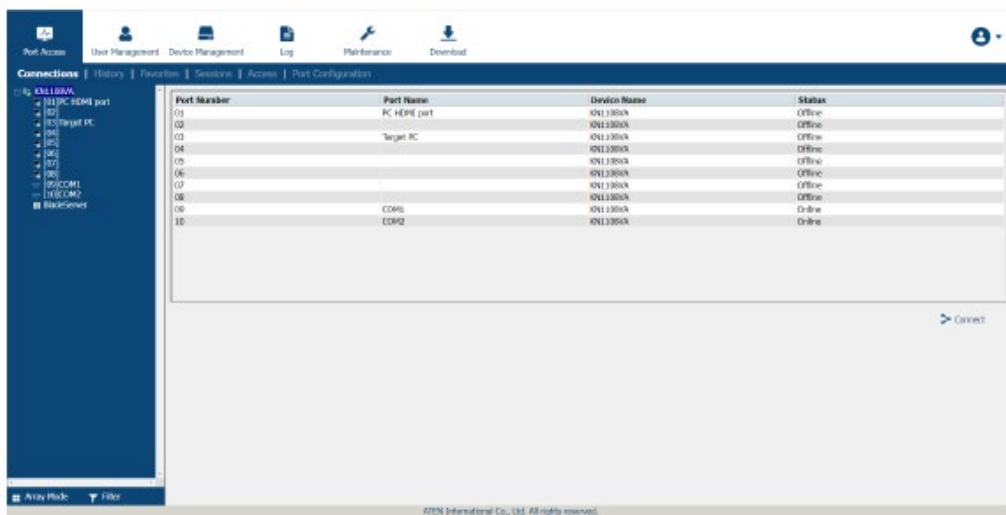
- ◆ スナップショット機能()は利用できません。
- ◆ マクロダイアログボックス機能()は利用できません。
- ◆ ユーザーマクロ機能()は利用できません。
- ◆ バーチャルメディア機能では、ISO とフォルダーだけをサポートします。詳細は、p.344「WebClient ビューア」を参照してください。
- ◆ メッセージボード機能()は利用できません。
- ◆ Num Lock(), Caps Lock(), Scroll Lock()の各機能は、利用できません。
- ◆ PoN 機能()は利用できません。
- ◆ コントロールパネルの詳細機能()は利用できません。

第6章 ポートアクセス

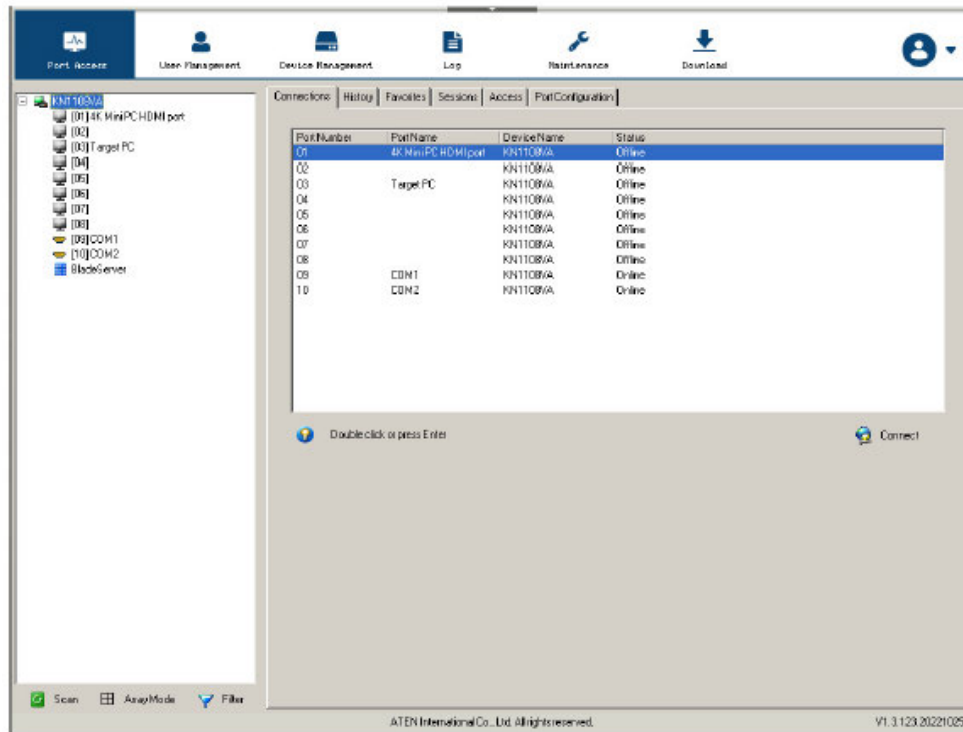
概要

KN1108VA/KN1116VA にログインすると、「Port Access」(ポートアクセス)タブの「Connections」(接続)メニューの画面が初期表示されます。

ブラウザーGUI



アプリケーション GUI



ページは各パートに分かれます。ユーザーがアクセス許可されたデバイス、ポート、アウトレットがすべて左側のサイドバーに一覧表示されます。一覧には KN シリーズの IP-KVM スイッチの他に、このデバイスに接続されている電源管理デバイス(PoN デバイス)が KVM スイッチの下に一覧表示されます。また、ブレードサーバーをポートに割り当てている場合には、更にこの電源デバイスの下に一覧表示されます。

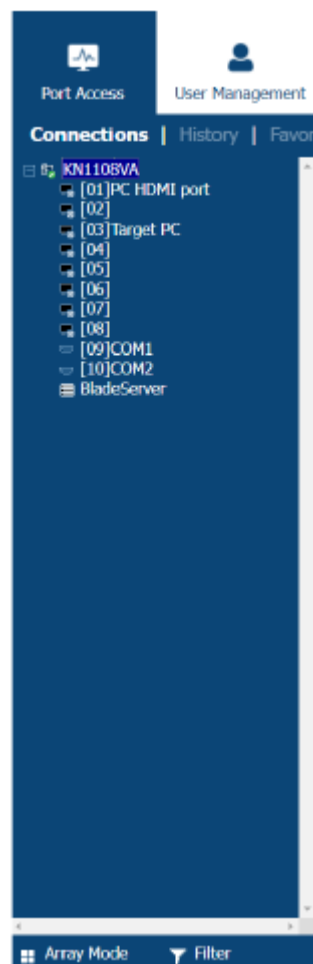
KVM デバイスやポートの設定・操作方法については、p.136 で、電源管理デバイス(PoN デバイス)やアウトレットの設定・操作方法については p.140 で、そして、ブレードサーバーの設定・操作方法については p.146 でそれぞれ説明します。

注意: 電源管理デバイス(PoN デバイス)は、「PDU」という言葉でも表現されます。

左のサイドバーでデバイスやポート、アウトレットを選択してから、右側のメニュー (ブラウザー GUI の場合)またはタブバー(アプリケーション GUI の場合)で項目をクリックすると、そのアイテムに関連した情報や設定内容が画面に表示されます。

ポート選択バー

すべての KVM スイッチ、PoN デバイスおよびブレードサーバー(ポートとアウトレットを含む)は、画面左側のサイドバーにツリー形式で一覧表示されます。



ポート選択ツリー

サイドバーのポート選択ツリーには下記の特長があります。

- ◆ 一般ユーザーアカウントではアクセス権限を許可された KVM スイッチやポート/アウトレットだけを参照できます。アカウントを作成しただけではどのポートへのアクセスは許可されていません。予めアドミニストレーターアカウントからアクセス権限の付与を行ってください。
- ◆ ポートやアウトレットおよびカスケード接続した KVM スイッチは 1 台目の KVM スイッチの下に表示されます。ツリーを展開し、配下のポートやアウトレットにアクセスする場合は KVM スイ

チの前に表示されている「+」をクリックしてください。また、ツリーを折りたたんで配下のポートやアウトレットを非表示にする場合は「-」をクリックしてください。

- ◆ 各ポートやアウトレットの ID はポートアイコンの隣にあるカッコの中に表示されます。ポートやアウトレットにそれぞれ固有の名前をつけると識別に便利です(p.132「ポート/アウトレットへの名前設定」参照)。
- ◆ オンラインの KVM スイッチやポートには、モニターが薄緑色になったアイコンが表示されます。モニターが灰色のアイコンはそのデバイスがオフラインであることを表しています。
- ◆ 電源がオンのアウトレットにはオレンジのアイコンが、また、オフのアウトレットにはグレーのアイコンが、それぞれ表示されます。
- ◆ ポートにアクセスする場合は、対象となるポートのアイコンをダブルクリックしてください。ポートの操作方法に関する詳細は第 12 章で説明します。

-
- 注意:**
1. ウェブブラウザを使ってアクセスした場合、ポートごとにビューアを起動できますが、参照できるポートの数は、現在使用している KVM スイッチが対応しているバス数に応じて変わります。例えば、使用している KVM スイッチが最大 4 バスに対応している場合、5 番目のビューアには最初のビューアがアクセスしているポートが、6 番目のビューアには 2 番目のビューアがアクセスしているポートがそれぞれ表示されます。
これに対し、GUI アプリケーションツールを使用した場合、一度にアクセスできるのは 1 ポートだけです。2 つのポートに同時にアクセスする場合は、ツールを別々に起動する必要があります。
 2. 「CC Management」(CC 管理)機能が有効になっている場合(p.215 参照)、電源管理デバイスやブレードサーバーが IP-KVM スイッチ上で設定されていたとしても、これらのデバイスはサイドバーには表示されません。というのは、これらのデバイスが CC サーバーによって管理されているためです。
-

スキャン

アプリケーション版 GUI サイドバーの下部にある「Scan」(スキャン)メニューは、サイドバー(p.130 参照)に表示されている全ポートを一定の時間間隔で切り替えて表示する機能(オートスキャン)を提供します。この機能により、ユーザーはポートを切り替えなくてもコンピューターの状態を自動的に監視できます(p.276「オートスキャン」参照)。

-
- 注意:** ウェブブラウザで IP-KVM スイッチにアクセスした場合、このアイコンは表示されません。ウェブブラウザのインターフェースでオートスキャン機能を利用する場合は、リモート画面を表示した後で、ツールバーを起動してください。詳細に関しては
-

p.273 をご参照ください。

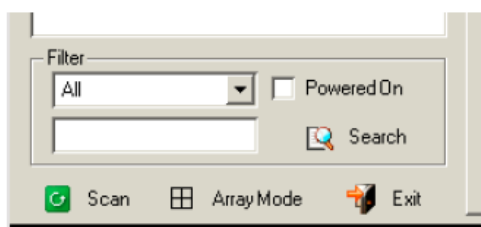
田 アレイモード

「Array」(アレイモード)は、アプリケーション版 GUI サイドバーの下部にあるメニューで、画面を分割し、複数のコンピューターの画面を同時に出力します(パネルアレイモード機能)。出力対象となるのは、サイドバーのツリーに表示されているオンラインのポートです。それ以外のポートはブランクで表示されます(下記「フィルター」参照)。詳細に関しては p.279 をご参照ください。

注意: ウェブブラウザで KN1108VA/KN1116VA にアクセスした場合、このアイコンは表示されません。ウェブブラウザのインターフェースでパネルアレイモード機能を利用する場合は、リモート画面を表示してからツールバーを起動してください。詳細に関しては p.273 をご参照ください。

フ フィルター

このセクションでは、サイドバーに表示されるポートの数や種類、また、オートスキャンやパネルアレイモードが起動した場合にスキャンの対象とするポートをコントロールできます(上記の「スキャン」および「アレイモード」参照)。「フィルター」アイコンをクリックすると、サイドバーの下部は下図のように展開します。



各項目の詳細は下表のとおりです。

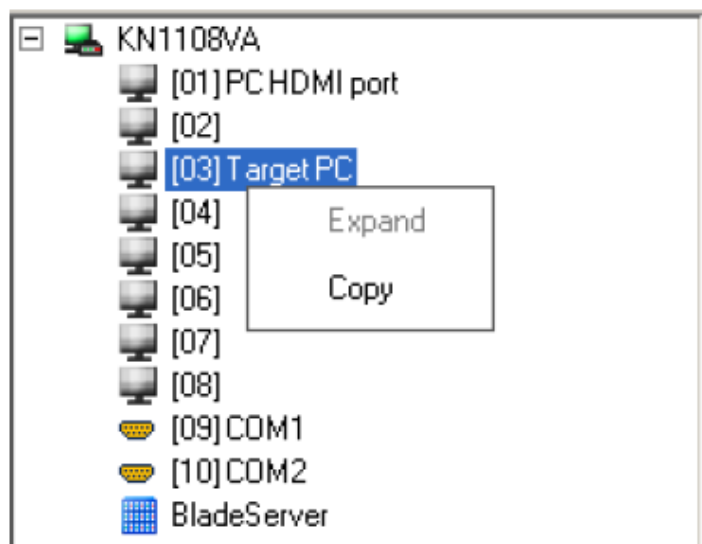
項目	説明
All (すべて)	デフォルトの表示形式です。フィルターオプションが未選択の場合は、そのユーザーがアクセスできるすべてのポートをサイドバーのツリーに表示します。 お気に入りが設定されている場合(p.153 参照)、リストボックスを展開してお気に入りだけを選択することもできます。お気に入りを選択すると、選択したアイテムだけがツリーに表示されます。
Powered On (電源オン)	この項目を有効にする(チェックをつける)と、コンピューターに電源が入っているポートだけをツリーに表示します。

(表は次のページに続きます)

項目	説明
Search (検索)	<p>検索したい文字列を入力して「Search」(検索)ボタンをクリックすると、ポート名称がその文字列に一致するポートだけがツリーに表示されます。ワイルドカード(1文字の場合は?, 複数の文字の場合は*)や、「or」キーワードを使うと、複数のポートを表示できます。以下、検索例です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「Web*」という文字列を入力して検索した場合、「Web Server 1」というコンピューターと「Web Server 2」というコンピューターがリストに表示されます。 2. 「W*1 or M*2」という文字列を入力して検索した場合、「Web Server 1」というコンピューターと「Mail Server 2」というコンピューターがリストに表示されます。
Exit (終了)	このアイコンをクリックするとフィルターダイアログを終了します。

サイドバーユーティリティ

アプリケーション版の「Port Access」(ポートアクセス)の「Connections」(接続)タブには、サイドバーツリーを操作する便利な方法があります。サイドバーでアイテムを右クリックすると、サブメニューリストがポップアップ表示されます。



注意: 上図のスクリーンショットは、あくまでも表示の一例です。ポップアップに表示されるアイテムは、ログインしている場所(リモートまたはローカルコンソール)や、ログインユーザーのタイプや、選択されているデバイスの種類(KVM スイッチまたはポート)によって変わります。

設定項目の詳細は下表のとおりです。

アイテム	ユーザータイプ	説明
Expand (展開) / Collapse (閉じる)	Administrator User	<ul style="list-style-type: none"> ◆ デバイスのポートがネストしている(表示されていない)場合、メニューリストには「Expand」(展開)が表示されます。ツリーを開いてポートを表示する場合は「Expand」(展開)をクリックしてください。 ◆ デバイスのポートが表示されている場合、メニューリストには「Collapse」(閉じる)が表示されます。ポートを非表示にする場合は「Collapse」(閉じる)をクリックしてください。 <p>注意:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. この項目は KVM スイッチ、またはその先にカスケード接続している KVM スイッチのポートの場合にのみ表示されます。 2. これはツリービューのアイコンの隣にある「+」または「-」を操作した場合と同じ機能を提供します。
コピー	Administrator User	この項目はポートを選択している時にのみ表示されます。この項目を選択すると、コピーしたポートを「お気に入り」タブに貼り付けることができます。詳細については p.153「お気に入りへの追加」をご参照ください。

ポートやアウトレットの名前設定

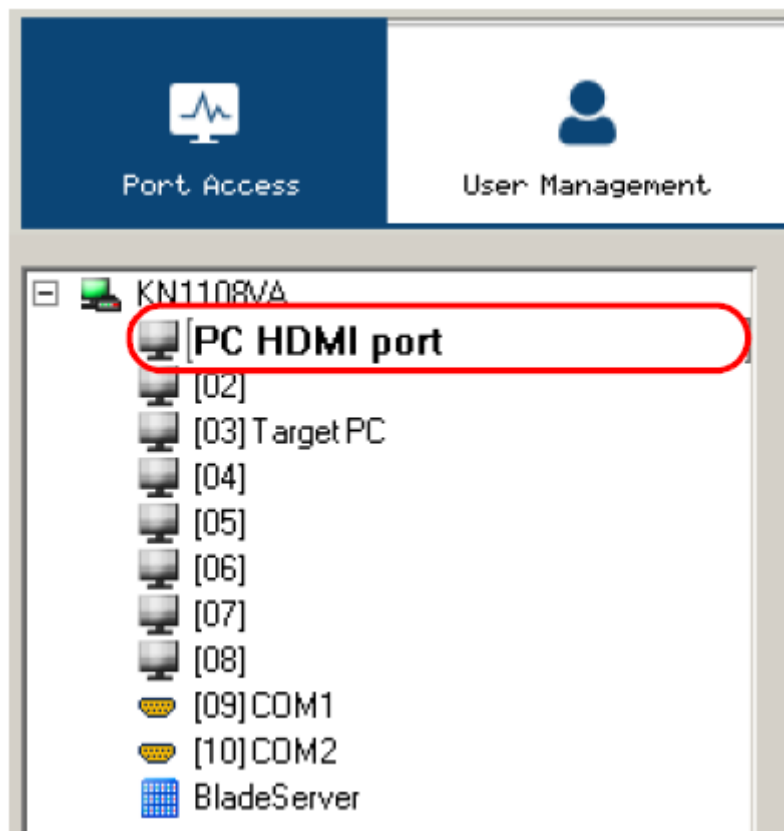
デバイスの識別を容易にするために、アドミニストレーターおよびポート設定権限を持つユーザーはポートやアウトレットにそれぞれ名前を設定できます。この機能は、特に大規模なサーバーシステムを管理する際に便利です。ポートやアウトレットの名前を新規作成・編集・削除する場合は下記の手順に従って操作してください。

1. 名前を編集したいアイテムを一度クリックし、しばらくしてからもう一度そのポートをクリックしてください。

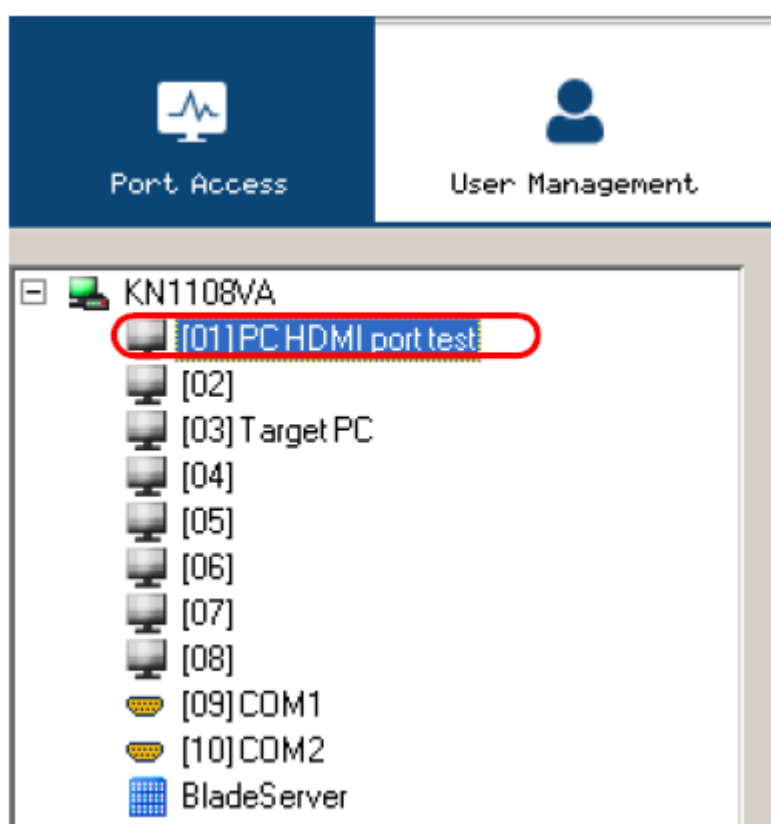
注意:

1. この操作はいわゆるダブルクリックとは異なり、シングルクリックを 2 回に分けて行います。ポートをダブルクリックすると、そのポートに表示を切り替えます。
 2. アプリケーション版の WindowsClient や JavaClient では、名前を編集したいポートを右クリックし、ポップアップメニューから「Rename」(リネーム)を選択するか、ポートを選択して[F2]キーを押してください。
-

1~2 秒経過すると、ポート名前が入力できるテキストボックスが表示されます。



2. アイテムの名前を入力するか、または既存の名前を変更または削除してください。
 - ◆ 英語(US)キーボードで提供されている文字であれば、どのような組み合わせの文字列でも設定可能です。この場合、最大で 20 バイトまで入力できます。
 - ◆ また、英語以外の文字でも設定できます。2 バイトエンコーディングを使用している言語であれば、最大で 9 文字まで入力できます。ただし、ローカルコンソールなどではフォントデータの制限により正しく表示できない場合がございます。
3. 名前の編集が終わったら、[Enter]キーを押すか、テキストボックスの外側の任意の場所をクリックして操作を終了してください。

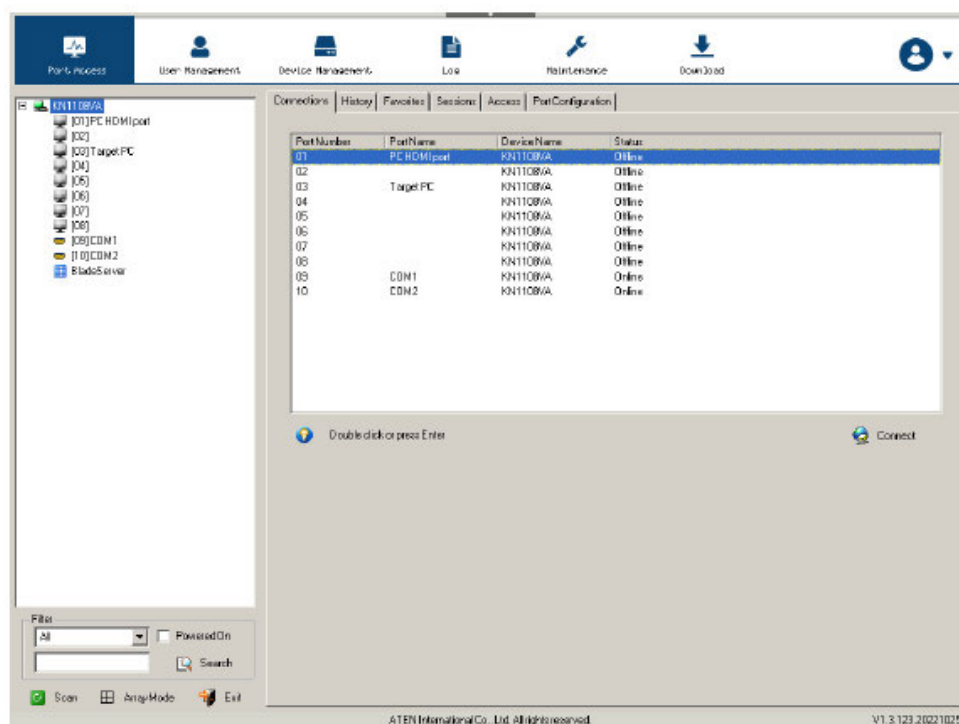


KVM デバイス・ポート - 接続画面

「Port Access」(ポートアクセス)タブの「Connections」(接続)メニューを操作している際に、左側のツリーでKVM スイッチなどのデバイスが選択されている場合には中央に「Connections」(接続)メニューの内容が、また、ポートが選択されている場合はポート接続の設定オプションがそれぞれ表示されます。

デバイスレベル

KVM スイッチがサイドバーで選択されていると、ユーザーがアクセス権限や参照権限を持っているデバイスのポート一覧が「Connections」(接続)メニューのページに表示されます。



各デバイスの以下の属性が一覧に表示されます。

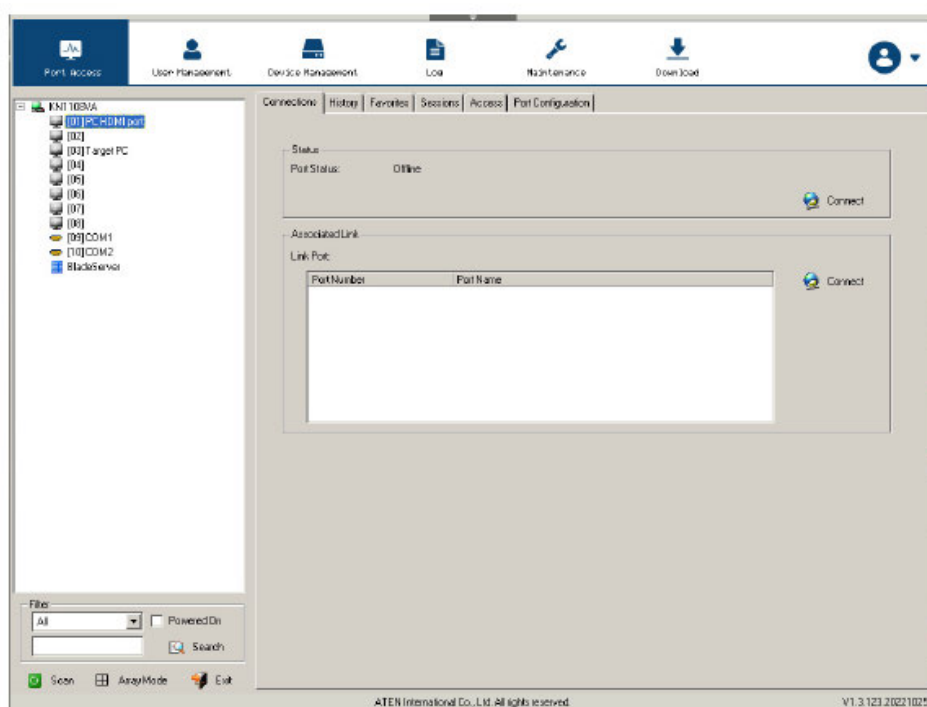
- ◆ ポート番号 - KVM スイッチ上のポートナンバーです。
- ◆ ポート名 - ポートに名前が設定されている場合は、この欄に表示されます。
- ◆ デバイス名 - デバイスに名前が設定されている場合は、この欄に表示されます。
- ◆ ステータス - KVM スイッチの現在のステータス(オンラインまたはオフライン)です。

注意: ウェブブラウザのメニューでは、表のタイトルの各項目をクリックすると、その項目で昇順または降順に並べ替えます。

メインパネルからポートにアクセスする場合は、対象となるポートの行をダブルクリックするか、その行を選択してから画面下部にある「**Connect**」(接続)ボタンをクリックしてください。

ポートレベル

サイドバーのツリーでポートが選択されると、「Connections」(接続)メニューはポートの接続と設定オプションを表示する画面に切り替わります。



画面は、主に下記の 3 つの部分から構成されています。

ステータス

ポートのオンライン状況、マウント状況など、ポートの現在のステータスに関する情報が表示されます。

IP-KVM スイッチに組み込まれている Windows ビューア(Windows Internet Explorer を使用の場合)、または Java ビューア(その他のウェブブラウザを使用の場合)を使って、ポートに接続されているコンピューターの画面を参照したい場合は、「**Connect**」(接続)ボタンをクリックしてください。

関連リンク

現在選択中のポートに関連付けられたポートを表示します。関連付けは、「Port Access」(ポートアクセス)タブ→「Port Configuration」(ポート設定)メニュー→「Associated Links」(関連付けリンク)タブで設定できます(詳細は p.169 参照)。

電源管理

KN1108VA/KN1116VA に PN0108 を接続し、この PN0108 のアウトレットに機器を接続している場合、ユーザーは PN0108 のインターフェースを呼び出さなくても、この画面からアウトレットを直接選択し、電源管理(オン、オフ、再起動)を行うことができます。

アウトレットのポートへの関連付けは、「Port Access」(ポートアクセス)タブ→「Port Configuration」(ポート設定)メニュー→「Power Management」(電源管理)タブで設定できます(詳細は p.170 参照)。

- ◆ ポートに関連付けるアウトレットが複数ある場合は、その行をクリックして管理対象となるものを選択した後で、必要に応じて「ON」、「OFF」、「Reboot」のいずれかのアイコンを選択してください。

注意: 再起動のオプションを選択する場合は、アウトレットの操作モードを「System After AC Back」か「Modem Ring Resume」に設定してください。

- ◆ ポートに関連付けるアウトレットが複数あり、これらの一部の電源管理を同時に行いたい場合は、対象となるポートを[Shift]キーを押しながらクリック(連続したアイテムを複数選択する場合)するか、[Ctrl]キーを押しながらクリック(任意のアイテムを複数選択する場合)し、グループを選択してください。

- ◆ ポートに関連付けるアウトレットが複数あり、これらすべての電源管理を同時に行いたい場合は、「Select All」(すべて選択)の項目にチェックを入れてください。

注意:

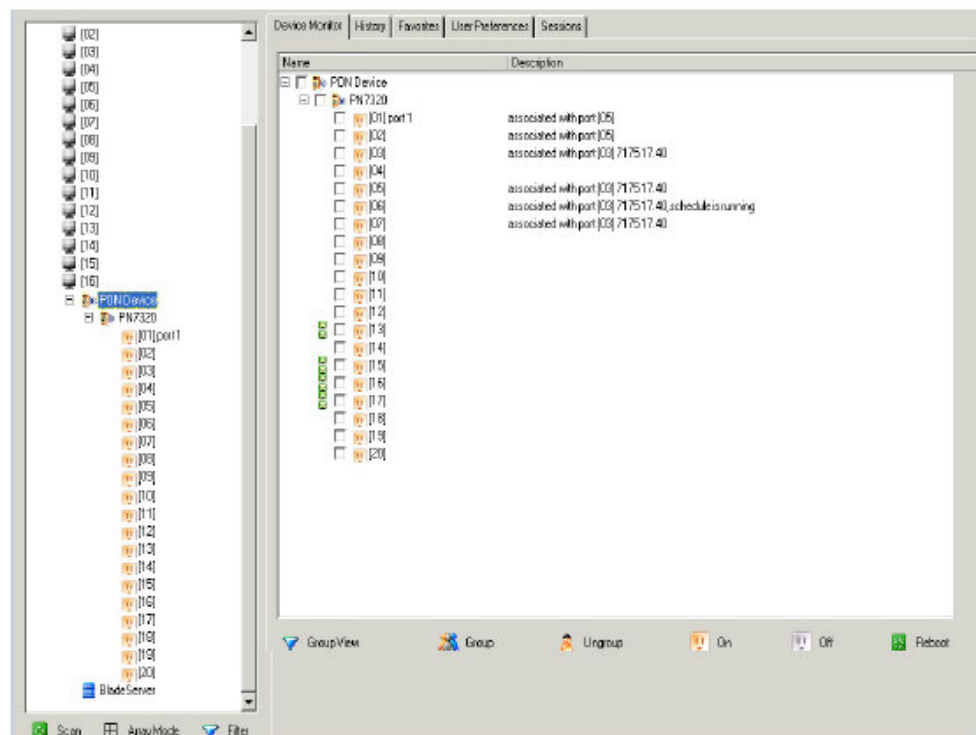
1. アウトレットはすべて同時にオン・オフ・再起動ができますが、各アウトレットはそれぞれに設定されたパラメーター(遅延時間、操作モードなど。p.165 参照)に基づいて動作します。
2. 再起動のオプションを選択する場合は、アウトレットの操作モードを「System After AC Back」か「Modem Ring Resume」に設定してください。

- ◆ 「Synchronization」(同期)のチェックボックスは読み取り専用です。この項目は、「Port Configuration」(ポート設定)メニュー→「Power Management」(電源管理)タブで設定されます(詳細は p.175 参照)。この項目が有効になっていると、複数の電源ソケットから電源が供給されている場合、これらのアウトレットは同時に動作します。

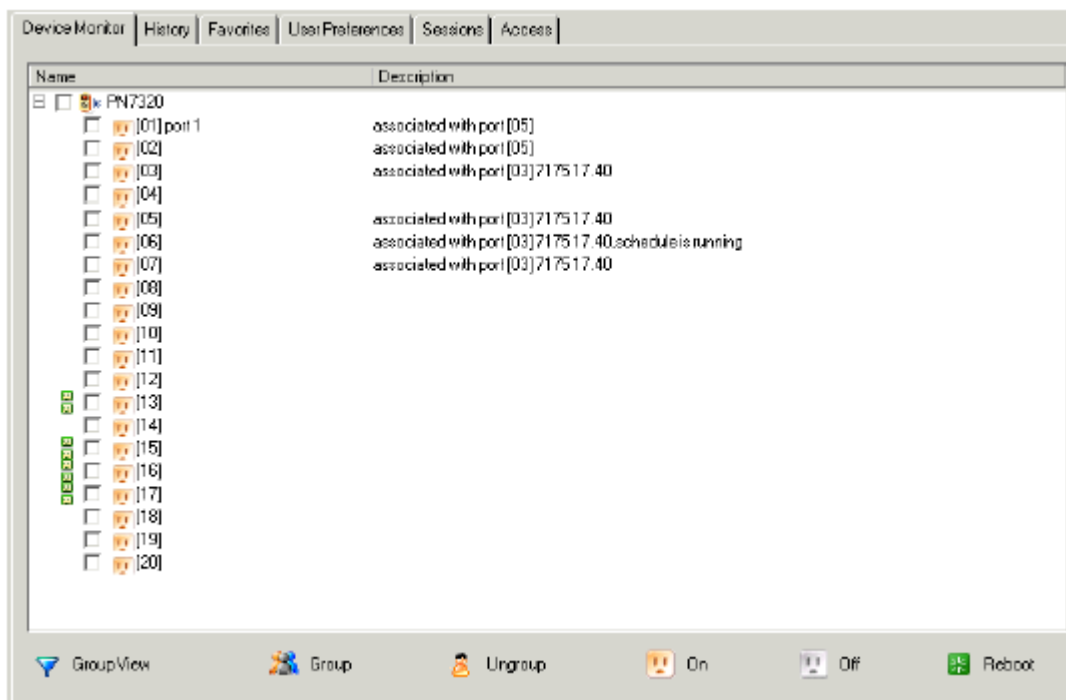
注意: 再起動のオプションを選択する場合は、アウトレットの操作モードを「System After AC Back」か「Modem Ring Resume」に設定してください。

PoN デバイス - デバイスマニター画面

KVM スイッチに接続している電源管理デバイス(Power on Network (PoN) デバイス)は、サイドバーの KVM スイッチの下に表示されます。PoN デバイスをサイドバーで選択すると、下図のような画面が表示されます。ここで使用するスクリーンショットは、あくまで参照用です。また、KN1108VA/KN1116VA のウェブ GUI アイコンは、新しいファームウェアバージョンで変更になる可能性があります。



メインパネル – PoN 表示



PoN 表示はデフォルトの画面です。現在アクセス中の KVM スイッチに接続している PoN デバイスとそのアウトレットは、すべて「Name」(名前)列に表示されます。

同期しているアウトレットや、グループに属しているアウトレットは、グリーンの電源アウトレットのアイコンが名前の前に表示されます。このアイコンと同期、またはグルーピングする他のアウトレットを表示する場合は、アウトレットのグリーンアイコンをクリックしてください。このグリーンのアウトレットを再度クリックすると、表示されている情報を閉じます。

「Description」(説明)列には、そのアウトレットが関連付けられている KVM ポートに関する情報が表示されます。

アクションボタン

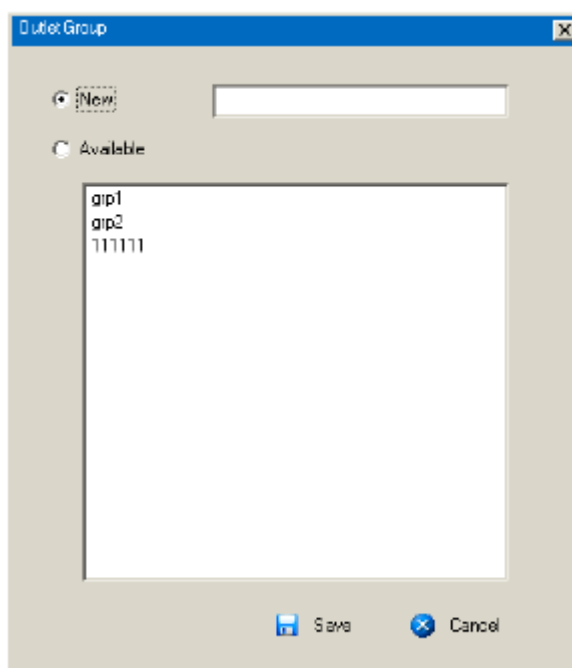
画面下部にあるボタンで実行できるアクションは下表のとおりです。

項目	説明
Group View (グループビュー)	このボタンをクリックすると、「Group View」(グループビュー)画面に切り替えます。詳細については p.144「メインパネル - グループ表示」をご参照ください。
Group (グループ)	グルーピングの対象になるアウトレットを選択した後でこのボタンをクリックすると、選択されたアウトレットでグループを作成します(詳細については p.143「アウトレットグループ」参照)。
Ungroup (グループ解除)	グループから除外するアウトレットを選択した後でこのボタンをクリックすると、選択されたアウトレットをグループから除外します。
On	選択されたアウトレットに対して電源オンの信号を送出します。
Off	選択されたアウトレットに対して電源オフの信号を送出します。
Reboot (再起動)	選択されたアウトレットに対してリブート信号を送出します。

アウトレットグループ

アウトレットグループを作成する場合は、下記の手順に従って操作を行ってください。

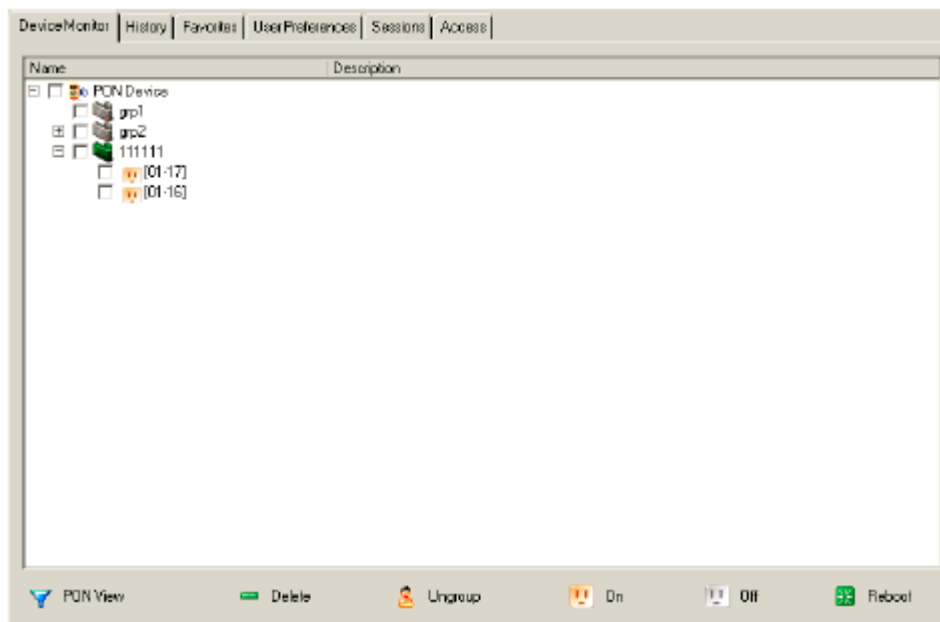
1. グルーピングの対象となるアウトレットを選択してください。
2. 「Group」(グループ)ボタンをクリックしてください。
下図のようなダイアログが表示されます。



3. アウトレットを新規グループに追加するか、既存グループに追加するかを選択してください。
 - a) 新規グループに追加する場合は、テキストボックスにグループの名前を入力してください。
 - b) 既存グループに追加する場合は、中央のパネルからグループを選択してください。
4. 「Save」(保存)ボタンをクリックしてください。

グループからアウトレットを除外する場合は、対象となるアウトレットをメインパネルで選択し、「Ungroup」(グループ解除)ボタンをクリックしてください。

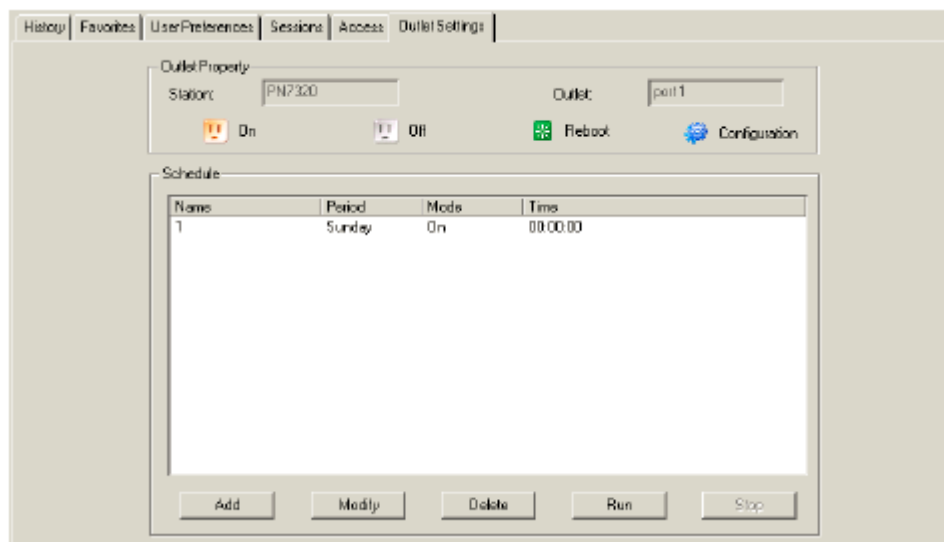
メインパネル - グループ表示



- ◆ 「PoN View」(PoN ビュー) ボタンをクリックすると、「PoN View」(PoN ビュー) 画面に戻ります。
- ◆ グループを削除する場合は、対象となるグループをメインパネルから選択して「Delete」(削除) ボタンをクリックしてください。
- ◆ メインパネルでグループを選択し、「Ungroup」(グループ解除) ボタンをクリックすると、そのグループからすべてのアウトレットを除外します。これは、「PoN View」(PoN ビュー) 画面でアイテムを一つ一つ削除するよりも、すべてのアウトレットを簡単に除外できます。
- ◆ アウトレットをグループ単位で電源管理する場合は、対象となるグループをメインパネルで選択し、電源操作の各ボタンをクリックしてください。

アウトレット設定

アウトレットが「Port Access」(ポートアクセス)タブのサイドバーで選択されると、「Outlet Settings」(アウトレット設定)画面が表示されます。

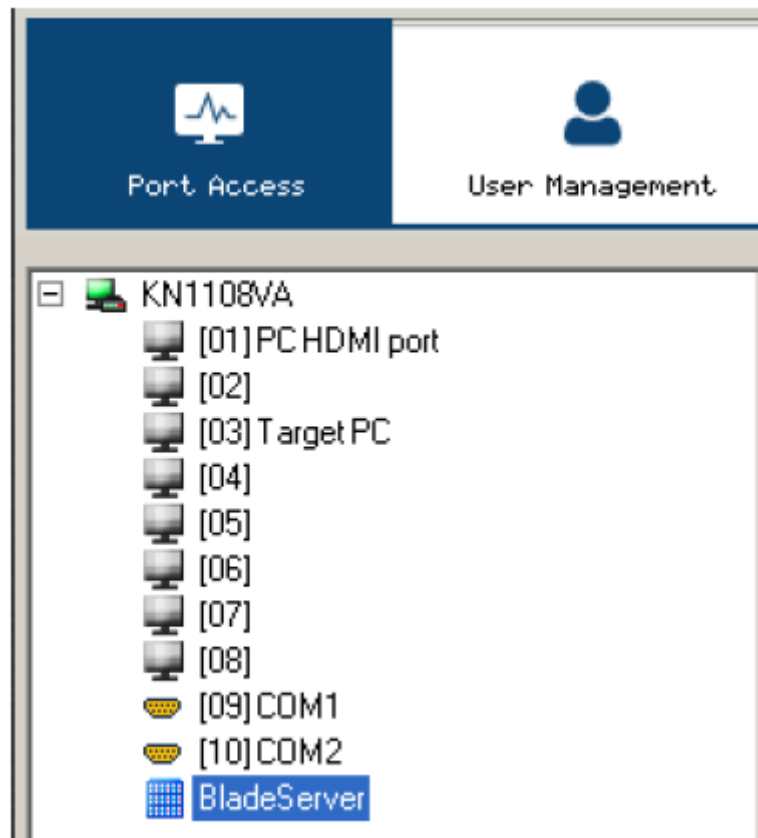


- ◆ 「Outlet Properties」(アウトレットプロパティ)パネルには、アウトレットが属する PoN デバイスやアウトレットの名前、また、アウトレットの電源が手動で操作できる「ON」、「OFF」、「Reboot」の各ボタンが表示されます。
- ◆ 「Schedule」(スケジュール)パネルでは、アウトレットに対する自動電源管理を設定できます。この操作方法は「Power Management」(電源管理)セクションで説明している内容と同じです。詳細については p.174「スケジュール」をご参照ください。

ブレードサーバー - 接続画面

KVM スイッチに接続されているブレードサーバーは、サイドバーでは KVM スイッチと電源管理デバイス(PoN デバイス)の下に表示されます。

本セクションでは、ブレードサーバーへのアクセス・設定、そして、KVM スイッチのポートとブレードの関連付けの各方法について説明します。ブレードサーバーやブレードをポートに関連付けしておくと、サーバーやブレードはそのポートに接続されているデバイスとしてひとまとまりで表示されます。



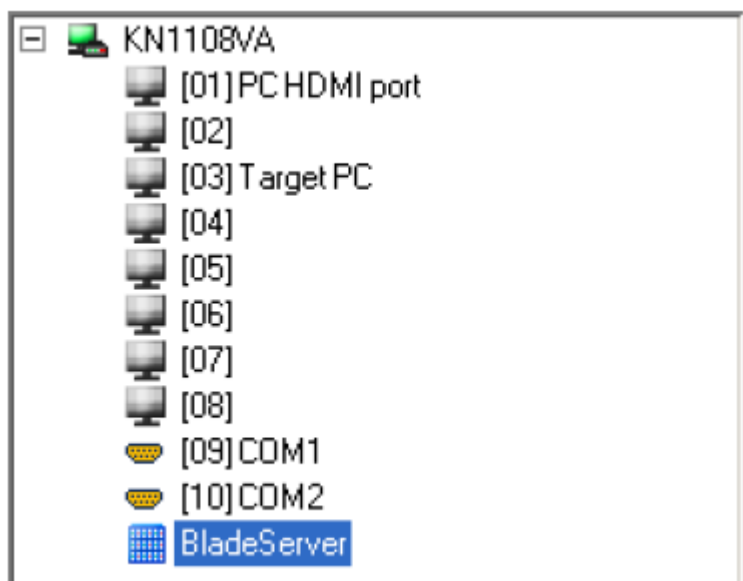
ブレード設定画面

「Blade Configuration」(ブレード設定)画面では、ブレードサーバーとKVM スイッチのポートの関連付けを行います。この画面にアクセスする場合は、対象となるブレードサーバーまたはブレードを選択して、「Blade Configuration」(ブレード設定、メニューバーの右端にあるメニュー)をクリックしてください。

IBM と Dell のブレードサーバーは、シャーシ全体がポートに関連付けられ、シャーシの各ブレードはツリー内でその関連ポートの子ポートとして表示されます(右スクリーンショットのポート 08 を参照)。

HP のブレードサーバーは、ブレードベースで関連付けを行い、1 ブレードを 1 ポートに関連付けます。

ブレードにアクセスする場合は、ツリーから対象となるポートエントリーをクリックしてください。



ポートの関連付け

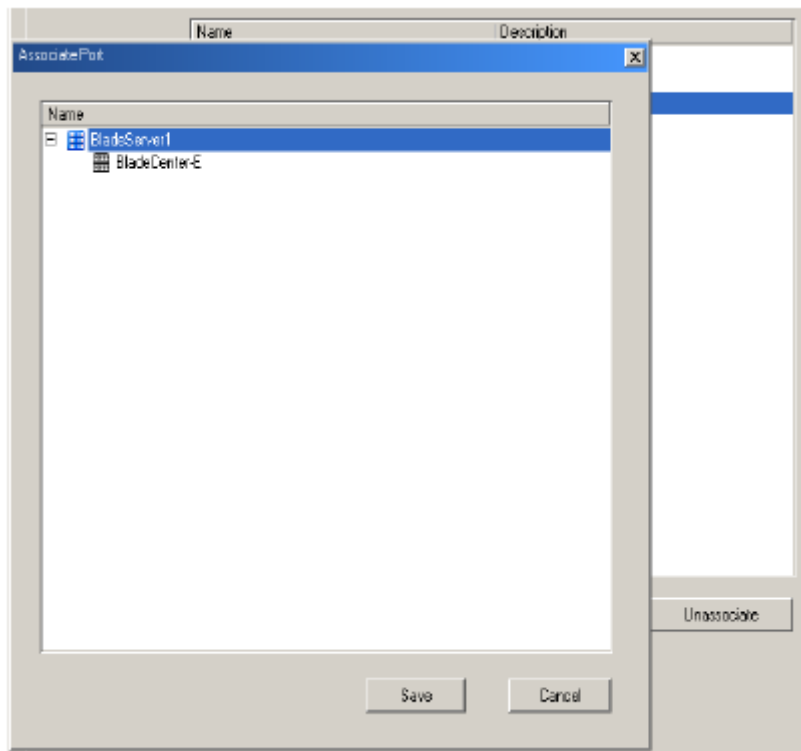
メインパネルでのデバイス表示

ポートの関連付けを始めるには、メニューバー右端の「Blade Configuration」(ブレード設定)メニューのアイテムをクリックします。このアイテムをクリックすると、「Device View」(デバイス参照)画面が表示され、KVM スイッチのポートと、これらのポートに既に関連付けられているブレードサーバー (IBM、Dell サーバーの場合)や個々のブレード(HP サーバー)がすべて一覧表示されます。

Name	Description
☐ KN1108VA	
🖥 [01] PC HDMI port	
🖥 [02]	
🖥 [03] Target PC	
🖥 [04]	
🖥 [05]	
🖥 [06]	
🖥 [07]	
🖥 [08]	
🗨 [09] COM1	
🗨 [10] COM2	

ここから関連付けを行う場合は、KVM ポートを選択し、ブレードサーバーやブレードを選択した後で下記の手順に従って操作を行ってください。

1. メインパネルでポートを選択してください。
2. 「Associate」(統合)ボタンをクリックしてください。
3. 画面が表示されたら、このポートに関連付けたいブレードサーバーやブレードを選択してください。

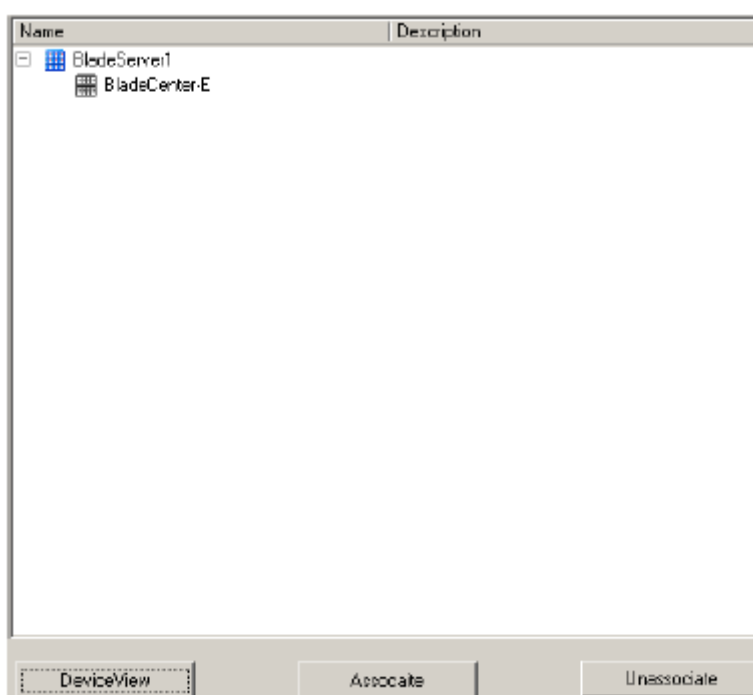


4. 「**Save**」(保存)ボタンをクリックしてください。

関連付けに成功すると、ブレードアイコンがサイドバーツリーのポートマークとして表示されます。ブレードで稼働しているデバイスにアクセスする場合は、対象となるエントリーをサイドバーでクリックしてください。

メインパネルでのブレード表示

「Device View」(デバイス参照)メインパネルの下には、「Blade View」(デバイス参照)という名前のボタンがあります。これは、メインパネルを2つの画面に切り替えるものです。「Blade View」(デバイス参照)でメインパネルを起動する場合は、これをクリックしてください。

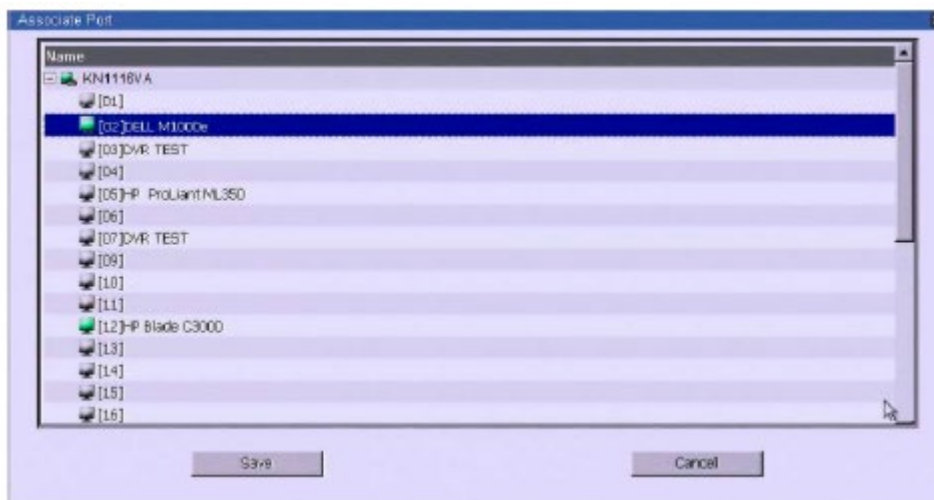


「Blade View」(デバイス参照)画面では、システムに組み込まれているすべてのブレードサーバー (IBM、Dell サーバーの場合)やブレード(HP サーバー)、そして、これらに関連付けるポートがある場合はこれらのポートが一覧表示されます。

ここから関連付けを行う場合は、ブレードサーバーまたはブレードを選択し、KVM ポートを選択した後で下記の手順に従って操作を行ってください。

1. メインパネルでブレードサーバーまたはブレードを選択してください。
2. メインパネル下部にある「Associate」(統合)ボタンをクリックしてください。

- 画面が表示されたら、これに関連付けたいポートを選択してください。



- 「**Save**」(保存)ボタンをクリックしてください。

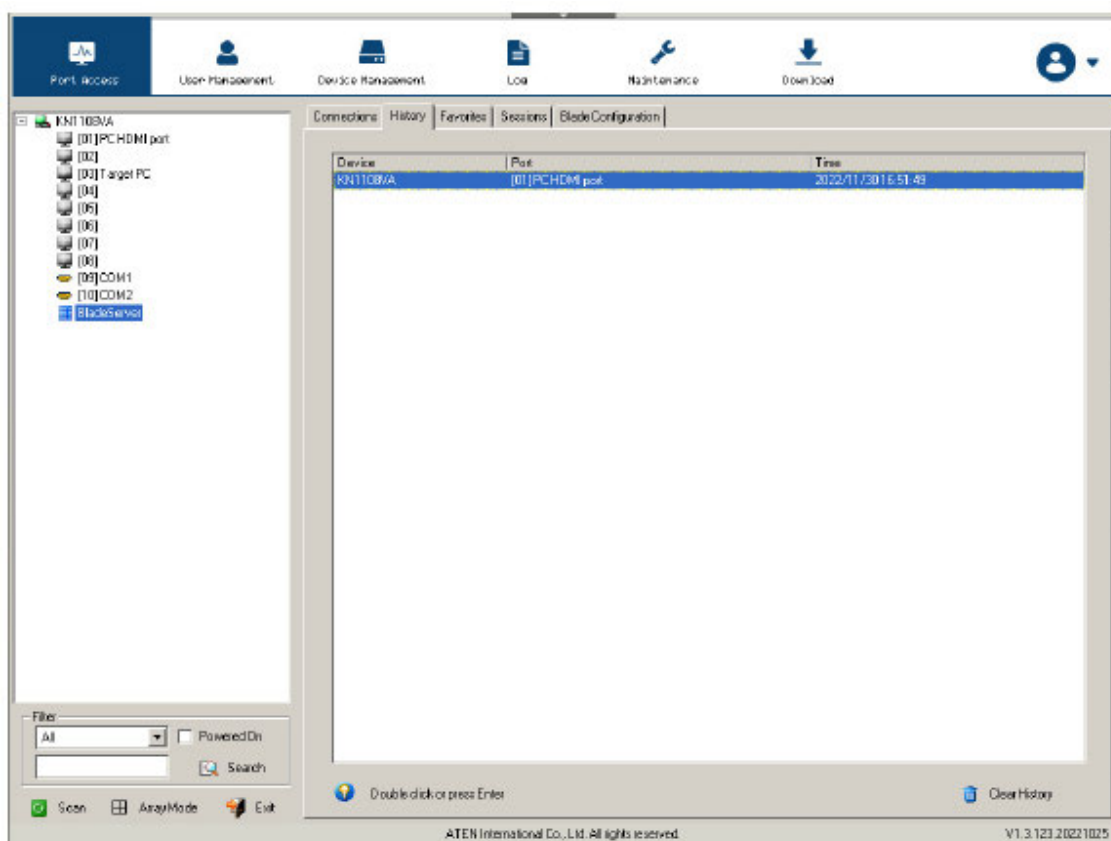
関連付けに成功すると、ブレードアイコンがサイドバーツリーのポートマークとして表示されます。ブレードで動作するデバイスにアクセスする場合は、サイドバーでこのエントリーをクリックしてください。

ポートの関連付け解除

ポートとブレードサーバーまたはブレードとの関連付けを解除する場合は、対象のアイテムをメインパネルから選択し、「**Unassociate**」(解除)ボタンをクリックしてください。

履歴

「History」(履歴)メニューには、ポートへのアクセス時間の履歴が表示されます。このメニューを使うことで、直前に操作されたポートに簡単にアクセスできます。対象となるポートをメインパネルでダブルクリックすると、そのポートにアクセスできます。

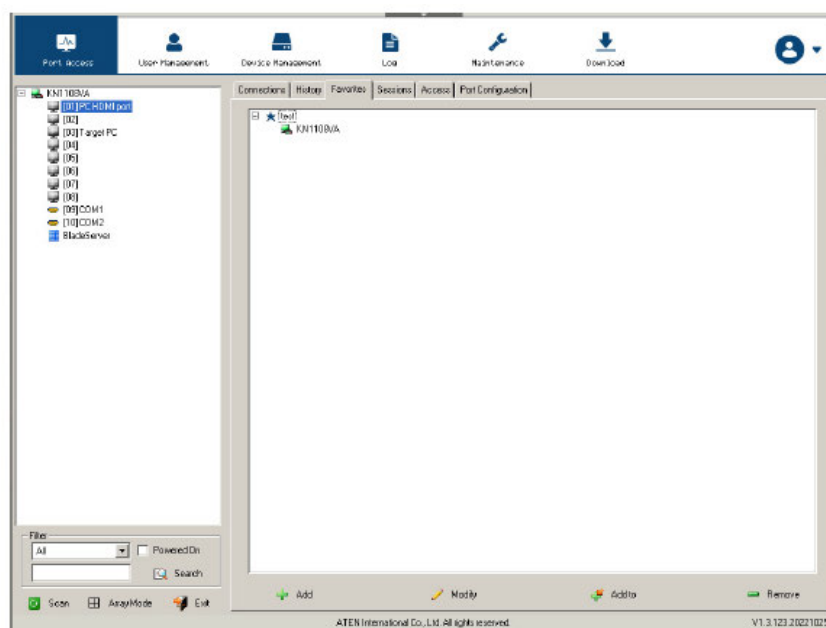


- ◆ 画面に表示されるアイテムが1画面を超える場合は、スクロールバーが表示されます。下に表示されるアイテムはスクロールして表示してください。
- ◆ 履歴を消去する場合は、画面右下にある「Clear History」(履歴のクリア)ボタンをクリックしてください。

注意: ウェブブラウザのメニューでは、表のタイトルの各項目をクリックすると、その項目で昇順または降順に並べ替えます。

お気に入り

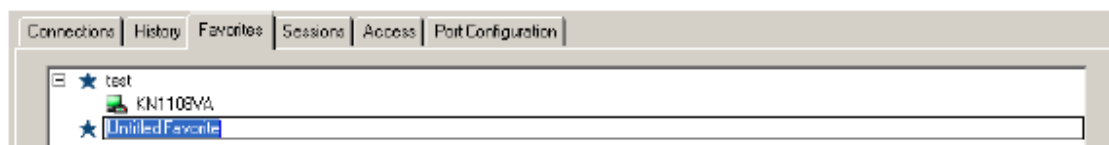
「Favorites」(お気に入り)メニューは、ウェブブラウザのブックマークのように、頻繁にアクセスするポートを一覧に登録します。この機能を利用することで、ポートをツリーから探すことなく、簡単にポートを選択できます。この機能は特に、大規模なシステムで便利にお使いいただけます。



お気に入りへの追加

ポートをお気に入りに追加する場合は、以下の手順で操作してください。

1. メインパネルで右クリックし、「Add Favorite」(お気に入りの追加)をクリックしてください。
 - または -メインパネル下部にある「Add」(追加)ボタンをクリックしてください。「Untitled Favorite」という名前で新規作成されます。

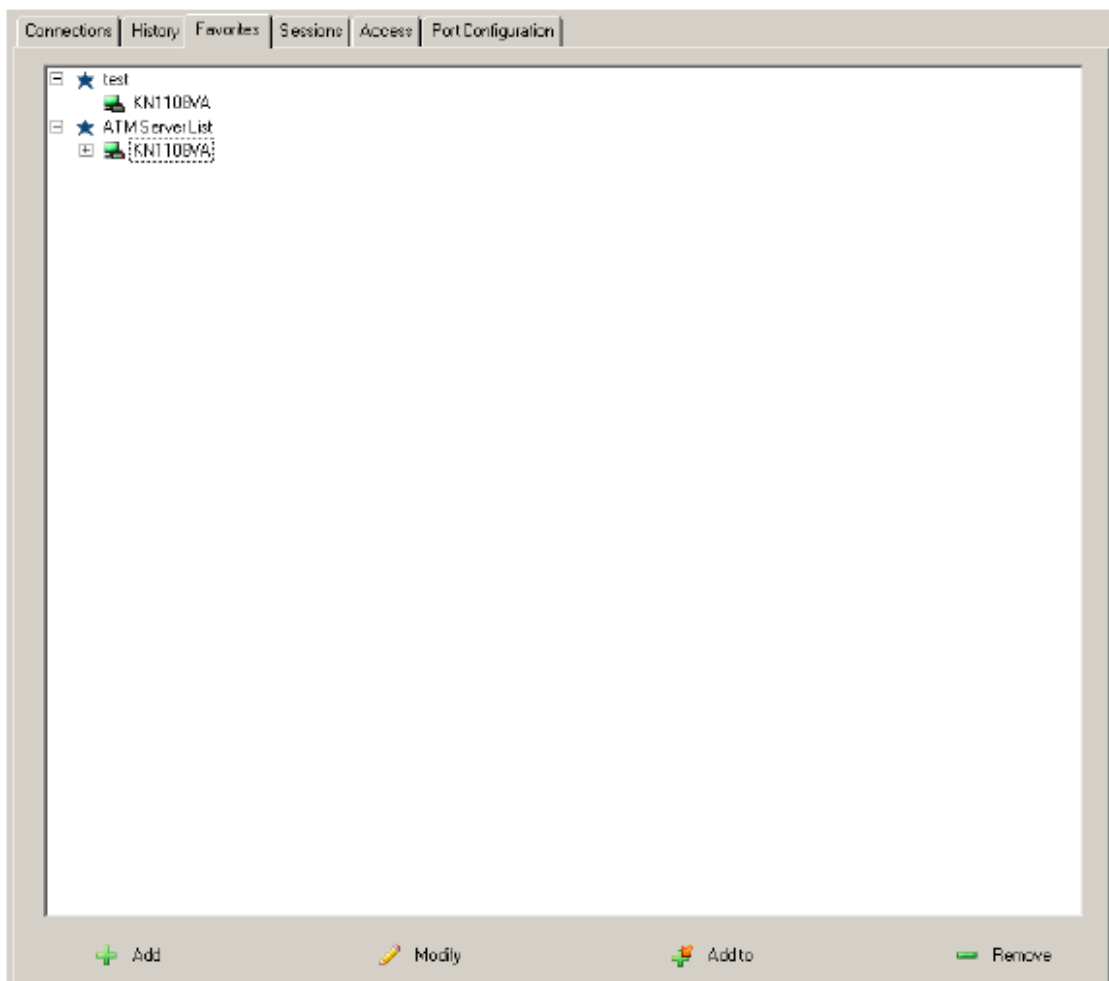


2. これは複数のポートをまとめて管理するコンテナのような役割を果たします。ボックスのテキスト部分をクリックし、「Untitled Favorite」という文字を削除してから、名前を入力してください。編集が終わったら、メインパネルの任意の場所をクリックしてください。
3. ポートを登録する場合は、
サイドバーからお気に入りに登録したいポートをドラッグし、先ほど作成したコンテナの上でドロップしてください。
 - または -サイドバーにある登録したいポートを右クリック後、メニューから「Copy」(コピー)を選択し、登録先のコンテナの上で再び右クリックして、メニューから「Paste」(貼り付け)を選択してください。
 - または -メインパネルでコンテナを、また、サイドバーからポートをそれぞれ選択したら、メインパネル下部にある「Add」(追加)ボタンをクリックしてください。

そのポートが属している KVM スイッチがコンテナに登録され、選択されたポートがスイッチの下に追加されます。

注意: 複数のポートを追加する場合は、[Shift]キーまたは[Ctrl]キーを使って複数のポートを選択し、それらのポートをお気に入り画面へドラッグするか、コピー & ペーストしてください。

4. 他にもお気に入りに登録したいポートがある場合は、手順 3 の操作を繰り返してください。



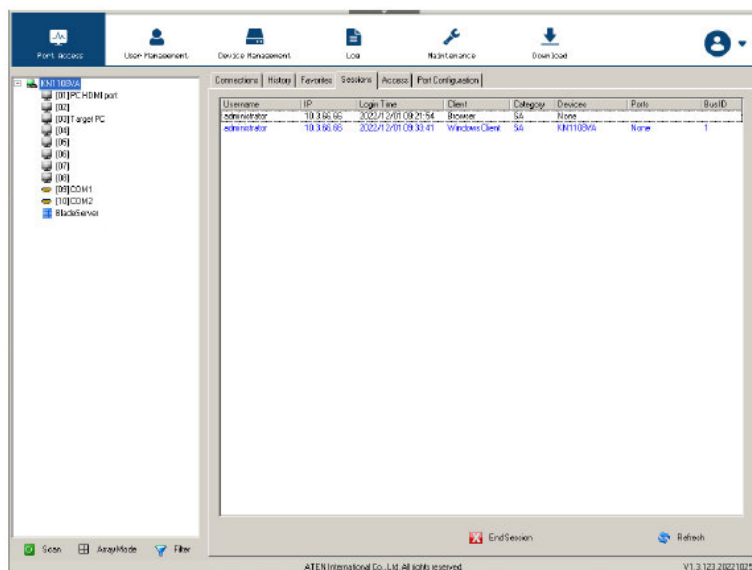
注意: お気に入りの項目はサイドバーツリーの検索の条件としても使用できます。
詳細に関しては p.130「フィルター」をご参照ください。

お気に入りの編集

- ◆ お気に入りを編集する場合は、右クリックで表示されるリストから該当の操作メニューを選択してください。
- ◆ お気に入りの名前を編集する場合は、次のいずれかの方法で操作してください。
名前を一度クリックし、少し間を開けてから再度クリックしてください。お気に入りの名前の表示欄がテキストボックスになると、名前を編集できるようになります。方法はポートネームの編集と同様です(p.132 参照)。
 - または -対象となるお気に入りをメインパネルから選択し、画面下部にある「**Modify**」(変更)ボタンをクリックしてください。

セッション

「Session」(セッション)メニューでは、アドミニストレーター、またはユーザー管理権限のあるユーザーが、KVM スイッチにログイン中のユーザーや、これらのユーザーのセッション情報を確認できます。



- 注意:**
1. 一般ユーザーは、このメニューを利用できません。
 2. 一般ユーザーのセッション情報を確認できるのは、ユーザー管理権限のあるユーザーだけです。
 3. 「Category」(カテゴリ)列には、現在ログインしているユーザーのユーザータイプが表示されます。「SA」はスーパーアドミニストレーターを、「Admin」はアドミニストレーターを、そして「Normal User」はユーザーをそれぞれ表しています。

「IP」列にはログインユーザーの IP アドレスを、「Device」(デバイス)列にはユーザーがアクセスしているデバイスを、そして、「Port」(ポート)列にはユーザーがアクセスしているポートを、それぞれ表示します。また、「Bus ID」(バス ID)にはユーザーが現在使用しているバス(バス 0 はローカルコンソール)を表示します。

- 注意:**
1. 表のタイトルの各項目をクリックすると、その項目で昇順または降順に並べ替えます。
 2. バス ID はコントロールパネルでも表示されます(p.82 参照)。

アドミニストレーターは、この画面で選択したユーザーを強制的にログアウトさせることもできます。対象となるユーザーを選択し、メインパネル下部にある「End Session」(セッションの強制終了)ボタンをクリックしてください。

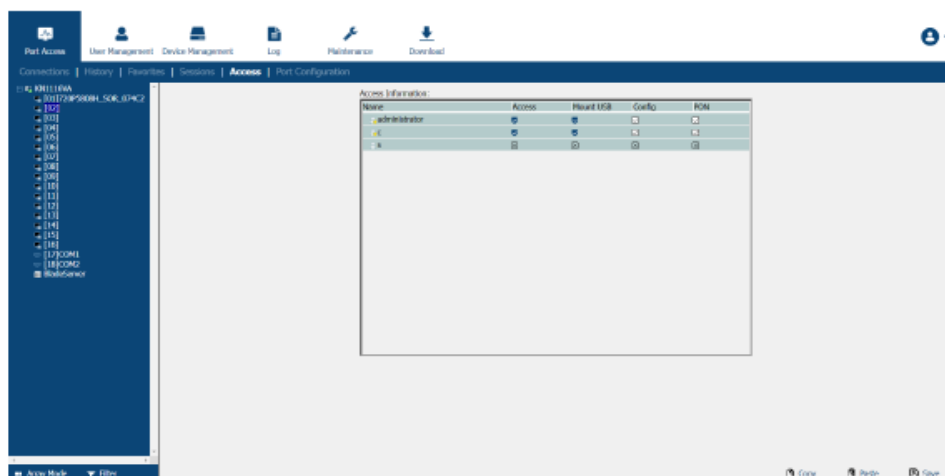
アクセス

アドミニストレーターはこのメニューでユーザーやグループのアクセス権限、また KVM スイッチ・ポートへの設定権限を定義できます。

注意: このメニューはユーザー管理権限のあるユーザーのみアクセスできます。これ以外のユーザーはご利用いただけません。

デバイスレベルでのブラウザ GUI インターフェース

KVM スイッチがサイドバーで選択されると、メインパネルは下図のように表示されます。



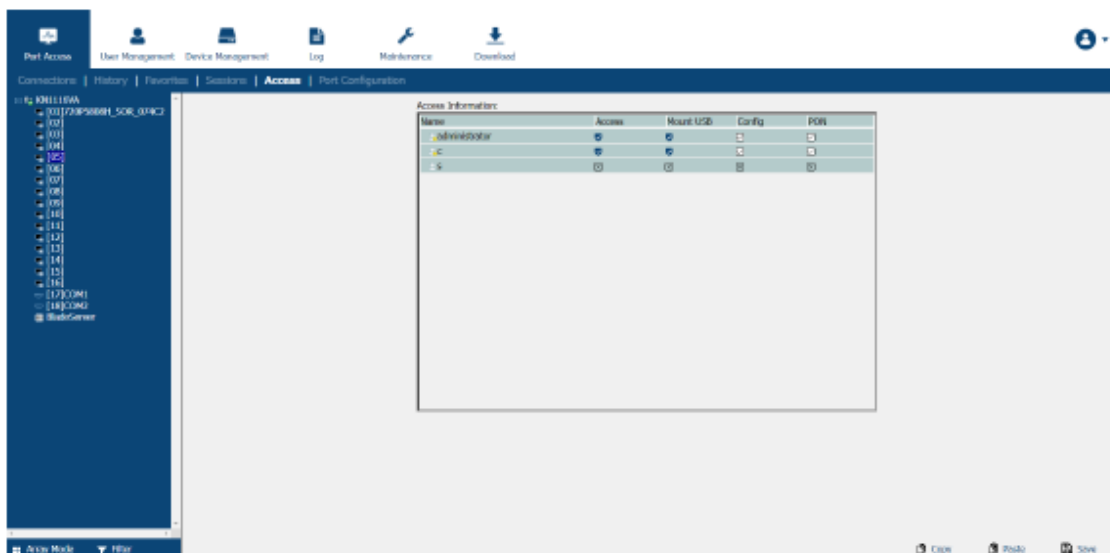
メインパネルの表には、「Name」(名前)列と「Config」(設定)列が表示されます。

- ◆ 「Name」(名前)列には、KVM スイッチに登録されているユーザーとグループがすべて表示されます。
- ◆ 「Config」(設定)列には、設定権限の登録状況が表示されます。この列にチェックがついている場合、そのユーザーはシステム設定の変更権限(第 8 章参照)が与えられています。また、「×」がついている場合、そのユーザーには設定変更権限がありません。設定を変更する場合は、このアイコンをクリックして設定内容を切り替えてください(スーパーアドミニストレーターは常に設定権限を持っています)。

- ◆ メインパネルの下部にある「Copy」(コピー)と「Paste」(貼り付け)の各ボタンは、あるポートの権限設定を他のポートに割り当てることのできるショートカットメニューです。この操作を行う場合は、下記の手順に従ってください。
 1. 他のポートに適用したい権限が設定されているポートを選択してください。
 2. 「Copy」(コピー)ボタンをクリックしてください。
 3. 権限の適用先となるポートを選択してください。
 4. 「Paste」(貼り付け)ボタンをクリックしてください。
- ◆ 設定変更が完了したら、「Save」(保存)ボタンをクリックしてください。

ポートレベルでのブラウザGUI インターフェース

ポートがサイドバーで選択されると、メインパネルは下図のように表示されます。



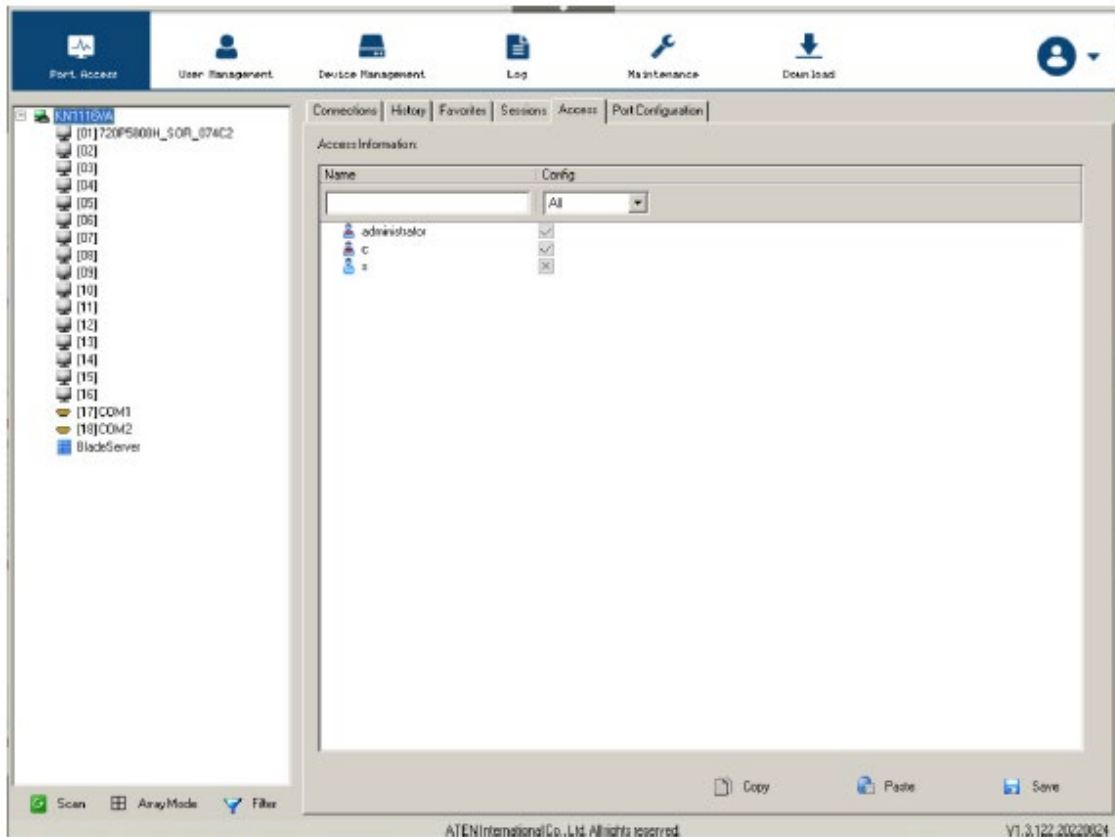
項目	機能	
Name (名前)	現在操作しているユーザーがアクセスできるポートがこの列に表示されます。	
Access (アクセス)	デバイスへのアクセス権限を設定します。これらの設定内容を切り替える場合は、設定を行いたいユーザーの行にあるこのアイコンをクリックしてください。各アイコンが表す意味は下記のとおりです。	
	Full Access (フルアクセス)	ユーザーはリモート画面を参照できます。また、ユーザー自身が使用しているキーボードとモニターでリモートサーバーを操作できます。
	View Only (参照のみ)	ユーザーは、リモート画面の参照はできますが、操作はできません。
	No Access (アクセス不可)	このポートへのアクセス権限はなく、ポートはユーザーのメイン画面にも表示されません。

(表は次のページに続きます)

項目	機能
Mount USB (USB のマウント)	<p>リモートサーバーでのバーチャルメディアのマウント権限を設定します。これらの設定内容を切り替える場合は、設定を行いたいユーザーの行にあるこのアイコンをクリックしてください。アイコンは「Access」(アクセス)列と同じものが表示されます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 「Full Access」(フルアクセス)に設定した場合、ユーザーはバーチャルメディアのマウント、読み取り、書き込みがそれぞれ可能です。 ◆ 「View Only」(参照のみ)に設定した場合、ユーザーはバーチャルメディアの内容を読み取れますが、操作はできません(読み取り専用)。 ◆ 「No Access」(アクセス不可)に設定した場合、バーチャルメディアがリモートサーバーにマウントされていても、このデバイスの読み取りはできません。 <p>注意:USB バーチャルメディア機能がサポートされていない KVM スイッチではこのエントリーは表示されません。</p>
Config (設定)	<p>ポート設定の変更権限を定義します。チェックマーク(✓)が付いているユーザーは権限を持っています。また×マークが付いているユーザーは権限がありません。</p>
PoN	<p>電源管理デバイスの接続ポートの電源管理操作に関する権限を設定します。チェックマーク(✓)が付いているユーザーは権限を持っています。また、×マークが付いているユーザーは権限がありません。</p>

デバイスレベルでのアプリケーション GUI インターフェース

KVM スイッチがサイドバーで選択されると、メインパネルは下図のように表示されます。

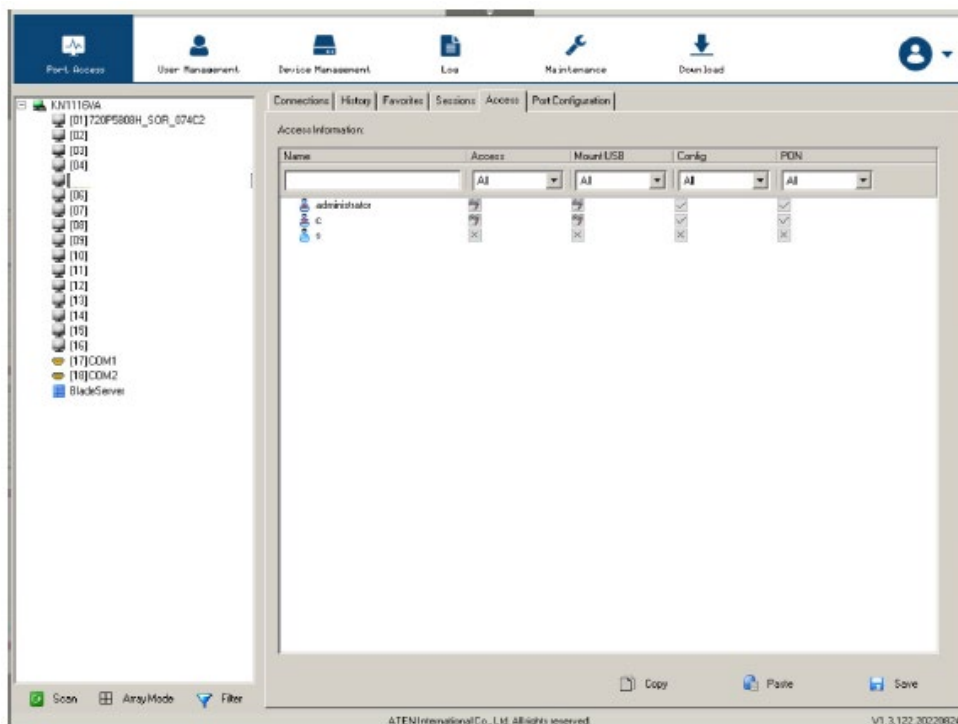


この画面は基本的にはブラウザGUI の画面 (p.157 参照)と同様ですが、アプリケーション GUI にのみ画面上部にフィルター機能を設けております。このフィルター機能を使うと、表示するユーザーやグループの範囲を広げたり、制限をかけたりできます。この機能の詳細は下表のとおりです。

フィルター		説明
Name (名前)		<p>ポートやグループの名前にフィルターを掛ける場合は、名前の文字列(すべて、または一部)を入力して[Enter]キーを押してください。この条件に合致したユーザーやグループのみがリストに表示されます。</p> <p>検索には、ワイルドカード(1文字の場合は?, 複数の文字の場合は*)や、「or」キーワードを使用できます。例えば、「h*ds」という文字列を指定した場合、「hands」と「hoods」がヒットします。「h?nd」という文字列を指定した場合、「hand」または「hind」がヒットしますが、「hard」はヒットしません。「h*nd or h*ks」という文字列を指定した場合、「hand」と「hooks」がヒットします。</p>
Config (設定)	All (すべて)	ユーザーとグループをすべてリストに表示します。
	Permitted (許可)	設定権限のあるユーザーとグループだけをリストに表示します。
	Restricted (制限)	設定権限のないユーザーとグループだけをリストに表示します。

ポートレベルでのアプリケーション GUI インターフェース

ポートがサイドバーで選択されると、メインパネルは下図のように表示されます。



この画面は基本的にはブラウザGUI の画面 (p.159 参照)と同様ですが、アプリケーション GUI にのみ画面上部にフィルター機能を設けております。このフィルター機能を使うと、表示するユーザーやグループの範囲を広げたり、制限をかけたりできます。この機能の詳細は下表のとおりです。

フィルター	説明
Name (名前)	ユーザーやグループの名前にフィルターを掛ける場合は、名前の文字列(すべて、または一部)やワイルドカード(*)を入力して[Enter]キーを押してください。この条件に合致したユーザーやグループのみがリストに表示されます。

(表は次のページに続きます)

フィルター		説明
Access (アクセス)	All (すべて)	ユーザーとグループがすべてリストに表示されます。
	Full Access (フルアクセス)	フルアクセス権限を持っているユーザーとグループのみがリストに表示されます。
	View Only (参照のみ)	参照のみの権限を持っているユーザーとグループのみがリストに表示されます。
	No Access (アクセス不可)	アクセス不可に設定されているユーザーとグループのみがリストに表示されます。
Mount USB (USB のマウント)	All (すべて)	ユーザーとグループがすべてリストに表示されます。
	Full Access (フルアクセス)	USB バーチャルメディアのマウントに対してフルアクセス権限を持っているユーザーとグループのみがリストに表示されます。
	Read Only (読み取り専用)	USB バーチャルメディアのマウントに対して読み取り専用の権限を持っているユーザーとグループのみがリストに表示されます。
	No Access (アクセス不可)	USB バーチャルメディアのマウントに対して権限を持っていないユーザーとグループのみがリストに表示されます。
Config (設定)	All (すべて)	ユーザーとグループがすべてリストに表示されます。
	Permitted (許可)	設定権限を持っているユーザーとグループのみがリストに表示されます。
	Restricted (制限)	設定権限が制限されているユーザーとグループのみがリストに表示されます。
PoN	All (すべて)	ユーザーとグループがすべてリストに表示されます。
	Permitted (許可)	電源管理デバイスの操作権限を持っているユーザーとグループのみがリストに表示されます。
	Restricted (制限)	電源管理デバイスの操作権限を持っていないユーザーとグループのみがリストに表示されます。

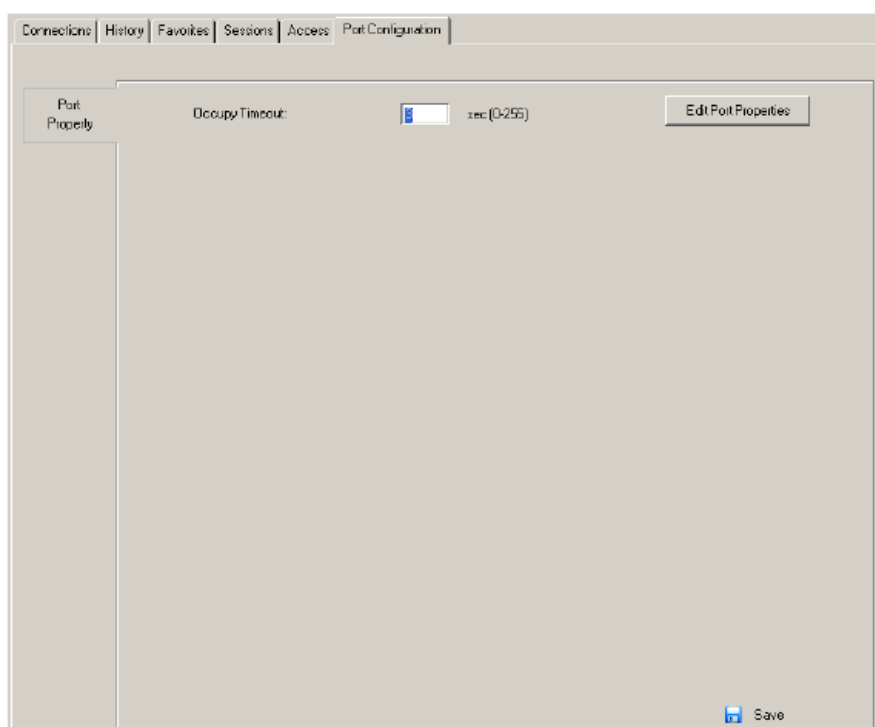
変更内容の保存

「Access」(アクセス)メニューで変更した項目の内容を反映させる場合は、画面右下の「Save」(保存)アイコンをクリックしてください。

ポート設定

占有モード・操作権限の解放時間

デバイスをサイドバーで選択している場合、「Port Configuration」(ポート設定)メニューで利用できるアイテムは、「Port Properties」(ポートプロパティ)タブの「Occupy Timeout」(タイムアウト)の設定のみです。

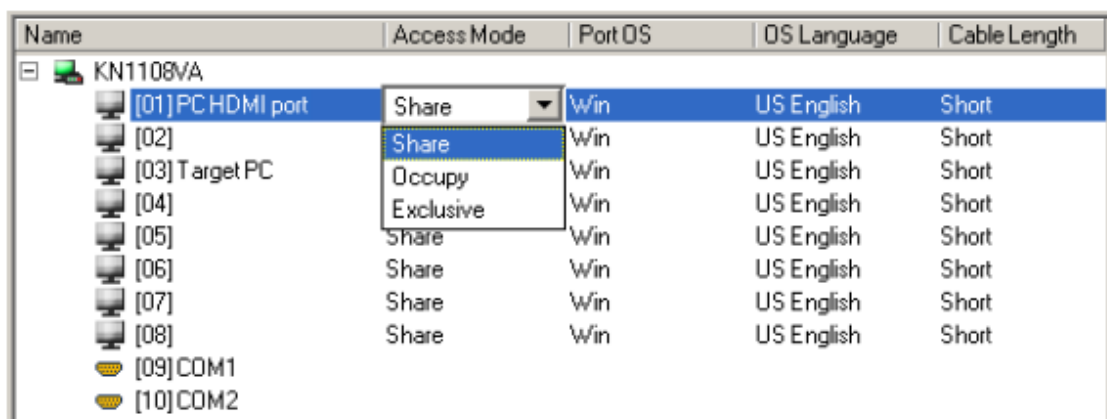


この「Occupy Timeout」(タイムアウト)の項目では、アクセスモード(p.327 参照)が「Occupy」(占有)のポートでユーザーが操作できる時間のしきい値を設定します。ポートでユーザーが何も操作しないまま、ここで設定した秒数が経過すると、ユーザー操作がタイムアウトとなり、ポートが開放されます。この場合、ポートが開放された後で最初にキーボードやマウスを操作したユーザーがポートを占有できます。

この項目には 0～255 の値を設定できます。デフォルト設定は 3 秒です。0 を設定すると、入力がなくなると同時にポートが開放されます。

ポートプロパティの編集

「Edit Port Properties」(ポートプロパティの編集)ボタンをクリックすると、下図のようなポート一覧が表示されます。ドロップダウンメニューを使って、「Access Mode」(アクセスモード)、「Port OS」(ポート OS)、「OS Language」(OS 言語)、「Cable length」(ケーブル長)の各項目を設定してください。

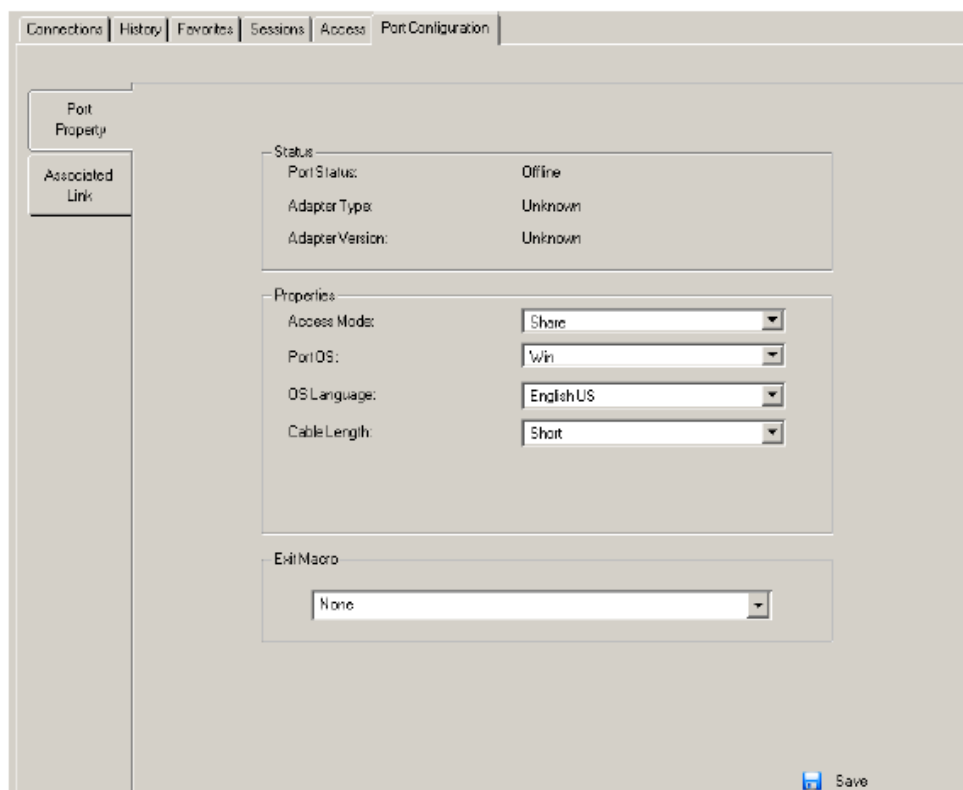


Name	Access Mode	Port OS	OS Language	Cable Length
KN1108VA				
[01] PC HDMI port	Share	Win	US English	Short
[02]	Share	Win	US English	Short
[03] Target PC	Occupy	Win	US English	Short
[04]	Exclusive	Win	US English	Short
[05]	Share	Win	US English	Short
[06]	Share	Win	US English	Short
[07]	Share	Win	US English	Short
[08]	Share	Win	US English	Short
[09] COM1				
[10] COM2				

ポートルレベル

ポートプロパティ

ポートがサイドバーで選択されると、「Port Properties」(ポートプロパティ)タブは下図のように表示されます。



- ◆ 「Status」(ステータス)パネルには、ポートのオンライン状況、サーバーやデバイスとの接続に使用しているコンピューターモジュール(アダプター)の種類やファームウェアバージョンに関する情報が表示されます。
- ◆ 「Properties」(プロパティ)パネルでは、選択したポートのプロパティを設定できます。ポートプロパティの設定項目に関する詳細は次のページを参照してください。
- ◆ 「Exit Macro」(終了マクロ)パネルでは、ユーザーが作成したシステムマクロをドロップダウンリストに表示します。ここでは、リモートサーバーからログアウトする際に実行するマクロをリストから選択できます。終了マクロの作成方法については p.104「システムマクロ」をご参照ください。

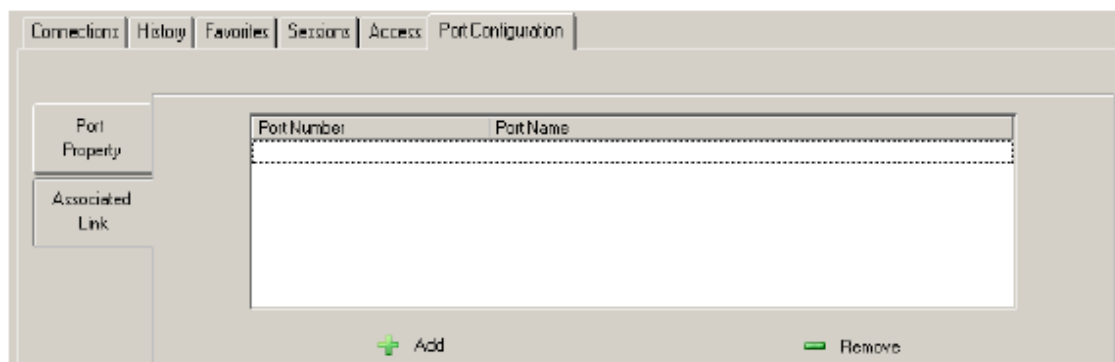
各設定項目の詳細に関しては下表をご参照ください。

項目	説明
Access Mode (アクセスモード)	<p>複数ユーザーでログインした場合のポートのアクセス方法について定義します。設定できるアクセス方法は以下のとおりです。</p> <p>Exclusive (排他) : ポートに最初に切り替えたユーザーが、そのポートに対して排他的にアクセスできます。他のユーザーはこのポートを参照できません。また、このモードでは、タイムアウト機能が適用されません。</p> <p>Occupy (占有) : ポートに最初に切り替えたユーザーが、そのポートに対して排他的にアクセスできますが、他のユーザーもそのポートを参照できます。ポートを操作しているユーザーからの入力がないまま、「Timeout」(タイムアウト)の項目に設定された時間が経過すると、次にマウスやキーボードの入力があったユーザーにそのポートの操作権限が移動します。</p> <p>Share (共有) : 複数のユーザーで同時にポートを共有できます。IP-KVMスイッチは、ユーザーからの入力をキューに格納し、古いものから順に実行します。占有と共有の各モードでは、メッセージボード機能を使って共有ポートのキーボード/マウス、またはキーボード/モニター/マウスの操作が行えます(p.111 参照)。</p>
Port OS (ポート OS)	<p>ポートに接続されているコンピューターで使用されている OS を設定します。設定できる項目は、Win、Mac、Sun、その他です。デフォルトでは Win に設定されています。</p>
OS Language (OS 言語)	<p>ポートに接続されているコンピューターで使用されている OS 言語を設定します。設定する項目をリストから選択してください。デフォルトでは US 英語に設定されています。</p>
Cable Length (ケーブル長)	<p>サーバーをポートに接続するのに使用する Cat 5e/6 ケーブル長を指定します。ケーブル長は下記から選択してください。</p> <p>Short (ショート) : 25m 未満 Medium (ミディアム) : 20~35m Long (ロング) : 35m 以上</p>

設定変更が完了したら、「Save」(保存)をクリックしてください。

関連付けリンク

「Associated Links」(関連付けリンク)タブでは、現在選択されているポートに、同じKVMスイッチの他のポートを関連付けることができます。この機能は、1台のサーバーのKVMポートとシリアルポート(KA7140)をKVMスイッチに結び付けるのに使用します。

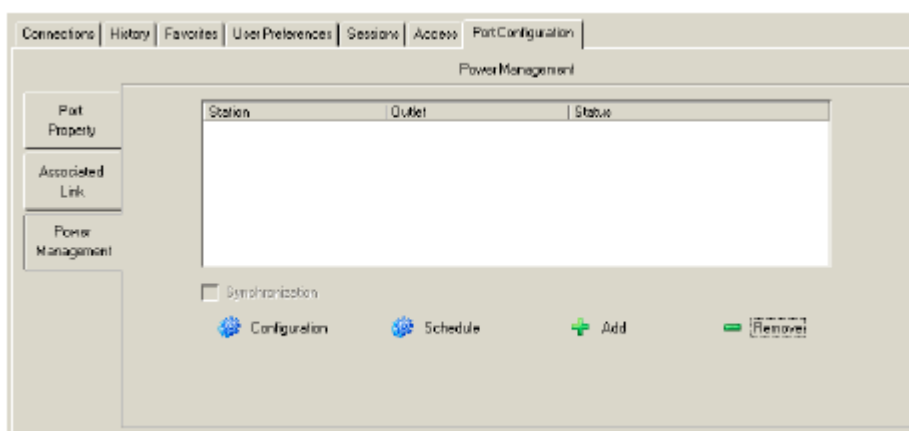


- ◆ 現在選択されているポートに別のポートを関連付ける場合は、「Add」(追加)ボタンをクリックしてください。ダイアログが表示されたら、関連付けを行うポートのポート番号を入力し、「OK」ボタンをクリックしてください。追加すると、このポート番号とポート名がメインパネルに表示されます。
- ◆ ポートの関連付けを削除する場合は、対象のアイテムをメインパネルから選択し、「Remove」(削除)ボタンをクリックしてください。

電源管理

このタブは、電源管理デバイス(PoN デバイス)の電源アウトレットを KVM スイッチ上のポートに関連付ける際に使用します。関連付けが行われると、KVM ポートに接続されたデバイスの電源を「Port Access」(ポートアクセス)タブから操作できるため、別のウェブセッションを立ち上げて電源管理デバイス进行操作する必要はなくなります。ここで使用するスクリーンショットは、あくまで参照用です。また、KN1108VA/KN1116VA のウェブ GUI アイコンは、新しいファームウェアバージョンで変更になる可能性があります。

このタブを開くと、下図のような画面が表示されます。



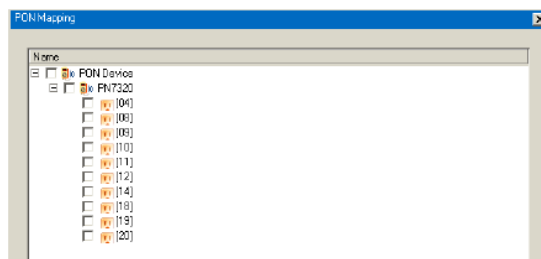
注意: この画面は、KVM スイッチに電源管理デバイスが接続されている時のみ、ご利用いただけます。

◆ 関連付けの追加・解除

選択されているポートにアウトレットを関連付ける場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. 「Add」(追加)ボタンをクリックしてください。

「PON Mapping」(PON マッピング)ダイアログが立ち上がり、関連付けできるアウトレットのリストが表示されます。

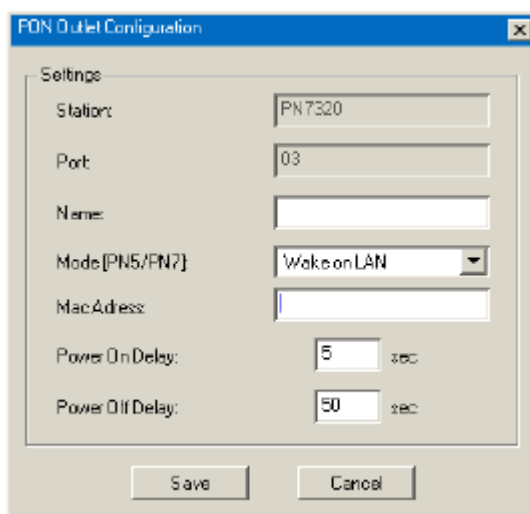


2. ポートに関連付けたいアウトレット(複数選択可)にチェックを入れてください。
3. 「OK」ボタンをクリックしてください。

ポートとアウトレットの関連付けを解除したい場合は、対象となるアイテムをメインパネルから選択し、「Remove」(削除)ボタンをクリックしてください。

◆ アウトレットの設定

「Configuration」(設定)ボタンをクリックすることで、アウトレットをこの画面から直接設定できます。ボタンをクリックすると、下図のようなダイアログが表示されます。



下表を参考にしながら、各項目の設定を行ってください。

項目	説明
Station (ステーション)	アウトレットが属するデバイスの名前です。
Port (ポート)	アウトレットに現在設定されている名前です。
Name (名前)	この欄にアウトレットの名前を設定します。各アウトレットには識別しやすい名前を設定できます。半角英数字 15 文字以内で入力してください。

(表は次のページに続きます)

項目	説明
Mode (モード)	<p>電源の操作モードをドロップダウンリストから選択してください。選択できる項目は下記のとおりです。</p> <p>◆ 「Wake On LAN」、「System after AC Back」はそれぞれセーフシャットダウンとリブートのオプションで、スケジュールされた再起動の際に使用できます。</p> <p>【Wake On LAN モードで電源をオフにする場合】 (PN5xxx/PN7xxx のみ) 電源管理デバイスは、コンピューターにシャットダウン信号を送出します。このとき、コンピューターへの電源供給は維持されます。</p> <p>【Wake On LAN モードで電源をオンにする場合】 (PN5xxx/PN7xxx のみ) 電源管理デバイスは、「Power On Delay」の項目で設定された時間だけ待機した後、コンピューターに「Wake On」信号を送出して電源をオンにします。</p> <p>【System after AC Back モードで電源をオフにする場合】 電源管理デバイスは、コンピューターにシャットダウン信号を送出します。そして、「Power Off Delay」の項目で設定された時間だけ待機した後、コンピューターへの給電をカットし、電源をオフにします。</p> <p>【System after AC Back モードで電源をオンにする場合】 電源管理デバイスは、「Power On Delay」の項目で設定された時間だけ待機した後、コンピューターに電源供給し、電源をオンにします。</p> <p>注意:セーフシャットダウンとリブートに関する詳細は、お使いの電源管理デバイスのマニュアルをご参照ください。</p>

(表は次のページに続きます)

項目	説明
Mode (前ページの続き)	<p>◆ 「Kill the Power」が選択されると、電源管理デバイスは「Power Off Delay」の項目で設定された時間の間待機したあとで、アウトレットの電源をオフにします。ここで電源をオフにした時に実行されるのはコールドシャットダウンです。このシャットダウン方法では、再起動をスケジューリングできません。</p>
MAC Address (MAC アドレス)	<p>電源管理デバイスの MAC アドレスを入力します。</p>
Power On Delay (電源オン遅延時間)	<p>電源ボタンがクリックされてから、そのアウトレットに接続されたコンピュータに電源が入るまで電源管理デバイスが待機する時間を設定します。</p> <p>注意: デフォルトの遅延時間は 0 秒で、最大 999 秒待機できます。複数のアウトレットの電源投入がスケジューリングされると、各アウトレットに対してデフォルトの遅延時間(10 ミリ秒)で順番に電源を投入します。</p>
Power Off Delay (電源オフ遅延時間)	<p>ユーザーが電源ボタンをクリックしてから、そのアウトレットに接続したコンピュータがシャットダウンするまで、電源管理デバイスが待機する時間を設定します。</p> <p>「System after AC Back」オプションの場合、遅延時間を超えると、電源管理デバイスは更に 15 秒待機した後でコンピュータをシャットダウンします。</p> <p>デフォルトの遅延時間は 15 秒で、最大で 999 秒待機します。</p>

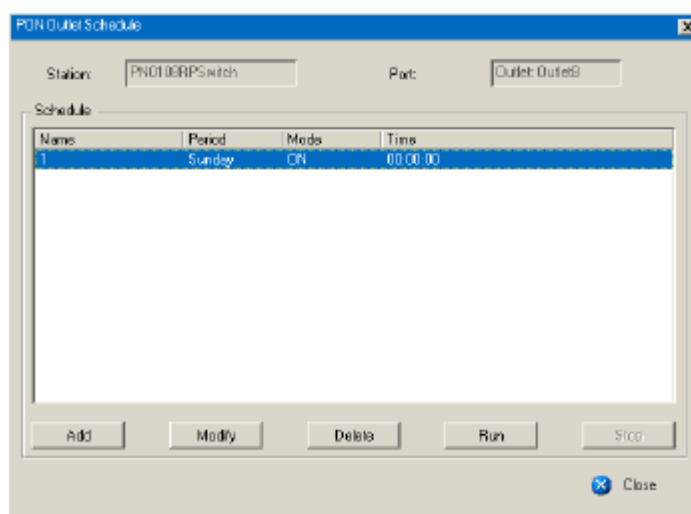
◆ スケジュール

「Schedule」(スケジュール) ボタンをクリックすると、選択ポートに関連付けられたアウトレットに対して、電源の自動管理を設定できます。

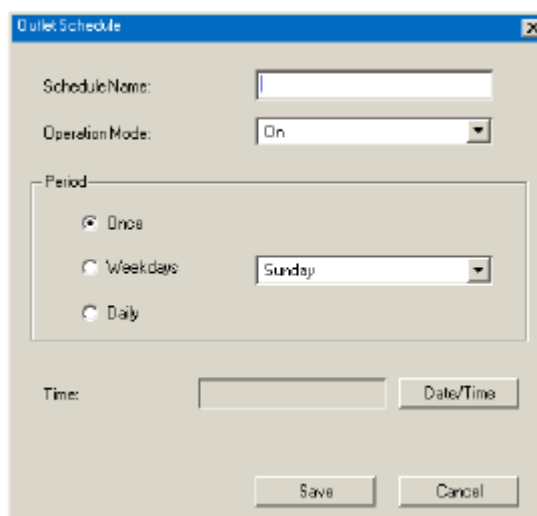
➤ アウトレットスケジュールの追加

アウトレットスケジュールを設定する場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. 目的のアウトレットをメインパネルから選択し、「Schedule」(スケジュール) ボタンをクリックしてください。下図のような「PON Outlet Schedule」(PON アウトレットスケジュール) ダイアログがデフォルトの設定で表示されます。



2. 「Add」(追加) ボタンをクリックしてください。このボタンをクリックすると、下図のような「Outlet Schedule」(アウトレットスケジュール) ダイアログが表示されます。



3. 下表を参考にしながら、アウトレットの設定を行ってください。

項目	説明
Schedule Name (スケジュール名)	スケジューリングされた操作の識別に使う名前を設定してください。
Operation Mode (操作モード)	指定した時刻に処理したい電源操作の種類を選択してください。
Period (周期)	スケジューリングする電源操作を実行する時間(1 回のみ、週次、日次)をドロップダウンから選択してください。
Time (時間)	「Date/Time」ボタンをクリックして、タスクの実行日時を選択してください。

注意: 「Period」(周期)パネルで設定された日付と、操作の開始時刻に不整合がある場合は、その旨メッセージが表示されます。この場合は、「Date/Time」(日付/時刻)ボタンをクリックして、日時をリセットしてください。

4. 設定が完了したら、「**Save**」(保存)ボタンをクリックしてください。
 5. 複数のスケジュールを設定する場合は、上記の操作を繰り返してください。

- ▶ スケジュールを修正する場合は、対象となるアイテムをメインパネルから選択し、「**Modify**」(修正)ボタンをクリックしてください。「Outlet Schedule」ダイアログで設定内容を変更したら、「**Save**」(保存)ボタンをクリックしてください。
- ▶ スケジュールを削除する場合は、対象となるアイテムをメインパネルから選択し、「**Remove**」(削除)ボタンをクリックしてください。
- ▶ 「Outlet Schedule」(アウトレットスケジュール)ダイアログに一覧表示されている電源操作を、スケジュール時間が来る前に実行する場合は、「**Run**」(実行)ボタンをクリックしてください。
- ▶ 「Outlet Schedule」ダイアログに一覧表示されている電源操作を停止する場合は、「**Stop**」(停止)ボタンをクリックしてください。

◆ 同期

ポートとの関連付けの際に複数のアウトレットを選択した場合、「Synchronization」(同期)の項目で設定内容を標準化できます。

この項目を有効にする(チェックを入れる)と、「PON Outlet Configuration」(PON アウトレット設定)ダイアログ(p.171 参照)が表示されます。

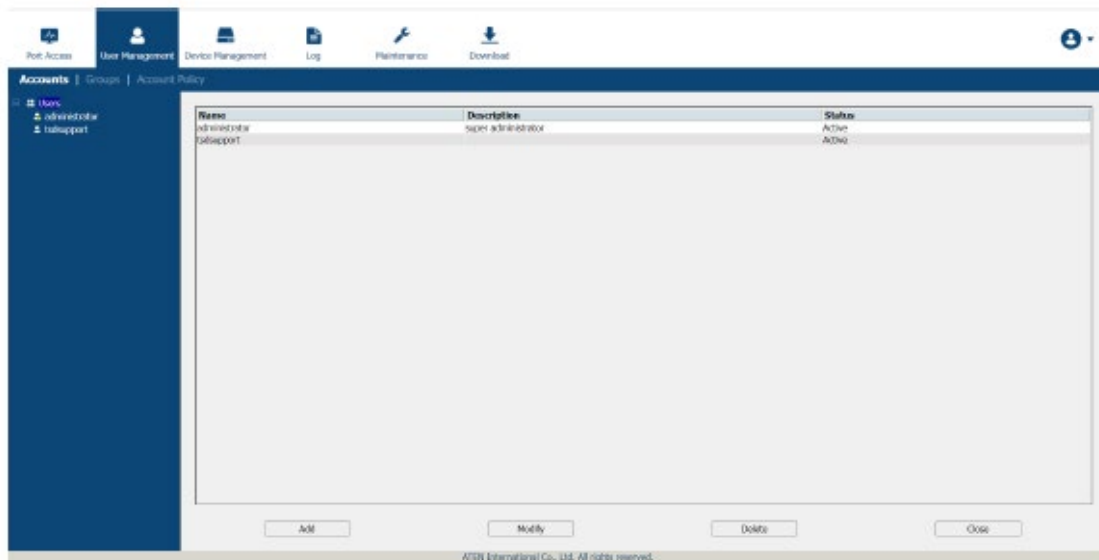
設定された内容は、そのポートに関連付けられた全アウトレットに適用されるため、設定内容はすべて同じになります。また、このポートに関連付けられた全アウトレットは、最初の PON アウトレットと同じスケジュールが設定されます。

第7章 ユーザー管理

概要

「User Management」(ユーザー管理)タブをクリックすると、サイドバーから「Users」(ユーザー)が選択された状態で、同タブの「Accounts」(アカウント)メニューが表示されます。

ブラウザーGUI



アプリケーション GUI

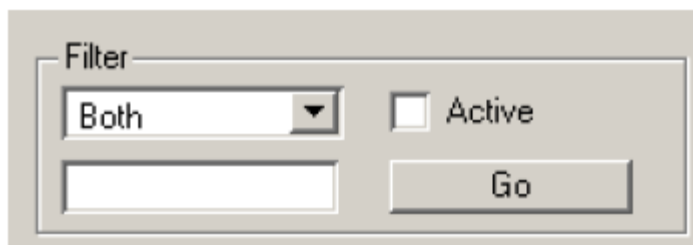
The screenshot displays a web-based application interface for user management. The top navigation bar includes tabs for 'Port access', 'User Management', 'Device Management', 'Log', 'Maintenance', and 'Down load'. The 'User Management' tab is active. On the left, a sidebar shows a tree view with 'Users' (containing 'administrator' and 'tsdsupport') and 'Groups' (containing 'AccountPolicy'). The main area features a table with the following data:

Name	Description	Status
administrator	super administrator	Active
tsdsupport		Active

At the bottom left, there is a 'File' section with a dropdown menu set to 'Both', an 'Active' checkbox, and a 'Go' button. At the bottom center, there are four action buttons: '+ Add', 'Modify', '- Delete', and 'Close'. The footer contains the text 'ATEN International Co., Ltd. All rights reserved.' and the version number 'V1.3.123.20221025'.

この画面は、左側のサイドバーと右側のメインパネルの2つの部分から構成されています。

- ◆ ユーザーとグループは画面左側のパネルに表示されます。右側の大きいパネルには、各ユーザー情報の詳細が表示されます。
 - ブラウザーGUI では、アカウント(ユーザー)やグループに対して個別のメニューバーエントリが提供されています。サイドバーには、選択されているメニューに応じて、ユーザーまたはグループが一覧表示されます
 - アプリケーション GUI ではメニューエントリはありませんが、ユーザーとグループはサイドバーで個別に一覧表示されます。
- ◆ ブラウザーGUI では、メインパネルの列をクリックすると情報の並び順を変更できます。
- ◆ アプリケーション GUI では、サイドバーの下にある「Filter」(フィルター)セクションで一覧を操作します。



- リストボックスの右側の三角ボタンをクリックすると、表示するカテゴリー(ユーザーのみ、グループのみ、ユーザーとグループの両方のいずれか)を選択できます。
 - 「Active」(アクティブ)の項目にチェックを入れると、アカウントが非アクティブなユーザーを除外できます。
 - ユーザー名が特定の文字列に一致したユーザーまたはグループを検索したい場合は、検索文字列を「Go」(検索)ボタンの左隣にあるテキストボックスに入力し、「Go」(検索)ボタンをクリックしてください。条件に一致したユーザーとグループだけが表示されます。ここでは、ワイルドカード(1文字の場合は?, 複数の文字の場合は*)や、「or」キーワードを使用できます。例えば、「h*ds」という文字列を指定した場合、「hands」と「hoods」がヒットします。「h?nd」という文字列を指定した場合、「hand」または「hind」がヒットしますが、「hard」はヒットしません。「h*nd or h*ks」という文字列を指定した場合、「hand」と「hooks」がヒットします。
- ◆ メインパネルの下側にあるボタンは、ユーザーおよびグループを管理する際に使用します。詳細は次のセクションで説明します。

ユーザー

本製品では、以下の3種類のユーザータイプを提供しています。

ユーザータイプ	役割
スーパーアドミニストレーター	ポートやデバイスへのアクセスおよび管理、ユーザーやグループの管理、システム設定全般、個人の作業環境の設定が可能です。
アドミニストレーター	権限のあるポートやデバイスへのアクセスおよび管理、ユーザーやグループの管理、個人の作業環境の設定が可能です。
ユーザー	権限のあるポートやデバイスへのアクセス、権限のあるポートやデバイスの管理、個人の作業環境の設定が可能です。 注意: このタイプのユーザーであっても、権限が与えられている場合は他のユーザーを管理できます。

ユーザーの作成

ユーザーを作成する場合は、以下の手順で操作してください。

1. (ブラウザGUIの場合) メニューバーから「Users」(ユーザー)を選択してください。
- または -
(アプリケーション GUIの場合) サイドバーから「Users」(ユーザー)を選択してください。
2. メインパネル下部にある「Add」(追加) ボタンをクリックしてください。下図のように「Users」(ユーザー)タブが選択された状態で画面が表示されます。

The screenshot shows a web-based user creation interface. At the top, there are three tabs: 'User', 'Groups', and 'Devices', with 'User' selected. The main content area is titled 'User Information' and contains several sections:

- User Information:** Four text input fields for 'Username:', 'Password:', 'Confirm Password:', and 'Description:'.
- Role:** A radio button group with three options: 'Super Administrator', 'Administrator', and 'User'. The 'User' option is selected.
- Permissions:** A grid of checkboxes for various permissions. The checked options are 'Windows Client', 'Java Client', and 'SSH Client'. Other unchecked options include 'Device Management', 'Port Configuration', 'User Management', 'Maintenance', 'System Log', 'View only', 'Telnet Client', 'Force to Grayscale', and 'Power Management'.
- Status:** A radio button group for account status. The selected options are 'Account never expires' and 'Password never expires'. Other options include 'Disable account', 'Account expires on' (with an adjacent input field), 'User must change password at next login', 'User cannot change password', and 'Password expires after' (with an input field showing '30' and the unit 'days').

At the bottom right corner of the form, there is a 'Save' button with a floppy disk icon.

3. 必要な項目を入力してください。各項目の詳細は下表のとおりです。

項目	説明
Username (ユーザーネーム)	アカウントポリシーの設定に応じて、1～16 文字で設定してください(p.198 参照)。
Password (パスワード)	アカウントポリシーの設定に応じて、0～32 文字で設定してください(p.198 参照)。
Confirm Password (確認用パスワード)	パスワードの誤設定を防ぐために、パスワードを再入力してください。ここにはパスワードの欄に入力された文字列と同じものを入力してください。
Description (説明)	ユーザーに関する付加情報があれば、この欄に入力してください。
Role (ロール)	<p>スーパーアドミニストレーター、アドミニストレーター、ユーザーのカテゴリから選択できます。システム上作成可能なユーザー数の範囲内であれば、各カテゴリとも作成するアカウントの数に上限はありません。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ スーパーアドミニストレーターは、システム全体の設定や保守、ユーザー管理、デバイスやポートの割り当てがそれぞれ可能です。スーパーアドミニストレーターの権限(p.183 参照)は、システムによって自動的に割り当てられているため、変更できません。 ◆ デフォルトでは、アドミニストレーターに、グレースケール表示以外の権限が与えられていますが、権限チェックボックスへのチェックのオン・オフで権限設定の変更が可能です。 ◆ ユーザーには、Windows・Java・SSH の各クライアントの操作権限がデフォルトで与えられていますが、権限のチェックボックスにチェックを入れたり、ここからチェックを外したりすることで権限の設定を変更できます。 <p>注意: ユーザー管理権限があるユーザーは、グループへのアクセスや、グループの設定ができません。</p>

(表は次のページに続きます)

項目	説明
<p>Permissions (許可)</p> <p>注意: 一般ユーザーは、デバイス管理、ポート設定、メンテナンスの各権限に加え、そのユーザーが管理できるデバイスやポートに対する権限を設定する必要があります。詳細については p.194「デバイスの割り当て」をご参照ください。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 「Device Management」(デバイス管理)の項目にチェックを入れると、KVM スイッチの操作全体にかかわるパラメーターの設定や制御が可能になります(p.200「デバイス管理」参照)。 ◆ 「Port Configuration」(ポート設定)の項目にチェックを入れると、各ポートにかかわるパラメーターの設定や制御が可能になります(p.165「ポート設定」参照)。 ◆ 「User Management」(ユーザー管理)の項目にチェックを入れると、ユーザーやグループアカウントの作成・変更・削除が可能になります。 ◆ 「Maintenance」(メンテナンス)の項目にチェックを入れると、「Maintenance」(メンテナンス)タブで提供されている操作がすべて利用可能になります(p.289「メンテナンス」参照)。 ◆ 「System Log」(システムログ)の項目にチェックを入れると、システムログへのアクセスが可能になります(p.245「ログ」参照)。 ◆ 「View Only」(参照のみ)の項目にチェックを入れると、ユーザーは製品本体に接続されたデバイス画面の参照しかできなくなります。ポートへのアクセスや、キーボードやマウスを使ったポート操作はできません。 ◆ 「Windows Client」の項目にチェックを入れると、WindowsClient ソフトウェアのダウンロードや、このソフトウェア経由でのアクセスが可能になります。 ◆ 「Java Client」の項目にチェックを入れると、JavaClient ソフトウェアのダウンロードや、このソフトウェア経由でのアクセスが可能になります。 ◆ 「SSH Client」の項目にチェックを入れると、SSH セッション経由でのログインやアクセスが可能になります。 ◆ 「Telnet Client」の項目にチェックを入れると、Telnet セッション経由でのログインやアクセスが可能になります。 ◆ 「Force to Grayscale」(グレースケール表示する)の項目にチェックを入れると、ユーザーが表示しているリモート画面をグレースケールに変更します。この操作によって、低帯域のネットワーク環境でのレスポンス向上が図れます。 ◆ 「Power Management」(電源管理)の項目にチェックを入れると、製品本体に接続された ATEN 製 PDU の管理が可能になります。

(表は次のページに続きます)

項目	説明
Status (ステータス)	<p>ユーザーアカウントとデバイスへのアクセスを管理できます。詳細は以下のとおりです。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 「Disable Account」(アカウントを無効にする)の項目にチェックを入れると、そのユーザーアカウントの使用を停止できます。この機能ではユーザーアカウントの物理的削除は行わないため、後から簡単に設定を復元できます。 ◆ アカウントに有効期限を設けたくない場合は「Account never expires」(アカウントを無効にしない)の項目を選択してください。また、アカウントに有効期限を設ける場合は「Account expires on」(アカウント失効日)の項目を選択し、有効期限の日付をテキストボックスに入力してください。 ◆ ユーザーが次回ログインする際にパスワードの変更を要求する場合は、「User must change password at next login」(ユーザーは次回ログイン時にパスワードを変更する)の項目にチェックを入れてください。この項目を使うことで、初回ログインは管理者によって発行された一時パスワードを使用し、2回目以降はユーザー自身が設定したパスワードを使うという方法で運用できます。 ◆ パスワードを永続的にし、ユーザーに変更されないようにしたい場合は、「User cannot change password」(ユーザーによるパスワード変更は不可)の項目にチェックを入れてください。 ◆ セキュリティ対策として、アドミニストレーターはユーザーに対して定期的なパスワード変更を要求することもできます。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ パスワードに有効期限を設けない場合は、「Account never expires」(アカウントを無効にしない)の項目を選択してください。これによって、ユーザーはパスワードの有効期限の制限を受けることはありません。 ➤ パスワードに有効期限を設ける場合は、「Account expires on」(アカウント失効日)の項目を選択し、パスワードの有効日数を入力してください。ここで設定した日数が経過すると、新しいパスワードを設定しなければなりません。

4. ユーザーの作成時に、メインパネルの「Groups」(グループ)タブで新しいユーザーをグループに登録することもできます(「グループ」タブについては p.190 参照)。「Devices」(デバイス)タブではユーザーにポートアクセス権限を割り当てることができます。(このタブについては p.194

参照)

注意: グループの設定はここでは必須ではありませんので、この手順を省略し、先にユーザーやグループを作成しておいてから、後でユーザーをグループに登録したり、ユーザーに権限を与えたりすることもできます。

5. 各項目への入力が終わったら「**Save**」(保存)ボタンをクリックしてください。
6. 操作に成功すると、メッセージボックスに「オペレーション成功」と表示されます。ダイアログの「**OK**」ボタンをクリックして、操作を終了してください。
7. メイン画面に戻る場合は、サイドバーの「**Users**」(ユーザー)をクリックしてください。サイドバーの一覧とメインパネルに新しいユーザーが表示されます。
 - ◆ サイドバーのユーザーリストは展開や折り畳みが可能です。リストが展開されている場合は、「**Users**」(ユーザー)の隣にある「-」をクリックするとツリーが閉じます。また、リストが閉じている場合は「+」をクリックするとリストが展開します。
 - ◆ 首に黒い二重のバンドがついているアイコンはスーパーアドミニストレーターを、また、首に赤い一重のバンドがついているアイコンはアドミニストレーターをそれぞれ表します。
 - ◆ 大きいメインパネルにはユーザーの名前、アカウント作成時に設定された説明、アカウントの状態(有効/無効)が表示されます。

ユーザーアカウントの編集

ユーザーアカウントを編集する場合は、以下の手順で操作してください。

1. サイドバーの「**Users**」(ユーザー)リストから、編集対象となるユーザーの名前をクリックしてください。
 - または -メインパネルで、編集対象となるユーザーの名前を選択してください。
2. 「**Modify**」(変更)ボタンをクリックしてください。
3. メイン画面の「**User**」(ユーザー)タブで内容を変更したら、「**Save**」(保存)ボタンをクリックしてその内容を反映させてください。

注意: 「**User**」(ユーザー)タブに関する詳細は p.180 に、「**Groups**」(グループ)タブに関する詳細は p.190 に、「**Devices**」(デバイス)タブに関する詳細は p.194 にそれぞれ表示されています。

ユーザーアカウントの削除

ユーザーアカウントを削除する場合は、以下の手順で操作してください。

1. メインパネルで、削除対象となるユーザーの名前を選択してください。
2. 「Delete」(削除)ボタンをクリックしてください。
3. 「OK」ボタンをクリックしてください。

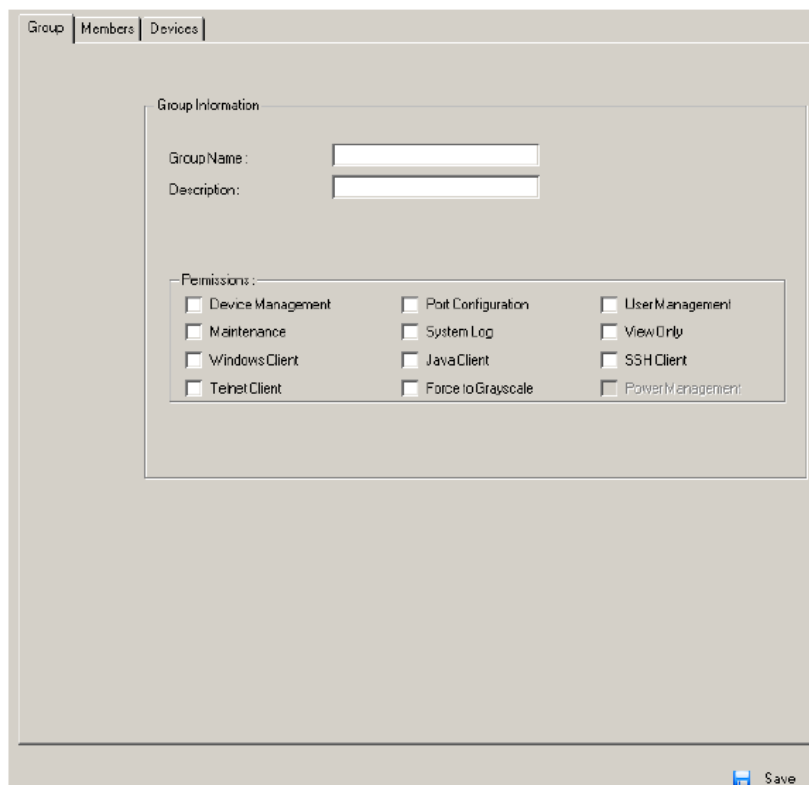
グループ

管理者は、このメニューを使ってユーザーやデバイスを簡単かつ効率的に管理できます。グループ単位で設定すると、デバイスのアクセス権限がグループの全メンバーに適用されるため、管理者は個々のユーザーに対して権限を設定する手間が省けます。複数のグループを定義して、複数のユーザーに特定のデバイスへのアクセスを許可したり、反対に、特定のデバイスへのアクセスを禁止したりできます。

グループの作成

グループを作成する場合は、以下の手順で操作してください。

1. (ブラウザGUIの場合) メニューバーから「Groups」(グループ)を選択してください。
- または -
(アプリケーション GUI の場合) サイドバーから「Groups」(グループ)を選択してください。
2. メインパネル下部にある「Add」(追加) ボタンをクリックしてください。下図のように「Group」(グループ)タブが選択された状態で画面が表示されます。



The screenshot shows a web-based interface for creating a group. At the top, there are three tabs: 'Group', 'Members', and 'Devices', with 'Group' selected. Below the tabs is a form titled 'Group Information'. It contains two input fields: 'Group Name' and 'Description'. Below these fields is a section titled 'Permissions' containing a grid of nine checkboxes for different permissions: Device Management, Maintenance, Windows Client, Telet Client, Port Configuration, System Log, Java Client, Force to Grayscale, User Management, View Only, SSH Client, and Power Management. At the bottom right of the form, there is a 'Save' button with a floppy disk icon.

3. 必要な項目を入力してください。各項目の詳細は下表のとおりです。

項目	説明
Group Name (グループネーム)	最大 16 文字で設定してください。
Description (説明)	グループに関する付加情報があれば、最大 63 文字でこの欄に入力してください。
Permissions (許可)	グループに対する操作許可と操作制限は、各操作のチェックボックスで個別に設定を行ってください。これらの権限は「Users」(ユーザー)タブの権限と同じです。詳細については p.183 をご参照ください。

4. グループの作成時に、「Members」(メンバー)タブで新規ユーザーをグループ登録できます(「Members」(メンバー)タブについては p.192 参照)。「Devices」(デバイス)タブではグループにポートアクセス権限を割り当てることができます(「Devices」(デバイス)タブについては p.194 参照)。

注意: グループの設定は、ここでは必須ではありません。この手順を省略し、ユーザーやグループを作成してから、ユーザーのグループ登録やユーザーへの権限操作を行うこともできます。

5. 各項目への入力が終わったら「Save」(保存)ボタンをクリックしてください。
6. 操作に成功すると、メッセージボックスに「Operation Succeeded」(オペレーション成功)と表示されます。ダイアログの「OK」ボタンをクリックして、操作を終了してください。
7. メイン画面に戻る場合は、サイドバーの「Group」(グループ)をクリックしてください。サイドバーの一覧とメインパネルに新しいグループが表示されます。
- ◆ サイドバーのグループリストは展開や折り畳みが可能です。リストが展開されている場合は、「Group」(グループ)の隣にある「-」をクリックするとツリーが閉じます。また、リストが閉じている場合は「+」をクリックするとリストが展開します。
 - ◆ 大きいメインパネルにはグループの名前、グループ作成時に設定された説明が表示されます(この場合、「Status」(ステータス)欄は無効になっています)。

他にも追加するグループがある場合は、上記の操作手順を繰り返してください。

注意: 新規グループを追加する前に、必ず手順7の操作を行ってください。そうしないと、作成したグループが新規に作成しようとしているグループに置き換わってしまいます。

グループの編集

グループを編集する場合は、以下の手順で操作してください。

1. サイドバーの「Group」(グループ)リストから、編集対象となるグループの名前をクリックしてください。
- または -
メインパネルで、編集対象となるグループの名前を選択してください。
2. 「**Modify**」(変更)ボタンをクリックしてください。
3. メイン画面の「Group」(グループ)タブで内容を変更したら、「**Save**」(保存)ボタンをクリックしてその内容を反映させてください。

注意: 「Group」(グループ)タブに関する詳細は p.187 に、「Members」(メンバー)タブに関する詳細は p.192 に、「Devices」(デバイス)タブに関する詳細は p.194 にそれぞれ表示されています。

グループの削除

グループを削除する場合は、以下の手順で操作してください。

1. サイドバーで、「Groups」(グループ)アイコンをクリックしてください。
2. 削除対象となるグループの名前をメインパネルから選択してください。
3. 「**Delete**」(削除)ボタンをクリックしてください。
4. 「**OK**」ボタンをクリックしてください。

ユーザーとグループ

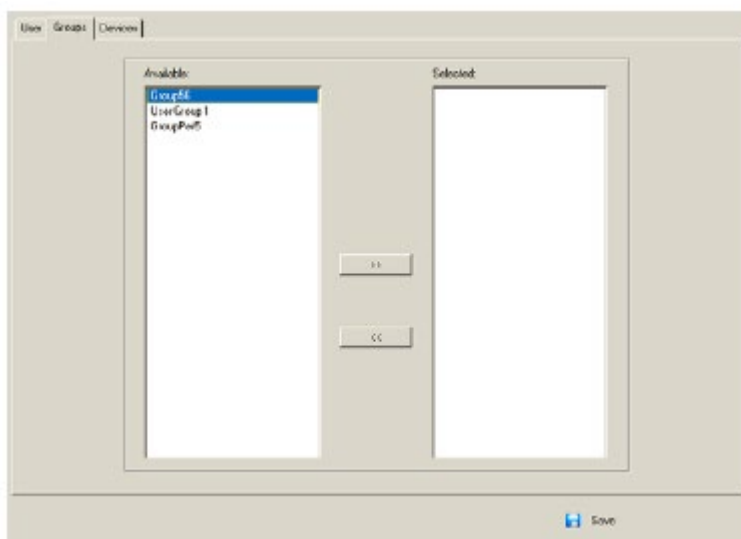
ユーザーやグループの管理は、「Users」(ユーザー)タブ、「Group」(グループ)タブのどちらからでも操作できます。

注意: ユーザーをグループに割り当てる前に、必要となるユーザーとグループを事前に作成しておいてください。詳細については p.181 をご参照ください。

ユーザータブを使ってユーザーをグループに割り当てる場合

「User」(ユーザー)タブを使ってユーザーをグループに割り当てる場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. サイドバーのユーザーリストで、対象となるユーザーの名前をクリックしてください。
- または -
メインパネルで、対象となるユーザーの名前を選択してください。
2. 「**Modify**」(変更)ボタンをクリックしてください。
3. メインパネルから「Groups」(グループ)タブを選択してください。タブを選択すると、下図のような画面が表示されます。



4. 「Available」(有効)リストから、ユーザーの所属先となるグループを選択してください。
5. 右矢印のボタン(>)をクリックして、手順 4 で選択したグループを「Selected」(選択)リストに移動させてください。
6. 他にもユーザーの所属グループがある場合は、上記の手順を繰り返してください。

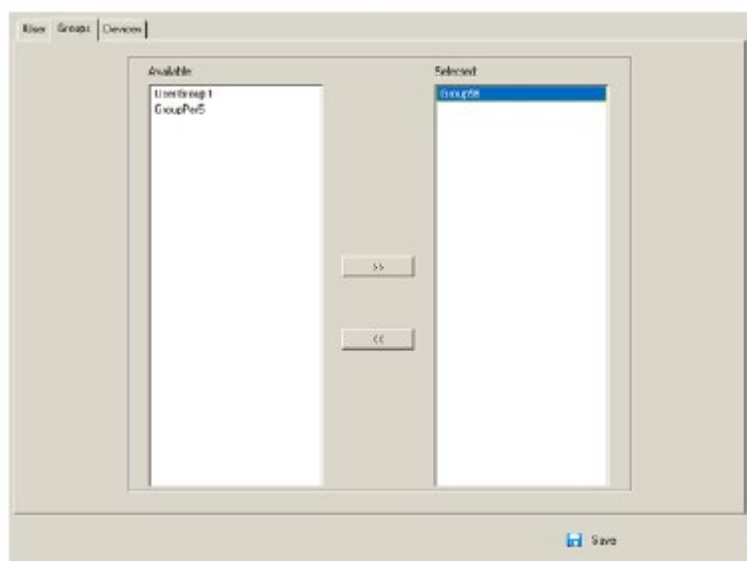
7. グループの選択が完了したら、「Save」(保存)ボタンをクリックしてください。

注意: グループに設定された権限とは別の権限がユーザーに与えられている場合は、この権限も保持されます。

ユーザーメニューを使ってグループからユーザーを削除する場合

「User」(ユーザー)タブを使ってユーザーをグループから削除する場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. サイドバーのユーザーリストで、対象となるユーザーの名前をクリックしてください。
 - または -メインパネルで、対象となるユーザーの名前を選択してください。
2. 「Modify」(変更)ボタンをクリックしてください。
3. メインパネルから「Groups」(グループ)タブを選択してください。タブを選択すると、下図のような画面が表示されます。

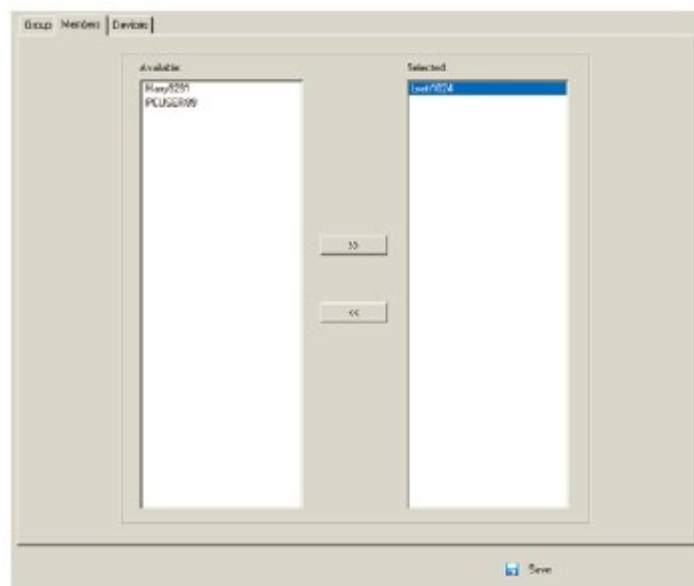


4. 「Selected」(選択)リストから、ユーザーの登録を解除したいグループを選択してください。
5. 左矢印のボタン(<<)をクリックして、手順 4 で選択したグループを削除してください(選択されたグループは「Available」(有効)リストに戻ります)。
6. 他にもユーザーの登録を解除したいグループがある場合は、上記の手順を繰り返してください。
7. ユーザーの選択が完了したら、「Save」(保存)ボタンをクリックしてください。

グループメニューを使ってユーザーをグループに登録する場合

「Group」(グループ)タブを使ってユーザーをグループに割り当てる場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. サイドバーのグループリストで、対象となるグループの名前をクリックしてください。
- または -
メインパネルで、対象となるユーザーの名前を選択してください。
2. 「**Modify**」(変更)ボタンをクリックしてください。
3. メインパネルから「Members」(メンバー)タブを選択してください。以下のような画面が表示されます。



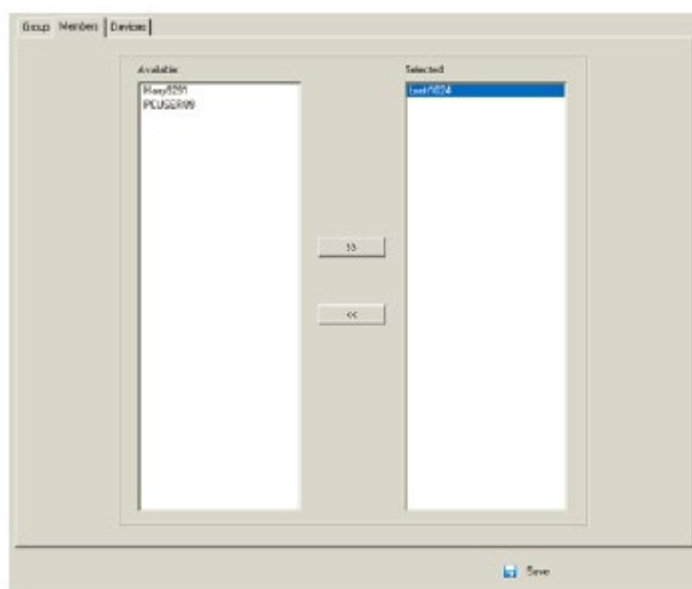
4. 「Available」(有効)リストから、手順 1 で選択したグループのメンバーとなるユーザーを選択してください。
5. **右矢印**のボタン(>)をクリックして、手順 4 で選択したユーザーを「Selected」(選択)リストに移動させてください。
6. 他にも追加したいメンバーがいる場合は、上記の手順を繰り返してください。
7. メンバーの選択が完了したら、「**Save**」(保存)ボタンをクリックしてください。

注意: グループに設定された権限とは別の権限がユーザーに与えられている場合は、この権限も保持されます。

グループメニューを使ってグループからユーザーを削除する場合

「Group」(グループ)タブを使ってユーザーをグループから削除する場合は、以下の手順で操作してください。

1. サイドバーのグループリストで、対象となるグループの名前をクリックしてください。
- または -
メインパネルで、対象となるグループの名前を選択してください。
2. 「**Modify**」(変更)ボタンをクリックしてください。
3. メインパネルから「Members」(メンバー)タブを選択してください。タブを選択すると、下図のような画面が表示されます。



4. 「Selected」(選択)リストから、グループの登録を解除したいユーザーを選択してください。
5. **左矢印**のボタン(←)をクリックして、手順 4 で選択したユーザーを削除してください (選択されたユーザーは「Available」(有効)リストに戻ります)。
6. 他にもグループから除外したいユーザーがいる場合は、上記の手順を繰り返してください。
7. ユーザーの選択が完了したら、「**Save**」(保存)ボタンをクリックしてください。

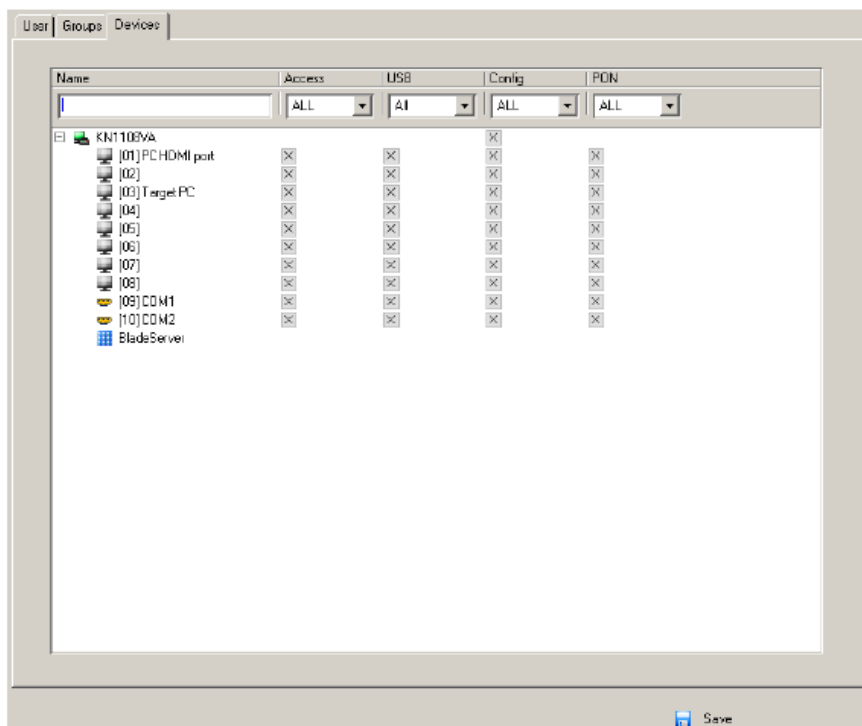
デバイスの割り当て

ユーザーが IP-KVM スイッチにログインすると、「Port Access」(ポートアクセス)タブの画面が最初に表示され、そのユーザーがアクセスを許可されたポートがすべて、画面左側のサイドバーに一覧表示されます。ポートやポートに接続されたデバイスに対するアクセス権限は、「User Management」(アカウント)タブの「User」(ユーザー)または「Group」(グループ)リストからポートごとに割り当てられます。










ユーザーメニューを使ってデバイスの操作権限を割り当てる場合

「User」(ユーザー)タブを使ってデバイスの操作権限を割り当てる場合は、以下の手順で操作してください。

1. サイドバーのユーザーリストで、対象となるユーザーの名前をクリックしてください。
- または -
メインパネルで、対象となるユーザーの名前を選択してください。
2. 「**Modify**」(変更)ボタンをクリックしてください。
3. メインパネルから「Devices」(デバイス)タブを選択してください。タブを選択すると、下図のような画面が表示されます。



4. 下記を参考にしながら、各ポートの権限設定を行ってください。

項目	機能									
Name (名前)	現在操作しているユーザーがアクセスできるポートがこの列に表示されます。									
Access (アクセス)	<p>デバイスへのアクセス権限を設定します。これらの設定内容を切り替える場合は、設定を行いたいユーザーの行にあるこのアイコンをクリックしてください。各アイコンが表す意味は下記のとおりです。</p> <table border="1" data-bbox="485 658 1361 1140"> <tbody> <tr> <td data-bbox="485 658 619 851">  </td> <td data-bbox="619 658 823 851">Full Access (フルアクセス)</td> <td data-bbox="823 658 1361 851">ユーザーはリモート画面を参照できます。また、ユーザー自身が使用しているキーボードとモニターでリモートサーバーを操作できます。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="485 851 619 996">  </td> <td data-bbox="619 851 823 996">View Only (参照のみ)</td> <td data-bbox="823 851 1361 996">ユーザーは、リモート画面の参照はできますが、操作はできません。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="485 996 619 1140">  </td> <td data-bbox="619 996 823 1140">No Access (アクセス不可)</td> <td data-bbox="823 996 1361 1140">このポートへのアクセス権限はなく、ポートはユーザーのメイン画面にも表示されません。</td> </tr> </tbody> </table>		Full Access (フルアクセス)	ユーザーはリモート画面を参照できます。また、ユーザー自身が使用しているキーボードとモニターでリモートサーバーを操作できます。		View Only (参照のみ)	ユーザーは、リモート画面の参照はできますが、操作はできません。		No Access (アクセス不可)	このポートへのアクセス権限はなく、ポートはユーザーのメイン画面にも表示されません。
	Full Access (フルアクセス)	ユーザーはリモート画面を参照できます。また、ユーザー自身が使用しているキーボードとモニターでリモートサーバーを操作できます。								
	View Only (参照のみ)	ユーザーは、リモート画面の参照はできますが、操作はできません。								
	No Access (アクセス不可)	このポートへのアクセス権限はなく、ポートはユーザーのメイン画面にも表示されません。								
USB	<p>リモートサーバーでのバーチャルメディアのマウント権限を設定します。これらの設定内容を切り替える場合は、設定を行いたいユーザーの行にあるこのアイコンをクリックしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 「Full Access」(フルアクセス)に設定した場合、ユーザーはバーチャルメディアのマウント、読み取り、書き込みがそれぞれ可能です。 ◆ 「View Only」(参照のみ)に設定した場合、ユーザーは、バーチャルメディアの参照はできますが(読み取り専用)、操作はできません。 									
Config (設定)	<p>ポート設定の変更権限を定義します。これらの設定内容を切り替える場合は、設定対象となるユーザーの行にあるこのアイコンをクリックしてください。</p> <p>チェックマーク(✓)が付いているユーザーは権限を持っています。また、×マークが付いているユーザーは権限がありません。</p>									
PoN	<p>電源管理デバイスの接続ポートの電源管理操作に関する権限を設定します。チェックマーク(✓)が付いているユーザーは権限を持っています。また、×マークが付いているユーザーは権限がありません。</p>									

5. 内容を設定したら、「Save」(保存)ボタンをクリックしてください。
6. 確認ダイアログが表示されたら、「OK」ボタンをクリックしてください。

注意: 各列の値は、[Shift] キーや[Ctrl]キーを押しながらマウスをクリックすることで、複数のポートの属性を同時に定義できます。選択されたポートで各列のアイコンをクリックすると、その列の設定内容を同時に切り替えます。

フィルター

「Name」(名前)の行に表示されるポートの表示範囲を絞り込むフィルターが5種類あります。詳細は下表のとおりです。

フィルター		説明
Name (名前)		ポートネームにフィルターを掛ける場合は、ポートネームを入力し、[Enter]キーを押してください。その文字列に一致したポートが一覧に表示されます。 検索には、ワイルドカード(1文字の場合は?、複数の文字の場合は*)や、「or」キーワードを使用できます。例えば、「h*ds」という文字列を指定した場合、「hands」と「hoods」がヒットします。「h?nd」という文字列を指定した場合、「hand」または「hind」がヒットしますが、「hard」はヒットしません。「h*nd or h*ks」という文字列を指定した場合、「hand」と「hooks」がヒットします。
Access (アクセス)	All (すべて)	すべてのポートが一覧に表示されます。
	Full Access (フルアクセス)	フルアクセスに設定されているポートだけが一覧に表示されます。
	View Only (参照のみ)	参照のみに設定されているポートだけが一覧に表示されます。
	No Access (アクセス不可)	アクセス不可に設定されているポートだけが一覧に表示されます。

(表は次のページに続きます)

フィルター		説明
USB	All (すべて)	すべてのポートが一覧に表示されます。
	Full Access (フルアクセス)	USB バーチャルメディアデバイスに対する権限がフルアクセスに設定されているポートだけが一覧に表示されます。
	View Only (参照のみ)	USB バーチャルメディアデバイスに対する権限が読み取り専用設定されているポートだけが一覧に表示されます。
	No Access (アクセス不可)	USB バーチャルメディアデバイスに対する権限がアクセス不可に設定されているポートだけが一覧に表示されます。
Config (設定)	All(すべて)	すべてのポートが一覧に表示されます。
	Permitted (許可)	設定が「許可」に設定されているポートだけが一覧に表示されません。
	Restricted (制限)	設定が「制限」に設定されているポートだけが一覧に表示されません。
PoN	All(すべて)	すべてのポートが一覧に表示されます。
	Permitted (許可)	PoN の設定が「許可」に設定されているポートだけが一覧に表示されます。
	Restricted (制限)	PoN の設定が「制限」に設定されているポートだけが一覧に表示されます。

グループメニューを使ってデバイスの操作権限を割り当てる場合

ユーザーグループに対してデバイスの操作権限を割り当てる場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. サイドバーの「Groups」(グループ)リストから、編集対象となるグループの名前をクリックしてください。
 - または -
 - メインパネルで、編集対象となるグループの名前を選択してください。
2. 「**Modify**」(変更)ボタンをクリックしてください。
3. メインパネルから「Devices」(デバイス)タブを選択してください。
4. 「User」(ユーザー)メニューからデバイスの操作権限を割り当てる場合と同じ画面が中央に表示されますので、p.194 の手順に従ってデバイスに操作権限を割り当ててください。
p.194 の手順ではユーザー単位でしか操作権限が割り当てられないのに対し、この手順ではグループ全体に同じ操作権限を割り当てることができます。

アカウントポリシー

システム管理者はこのセクションでユーザーネームやパスワードの管理ポリシーを設定できます。

The screenshot shows the 'Account Policy' configuration window. It includes the following settings:

- Minimum Username Length: 6
- Minimum Password Length: 6
- Password Must Contain At Least:
 - One Upper Case
 - One Lower Case
 - One Number
 - One Special (e.g., ~!@#\$%^&*()_+-'[]/?><)
- Minimum number(%) of characters changed from previous password: 50
- Disable Duplicate Login
- Enforce Password History: 3

A 'Save' button is located at the bottom right of the window.

このセクションにおける各項目の内容は下表のとおりです。

項目	説明
Minimum Username Length (ユーザーネーム最小文字数)	ユーザーネームの最低限必要な文字数を設定します。設定値は 1～16 です。デフォルトは 6 です。
Minimum Password Length (パスワード最小文字数)	パスワードの最低限文字数を設定します。設定値は 0～32 です。0 を設定した場合は、パスワードの入力が不要です。ユーザーはユーザーネームのみでログインできます。デフォルトは 6 です。
Password Must Contain At Least (パスワードには以下が必須)	チェックすると、新規アカウント作成時のパスワードに少なくとも 1 つの大文字、1 つの小文字、または 1 つの数字を含める必要があります。 注意: このポリシーは作成済のアカウントには適用されません。有効後にユーザーを作成したり、パスワードを変更したりした場合にこのポリシーが適用されます。
Minimum number(%) of characters changed from previous password (以前のパスワードから変更された文字の最小数(%))	以前のパスワードから変更する必要がある最小文字数をパーセントで設定します。

項目	説明
Disable Duplicate Login (重複ログインの無効化)	オンにすると、同じアカウントで同時ログインできなくなります。
Enforce Password History (パスワード履歴を実行する)	ユーザーがパスワードの再設定時に、同一パスワードを繰り返して使用することを防ぎます。パスワード履歴を何回前までさかのぼるか設定します。

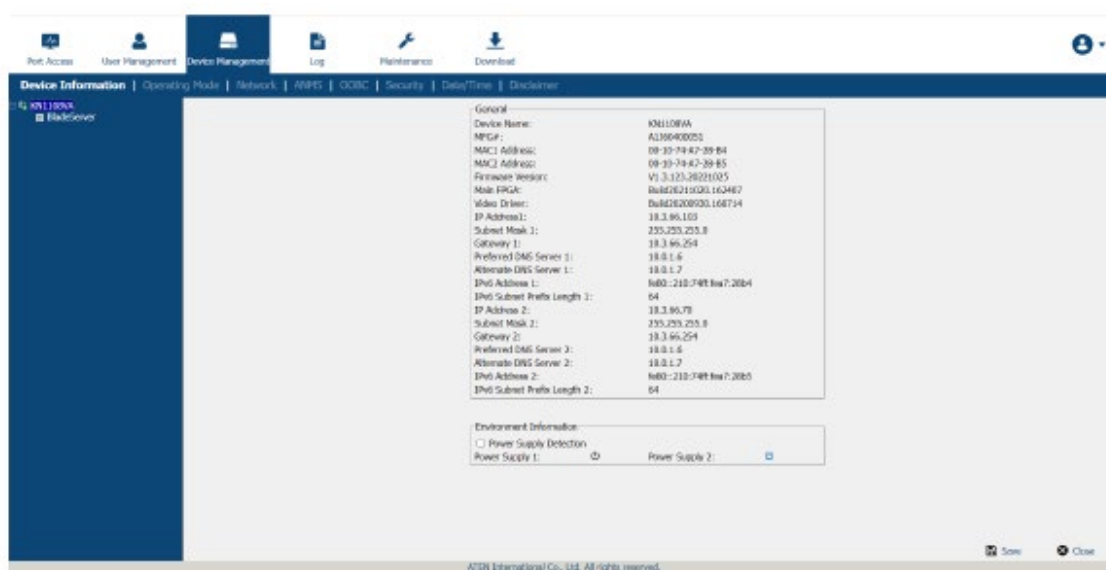
第8章 デバイス管理

KVM デバイス

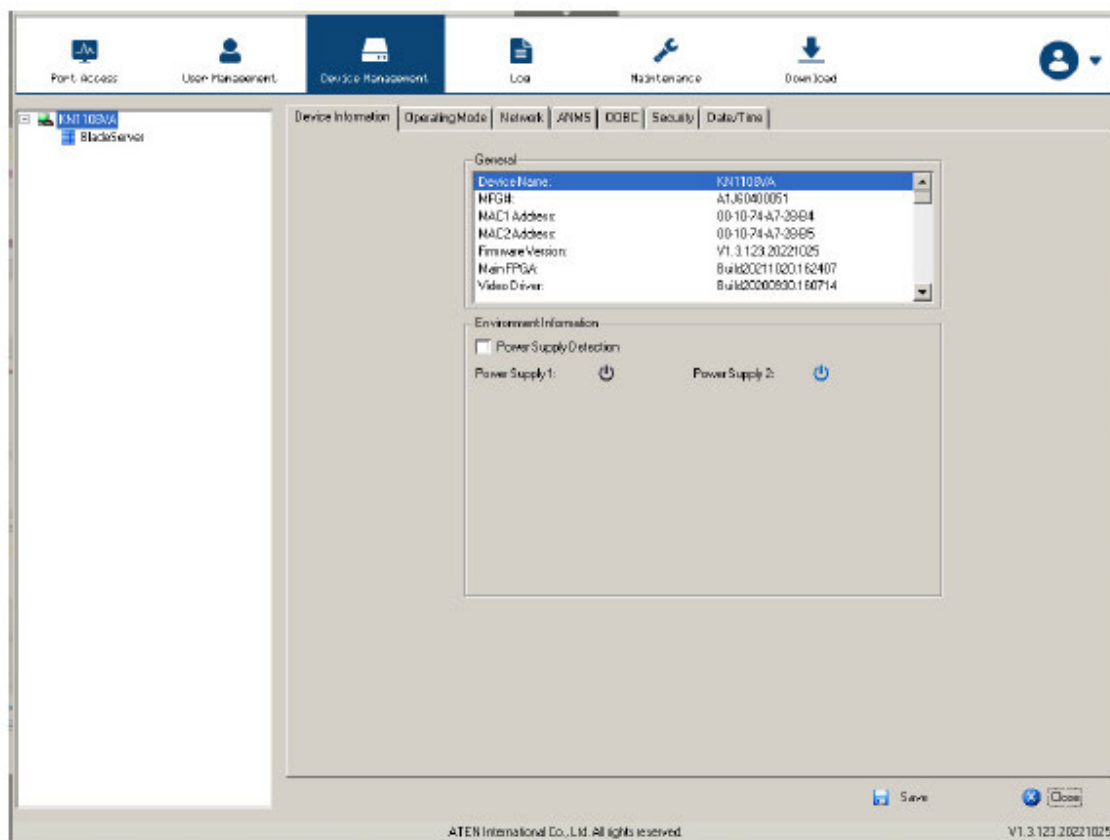
デバイス情報

「Device Management」(デバイス管理)タブを開くと、サイドバーでは1台目にあるKVMスイッチが、また、メニューバーでは「Device Information」(デバイス情報)がそれぞれ選択された状態で画面が表示されます。

ブラウザーGUI



アプリケーション GUI



全般

「Device Information」(デバイス情報)画面の「General」(全般)セクションには、選択デバイスの名前、ファームウェアバージョン、FPGA、ビデオドライバー、およびネットワーク設定に関する情報がそれぞれ表示されます。

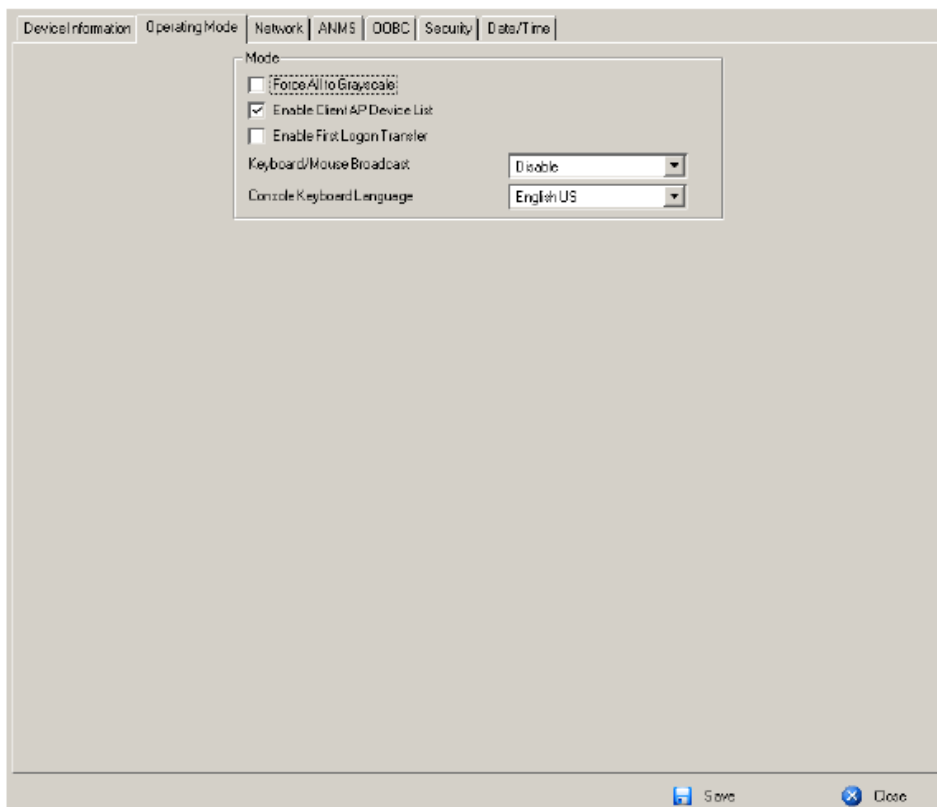
注意: アプリケーション GUI には、ブラウザ版と同じ情報が表示されます。リストの内容を確認する場合は、スクロールバーを操作してください。

環境情報

パネルの下部には、デバイスの環境に関する情報が表示されます。詳細は下表のとおりです。

項目	説明
Power Supply Detection (電源検出)	<p>電源 1 と電源 2 のアイコンは、電源に電流が供給されていない場合は灰色で、また、電流が供給されている場合は青色でそれぞれ表示されます。</p> <p>この機能が有効になっている(項目にチェックが入っている)場合、片方の電源にしか電流が供給されていないと、問題を通知するビープ音が KVM 本体から出力されます。</p> <p>ローカルコンソールから操作している場合は、片方の電源しか使用していないことを確認するメッセージが表示されます。片方の電源を実際に使用している場合は、以下の方法でビープ音を止めることができます。</p> <ol style="list-style-type: none">1) チェックボックスからチェックを外すことで電源に関する警告を無効にします。常にこの機能を無効にしたい場合は、この方法でビープ音を無効にしてください。2) ビープ音の有効・無効は、ダイアログボックスで選択できます。一時的にこの機能を無効にしたい場合は、こちらの方法でビープ音を無効にしてください。この方法で無効にした場合、次にシステムリセットを行った場合に警告機能が再度有効になります。デフォルトの設定では、この機能は有効になっています。

操作モード



この画面では、下記のパラメーターを設定します。

- ◆ 「Force all to grayscale」(グレースケール表示する)の項目を有効にすると、KVM スイッチに接続されている全デバイスのリモート画面がモノクロで表示されます。これによって、低帯域のネットワーク環境でも I/O 転送速度を上げることができます。
- ◆ 「Enable Client AP Device List」(デバイス一覧を有効にする)の項目を有効にすると、WindowsClient(p.63 参照)や JavaClient(p.67 参照)の各アプリケーションを使っている時に、この KVM スイッチがサーバーリストに表示されるようになります。このオプションが無効になっていると、KVM スイッチには接続はできるものの、KVM スイッチにつけられた名前はサーバーリストには表示されません。
- ◆ 「Enable First Logon Transfer」(最初のログオン転送を有効にする)を有効にすると、バスの最初のユーザーだけがポートを切り替えることができます。それ以外のユーザーはアクセスしたいポートにすでに接続されたバスがない限り、または利用可能なフリーバスがない限り、ポートを切り替えることができません(ユーザーとバスに関する詳細は、p.283 参照)。

- ◆ 「Keyboard/Mouse Broadcast」(キーボード/マウスのブロードキャスト)の項目を設定する場合は、隣にあるリストから設定内容を選択してください。

- キーボードのブロードキャスト機能を有効にすると、サイドバーに表示されているサーバーすべてに対してキー操作の信号が送られます。
- マウスのブロードキャスト機能を有効にすると、サイドバーに表示されているサーバーすべてに対してマウス操作の信号が送られます。

-
- 注意:**
1. IP-KVM スイッチからカスケード接続している KVM スイッチで、一度にキーボード/マウスのブロードキャスト機能を使用できるのは、1 ポートだけです。
 2. マウスのブロードキャスト機能を使う場合は、全サーバーで同じ OS が稼働しており、モニターがすべて同じ解像度に設定されており、画面がすべて同じレイアウトになっていなければなりません。
-

- ◆ 「Console Keyboard Language」(コンソールキーボード言語)の項目では、ローカルコンソールで使うキーボードのキーボードマッピングを設定します。隣にあるリストから設定内容を選択してください。

ネットワーク

「Network」(ネットワーク)メニューでは、IP-KVM スイッチのネットワーク関連の項目を設定できます。

The screenshot displays a network configuration window with the following sections:

- IP Installer:** Radio buttons for Enabled, View Only, and Disabled.
- Service Ports:** Input fields for Program (9000), HTTP (80), HTTPS (443), SSH (22), and Telnet (23).
- NIC Settings:**
 - Redundant NIC
 - Dropdown menu: 1000M Network Adapter 1
 - IPv4 Settings:**
 - Obtain IP address automatically [DHCP]
 - Set IP address manually [Fixed IP]
 - IP Address: 10 . 3 . 66 . 103
 - Subnet Mask: 255 . 255 . 255 . 0
 - Default Gateway: 10 . 3 . 66 . 254
 - DNS Server:
 - Obtain DNS server address automatically
 - Set DNS server address manually
 - Preferred DNS server: 10 . 0 . 1 . 6
 - Alternate DNS server: 10 . 0 . 1 . 7
 - IPv6 Settings:**
 - Obtain IPv6 address automatically [DHCP]
 - Set IPv6 address manually [Fixed IP]
 - IPv6 Address: fe80::210:74ff:fea7:29b4
 - Subnet Prefix Length: 64
 - Default Gateway: [Empty]
 - DNS Server:
 - Obtain DNS server address automatically
 - Set DNS server address manually
 - Preferred DNS server: [Empty]
 - Alternate DNS server: [Empty]
- Network Transfer Rate: 99999 Kbps

Buttons: Save, Close

この画面における各項目については、後のセクションで説明します。

IP インストーラー

IP インストーラーは、IP-KVM スイッチに外部から IP アドレスを設定できる Windows 用ソフトウェアです。

IP インストーラーの用途に応じて、「Enable」(有効)、「View Only」(参照のみ)、「Disable」(無効)のいずれかのラジオボタンをクリックしてください。IP インストーラーの詳細については p.206 をご参照ください。

-
- 注意:**
1. 「View Only」(参照のみ)を選択した場合、IP-KVM スイッチは IP インストーラーのデバイスリストで確認できますが、この IP インストーラーを使った IP アドレスの変更はできません。
 2. セキュリティーを保護するために、IP インストーラーの使用後には、この項目を「View Only」(参照のみ)または「Disable」(無効)に設定してください。
-

サービスポート

セキュリティ対策としてシステムにファイアーウォールを導入している場合、管理者はファイアーウォールの設定で許可されたポート番号を IP-KVM スイッチ側でも設定する必要があります。デフォルト以外のポートを使っている場合、ログインの際に、このポート番号を IP アドレスの一部として入力しなくてはなりません。ポート番号の入力が間違っていたり、未入力だったりすると、IP-KVM スイッチを検索しても表示されません。各項目の内容は下表のとおりです。

項目	説明
Program (プログラム)	WindowsClient や Java ビューア、Windows/Java アプリケーションプログラム、またバーチャルメディアから IP-KVM スイッチに接続する際に使用するポート番号です。デフォルトでは 9000 に設定されています。
HTTP	ブラウザからのログインの際に使用するポート番号です。デフォルトでは 80 に設定されています。
HTTPS	SSL 通信に使用するポート番号です。デフォルトでは 443 に設定されています。
SSH	SSH によるアクセスで使用するポートです。デフォルトでは 22 に設定されています。
Telnet	Telnet でのアクセスに使用するポートです。デフォルトでは 23 に設定されています。

注意:	<ol style="list-style-type: none">1. 各サービスポートで有効な値は 1~65535 です。2. これらのポートはそれぞれ固有のポートを割り当て、項目間で値が重複しないように設定してください。3. ファイアーウォールが設置されている環境では、ネットワーク管理者とご相談の上、設定してください。
------------	---

NIC の設定

◆ Redundant NIC (冗長化 NIC)

KN1108VA/KN1116VA はネットワークインターフェースを 2 ポート搭載しています。「Redundant NIC」(冗長化 NIC)の項目が有効になっていると(デフォルト設定)、両方のインターフェースでネットワークアダプター1 の IP アドレスを使用できます。

この設定を行った場合、セカンドインターフェースは通常、非アクティブな状態になっていますが、第 1 インターフェースにネットワーク障害が発生すると、IP-KVM スイッチは第 2 インターフェースへと自動的に切り替わります。帯域拡張機能はございません。

➤ 冗長ネットワークを有効にする - 両方のインターフェースに同じ IP アドレスを設定

冗長ネットワークを有効にするには、以下の手順で操作してください。

1. 「Redundant NIC」(冗長化 NIC)の項目にチェックを入れてください。
2. 「Network Adapter 1」(ネットワークアダプター1)がネットワークアダプターリストで選択され、リストボックスは無効になります。「Network Adapter 2」(ネットワークアダプター2)の項目は設定できません)
3. 「Network Adapter 1」(ネットワークアダプター1)で使用する IP アドレスと DNS サーバーの IP アドレスを設定してください。(次のセクションを参照)

➤ 冗長ネットワークを無効にする - 両方のインターフェースに異なる IP アドレスを設定

冗長ネットワークを無効にすると、両方のインターフェースに異なる IP アドレスを設定できます。IP-KVM スイッチへのアクセスには、両方の IP アドレスを使用可能です。この方法で製品をセットアップする場合は、以下の手順で操作してください。

1. 「Redundant NIC」(冗長化 NIC)の項目にチェックが入っている場合は、クリックしてチェックを外してください。
2. ネットワークアダプターのリストボックスから「Network Adapter 1」(ネットワークアダプター1)を選択してください。
3. 「Network Adapter 1」(ネットワークアダプター1)で使用する IP アドレスと DNS サーバーの IP アドレスを設定してください。(次のセクションを参照)
4. ネットワークアダプターのリストボックスから「Network Adapter 2」(ネットワークアダプ

ター2)を選択してください。

5. 「Network Adapter 2」(ネットワークアダプター2)で使用する IP アドレスと DNS サーバーの IP アドレスを設定してください。

◆ IPv4 Settings (IPv4 設定)

➤ IP Address (IP アドレス)

IPv4 は IP アドレスの従来の設定方法です。KN1108VA/KN1116VA には DHCP を使用して動的 IP アドレスを設定することも、固定 IP アドレスを設定することも可能です。

- ◇ 動的 IP アドレスを割り当てる場合は、「Obtain IP address automatically」(IP アドレスを自動的に取得する)のラジオボタンを選択してください(デフォルト設定です)。
- ◇ 固定 IP アドレスを設定する場合は、「Set IP address manually」(IP アドレスを手動で設定する)のラジオボタンを選択し、お使いのネットワーク環境で有効な IP アドレスを入力してください。

-
- 注意:**
1. 「Obtain IP address automatically」(IP アドレスを自動的に取得する)の項目を選択し、DHCP を使って IP アドレスを自動的に取得する場合、IP-KVM スイッチは起動後に DHCP サーバーからの IP アドレスの割り当てを待機します。1 分経過しても IP アドレスが割り当てられない場合は、工場出荷時のデフォルト IP アドレス (192.168.0.60)へと自動的に戻ります。
 2. IP-KVM スイッチが DHCP でアドレスを割り当てるネットワークに接続していて、なおかつ管理者が IP アドレスを確認する必要がある場合は、p.296 の「IP アドレスの設定」をご参照ください。
-

➤ DNS Server (DNS サーバー)

- ◇ DNS サーバーのアドレスを自動的に割り当てる場合は、「Obtain DNS Server address automatically」(DNS サーバアドレスの自動取得)のラジオボタンを選択してください。
- ◇ DNS サーバーのアドレスを手動で割り当てる場合は、「Set DNS server address manually」(DNS サーバアドレスの手動設定)のラジオボタンを選択し、お使いのネットワークの優先 DNS サーバーと代替 DNS サーバーの IP アドレスをそれぞれ入力してください。

-
- 注意:** 代替 DNS サーバーのアドレスは任意で設定してください。
-

◆ IPv6 Settings (IPv6 設定)

➤ IP Address (IP アドレス)

IPv6 は IP アドレス設定の新しいフォーマット(128 ビット)です(詳細については p.299「IPv6」参照)。KN1108VA/KN1116VA には、DHCP を使用して動的 IPv6 アドレスを設定することも、固定 IPv6 アドレスを設定することも可能です。

◇ 動的 IPv6 アドレスを割り当てる場合は、「Obtain IP address automatically」(IPv6 アドレスを自動的に取得する [DHCP]) のラジオボタンを選択してください(デフォルト設定です)。

◇ 固定 IP アドレスを設定する場合は、「Set IP address manually」(IPv6 アドレスを手動で設定する) のラジオボタンを選択し、お使いのネットワーク環境で有効な IP アドレスを入力してください。

➤ DNS Server (DNS サーバー)

◇ DNS サーバーのアドレスを自動的に割り当てる場合は、「Obtain DNS Server address automatically」(DNS サーバアドレスの自動取得) のラジオボタンを選択してください。

◇ DNS サーバーのアドレスを手動で割り当てる場合は、「Set DNS server address manually」(DNS サーバアドレスの手動設定) のラジオボタンを選択し、お使いのネットワークの優先 DNS サーバーと代替 DNS サーバーの IP アドレスをそれぞれ入力してください。

注意: 代替 DNS サーバーのアドレスは任意で設定してください。

ネットワーク転送速度

「Network Transfer Rate」(ネットワーク転送速度) の項目では、IP-KVM スイッチがリモートコンピューターにデータを転送する速度を設定することで、ネットワークのトラフィック状況を最適化し、データ転送量を調節できます。設定できる値の範囲は 4～99999KBps です。

操作が完了したら

ネットワーク設定を変更したら、ログアウトする前に「Device Management」(デバイス管理) タブ → 「System Operation」(システム操作) メニューの「Reset on Exit」(終了時にリセット) の項目 (p.267 参照) が有効になっている(チェックボックスにチェックが入っている) か確認してください。ログアウト後、製品本体が自動的に再起動すると、ネットワークの設定がデバイスに反映されます。

ANMS

ANMS (Advanced Network Management Settings)メニューでは外部システムからのログイン認証および権限管理に関するセットアップを行います。このメニューは複数のカテゴリーから構成されています。各カテゴリーの内容については、後のセクションで説明します。

イベント送り先

The screenshot displays the ANMS configuration window with the following sections:

- SMTP Settings:**
 - Enable report from the following SMTP Server:
 - SMTP Server: [Empty text box]
 - Service Port: [25]
 - My server requires secure connection (SSL)
 - My server requires authentication
 - Account Name: [Empty text box]
 - Password: [Empty text box]
 - From: [Empty text box]
 - To: [Empty text box]
- Log Server:**
 - Enable
 - M&C Address: [E00855C11934]
 - Service Port: [9001]
- SNMP Trap:**
 - Enable
 - Server IP: [Empty text box]
 - Service Port: [162]
- Syslog Server:**
 - Enable
 - Server IP: [192.168.0.99]
 - Service Port: [9001]

At the bottom right, there are buttons for 'Save' and 'Close'.

◆ SMTP 設定

SMTP サーバーからのレポートをユーザーにメール通知する場合は、以下の手順で操作してください。

1. 「Enable report from the following SMTP server」(以下の SMTP サーバーからの通知を有効にする)の項目にチェックを入れ、お使いの SMTP サーバーの IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、ドメイン名のいずれかを入力してください。
2. お使いの SMTP サーバーに SSL 接続が必要な場合は、「My server requires secure

connection (SSL) (サーバーはセキュアな接続が必要)の項目にチェックを入れてください。

3. サーバーで認証が必要な場合は、「My server requires authentication」(サーバー認証が必要)の項目にチェックを入れて、「Account Name」(アカウント名)、「Password」(パスワード)の各欄にお使いの環境に適した値を設定してください。
4. レポートの差出人となるメールアドレスを「From」欄に入力してください。

注意: 1. 「From」欄に設定できるメールアドレスは一つだけです。64 バイト以内で設定してください。
2. 1 バイトは半角英字 1 文字に相当します。

5. レポートの宛先となるメールアドレスを「To」欄に入力してください。

注意: 複数の宛先にレポートを配信する場合は、アドレスをセミコロンで区切ってください。また、宛先のアドレス全体で 256 バイト以内になるように設定してください。

◆ Log Server (ログサーバー)

ログインや内部ステータスメッセージなど、製品内部で発生した重要なイベントは、自動的にログファイルに記録されます。

- ▶ ログサーバーが動作しているコンピューターの MAC アドレスを「MAC address」(MAC アドレス)欄に入力してください。
- ▶ ログサーバーが動作しているコンピューターがログデータをリッスンしているポートの番号を「サービスポート」欄に入力してください。入力可能な値の範囲は 1~65535 で、デフォルトでは 9001 に設定されています。

注意: このポート番号は、「プログラム」で指定されたポートとは別のポートを使用してください(p.206「プログラム」参照)。

ログサーバーのセットアップ方法については第 13 章をご参照ください。また、ログファイルについては第 9 章で説明しています。

◆ SNMP Trap (SNMPトラップ)

SNMPトラップイベントの通知を受ける場合は、下記の手順に従って設定を行ってください。

1. 「Enable SNMP Agent」(SNMP エージェントを有効にする)の項目にチェックを入れてください。
2. SNMPトラップイベントの通知を受けるコンピューターの IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、ドメイン名のいずれかを「Server IP」(サーバーIP)欄に入力してください。
3. 「Service Port」(サービスポート)欄にポート番号を入力してください。ポート番号の有効な値の範囲は 1~65535 です。

注意: SNMPトラップイベントで通知するログは、「Log」(ログ)タブの「Notification Settings」(通知設定)メニューで設定できます。詳細については p.251 をご参照ください。

◆ Syslog Server (Syslog サーバー)

製品内部で発生した全イベントを記録し、Syslog サーバーに書き込む場合は、下記の手順に従って設定してください。

1. 「**Enable**」(有効にする)の項目にチェックを入れてください。
2. Syslog サーバーの IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、ドメイン名のいずれかを「Server IP」(サーバーIP)欄に入力してください。
3. 「Service Port」(サービスポート)欄にポート番号を入力してください。ポート番号の有効な値の範囲は 1~65535 です。

認証

The screenshot shows a configuration window with tabs for Device Information, Operating Mode, Network, ANMS, CCBC, Security, and Date/Time. The Security tab is active, and the left sidebar shows Event Destination, Authentication, and SNMP Agent. The main area is divided into three sections:

- Disable Device Authentication:** A checkbox labeled "Disable Device Authentication:" is present.
- RADIUS Settings:**
 - Enable:
 - Preferred RADIUS: [Dropdown menu]
 - Server IP: [Text field]
 - Port: [Text field with value 1645]
 - Same as preferred setting:
 - Authentication Type: [Dropdown menu with value CHAP]
 - Timeout: [Text field with value 3] sec
 - Retries: [Text field with value 3]
 - Shared Secret (at least 6 characters): [Text field]
- AD/LDAP Settings:**
 - Enable:
 - Preferred LDAP: [Dropdown menu]
 - Server IP: [Text field]
 - Port: [Text field with value 389]
 - Same as preferred setting:
 - Server requires secure connection (SSL):
 - Timeout: [Text field with value 0] sec
 - Admin DN: [Text field]
 - Admin Name: [Text field]
 - Password: [Text field]
 - Search DN: [Text field]
- CC Management:**
 - Enable:
 - Server IP: [Text field with value 192.168.0.98]
 - Port: [Text field with value 8000]

At the bottom right, there are "Save" and "Close" buttons.

◆ Disable Device Authentication (デバイス認証を無効にする)

このオプションを選択すると、KN1108VA/KN1116VA におけるユーザー認証を無効にします。この設定によって、KN1108VA/KN1116VA へのアクセスには、LDAP、LDAPS、MS Active Directory、RADIUS、CC デバイス統合管理システムのいずれかを使った認証が必須になります。

◆ RADIUS Settings (RADIUS 設定)

RADIUS サーバー経由で KN1108VA/KN1116VA への認証を行う場合は、以下の手順で操作してください。

1. 「**Enable**」(有効にする)の項目にチェックを入れてください。
2. 優先 RADIUS サーバーと代替 RADIUS サーバーのいずれかを選択してください。
3. 優先 RADIUS サーバーまたは代替 RADIUS サーバーの IP アドレスとポート番号をそれぞれ入力してください。IP の各欄は、IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、ドメイン名のいずれかで設定してください。
4. 「Authentication Type」(認証の種類)の項目に対して、PAP または CHAP のいずれかを選択してください。
5. 「Timeout」(タイムアウト)の項目に、IP-KVM スイッチが RADIUS サーバーの応答を待機する最大時間(秒)を入力してください。
6. 「Retries」(再試行)の項目に、RADIUS サーバーを使ったログインの再試行可能回数を設定してください。
7. 「Shared Secret」(共有シークレット)の項目に、RADIUS サーバーとの認証で使用する共有シークレットの文字列を 6 文字以上で入力してください。
8. RADIUS サーバーでは、以下のいずれかの方法でユーザー認証を行うことができます。
 - ユーザーエントリを「**su/xxxx**」として設定する。
「xxxx」の部分は、IP-KVM スイッチでアカウントを作成した際にユーザーに与えられたユーザーネームに置き換えてください。
 - RADIUS サーバー側と IP-KVM スイッチ側で同じユーザーネームを使用する。
 - RADIUS サーバー側と IP-KVM スイッチ側で同じグループネームを使用する。
 - RADIUS サーバー側と IP-KVM スイッチ側で同じユーザーネーム、グループネームを使用する。

いずれの方法においても、ユーザーのアクセス権限は、IP-KVM スイッチでグループユーザーを作成した際に割り当てた権限になります(p.181「ユーザーの作成」参照)。

◆ LDAP/LDAPS 設定

IP-KVM スイッチにログインするユーザーの認証および権限設定を LDAP/LDAPS で行う場合は、以下の表をご参照ください。

項目	説明
Enable (有効にする)	LDAP/LDAPS による認証および権限設定を行う場合は、この項目にチェックを入れてください。
Type (タイプ)	この機能を有効にした時に、LDAP と LDAPS のどちらを使って認証を行うかをラジオボタンで選択してください。
Server IP/Port (サーバーIP/ポート)	優先 LDAP サーバーか代替 LDAP サーバーのいずれかを選択し、LDAP/LDAPS サーバーの IP アドレスやポート番号を入力してください。 ◆ 「Server IP」(サーバーIP) 欄は、IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、ドメイン名を使って設定できます。 ◆ LDAP サーバーのデフォルトポート番号は 389、LDAPS サーバーのデフォルトポート番号は 636 です。
Admin DN (アドミニストレーターDN)	この項目に入力する値は LDAP/LDAPS サーバーの管理者にご確認ください。以下、設定例です。 <code>ou=kn8132,dc=aten,dc=com</code>
Admin Name (アドミニストレーター名)	LDAP アドミニストレーターのユーザーネームを入力してください。
Password (パスワード)	LDAP アドミニストレーターのパスワードを入力してください。
Search DN (サーチ DN)	検索ベースの識別名を設定してください。これはユーザーネームの検索を開始する DNS 名です。
Timeout (タイムアウト)	IP-KVM スイッチが LDAP/LDAPS サーバーの応答を待機する時間(秒)を設定してください。

LDAP/LDAPS サーバーでは、下記のいずれかの方法でユーザー認証を行うことができます。

◆ Active Directory スキーマを使用

- ◆ スキーマを使用せず、IP-KVM スイッチ上で使用されているユーザーネームだけを LDAP/LDAPS サーバー上の名前に一致させる。ユーザー権限は製品上で設定されている権限と同じ。

- ◆ スキーマを使用せず、IP-KVM スイッチ上で使用されているグループだけを一致させる。ユーザー権限は、そのユーザーが属しているグループに設定されている権限と同じ。
- ◆ スキーマを使用せず、Active Directory のユーザーネームとグループを一致させる。ユーザー権限は、そのユーザーが属しているグループとユーザーに設定されている権限と同じ。

注意： LDAP に関する詳細は、弊社ウェブサイトより LDAP 取扱説明書をダウンロードしてご参照ください。

CC 管理の設定

CC(Control Center)サーバー経由で IP-KVM スイッチの認証を行う場合は、「Enable」(有効にする)の項目にチェックを入れ、CC サーバーの IP アドレスと通信に使用するポートを入力してください。「Server IP」(サーバーIP)欄は、IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、またはドメイン名のどれでも設定できます。

注意： この機能が有効の場合、電源管理デバイスを IP-KVM スイッチ上で設定していたとしても、サイドバーには表示されません。というのは、これらの機器の管理が CC サーバーで行われるからです。

SNMP エージェント

「SNMP Agent」(SNMP エージェント)では、弊社ウェブサイトからダウンロードした MIB ファイルを使用して、デバイス管理に関する設定を MIB ブラウザー経由で定義できます。MIB ファイル*を MIB ブラウザーにインポートすると、次のデバイス管理項目の設定を行います。

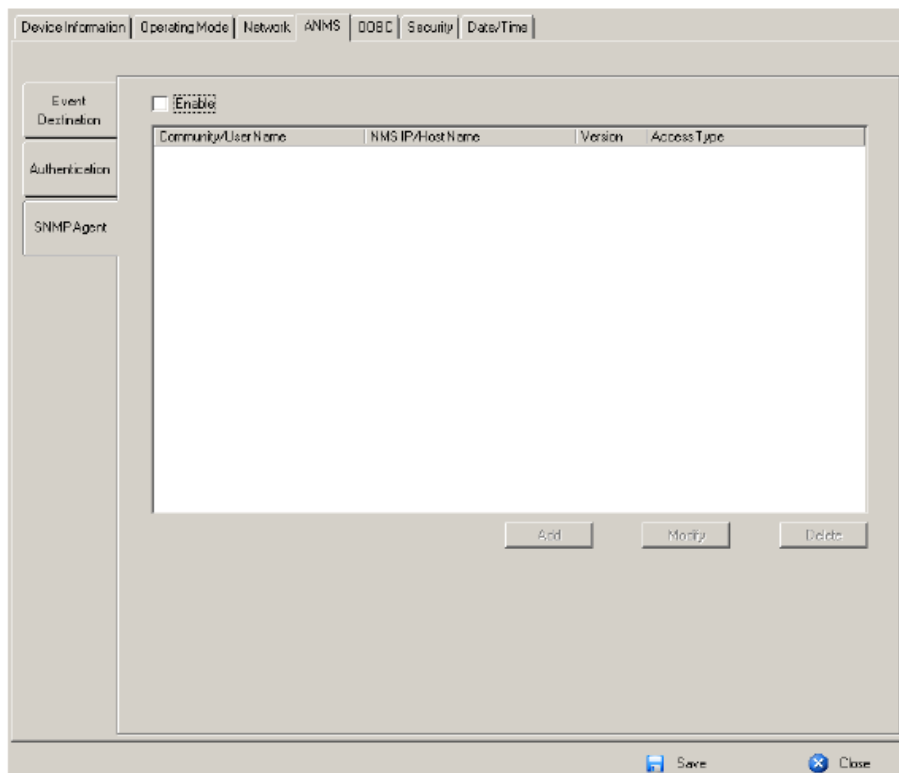
操作モード : モード

ネットワーク : IP インストーラー、サービスポート、IPv4 設定、IPv6 設定

ANMS - イベント送り先 : ログサーバー、SNMPトラップ、

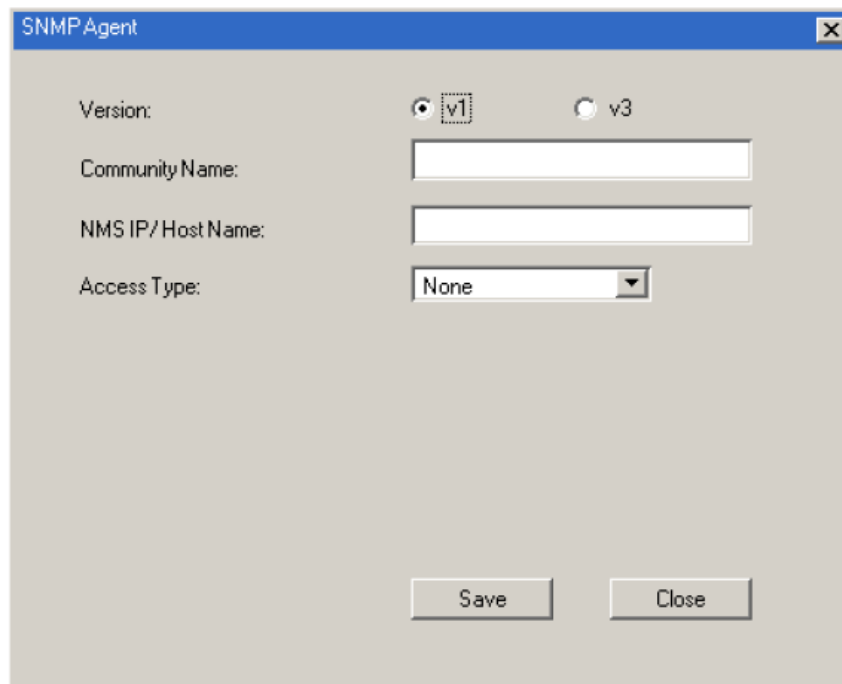
認証 : CC 管理

MIB ブラウザー経由で IP-KVM スイッチに接続する場合は、下記の手順で SNMP エージェントを追加して、IP-KVM スイッチの設定に使用するコンピューターからのアクセスを許可してください。



SNMP エージェントを設定するには、以下の手順に従って操作してください。

1. 「**Enable**」(有効にする)の項目にチェックを入れてください。
2. 「**Add**」(追加)をクリックしてください。下図のようなウィンドウが表示されます。



3. 「Version」(バージョン)を選択してください。
4. 「Community Name」(コミュニティー名)を入力してください。
5. 「NMS IP/Host Name」(NMS IP/ホスト名)を入力してください。ここには MIB ブラウザー経由で IP-KVM スイッチにアクセスするのに使用するコンピューターの IP アドレスを入力してください。
6. 「Access Type」(アクセスタイプ)を選択し、「Save」(保存)をクリックしてください。
7. MIB ブラウザーから MIB ファイル*をインポートして、IP-KVM スイッチの IP アドレスを入力してください。

注意: KN 用の MIB ファイルは、弊社ウェブサイトからダウンロードしてください。ダウンロードは、1) 製品ページ内の「サポートとダウンロード」メニューからアクセス、または、2) ホームページのトップページの右上に表示される(表示画面のサイズによっては画面左上に三本線のアイコンが表示されるので、それをクリックすると表示される)「サポートとダウンロード」→「ダウンロード」→「他の製品の資料をダウンロードする」に型番を入力して検索する方法で行えます。

OOBC

万が一、IP-KVM スイッチが通常の TCP/IP ネットワーク経由でアクセスできなくなったとしても、製品本体のモデムポートを使うことでアクセスが可能です。PPP(モデム)操作を有効にする場合は、「Enable Out of Band Access」(アウトオブバンドアクセスを有効にする)の項目にチェックを入れてください。

注意: PPP のセットアップや操作に関する詳細は、p.340「PPP モデム操作」をご参照ください。

The screenshot shows the configuration interface for Out of Band Access (OOBC). The 'OOBC' tab is selected. Under 'PPP Settings', the 'Enable Out of Band Access' checkbox is checked. The 'Dial Back' section has 'Enable Flex Number Dial Back' selected. The 'Dial Out' section has 'Enable Dial Out' checked, and the 'ISP Settings' fields are visible. The 'Emergency Dial Out' section has 'PPP stays online until network recovery' selected. The 'Dial Out Mail Configuration' section includes fields for SMTP Server IP Address, Service Port, Account Name, Password, Email From, and To. A 'Save' button is located at the bottom right of the window.

アウトオブバンドアクセス機能を有効にすると、「Enable Dial Back」(ダイヤルバックを有効にする)、「Enable Dial Out」(ダイヤルアウトを有効にする)の各機能が利用できるようになります。詳細については後のセクションで説明します。

ダイヤルバックを有効にする

新たに追加されたセキュリティー機能の一つとして、この機能が有効になると、IP-KVM スイッチは自身へのダイヤルイン接続を切断し、下表で定義されたエントリーの一つにダイヤルバック接続します。

項目	説明
Enable Fixed Number Dial Back (固定番号へのダイヤルバックを有効にする)	このラジオボタンが選択されていると、IP-KVM スイッチは着電があった際に、モデム接続を切断し、ここで設定された電話番号のモデムにダイヤルバック接続します。「Phone Number」(電話番号)欄には、IP-KVM スイッチにダイヤルバックさせたい番号を入力してください。
Enable Flexible Dial Back (フレキシブルダイヤルバックを有効にする)	このボタンを選択すると、IP-KVM スイッチは任意のモデムにダイヤルバックできます。 <ol style="list-style-type: none">1. ユーザーが「Password」(パスワード)欄に指定しなければならないパスワードを入力してください。2. IP-KVM スイッチのモデムに接続する際には、ダイヤルバック接続先となる電話番号を「Username」(ユーザーネーム)欄に、また、パスワードを「Password」(パスワード)欄にそれぞれ指定します。

ダイヤルアウトの有効化

ダイヤルアウト機能を使用する場合は、ISP(インターネットサービスプロバイダー)と契約を結び、この ISP で発行されたアカウントにモデムを使ってダイヤルアップ接続してください。このセクションにある項目の詳細は下表のとおりです。

項目	説明
ISP Settings (ISP の設定)	ISP への接続に使用する、電話番号、アカウント名称(ユーザー名称)、パスワードをそれぞれ該当欄に入力してください。
Dial Out Schedule (ダイヤルアウトスケジュール)	<p>ISP 接続で IP-KVM スイッチがダイヤルアウトする回数を設定します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 「Every」(繰り返し)のラジオボタンを選択すると隣にあるリストが有効になり、1～4 時間ごとに定時で実行するように設定できます。 <ul style="list-style-type: none"> ➤ 例えば、2 時間ごとに設定した場合、IP-KVM スイッチは次の 00 分(例 現在 13:10 の場合は、14:00 にダイヤルを開始)から 2 時間おきにダイヤルアウト接続を行います。 ➤ 決まったスケジュールで IP-KVM スイッチにダイヤルアウト接続しない場合は、リストから「Never」(なし)を選択してください。 ◆ 「Daily」(毎日)のラジオボタンを選択すると、指定された時刻に日時でダイヤルアウト接続を行います。時刻の時・分をセミコロン(前後にはスペース不要)で区切り、「hh:mm」のフォーマットで設定してください(設定例 09:18)。 ◆ 「PPP online time」(PPP オンライン時間)欄では、セッションが終了し、モデムとの接続を切断するまで ISP 接続のオンライン状態を継続する時間を設定します。0 を設定すると、常にオンラインになります。
Emergency Dial Out (緊急ダイヤルアウト)	<p>IP-KVM スイッチがネットワークから切断された場合や、ネットワークがダウンした場合に、この機能を使うと、ISP のダイヤルアップ接続でオンラインにできます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ◆ 「PPP stays online until network recovery」(ネットワーク回復まで PPP がオンラインを継続する)のラジオボタンを選択すると、ネットワークが復旧するか IP-KVM スイッチがネットワークに再接続するまで ISP への PPP 接続が持続します。 ◆ 「PPP online time」(PPP オンライン時間)のラジオボタンを選択すると、ここで設定した時間が経過した後に ISP への接続が終了します。0 を設定すると、常にオンラインになります。

(表は次のページに続きます)

項目	説明
Dial Out Mail Configuration (ダイヤルアウトメール設定)	<p data-bbox="608 383 1358 510">このセクションでは、IP-KVM スイッチのポートに接続した機器における問題の発生を通知するメールに関連したパラメーターを設定できます(p.210「SMTP 設定」参照)。</p> <p data-bbox="608 573 1358 701">注意:このメール通知機能は、社内のメールサーバーではなく ISP のメールサーバーを使って処理を行うため、p.210 で説明した SMTP 設定での通知機能とは若干異なります。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li data-bbox="608 763 1358 891">◆ 「SMTP Server IP Address」(SMTP サーバーIP アドレス)欄に、お使いの SMTP サーバーの IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、ドメイン名のいずれかを入力してください。 <li data-bbox="608 909 1358 1037">◆ 「Email From」欄に、SMTP サーバーの責任者またはアドミニストレーターと同等の権限を持ったユーザーのメールアドレスを入力してください。 <li data-bbox="608 1055 1358 1182">◆ 「To」欄に、レポートの宛先となるメールアドレスを入力してください。複数のアドレスに送信する場合は、コンマまたはセミコロンでアドレスを区切ってください。 <li data-bbox="608 1200 1358 1373">◆ サーバーに SSL 接続する必要がある場合は、「SMTP server requires secure connection (SSL)」(SMTP サーバーはセキュアな接続が必要)の項目にチェックを入れてください。 <li data-bbox="608 1391 1358 1563">◆ サーバーで認証が必要とされる場合は、「SMTP server requires authentication」(SMTP サーバーは認証が必要)の項目にチェックを入れて、認証に適切なアカウント名とパスワードを該当欄に入力してください。

項目への入力・設定が完了したら、「Save」(保存)ボタンをクリックしてください。

セキュリティ

「Security」(セキュリティ)メニューは7つのメインパネルから構成されています。これらのパネルについては、後のセクションで説明します。

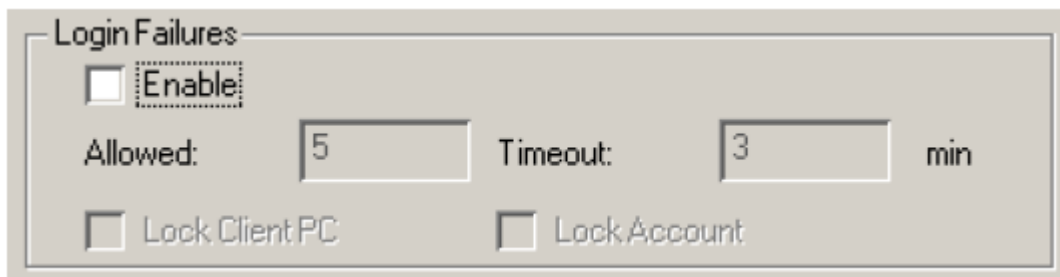
The screenshot shows the 'Security' configuration page in a network device web interface. The page is divided into several sections:

- Login Failures:** Includes an 'Enable' checkbox, 'Allowed' (5) and 'Timeout' (3) fields, and checkboxes for 'Lock Client PC' and 'Lock Account'.
- Filter:** Features an 'Enable IP Filter' checkbox and radio buttons for 'Include' and 'Exclude'. It includes a list area with 'Add', 'Modify', and 'Delete' buttons.
- Encryption:** Contains three sections: 'Keyboard/Mouse', 'Video', and 'Virtual Media', each with checkboxes for DES, 3DES, AES, RC4, and Random.
- Security Level:** Offers radio buttons for 'High', 'Medium-high', and 'Medium', and a 'Custom' option with checkboxes for 'Enable SNMP service', 'Enable Telnet service', 'Enable SSH session', 'Enable HTTP session', and 'Enable HTTPS session'. A dropdown menu shows 'TLS 1.0,1.1,1.2'. A note states: 'Note: you can use either HTTP or HTTPS to login. If you disable both of them, you can use Client AP to login.'
- Working Mode:** Includes checkboxes for 'Enable FIPS', 'Enable Multiuser Operation', 'Enable Virtual Media Write', 'Enable Local Virtual Media', and 'Disable Authentication'.
- Private Certificate:** Features 'Private Key' and 'Certificate' fields with 'Browse...' buttons, and 'Upload' and 'Restore default' buttons.
- Certificate Signing Request:** Includes a 'Certificate' field with a 'Browse...' button, and 'Create CSR', 'Get CSR', 'Upload', and 'Remove CSR' buttons.

At the bottom of the page, there are 'Save' and 'Close' buttons.

ログイン失敗

セキュリティを強化するために、このセクションでは、ユーザーのログイン失敗を処理する際に適用するポリシーを設定できます。



The screenshot shows a configuration window titled "Login Failures". It contains the following elements:

- A checkbox labeled "Enable" which is checked.
- A field labeled "Allowed:" with the value "5".
- A field labeled "Timeout:" with the value "3" and the unit "min".
- A checkbox labeled "Lock Client PC" which is unchecked.
- A checkbox labeled "Lock Account" which is unchecked.

これらのポリシーを設定する場合は、「Enable」(有効にする)の項目にチェックを入れてください(デフォルトではこの項目にチェックが入っています)。各項目が表す内容は下表のとおりです。

項目	説明
Allowed (許可)	リモートコンピューターからのログイン連続試行可能回数を設定します。デフォルトでは5回に設定されています。
Timeout (タイムアウト)	ログイン連続試行可能回数を超えてしまった場合に、次のログインまでに待機しなければならない時間を設定します。デフォルトでは3分に設定されています。
Lock Client PC (ロッククライアント PC)	この項目にチェックが入っていると、ログイン連続試行回数を超えてしまった場合に、そのコンピューターは自動的に締め出され、そのコンピューターからのログインは拒否されてしまいます。デフォルトではこの項目にチェックが入っています。 注意: この機能はクライアントコンピューターの IP アドレスに基づいて処理されています。IP アドレスが変更されると、このコンピューターはロックされなくなります。

(表は次のページに続きます)

項目	説明
Lock Account (ロックアカウント)	この項目にチェックが入っていると、ログイン連続試行回数を超えてしまった場合に、そのアカウントは自動的に締め出され、ログインが拒否されてしまいます。ログイン連続試行回数を超えてしまったユーザーネームとパスワードではログインできません。デフォルトではこの項目にチェックが入っています。

注意: このセクションの項目が未設定の場合、ユーザーは無制限で何度でもログインが試行できてしまいます。セキュリティを維持するために、この機能を有効にし、ロックアウトポリシーを設定してください。

フィルター

The screenshot shows a 'Filter' configuration window. It is divided into two main sections: 'IP Filter' and 'MAC Filter'. Each section includes an 'Enable' checkbox, radio buttons for 'Include' and 'Exclude', a list box for entries, and 'Add', 'Modify', and 'Delete' buttons. A 'Login String' text field is positioned between the two filter sections. In the 'IP Filter' section, the 'Exclude' radio button is selected. In the 'MAC Filter' section, the 'Exclude' radio button is also selected.

◆ IP/MAC フィルター

IP/MAC フィルター機能は、IP-KVM スイッチへの接続を試みるコンピューターの IP アドレスや MAC アドレスに基づいて、アクセスを制御するものです。フィルターは IP と MAC の各フィルターで、それぞれ最大 100 項目作成できます。フィルターを設定すると、IP フィルターは上部のリストボックスに、MAC フィルターは下部のリストボックスに、それぞれ表示されます。

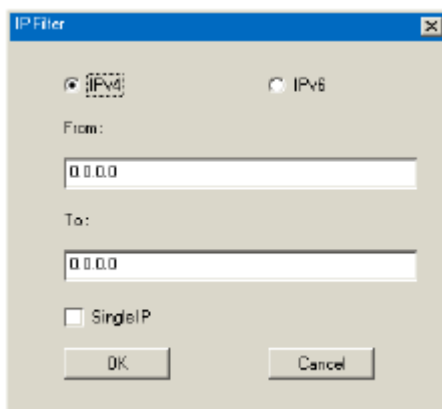
IP フィルターの機能を有効にする場合は「Enable IP Filter」(IP フィルター有効)の項目を、また、MAC フィルターの機能を有効にする場合は「Enable MAC Filter」(MAC フィルター有効)の項目をクリックして、それぞれチェックを入れてください。

- 「Include」(含む)ラジオボタンが選択されている場合は、指定のアドレスもしくは指定範囲内のアドレスからの IP-KVM スイッチへのアクセスを許可します。それ以外のアドレスからのアクセスはすべて拒否されます。
- 「Exclude」(除く)ボタンが選択されている場合は、指定のアドレスもしくは指定範囲内のアドレスからの IP-KVM スイッチへのアクセスを拒否します。それ以外のアドレスからのアクセスはすべて許可されます。

◆ フィルター項目の追加

IP アドレスのフィルター項目は以下の手順で追加してください。

1. 「Add」(追加) ボタンをクリックしてください。このボタンをクリックすると下図のようなダイアログが表示されます。



2. IPv4 アドレスと IPv6 アドレスのどちらでフィルターを掛けるかをラジオボタンで指定してください。
3. 「From」欄にフィルタリングの対象となる IP アドレスを入力してください。
 - IP アドレスが 1 つだけの場合は、「Single IP」(単独 IP) の項目にチェックを入れてください。
 - 複数の IP アドレスの範囲を指定する場合は、その範囲の始点となる IP アドレスを「From」欄に、終点となる IP アドレスを「To」欄にそれぞれ入力してください。

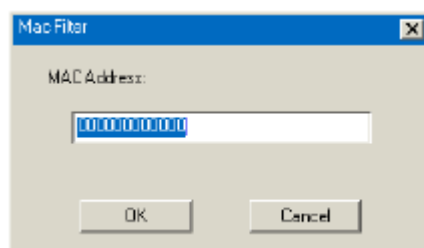
注意: アプリケーション GUI では上記の方法で操作できます。ブラウザ GUI をお使いの場合、下記の点が異なります。

1. IPv4 アドレスと IPv6 アドレスを選択できるラジオボタンは表示されず、IPv4 の「From」欄と「To」欄のみ表示されます。
 2. 「Single IP」(単独 IP) のチェックボックスは表示されません。IPv4 アドレスを 1 つだけフィルタリングする場合は、「From」欄と「To」欄に同じ IP アドレスを入力してください。
-

4. IP アドレスを入力したら、「OK」ボタンをクリックしてください。
5. 他にもフィルター項目がある場合は、上記手順の操作を繰り返して設定してください。

MAC アドレスのフィルター項目は以下の手順で追加してください。

1. 「Add」(追加) ボタンをクリックしてください。このボタンをクリックすると下図のようなダイアログが表示されます。



2. MAC アドレスを入力したら、「OK」ボタンをクリックしてください。
3. 他にもフィルター項目がある場合は、上記手順の操作を繰り返して設定してください。

◆ IP アドレスと MAC アドレスの設定が一致しない場合

あるコンピューターが IP アドレスによるフィルタリングではアクセスが許可されているにもかかわらず、MAC アドレスによるフィルタリングではアクセスが禁止されているといったように、フィルタリングの内容に矛盾がある場合、そのコンピューターからのアクセスはブロックされます。

◆ フィルターの変更

フィルターを変更する場合は、対象となる項目を IP フィルターリスト、または MAC フィルターリストのボックスから選択し、「Modify」(変更) ボタンをクリックしてください。フィルター追加時に表示されるダイアログと同様のダイアログが表示されますので、新しいアドレスに変更してください。

◆ フィルターの削除

フィルターを削除する場合は、対象となる項目を IP フィルターリスト、または MAC フィルターリストのボックスから選択し、「Delete」(削除) ボタンをクリックしてください。

ログイン文字列

スーパーアドミニストレーターは、「Login String」(ログイン文字列)の項目を使って、ユーザーがウェブブラウザでアクセスする際に IP アドレス以外に必要なログイン文字列を設定します。

例えば、IP-KVM スイッチに「192.168.0.126」という IP アドレスが、また、ログイン文字列に「abcdefg」という文字列がそれぞれ設定されている環境では、アドレスバーに下記の URL を入力してアクセスします。

192.168.0.126/ abcdefg

-
- 注意:**
1. IP アドレスとログイン文字列の間はスラッシュ(/)で区切ってください。
 2. ログイン文字列が未設定の場合、IP-KVM スイッチの IP アドレスを指定するだけで、誰でもログイン画面にアクセスできてしまいます。セキュリティレベルを維持するためには、この文字列の設定を推奨します。
-

このログイン文字列は、半角文字を使用して入力してください。入力可能な文字の種類は下記のとおりです。

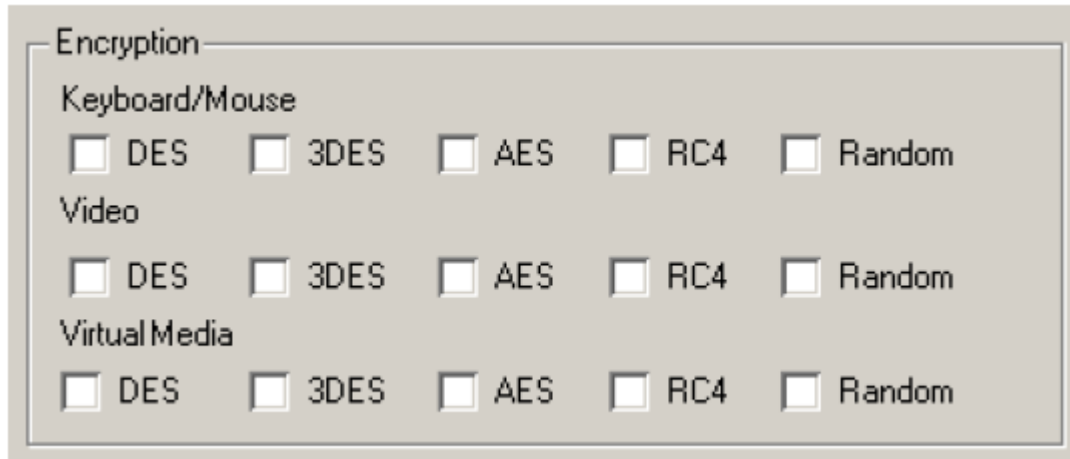
0-9 a-z A-Z ~ ! @ \$ & * () _ - = + [] .

また、下記の文字は使用できません。

- % ^ ` : / ? # \ ' { } ; ' < >
- 半角スペース
- アクセント付き文字や複合文字 (É Ç ñ)

セキュリティを維持するために、この文字列を定期的に変更することを推奨します。

暗号化



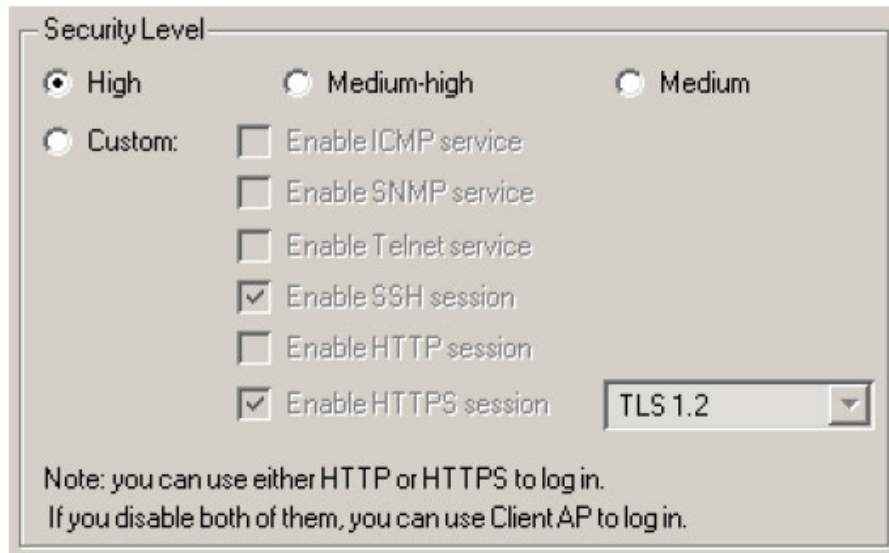
KN1108VA/KN1116VA では、キーボード・マウス、ビデオ、バーチャルメディアの各信号の暗号化の形式を個別に設定できます。これらの信号はそれぞれ、DES、3DES、AES、RC4、ランダム of 各暗号化方式を、単独で、または組み合わせて使用できます。

暗号化機能を有効にすると、システムパフォーマンスに影響を与え、暗号化を複雑にするほどリモートアクセスからの反応速度が遅くなるなど、安全性の確保と引き換えにシステムにもたらす弊害も大きくなります。暗号化を有効にする場合は、以下の点を考慮して設定してください。

- ◆ システムパフォーマンスに与える影響は、RC4、DES、3DES、AES の順に大きくなります。
- ◆ 暗号化の組み合わせのうち、RC4 と DES の組み合わせが最もシステムに与える影響が小さいです。

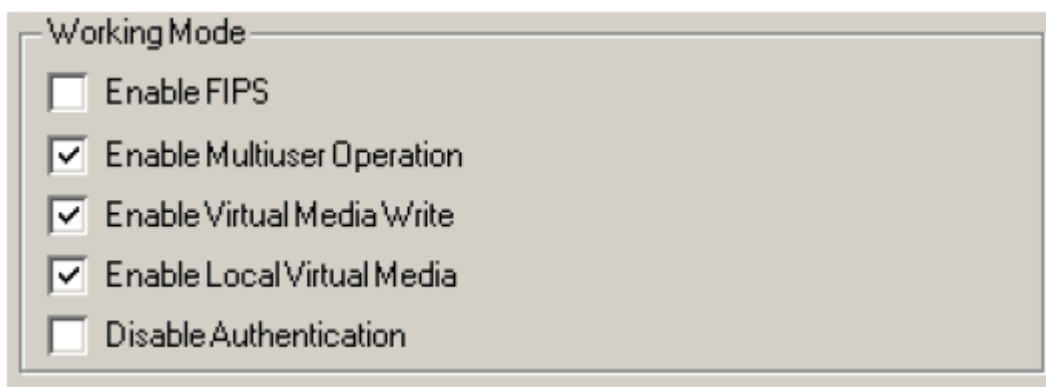
セキュリティーレベル

セキュリティーを強化するために、「High」(高)、「Medium-high」(中高)、「Medium」(中)または「Custom」(カスタム)のラジオボタンを選択してください。



1. High(高) - SSHv2、HTTPS(TLS v1.2)を除く、すべてのサービスを無効にします。
2. Medium-high(中高) - SSHv2 を有効にし、HTTPS を HTTPS、HTTPS(TSL v1.2)、ICMP にリダイレクトします。
3. Medium(中) - SSHv2 を有効にし、HTTPS を HTTPS、HTTPS(TSL v1.0、1.1、1.2)、ICMP にリダイレクトします(デフォルト)。
4. Custom(カスタム) - 次のセキュリティーオプションから適用したい項目にチェックを入れてください。
 - ◆ ICMP サービスを有効にする
 - ◆ SNMP サービスを有効にする
 - ◆ Telnet サービスを有効にする
 - ◆ SSH セッションを有効にする
 - ◆ HTTP セッションを有効にする
 - ◆ HTTPS セッションを有効にする(「TLS1.2」、「TLS1.0,1.1,1.2」のいずれかから選択)

動作モード

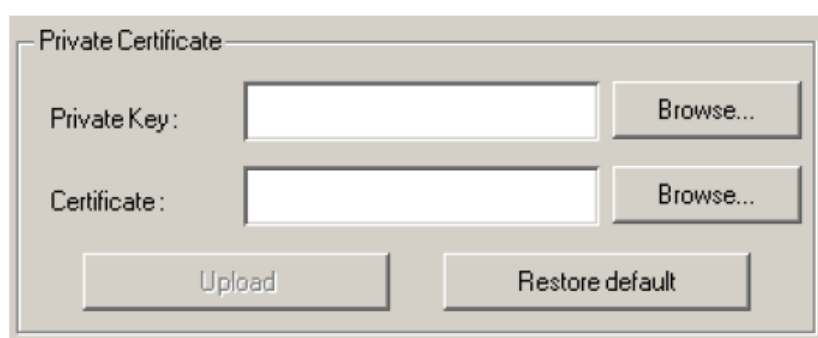


このセクションにおける各項目の内容は下表のとおりです。

項目	説明
Enable FIPS (FIPS を有効にする)	この項目にチェックを入れると、FIPS 140-2 Level 1 セキュリティ規格を有効にします。
Enable Multiuser Operation (マルチユーザーオペレーションを有効にする)	この項目を有効にすると、最大 32 ユーザーが同時ログインし、リモートバスを共有できます。この項目が無効の場合、一度にログインできるのは 1 ユーザーだけです。デフォルトでは有効に設定されています。
Enable Virtual Media Write (バーチャルメディア書き込みを有効にする)	この項目を有効にすると、ユーザーシステムでリダイレクトされたバーチャルメディアデバイスからリモートサーバーにデータを送信したり、リモートサーバーからのデータをこれらのデバイスに書き込んだりできます。
Enable Local Virtual Media (ローカルバーチャルメディアを有効にする)	この項目を有効にすると、IP-KVM スイッチに接続した USB ストレージデバイス(CD、DVD、ハードディスク、フラッシュメモリなど)を、リモートサーバーにマウントできます。
Disable Authentication (認証を無効にする)	この項目を有効にすると、ユーザーのログイン認証を行いません。ユーザーは、ユーザーネームとパスワードを入力するだけで、アドミニストレーターとしてアクセスできます。 注意: この設定はセキュリティ面において極めて危険な影響を及ぼすことがありますので、特別な環境以外では設定しないようにしてください。

プライベート証明書

SSL 接続でログインすると、ユーザーが意図するサイトにログインしようとしているかを検証するために署名済み証明書を使用します。デフォルトの ATEN 証明書を使うのではなく、このセクションで自分のプライベート暗号キーと署名済み証明書を使うように設定することで、セキュリティを強化できます。



プライベート証明書を発行するには、自己署名された証明書を作成する方法と、サードパーティーの証明局(CA)によって署名された証明書をインポートする方法の2つの方法があります。

◆ 自己署名済み証明書の作成

自己署名済み証明書を作成する場合は、「openssl.exe」というフリーツールをインターネットでダウンロードして使うことができます。OpenSSL を使って自身のプライベートキーと SSL 証明書を作成する方法の詳細については p.304「自己署名(プライベート)証明書」をご参照ください。

◆ CA 署名済み SSL サーバー証明書の取得

セキュリティを強化するために、サードパーティーの認証局(CA)によって署名された証明書を使うことを推奨します。サードパーティーによって署名された証明書を取得する場合は、認証局のウェブサイトにアクセスし、SSL 証明書を申請してください。CA から証明書が送られてきたら、お使いのコンピューターのハードディスクドライブの適当なフォルダーに保存してください。

◆ プライベート証明書のインポート

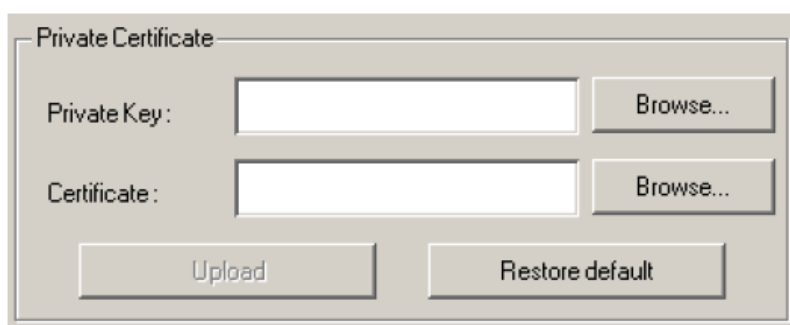
プライベート証明書をインポートする場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. 「Private Key」(プライベートキー)の隣にある「参照」ボタンをクリックして、ダイアログからプライベート暗号キーのファイルがあるフォルダーに移動し、このファイルを選択してください。
2. 「Certificate」(証明書)の隣にある「参照」ボタンをクリックして、ダイアログから証明書のファイルがあるフォルダーに移動し、このファイルを選択してください。
3. 「Upload」(アップロード)ボタンをクリックして操作を完了してください。

-
- 注意:**
1. 「Restore Default」(デフォルト設定の復元)ボタンをクリックすると、デバイスは、デフォルトの ATEN 証明書を使うようになります。
 2. プライベート暗号キーと署名済み証明書は同時にインポートしてください。
-

CSR 証明書署名要求

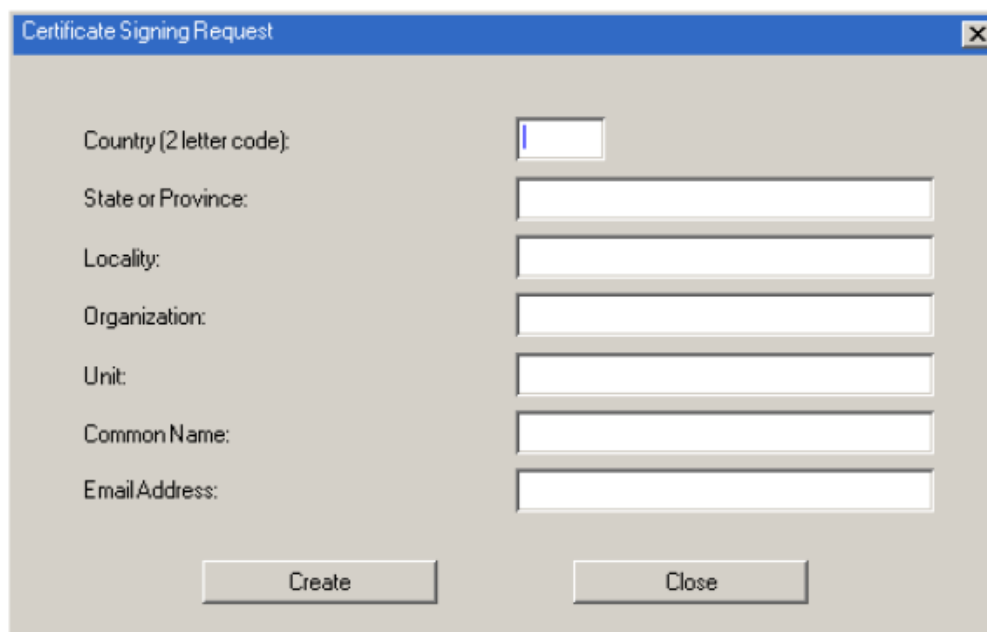
このセクションでは、CA に署名された SSL サーバー証明書の取得およびインストールを行うことができます。



The image shows a dialog box titled "Private Certificate". It contains two input fields: "Private Key:" and "Certificate:". Each field has a "Browse..." button to its right. At the bottom of the dialog, there are two buttons: "Upload" and "Restore default".

操作方法は下記のとおりです。

1. 「Create CSR」(証明書署名要求を生成する)ボタンをクリックしてください。このボタンをクリックすると、下図のようなダイアログが表示されます。



The image shows a dialog box titled "Certificate Signing Request". It contains several input fields: "Country (2 letter code):", "State or Province:", "Locality:", "Organization:", "Unit:", "Common Name:", and "Email Address:". At the bottom of the dialog, there are two buttons: "Create" and "Close".

2. 下表の例を参考にしながら、お使いの環境で有効な値をダイアログの項目に入力してください。

項目	例
Country(国名) (2 バイトコード)	TW
State or Province (都道府県)	Taiwan
Locality (市区町村)	Taipei
Organization (組織/会社)	Your Company, Ltd.
Unit (部署)	Techdoc Department
Common Name (コモンネーム)	mycompany.com 注意: ここには証明書を有効にしたいサイトのドメイン名を正しく入力してください。例えば、サイトのドメイン名が「www.mycompany.com」の場合、「mycompany.com」だけを設定しても、その証明書は有効になりません。
Email Address (メールアドレス)	administrator@yourcompany.com

3. 項目への入力が終わったら(全項目入力必須)、「**Create**」(生成)ボタンをクリックしてください。このボタンをクリックすると、先ほど入力した情報に基づいて作成された自己署名証明書が、IP-KVM スイッチ本体の内部に保存されます。
4. 「**Get CSR**」(CSR を取得する)ボタンをクリックし、証明書ファイル(csr.cer)を、お使いのコンピューターの適当な場所に保存してください。
このファイルは、サードパーティーCA に署名済み SSL 証明書の申請を行う際に提出するものです。

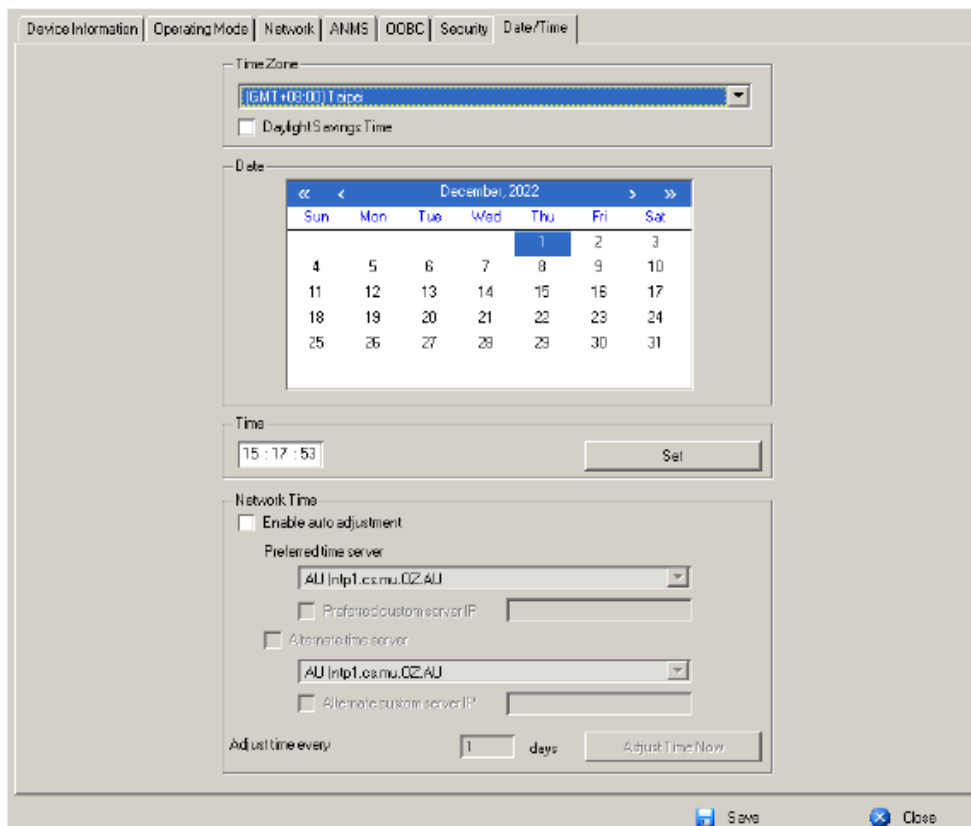
5. CA から証明書が送られてきたら、このファイルをお使いのコンピューターの適当な場所に保存してください。「参照」ボタンでファイルを探し、「Upload」(アップロード)ボタンでこのファイルを IP-KVM スイッチ本体の内部に保存してください。

注意: ファイルをアップロードすると、IP-KVM スイッチ側でこのファイルをチェックし、特定の情報が一致するか確認します。情報が一致している場合は、ファイルが受け入れられますが、一致しない場合は却下されます。

ドメイン名の変更で新しい証明書が必要になったなどの理由で証明書を削除する場合は、「Remove CSR」(証明書署名要求を削除する)ボタンをクリックしてください。

日付と時刻

このメニューでは、製品内部の日付や時刻に関する項目の設定を行います。



項目の設定は、以下の内容に従って行ってください。

タイムゾーン

- ◆ IP-KVM スイッチがセットアップされている場所のタイムゾーンを設定する場合は、現在の設置場所から最も近いものを「Time Zone」(タイムゾーン)のリストボックスの中から選択してください。
- ◆ IP-KVM スイッチをお使いの地域でサマータイムが導入されている場合は、「Daylight Saving Time」(サマータイム)の項目にチェックを入れてください。

日付

- ◆ ドロップダウンリストから適切な月を選択してください。
- ◆ 前の年に移動する場合は「<」を、次の年に移動する場合は「>」をそれぞれクリックしてください。
- ◆ 表示されたカレンダーから適切な日を選択してください。
- ◆ 時刻は、24 時間制で「HH:MM:SS」のフォーマットで「時間」欄に入力してください。
- ◆ 設定内容を保存する場合は「**Set**」(同期) ボタンをクリックしてください。

ネットワーク時間

時刻をネットワークタイムサーバーに自動同期させる場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. 「Enable auto adjustment」(自動調整を有効にする)の項目にチェックを入れてください。
2. 「Preferred time server」(プライマリータイムサーバー)リストから、お使いの環境に適したプライマリータイムサーバーを選択してください。
 - または -
 - 「Preferred custom server IP」(プライマリーカスタムサーバーIP)の項目にチェックを入れて、使用するタイムサーバーの IPv4 アドレス、IPv6 アドレス、ドメイン名のいずれかを入力してください。
3. 代替タイムサーバーを設定する場合は、「Alternate time server」(代替タイムサーバー)の項目にチェックを入れて、手順 2 の要領で代替タイムサーバーの項目を設定してください。
4. 何日おきに同期を実行するかを「Adjust time every」(次の期間毎に時間を調整する)の欄に入力してください。
5. 時刻調整をすぐに実行する場合は、「**Adjust Time Now**」(今すぐ時間を調整する)ボタンをクリックしてください。

PoN デバイス

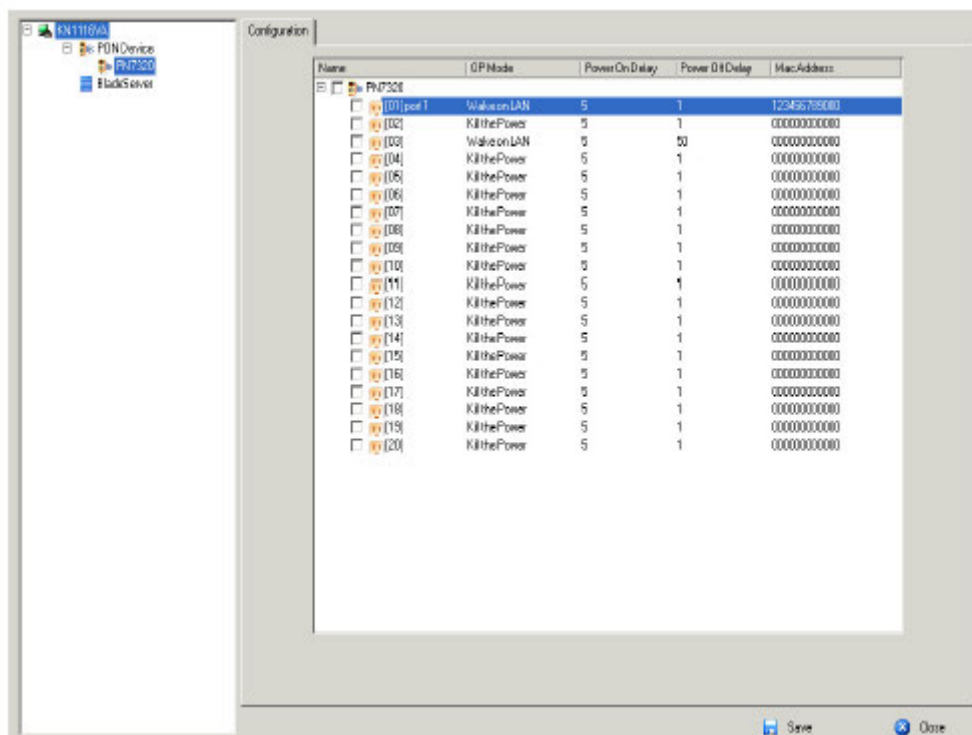
設定画面

PoN デバイスをサイドバーで選択すると、下図のような設定画面が表示されます。ここで使用するスクリーンショットは、あくまで参照用です。また、KN1108VA/KN1116VA のウェブ GUI アイコンは、新しいファームウェアバージョンで変更になる可能性があります。

ブラウザーGUI

Name	OP Mode	Power On Delay	Power Off Delay	Mac Address
PM7320				
[01] part 1	Wake on LAN	5	1	123456789010
[02]	Kill the Power	5	1	000100000010
[03]	Wake on LAN	5	50	000100000010
[04]	Kill the Power	5	1	000100000010
[05]	Kill the Power	5	1	000100000010
[06]	Kill the Power	5	1	000100000010
[07]	Kill the Power	5	1	000100000010
[08]	Kill the Power	5	1	000100000010
[09]	Kill the Power	5	1	000100000010
[10]	Kill the Power	5	1	000100000010
[11]	Kill the Power	5	1	000100000010
[12]	Kill the Power	5	1	000100000010
[13]	Kill the Power	5	1	000100000010
[14]	Kill the Power	5	1	000100000010
[15]	Kill the Power	5	1	000100000010
[16]	Kill the Power	5	1	000100000010
[17]	Kill the Power	5	1	000100000010
[18]	Kill the Power	5	1	000100000010
[19]	Kill the Power	5	1	000100000010
[20]	Kill the Power	5	1	000100000010

アプリケーション GUI



アウトレットの設定

この画面で設定できるアウトレットのパラメーターは p.171 の表に記載されているものと同じです。

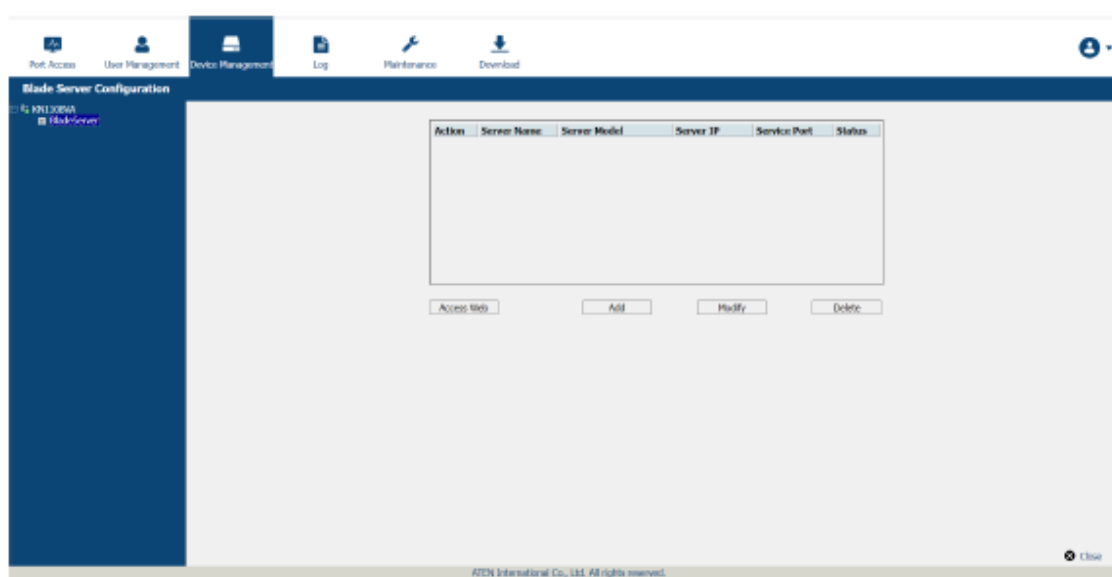
- ◆ 設定リストをクリックして、お使いの環境に適したものを選択してください。
- ◆ 複数のアウトレットを同時に設定する場合は、対象となるアウトレットの前にあるボックスにチェックを入れてください。そのうちの一つの設定を変更すると、選択済みのアウトレットに新しい設定内容を適用します。
- ◆ すべてのアウトレットを同時に設定したい場合は、対象となる PoN デバイス名の前にあるボックスにチェックを入れてください。すべてのアウトレットが選択済みになります。そのうちの一つの設定を変更すると、すべてのアウトレットに新しい設定内容を適用します。

ブレードサーバー

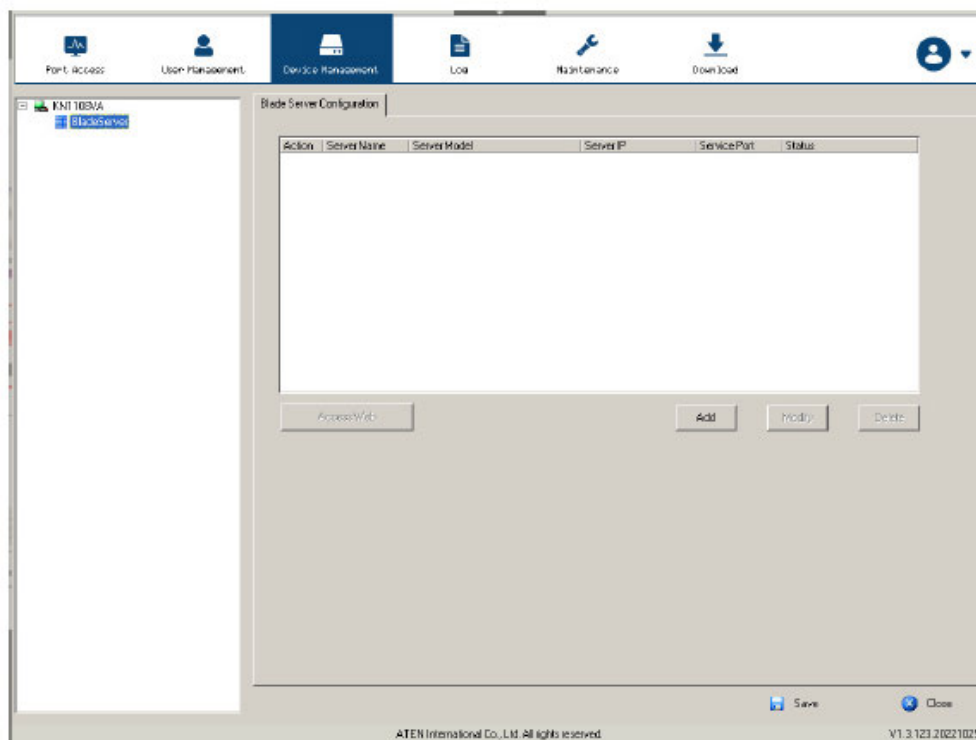
設定画面

スーパーアドミニストレーターで操作している時に、サイドバーからブレードサーバーを選択すると、下図のような設定画面が表示されます。

ブラウザーGUI



アプリケーション GUI



ブレードサーバーの設定

ブレードサーバーの追加

新しいブレードサーバーを設定する場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. サイドバーからアイコンを選択し、メインパネルで「**Add**」(追加)ボタンをクリックしてください。「Step1」タブが選択された状態で、「Setup Blade Server」(ブレードサーバーの設定)ダイアログが表示されます。

2. 下表を参考にしながら、各項目に値を入力してください。

項目	説明
Server Model (サーバーモデル)	ブレードサーバーのシャーシモデルをリストから選択してください。お使いのブレードサーバーの機種が、サポートサーバーのリストにない場合は、代理店にご相談ください。
Include KVM (KVM を含める)	この項目は読み取り専用ですので、設定変更はできません。サーバーが KVM 機能をサポートしている場合、この項目にチェックが入ります。
Server Name (サーバー名)	識別のために、サーバーに名前を設定できます。
Server IP (サーバーIP)	シリアル接続(Telnet または SSH)経由でサーバーにアクセスする場合は、サーバーの IP アドレス(IPv4、IPv6、ドメイン名)をこの欄に入力してください。

(表は次のページに続きます)

項目	説明
Service Port (サービスポート)	シリアルアクセスに使うポート番号を入力してください。
User Name (ユーザーネーム)	シリアルアクセスの認証に必要なユーザーネームを入力してください。
Password (パスワード)	シリアルアクセスの認証に必要なパスワードを入力してください。
Scan Interval (スキャンインターバル)	IP-KVM スイッチがサーバーをスキャンするインターバル時間です。
Timeout (タイムアウト)	IP-KVM スイッチがスキャンを停止するまでにサーバーからの応答を待機する時間です。
Web URL	ブラウザ経由でサーバーにアクセスする場合は、サーバーの IP アドレス(IPv4、IPv6、ドメイン名)をこの欄に入力してください。
Login Name (ログインネーム)	ブラウザ認証で必要となるユーザーネームを入力してください。
Login Password (ログインパスワード)	ブラウザ認証で必要となるパスワードを入力してください。

- 項目への入力完了したら、「**Next**」(次へ)ボタンをクリックしてください。このボタンをクリックすると、「Step2」タブが表示された状態でダイアログが表示されます。
- 「Step2」タブには、組み込まれているブレードの数など、ブレードサーバーの設定概要が表示されます。ブレードサーバーを追加したい場合は、「**Save**」(保存)ボタンをクリックしてください。

ブレードサーバーの変更・削除

- ◆ ブレードサーバーの設定を変更する場合は、対象となるブレードサーバーをサイドバーから選択し、「**Modify**」(変更)ボタンをクリックし、「Setup Blade Server」(ブレードサーバーの設定)ダイアログで変更を加えてください。
- ◆ ブレードサーバーを削除する場合は、対象となるブレードサーバーをサイドバーから選択し、「**Delete**」(削除)ボタンをクリックしてください。

ウェブアクセス

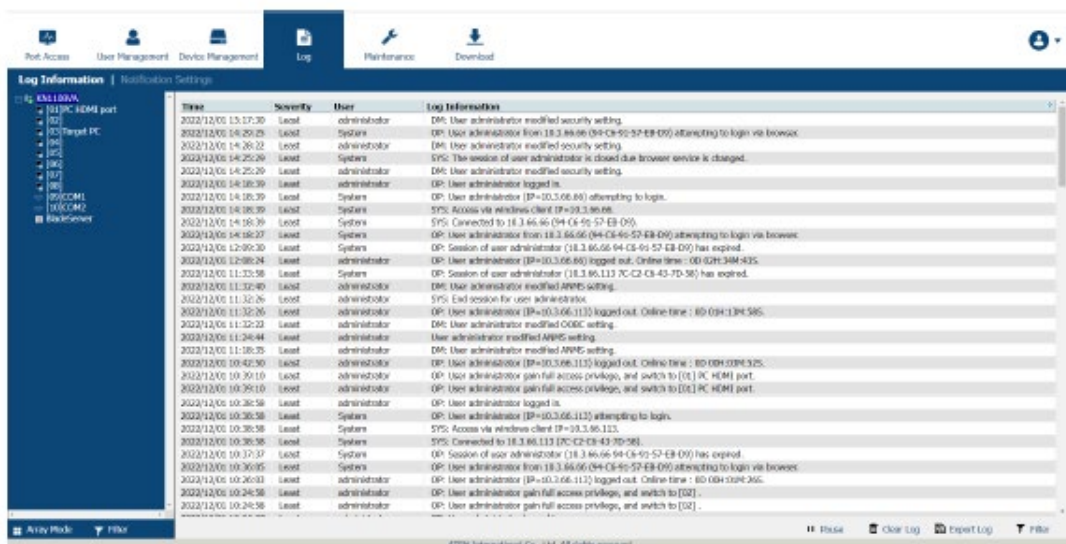
ブレードサーバーにアクセスする場合は、対象となるブレードサーバーをサイドバーから選択し、「**Access Web**」(ウェブにアクセス)ボタンをクリックしてください。

第9章 ログ

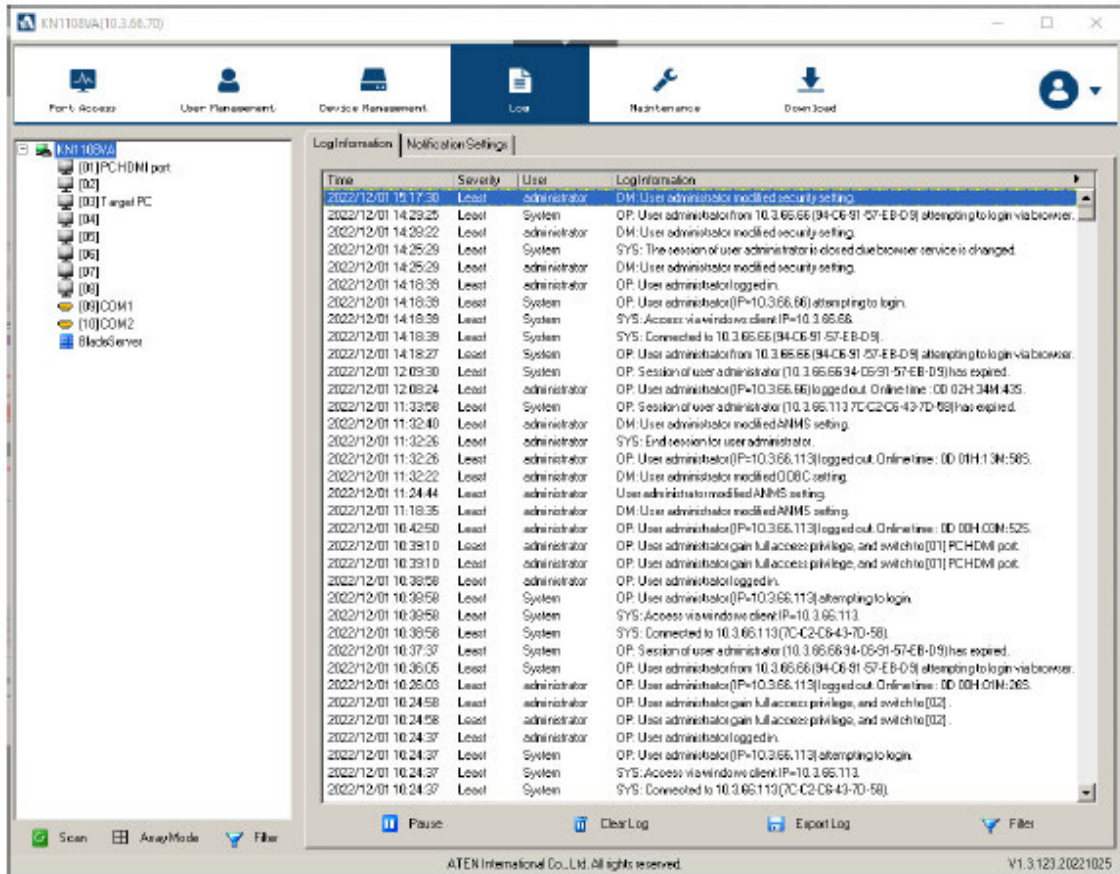
概要

IP-KVM スイッチは、そのユニットで検知したイベントをログに記録します。ログの内容を確認する場合は、「Log」(ログ)タブをクリックしてください。タブをクリックすると、下図のようにデバイスのログ情報が表示されます。

ブラウザーGUI



アプリケーション GUI



ログ情報

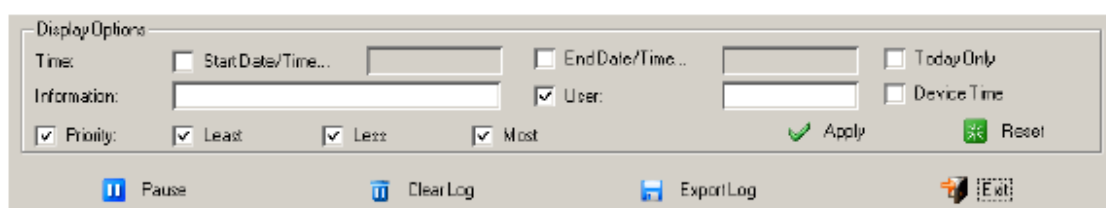
「Log Information」(ログ情報)メニューでは、IP-KVM スイッチで検知されたイベントが表示され、イベントの時刻、重要度、ユーザーの概要、および、それぞれの説明が表示されます。列の見出しをクリックすると、その項目で並べ替えを変更します。

ログファイルは、最大 512 件のイベントを記録します。イベント数が 512 件に達すると、新しいイベントが発生した際に、一番古いイベントから消去されます。また、KVM 本体の電源を OFF にすると、すべてのログが消去されます。画面下部にあるボタンの詳細は下表のとおりです。

項目	説明
Pause (ポーズ)	このボタンをクリックすると、新しいイベントの表示を中断します。表示が一時停止されると、ボタンの表示は「Resume」(レジューム)に切り替わります。イベントの表示を再開する場合は、この「Resume」(レジューム)ボタンをクリックしてください。一時停止中のログは記録されません。
Clear Log (ログのクリア)	ログファイルの内容を消去します。
Export Log (ログのエクスポート)	ログの内容をお使いのコンピューター上にファイルとして保存します。
Filter (フィルター)	日付や特定の文字列などでイベントを検索します(次のセクションに記載)。

フィルター

この機能を使うと、表示されるログイベント情報を、発生時間、メッセージに含まれているキーワード、ユーザーネームなどの条件で絞り込むことができます。この機能呼び出すと、画面下部に下図のようなメニューが表示されます。



この画面に表示される各項目の内容は下表のとおりです。

項目	説明
Time (時間)	<p>特定の時間に発生したイベントを検索します。指定できる条件は下記のとおりです。</p> <p>Today Only(本日のみ): 現在の日付で発生したイベントのみ表示します。</p> <p>Device Time(デバイス時刻): 製品本体で設定された時刻に基づいてイベントを表示します。</p> <p>Start Date/Time(開始日付/時刻): 特定の日時から現在の間で発生したイベントを検索します。アプリケーション GUI の場合、チェックボックスにチェックを入れると、カレンダーコントロールが表示されますので、開始日時を設定してください。ここで指定された日時から現在までの間に発生した全イベントが表示されます。</p> <p>ブラウザインターフェースの場合、チェックボックスにチェックを入れ、テキストボックスをクリックすると、カレンダーコントロールが表示されます。日時を選択したら、カレンダーパネルの右下にある「A」アイコンをクリックしてください。</p> <p>End Date/Time(終了日付/時刻): 特定の期間に発生したイベントを検索します。最初に、「Start Date/Time」(開始日付/時刻、上記参照)を選択したら、「End Date/Time」(終了日付/時刻)の隣にあるチェックボックスにチェックを入れて、終了日時を設定してください。</p> <p>ブラウザインターフェースの場合、チェックボックスにチェックを入れ、テキストボックスをクリックすると、カレンダーコントロールが表示されます。日時を選択したら、カレンダーパネルの右下にある「A」アイコンをクリックしてください。</p>

(表は次のページに続きます)

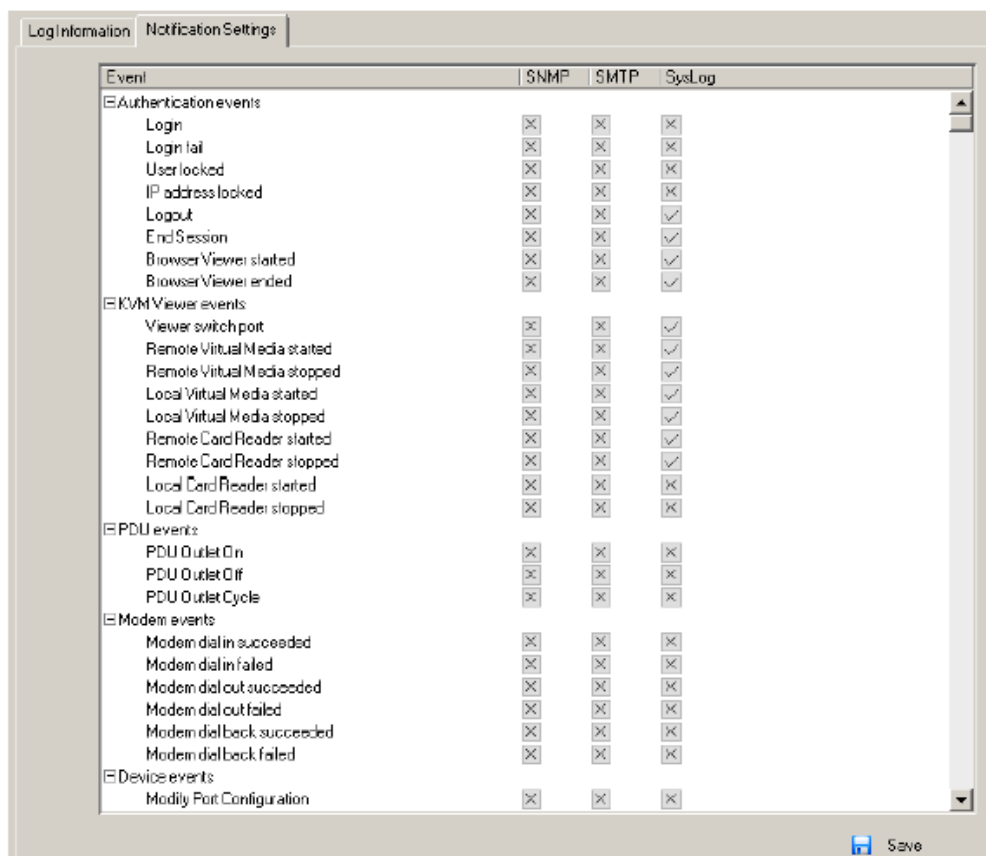
項目	説明
Information (通知)	<p>特定のキーワードを含むイベントを検索します。キーワードはテキストボックスに入力してください。その文字列を含むイベントだけが表示されます。ここでは、ワイルドカード(1文字の場合は?, 複数の文字の場合は*)や、「or」キーワードを使うことができます。</p> <p>例 1: 「h*ds」という文字列を指定した場合、「hands」と「hoods」がヒットします。</p> <p>例 2: 「h?nd」という文字列を指定した場合、「hand」と「hind」がヒットしますが、「hard」はヒットしません。</p> <p>例 3: 「h*ds or h*ks」という文字列を指定した場合、「hands」と「hooks」がヒットします。</p>
User (ユーザー)	<p>特定のユーザーに関連するイベントを検索します。この条件で検索する場合は、「User」(ユーザー)チェックボックスにチェックを入れ、テキストボックスに対象ユーザーのユーザーネームを入力して「Apply」(適用)ボタンをクリックしてください。この文字列を含むユーザーネームに関連したイベントのみが表示されます。</p> <p>注意: このチェックボックスにチェックが入っていない状態で検索すると、検索結果の一覧に「User」(ユーザー)列が表示されなくなります。</p>
Severity (重要度)	<p>イベントの重要度に基づいてイベントを検索します。イベントの重要度が「Least」(少ない)の場合は青色で、「Most」(最大)の場合は赤色でそれぞれ表示されます。</p> <p>この条件で検索する場合は、「Severity」(重要度)のチェックボックスにチェックを入れてから、指定したい条件のチェックボックスにチェックを入れてください(複数指定可能)。指定した重要度に一致したイベントのみが表示されます。</p> <p>注意: このチェックボックスにチェックが入っていない状態で検索すると、検索結果の一覧に「Severity」(重要度)列が表示されなくなります。</p>
Apply (適用)	<p>指定された条件で検索を行います。</p>

(表は次のページに続きます)

項目	説明
Reset (リセット)	検索条件をデフォルトの状態に戻します。
Exit (終了)	ログフィルター機能を終了します。

通知設定

このメニューでは、イベントの通知に使用する外部ツールを設定できます。



イベント通知は、SNMPトラップ、SMTP、Syslog への送信、また、これら 3 つの方法の任意の組み合わせを通じて行えます。チェックマーク(✓)がついている場合、その列に記載されている方法でイベントを通知します。また、×印が付いている場合、その通知機能は無効です。

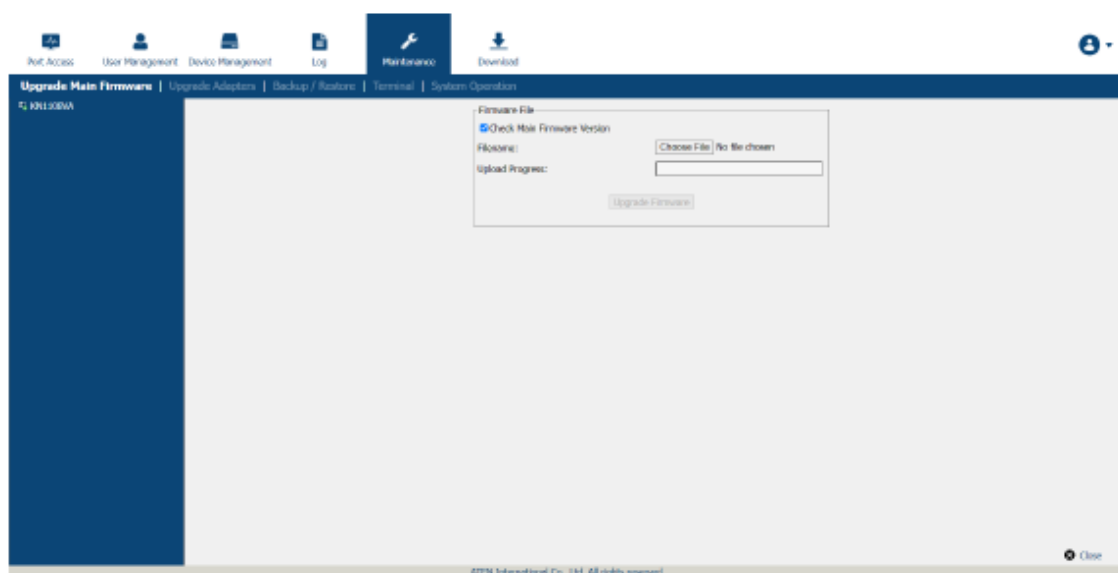
注意: [Shift] キーや[Ctrl]キーを押しながらマウスをクリックすることで複数のイベント通知の設定を同時に定義できます。各列の印をクリックすると、その列の設定内容を同時に有効または無効に切り替えます。

第 10 章 メンテナンス

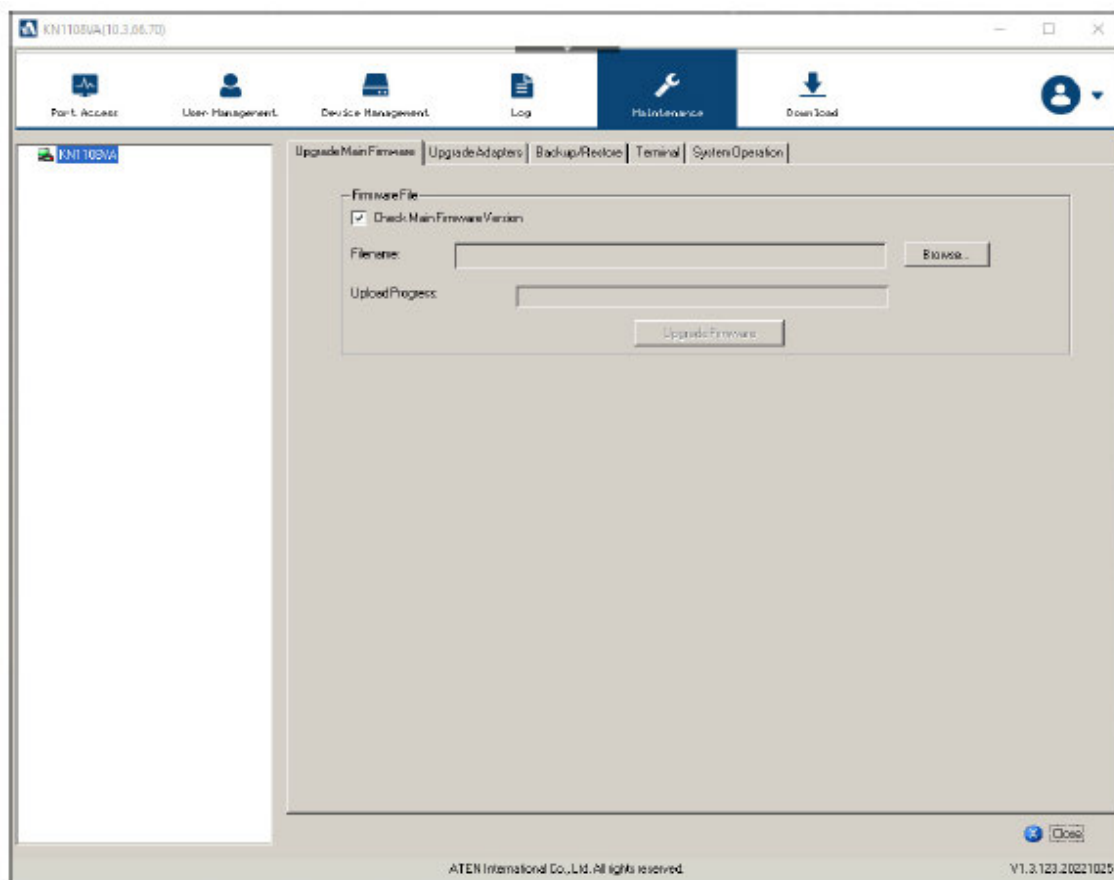
概要

「Maintenance」(ファームウェア)タブでは、ファームウェアのアップグレード、設定内容およびアカウント情報のバックアップ・リストア、ping ネットワーク診断やデフォルト値への復元を行います。

ブラウザーGUI



アプリケーション GUI

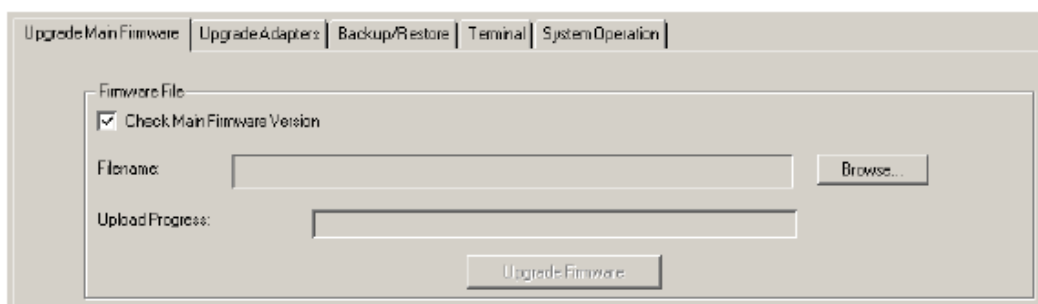


メインファームウェアのアップグレード

この機能を使うと、製品本体のメインファームウェアのアップグレードだけでなく、接続して使用している電源管理ユニットやブレードサーバーのアップグレードも実行できます。ウェブサイトに公開された新しいバージョンのファームウェアは、ダウンロードしてお使いいただけます。このサイトを定期的にご確認いただき、最新のファームウェアにアップグレードしてください。

ファームウェアをアップグレードするには、下記の作業を行ってください。

1. 弊社ウェブサイトから KN1108VA/KN1116VA の新しいファームウェアファイルをダウンロードし、お使いのコンピューターのハードディスクの適当な場所に保存してください。
2. リモートアクセスで IP-KVM スイッチにログインし、「Maintenance」(メンテナンス)タブをクリックしてください。「Upgrade Main Firmware」(メインファームウェアのアップグレード)メニューが表示されます。ローカルコンソールでは更新ができないためご注意ください。



3. 「参照…」ボタンをクリックし、手順 1 で保存したファイルをダイアログから選択してください。
4. 「Upgrade Firmware」(ファームウェアアップグレード)ボタンをクリックし、アップグレードを実行してください。
 - ◆ 「Check Main Firmware Version」(本体のファームウェアバージョンを確認する)の項目にチェックが入っていると、現在使用しているファームウェアとインストールしようとしているファームウェアファイルとの間でバージョンの比較を行います。2 つのバージョンが同じ、もしくは現在使用しているファームウェアのバージョンが同じである場合、メッセージが表示され、アップグレードを続行するか中止するかを選択を促されます。
 - ◆ 「Check Main Firmware Version」(本体のファームウェアバージョンを確認する)の項目にチェックが入っていない場合は、バージョンを比較せずにファームウェアをアップグレードします。
 - ◆ アップグレードの進行状況は、ポップアップウィンドウで確認できます。
 - ◆ アップグレードに成功すると、製品本体が再起動します。

5. IP-KVM スイッチに再度ログインし、ファームウェアのバージョン情報が更新されているか確認してください。

注意: ファームウェアのアップグレードに失敗した場合は、下記の「ファームウェアアップグレードのリカバリー」をご参照の上、リカバリーを行ってください。

ファームウェアアップグレードのリカバリー

IP-KVM スイッチのメインのファームウェアのアップグレードに失敗して機能不全などが見られた場合は、以下の方法で問題が解決できるかお試しください。

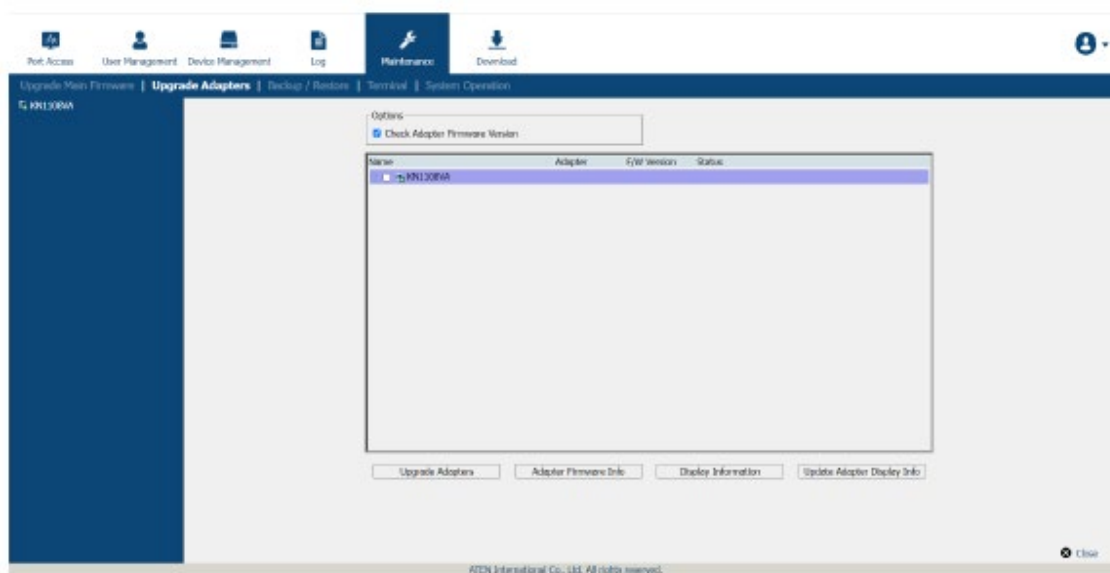
1. IP-KVM スイッチの電源を切ってください。
2. リセットスイッチ (p.31 参照) を長押ししてください。
3. リセットスイッチを押したまま、IP-KVM スイッチに電源を入れてください。

上記の操作によって、工場製造時に使用したベースメインファームウェアバージョンに戻ります。IP-KVM スイッチの起動準備が整ったら、リモートアクセスでログインし、ファームウェアのアップグレードを再度実行してください (p.254 参照)。

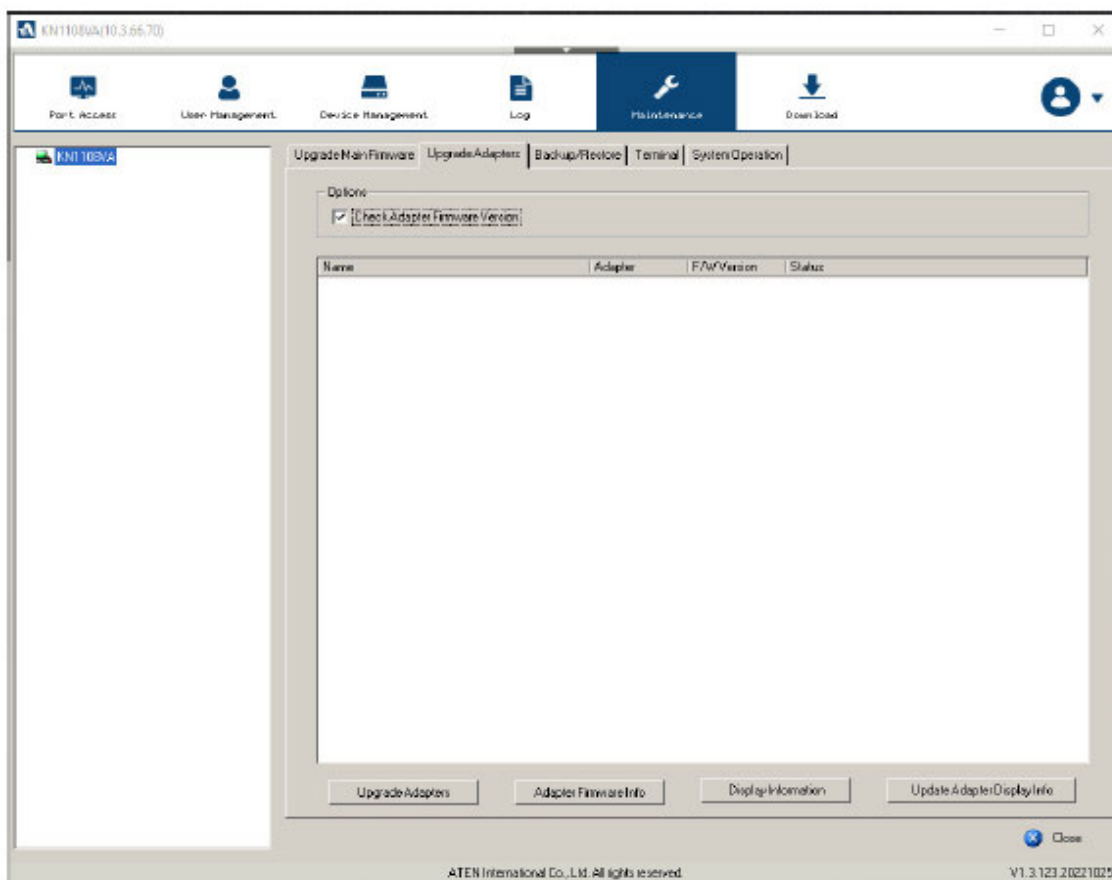
コンピューターモジュールのファームウェアアップグレード

「Upgrade Adapters」(アダプターのアップグレード)メニューでは、コンピューターモジュールのファームウェアのバージョン情報の表示やアップグレード、また EDID 設定の変更が行えます。このセクションでは、コンピューターから給電されたコンピューターモジュールだけを参照できます。

ブラウザーGUI



アプリケーション GUI



コンピューターモジュールのアップグレード

「Upgrade Adapters」(アダプターをアップグレードする)ボタンは、コンピューターモジュールのファームウェアをアップグレードする際に使用します。

アップグレードを実行する場合は、以下の手順に従って操作してください。

1. 「Maintenance」(ファームウェア)タブをクリックし、「Upgrade Adapters」(アダプターをアップグレードする)メニューを選択してください。
2. 「Adapter Firmware Info」(アダプターファームウェア情報)ボタンをクリックし、メインファームウェアによって保存されているコンピューターモジュールのファームウェアバージョンを確認してください。メインファームウェアを更新している場合は、現在コンピューターモジュールにインストールされているバージョンよりも新しいバージョンのファームウェアが含まれていることがあります。

ます。

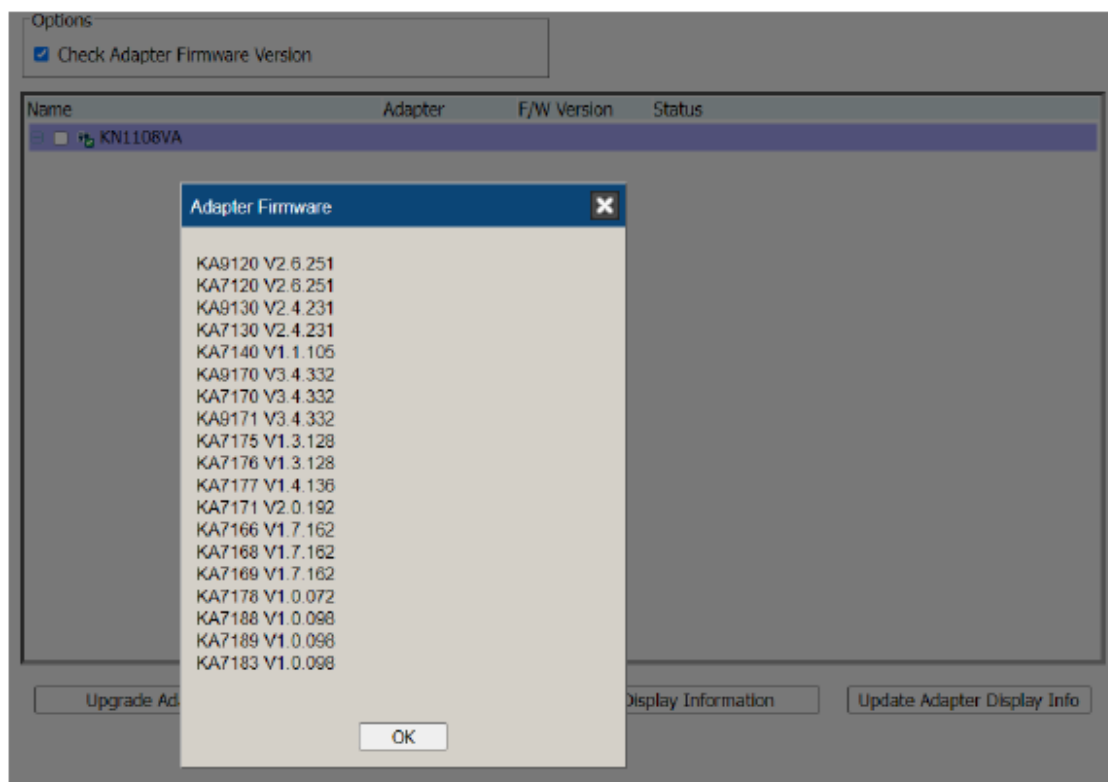
3. コンピューターモジュールのファームウェア情報と、メインパネルの「F/W Version」(ファームウェアバージョン)列に表示されているバージョンを比較して、メインファームウェアのバージョンがコンピューターモジュールのバージョンよりも新しいか確認してください。
4. メインパネルの「Name」(名前)列で、コンピューターモジュールのアップグレードを行うポートにチェックを入れてください。
5. 「**Upgrade Adapters**」(アダプターをアップグレードする)ボタンをクリックして、アップグレードを開始してください。
 - ◆ 「Check Adapter Firmware Version」(モジュールのファームウェアバージョン確認)の項目にチェックが入っていると、現在使用しているファームウェアとインストールしようとしているファームウェアファイルとの間でバージョンの比較を行います。2つのバージョンが同じ、もしくは現在使用しているファームウェアのバージョンの方が新しい場合、コンピューターモジュールの「Progress」(状況)列にメッセージが表示され、ファームウェアの更新不要のためアップグレードを中断するという内容のメッセージが表示されます。
 - ◆ 「Check Adapter Firmware Version」(モジュールのファームウェアバージョン確認)の項目にチェックが入っていない場合は、バージョンを比較せずにファームウェアを強制的に書き込み実行します。ただし、バージョンによっては書き込みに失敗する場合があります。
 - ◆ アップグレードに成功すると、新しく適用されたファームウェアのバージョンが表示されます。

-
- 注意:**
1. コンピューターモジュールは古いファームウェアバージョンでも動作する場合がありますが、予期せぬ不具合を回避するために、IP-KVM スイッチのメインファームウェアに適したバージョンにアップグレードすることを推奨します。
 2. コンピューターモジュールを追加するには、本体のバージョンが最新であるか確認した上で使用してください。
 3. ファームウェアのアップグレードに失敗した際のリカバリーの方法については p.256「コンピューターモジュールのファームウェアアップグレードリカバリー」をご参照ください。
-

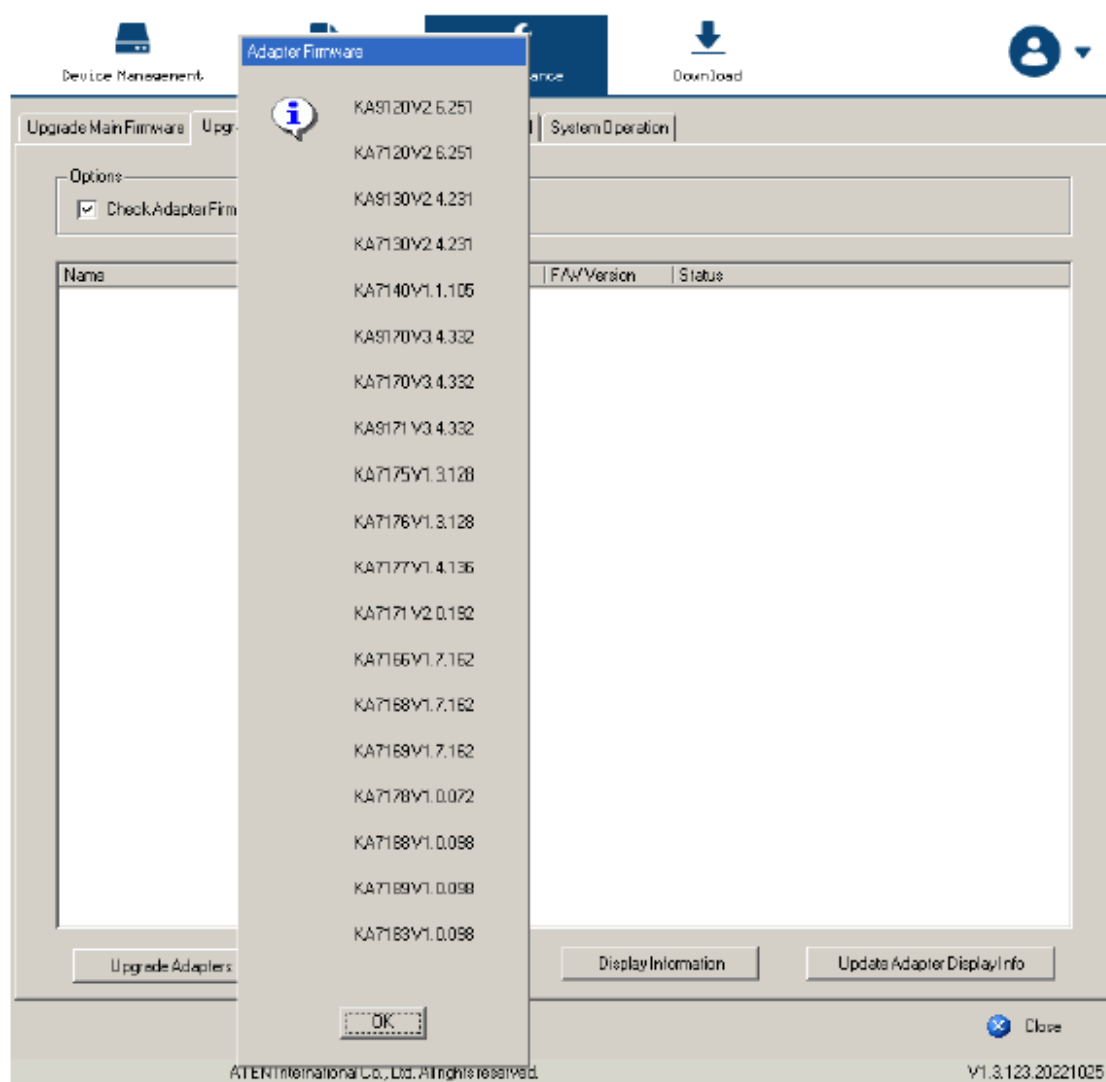
モジュールのファームウェア情報

「Adapter Firmware Info」(モジュールのファームウェア情報)ボタンを押すと、IP-KVM スイッチ本体に保存されているコンピューターモジュールのファームウェアの一覧が表示されます。この情報を使用して、接続しているコンピューターモジュールの F/W バージョンと比較できます。最適な互換性を得るため、IP-KVM スイッチのメインファームウェアに合わせてアップグレードすることを推奨します。

ブラウザーGUI



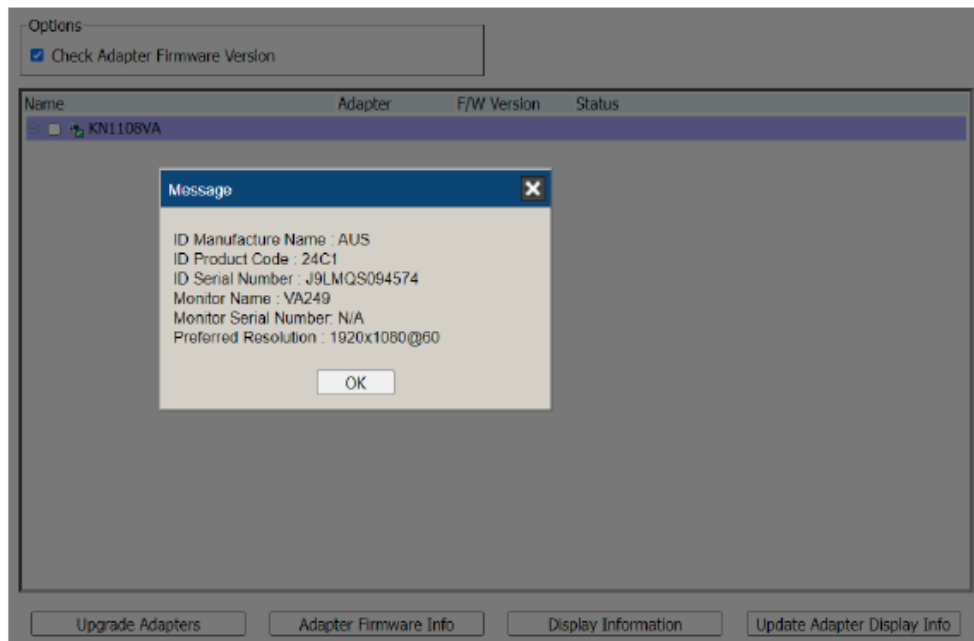
アプリケーション GUI



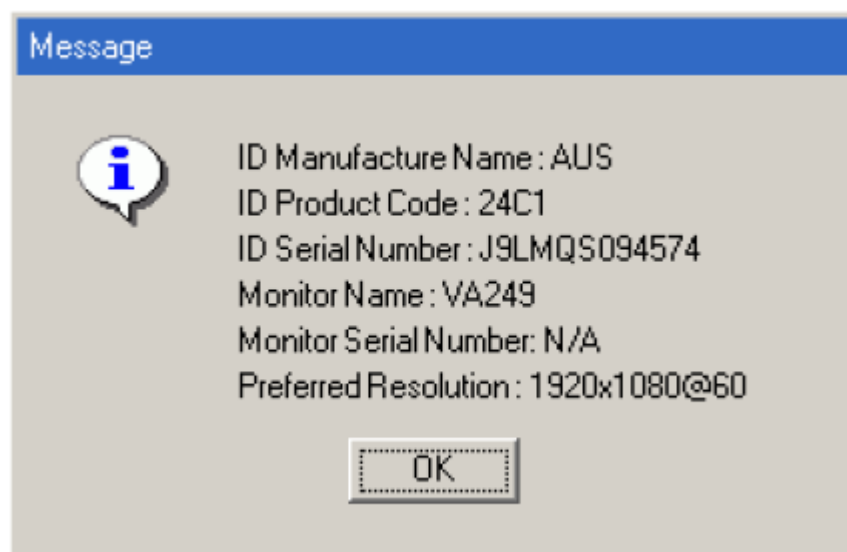
情報の表示

「Display Information」(情報の表示)ボタンをクリックすると、ローカルに接続されたモニターの EDID 情報を取得して、下図のような画面に表示します。

ブラウザーGUI



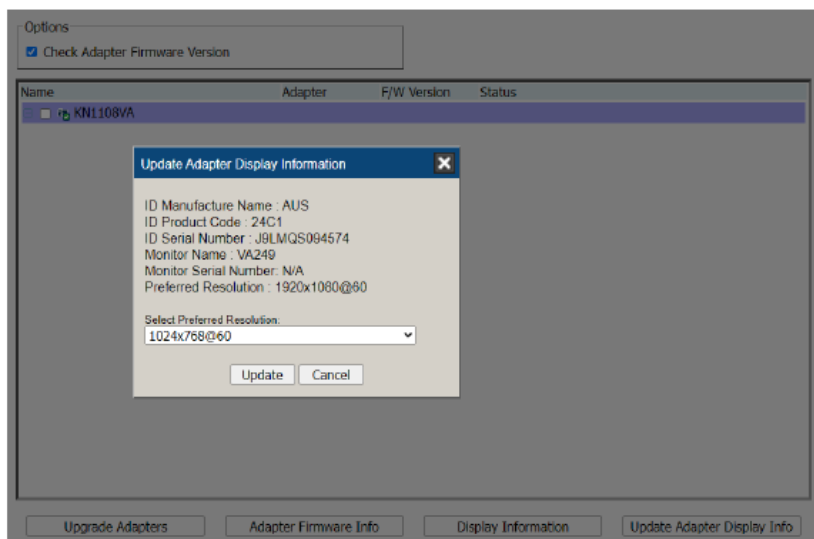
アプリケーション GUI



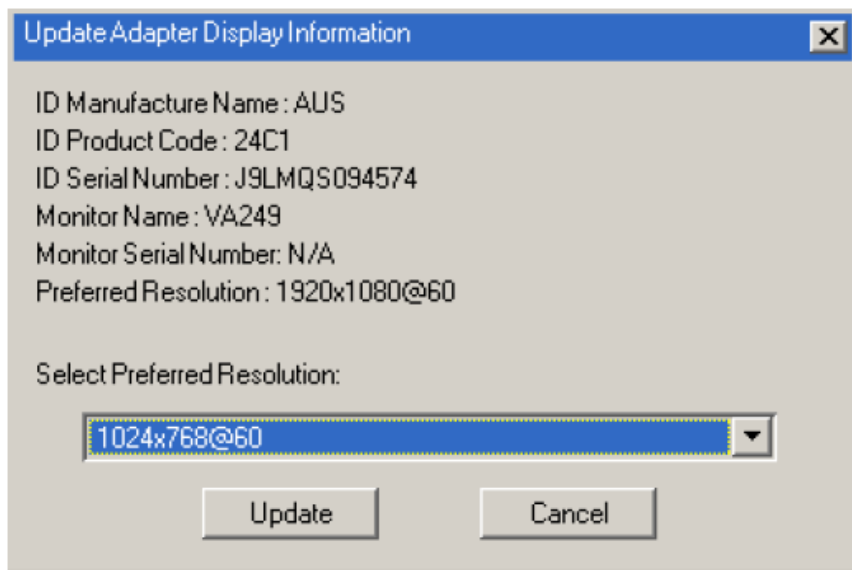
モジュール表示情報の更新

「Update Adapter Display Info」(モジュール表示情報の更新)ボタンをクリックすると、ローカルモニターの EDID 情報を照会して、コンピューターモジュールに記録することができます。EDID とは、各 CPU ポートに接続しているサーバーが起動したり画面表示をしたりする際に、コンピューターモジュールから取得するディスプレイの解像度情報です。

ブラウザーGUI



アプリケーション GUI



「Display Information」(ディスプレイ情報) ボタンをクリックして、ローカルモニターの優先解像度(オプション)を取得し、これを「Select Preferred Resolution」(優先解像度を選択する)ドロップダウンメニューで適用してから、「Write」(書き込む)をクリックしてください。IP-KVM スイッチのローカルコンソールにディスプレイを接続していない場合は、本体内蔵の汎用 EDID (デフォルト EDID) がコンピューターモジュールに書き込まれます。

コンピューターモジュールのファームウェア

アップグレードリカバリー

コンピューターモジュールのファームウェアのアップグレードに失敗し、そのモジュールが使用できなくなってしまった場合は、以下のリカバリー方法で問題が解決する場合があります。

1. コンピューターモジュールをコンピューターから外してください。
2. RJ-45 ポートの隣にあるファームウェアアップグレードリカバリースイッチを「RECOVER」の位置にスライドさせてください。
3. コンピューターモジュールをコンピューターに接続し直して給電してください。
4. コンピューターモジュールのファームウェアアップグレードの手順を繰り返してください。
5. コンピューターモジュールのアップグレードに成功したら、コンピューターからコンピューターモジュールを外し、ファームウェアアップグレードリカバリースイッチを「NORMAL」の位置に戻してから、コンピューターモジュールを接続し直してください。

バックアップ/復元

ブラウザのメニューバーから「Backup/Restore」(バックアップ/復元)を選択すると、KN1108VA/KN1116VA の設定とユーザープロファイルの情報のバックアップを作成できます。

The screenshot shows a web interface for backup and restore operations. It is divided into two main sections: 'Backup' and 'Restore'.
The 'Backup' section contains a 'Password:' text input field and a 'Backup' button.
The 'Restore' section contains a 'Filename:' text input field with a 'Choose...' button, an 'Upload progress:' text input field, a 'Password:' text input field, and three radio buttons: 'Select All' (selected), 'User Account', and 'User Select'. Below these is an 'Options' section with two columns of checkboxes, all of which are checked: 'Device Information', 'ANMS', 'OOBC', 'Operating Mode', 'Network', 'Security', 'Date/Time', and 'Account'. At the bottom of the 'Restore' section is a 'Restore' button.

バックアップ

デバイスの設定のバックアップを作成する場合は、以下の手順で操作してください。

1. 「Password」(パスワード)の項目に、ファイルのリストアに必要なパスワードを入力してください。

- 注意:**
1. パスワードの設定は任意です。パスワードを設定しない場合、ファイルはパスワードなしでリストアされます。
 2. パスワードを設定する場合、リストアの際にこのパスワードが必要になりますので、忘れないように記録しておいてください。

2. 「**Backup**」(バックアップ)ボタンをクリックしてください。
3. ブラウザーからファイルの保存方法を問うダイアログが表示された場合は、「保存」を選択し、お使いのコンピューターのドライブの適切な場所に保存してください。

リストア

バックアップの内容をリストアする場合は、以下の手順で操作してください。

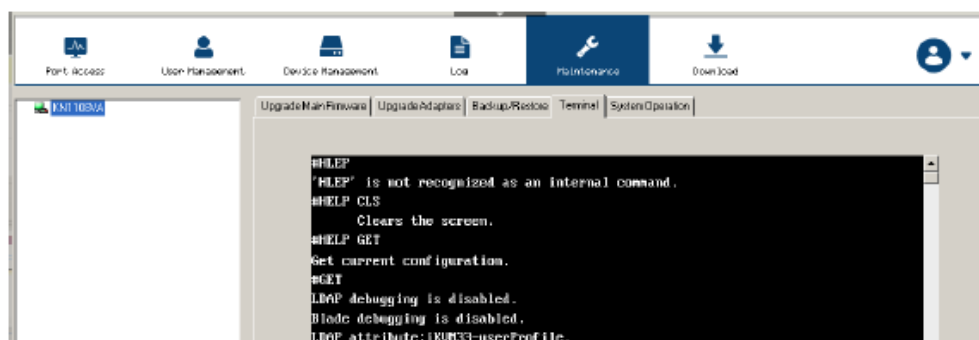
1. 「参照…」ボタンをクリックし、バックアップファイルが保存されているフォルダーを選択してください。

注意: デフォルトで設定されたファイル名を変更しても、新しい名前そのままお使いいただけますので、元の名前に変更する必要はありません。

2. バックアップファイルの作成時にパスワードを設定している場合は、「Password」(パスワード)欄に、そのパスワードと同じ文字列を入力してください。
3. ファイルに保存された内容のうち、リストアしたい項目にチェックを入れてください。
4. 「Restore」(復元)ボタンをクリックしてください。
ファイルがリストアされると、処理に成功したという内容のメッセージが表示されます。

ターミナル

このメニューで提供されるコマンドラインを使うと、ターミナルのようなインターフェース経由でオプションを実行できます。

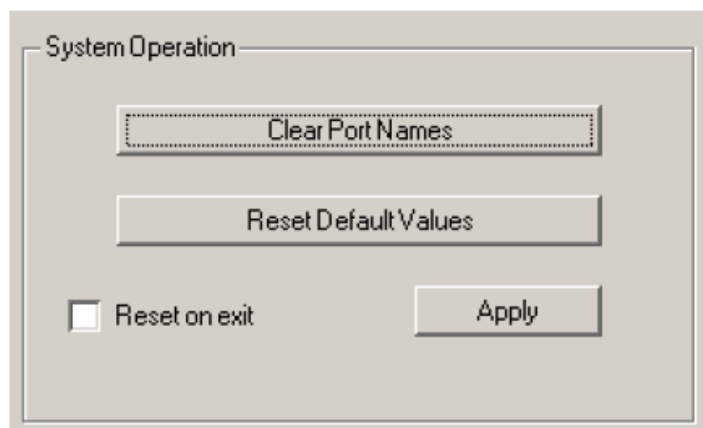


使用できるコマンドは下記のとおりです。

- ◆ BLADEDEBUG → ブレードサーバーのトラブルシューティングを行います。
- ◆ CLS → 画面をクリアします。
- ◆ ENABLERC4 → RC4による暗号化を有効にします。
- ◆ ENABLESSLV2 → SSLv2プロトコルを有効にします。
- ◆ ENABLESSLV3 → SSLv3プロトコルを有効にします。
- ◆ ENABLETLSV1.0 → TLSv1.0プロトコルを有効/無効にします。
- ◆ ENABLETLSV1.1 → TLSv1.1プロトコルを有効/無効にします。
- ◆ GET → 現在の設定情報を取得します。
- ◆ HELP → コマンドのヘルプ情報を提供します。
- ◆ LDAPDEBUG → LDAP通信のトラブルシューティングを行います。
- ◆ NETINFO → ネットワーク統計情報を表示します。
- ◆ PING → pingホスト情報を表示します。
- ◆ SETLDAPMEMBER → LDAPメンバーの新しい値を設定します。
- ◆ SETLDAPMEMBEROF → LDAPのmemberofの新しい値を設定します。
- ◆ SETPROMPT → プロンプト文字列を設定します。
- ◆ SETSSLCIPHER → SSL暗号化文字列を設定します。
- ◆ SOCKINFO → ソケット通信の情報を表示します。
- ◆ TRACERT → trace route情報を表示します。
- ◆ SETSSH → SSHサービスを有効/無効にします。
- ◆ SETTELNET → Telnetサービスを有効/無効にします。

デフォルト値の復元

このメニューを使うと、IP-KVM スイッチ上で変更された設定情報を工場出荷時のデフォルト設定に戻すことができます。



この画面では下記の機能が実行できます。

ポートネームのクリア

「Clear Port Names」(ポートネームのクリア)ボタンをクリックすると、そのポートに割り当てられたポートネームを削除します。

デフォルト設定に戻す

「Reset Default Values」(デフォルト設定に戻す)ボタンをクリックすると、「Device Management」(デバイス管理)タブにおける設定項目(ポートネーム以外)や、ネットワーク転送速度の変更を取り消し、これらのパラメーターを工場出荷時のデフォルト設定に戻します。

終了時にリセット

この項目にチェックを入れて「Apply」(適用)をクリックしログアウトすると、IP-KVM スイッチが自動的にソフトウェアの再起動を行い、再起動後に新しい設定を反映します(再起動は約 30～60 秒ほどお待ちください)。

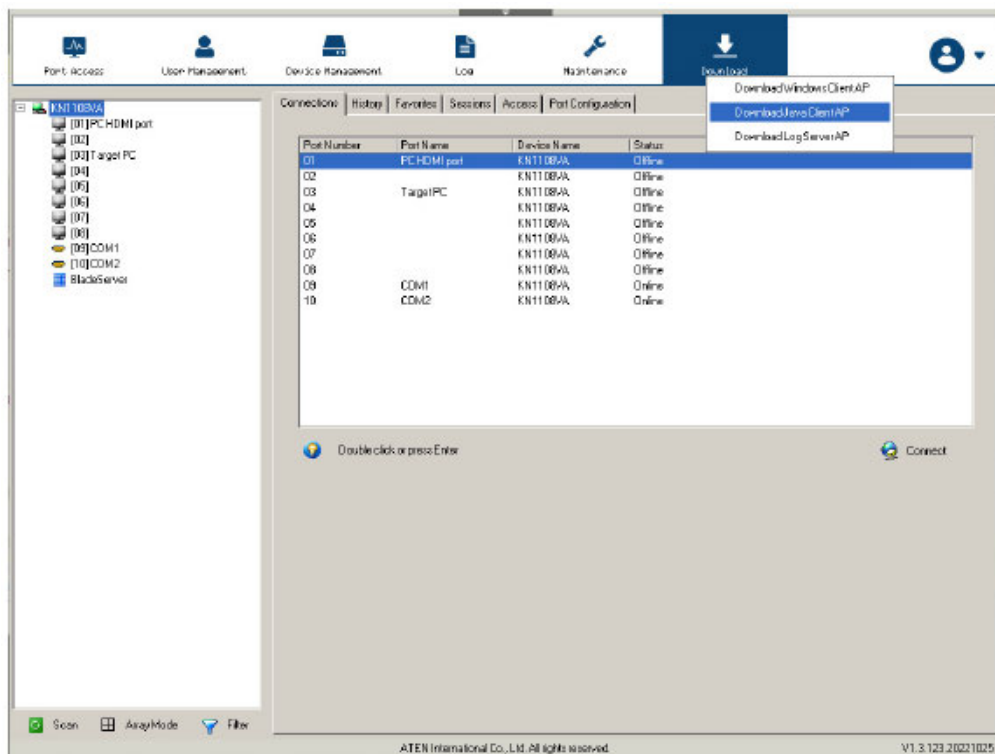
IP-KVM スイッチの IP アドレスを変更する(p.205 参照)と、チェックボックスには自動的にチェックが入り、ログアウトした際に製品本体のリセットを行います。ログアウトする前にこのチェックを外してしまうと、IP アドレスの変更が適用されず、変更前の IP アドレスが引き続き有効になります。

注意: ユーザーで設定を変更しても、他のアカウントでログインしても、IP 設定が変更されていないように見えることがあります。これは、複数ユーザーの同時設定操作による設定内容の破綻を回避するため、設定を反映させるまでに意図的に数分間遅延するようにしているためです。このため、ネットワーク設定をすぐに反映させたい場合は、「Reset on exit」(終了時にリセット)を使って、ソフトウェアを再起動してください。

第11章 ダウンロード

概要

「Download」(ダウンロード)タブでは、アプリケーション版の WindowsClient、JavaClient、ログサーバーの各ツールをダウンロードできます。

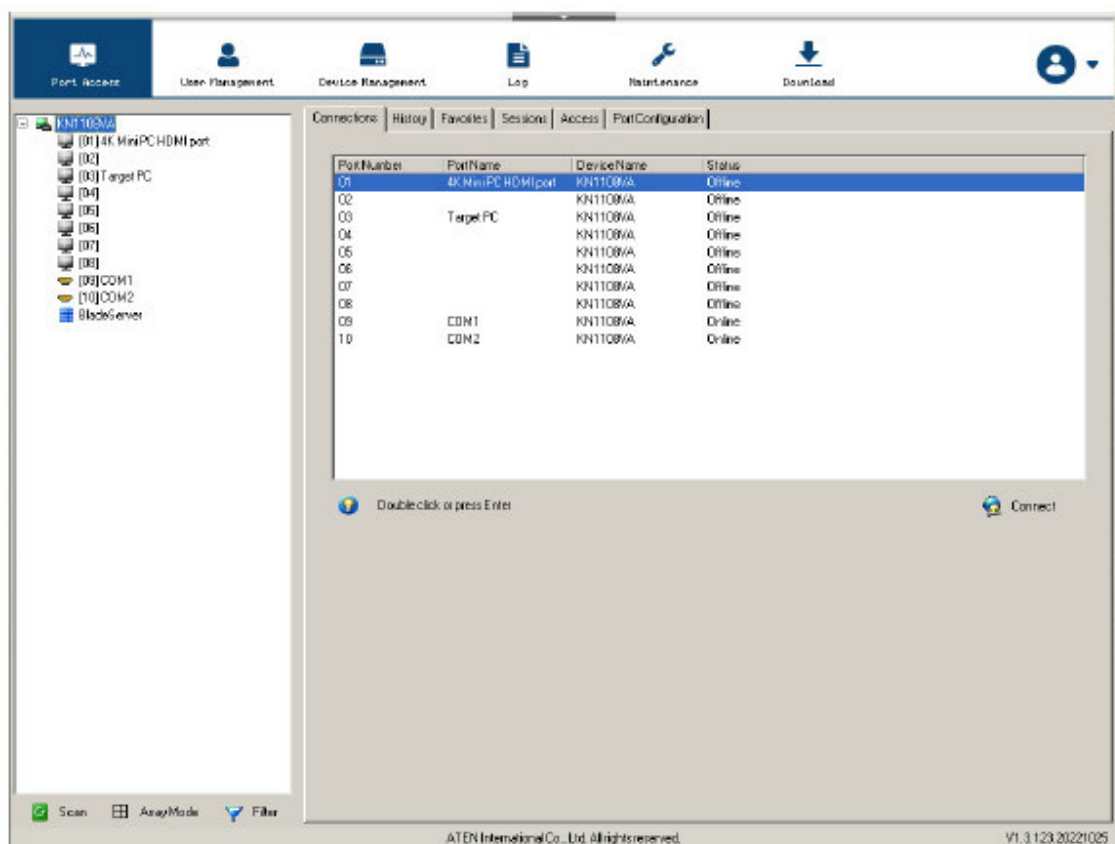


ダウンロードしたいプログラムをクリックし、お使いのハードディスクの適当な場所に保存して、そこからこのプログラムを起動してください。

第12章 ポート操作

概要

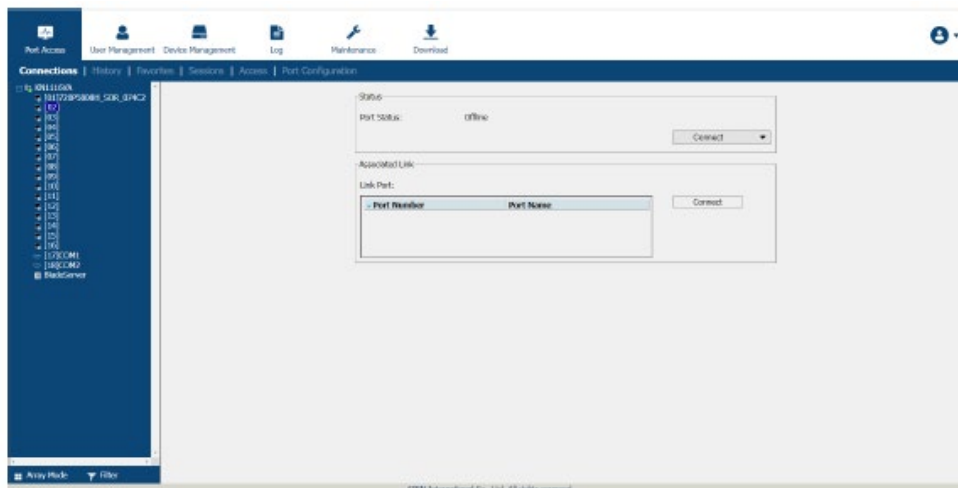
IP-KVM スイッチに正常にログインすると(p.61 参照)、「Port Access」(ポートアクセス)タブの接続画面に遷移します。このとき、サイドバーではログインした IP-KVM スイッチが選択されています。



- 注意:**
1. WindowsClient と JavaClient を AP プログラムで起動し、画面の上部中央にマウスカーソルを移動すると、コントロールパネルが表示されます。コントロールパネルに関する詳細は p.82 をご参照ください。
 2. 「Port Access」(ポートアクセス)タブの「Connections」(接続)メニューに関する詳細は、p.136「KVM デバイスとポート - 接続画面」をご参照ください。

ポートへの接続

ユーザーがアクセスできるポートはすべて、ページの左側にあるサイドバーに一覧表示されます。

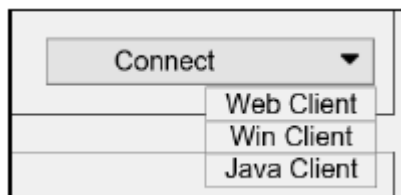


ポートに接続すると、ビューアを自動または手動で選択できます。

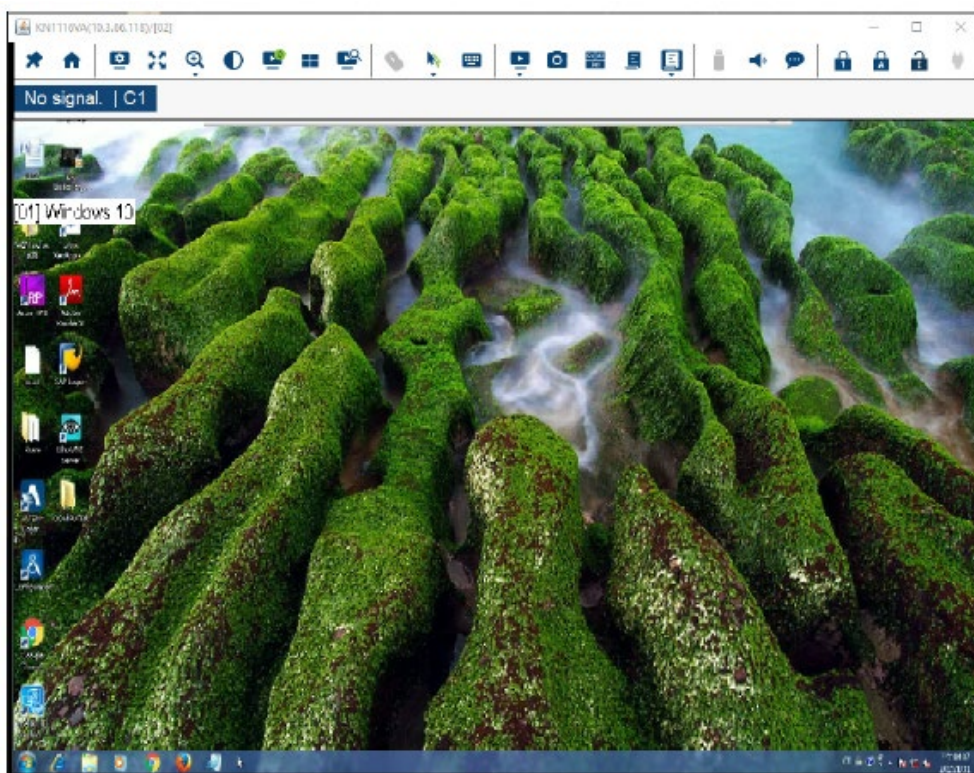
自動選択: (サイドバーで) ポートをダブルクリックするか、ポートを選択してから「**Connect**」(接続)をクリックしてください。

- ◆ システムは「User Preferences」(ユーザー設定)画面の「Viewer」(ビューア)オプションから、優先ビューアを自動的に選択します。詳細は、p.75「ビューアの環境設定」を参照してください。

手動選択: 「**Connect**」(接続)ボタンの右側にあるドロップダウンメニューをクリックし、優先ビューアを選択してください。

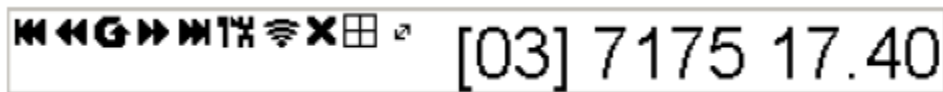


ポートを切り替えると、選択したビューアの画面がモニターに表示され、キーボードやマウスからの入力のリモートサーバーに送られます。



ポートツールバー

IP-KVM スイッチのローカルコンソールには、切り替え操作に役立つツールバーがあります。WindowsClient や JavaClient でもコントロールパネルとは別に利用できます。ツールバーを起動する場合は、GUI ホットキー([Scroll Lock]キーまたは[Ctrl]キー)を 2 回押してください。画面左上に下図のようなツールバーが表示されます。



「ID Display」(ID 表示、p.73 参照)の項目で選択された値に応じて、ポートナンバーやポートネームがツールバーの右に表示されます。ツールバー上の各アイコンの内容については p.274 の表をご参照ください。









ツールバーにマウスとキーボードの入力が表示されている場合、ポートに接続されているサーバーには影響しません。そのコンピューターでの操作を実行する場合は、「X」のアイコンをクリックしてツールバーを閉じてください。

「Port Access」(ポートアクセス)タブの「Connections」(接続)メニューに戻る場合は、このメニューのアイコン(p.274 参照)をクリックするか、もう一度 GUI ホットキーを押してください。


-
- 注意:**
1. ツールバーの透明度は設定で変更可能です(p.87 参照)。
 2. ツールバーの機能はコントロールパネルにもあります。コントロールパネル(p.82 参照)でこれらを有効にした場合は、ツールバー(p.74 参照)を無効にできません。ツールバーが無効になっている場合に「Port Access」(ポートアクセス)の「Connections」(接続)メニューを呼び出すには、GUI ホットキーを 2 回押してください。
-

ツールバーアイコン

ツールバーにおける各アイコンの詳細は下表のとおりです。

アイコン	機能
	「Port Access」(ポートアクセス)タブを呼び出すことなく、現在の機器構成における、最初にアクセス可能なポートに移動します。
	「Port Access」(ポートアクセス)タブを呼び出すことなく、一つ前のアクセス可能なポートに移動します。
	オートスキャンモードを開始します。IP-KVMスイッチは、オートスキャンの対象となるポートを、ポート選択とフィルター機能(p.130 参照)の条件に従って自動的に切り替えます。これによって、コンピューターを手動で切り替えることなく、継続してポートの状態を監視できます。
	「Port Access」(ポートアクセス)タブを呼び出すことなく、次のアクセス可能なポートに移動します。
	「Port Access」(ポートアクセス)タブを呼び出すことなく、現在の機器構成における、最後にアクセス可能なポートに移動します。
	「Port Access」(ポートアクセス)タブを呼び出します。
	キーボード・マウスのブロードキャスト機能が有効になっていると、このブロードキャストアイコンが表示されます(p.202「操作モード」参照)。このアイコンをクリックすると、サイドバーに表示されている接続サーバーすべてに対して、キー入力とマウス操作をブロードキャストします。ブロードキャストの対象となるサーバーは、サイドバー下部にあるフィルター機能の条件を使って絞り込むことができます(p.130「フィルター」参照)。ブロードキャストの最中には、「×」印がついたブロードキャストアイコンが表示されます。ブロードキャストを終了するには、ブロードキャストアイコンをもう一度クリックしてください。
	ツールバーを終了します。
	パネルアレイモードを起動します(p.279 参照)。

(表は次のページに続きます)

アイコン	機能
	<p>ポートとコンピューターモジュールの接続に使用されている Cat 5e/6 ケーブルの長さを定義します。このアイコンをクリックすると、ケーブルの長さに応じた選択値を順番に切り替えます。</p> <p>Short(ショート) : 25m 未満 Medium(ミディアム) : 20~35m Long(ロング) : 35m 以上</p>

ツールバーホットキーによるポート切り替え

ツールバーが表示されると、キーボード操作で次の機能が利用できます。

- ◆ ポートナンバーを入力し[Enter]キーを押すことでポートに直接移動
- ◆ オートスキャン(自動切り替えモード)
- ◆ スキップモード(カーソルキー操作による即時切り替えモード)

オートスキャンのホットキーは[A]キーおよび [P]キーを、また、スキップモードのホットキーはカーソルキーをそれぞれ使用します。

-
- 注意:**
1. これらの操作を実行するには、ツールバーを表示しておく必要があります (p.273 参照)。
 2. PC の操作に戻る場合は、[Esc]キーでツールバーを閉じてください。
 3. オートスキャンモードが複数ユーザーの操作に影響する問題については p.282 をご参照ください。
-

オートスキャン

スキャン機能は、アカウントに応じてアクセス可能なすべてのポートを自動的に巡回し切り替えるため、監視などの用途に最適です。また、ユーザーはサイドバーのツリーでフィルター機能を利用することでスキャン対象となるポートの数を制限することも可能です。詳細は、p.136 「KVM デバイス・ポート-接続画面」および p.130「フィルター」を参照してください。

◆ スキャンインターバルの設定

オートスキャンで各ポートを表示する時間は「Scan Duration」(スキャンインターバル)の項目で設定できます(p.243 参照)。

◆ オートスキャンの起動

ツールバーを表示したまま、[A]キーを押すと、オートスキャンを起動します。オートスキャンは、現在の機器構成において最初のポートから順にポートを切り替える機能です。ポート ID の前に **S** が付いているポートは、オートスキャンモードでアクセス中のポートです。

- ◆ オートスキャンの一時停止
 - オートスキャン中に[P]キーを押すと、スキャンが一時停止し、現在のコンピューターの画面が表示されます。この間、ポートIDの前にSマークが点滅します。
 - 一時停止した場合、次回のスキャンはそのポートから再開されます(オートスキャンを終了した場合は最初のポートから再開されます)。
 - スキャンを再開するには、[Esc]キーとスペースキー以外の任意のキーを押してください。

- ◆ オートスキャンの終了
 - オートスキャン中はキーボード操作が無効になります。
 - 通常通りに使用したい場合は、[Esc]キーまたはスペースキーを押してオートスキャンを終了してください。
 - 終了するとスキャンも停止します。

スキップモード

スキップモードでは、カーソルキー(上下左右)でポートを手動切り替えできます。

オートスキャンと異なり、自動切り替えや時間制限はなく、任意のポートを表示し続けられます。

各キーの機能は以下の表を参照してください。

カーソルキー	動作
←	現在のポートから、一つ前のアクセス可能ポートに移動します。
→	現在のポートから、次のアクセス可能ポートに移動します。
↑	現在のポートから、現在の機器構成で最初にアクセス可能なポートに移動します。
↓	現在のポートから、現在の機器構成で最後にアクセス可能なポートに移動します。

ポートアクセスタブの再呼び出し

ツールバーを終了し、「Port Access」(ポートアクセス)タブに再度アクセスする場合は、以下のいずれかの方法で操作してください。

- ◆ [Esc]キーを1回押してキャンセルします。
- ◆ コントロールパネルから「Port Access」(ポートアクセス)タブを呼び出すアイコン(p.274 参照)をクリックします。
- ◆ ツールバーを終了しない方法であれば、[Scroll Lock]を1回押すと「Port Access」(ポートアクセス)画面に戻ります。

ツールバーが終了すると、「Port Access」(ポートアクセス)タブが表示されます。

GUI ホットキー一覧表

下表は、ポートアクセス後の GUI ホットキーの動作についてまとめたものです。

目的		操作
ツールバーを開く		GUI ホットキーを2回押す。
「Port Access」(ポートアクセス)タブを開く	ツールバーが表示されている場合	GUI ホットキーを1回押す。
	ツールバーが表示されていない場合	GUI ホットキーを3回押す。

パネルをクリックすると、「Port Access」タブと同様に、そのポートのコンピューターにアクセスできます。サーバーの切り替え操作も同様です。

パネルアレイツールバー

パネルアレイモードの操作は、画面上部中央に表示されるパネルアレイツールバーから行えます。ツールバーはドラッグで移動可能で、各アイコンにマウスを乗せると、機能の概要がツールチップに表示されます。各アイコンの機能は下表を参照してください。

アイコン	機能
	ツールバーを移動させる場合は、このアイコンをクリックしてドラッグしてください。 注意: このアイコンは WindowsClient でのみ使用できます。JavaClient のツールバーを移動させたい場合は、ツールバーのアイコンのない部分をクリックしてドラッグしてください。
	現在表示中のパネルでスキャンを一時停止します。
	4 つ前のパネルに移動します。
	1 つ前のパネルに移動します。
	次のパネルに移動します。
	4 つ後ろのパネルに移動します。
	Show More Ports : 画面に表示するパネルの数を増やします。
	Show Fewer Ports : 画面に表示するパネルの数を減らします。

(表は次のページに続きます)

アイコン	機能
4/3	アスペクト比 4:3 に切り替えます。
✕	パネルアレイモードを終了します。

注意: バスを使用しているメンバーがパネルアレイモードを実行していると、個別バス切り替えは機能しなくなります。パネルアレイモードの実行が複数ユーザーの操作に与える影響については p.282 をご参照ください。

マルチユーザーによる操作

本製品はマルチユーザーによる操作に対応しています。複数のユーザーがクライアントコンピューターから同時にアクセスした場合における優先順位に関するルールは下表のとおりです。

操作	ルール
通常操作時	ローカルコンソールとリモートアクセスには、それぞれ 1 つのバスが割り当てられます。ユーザーのバス割り当て方法は、次の「ユーザーとバス」セクションを参照してください。各ユーザーは独立したメニュー画面を開けます。
オートスキャンモード実行中	あるリモートユーザーがオートスキャン中に、別のユーザーが同じバスにログオンすると、最初は通常画面が表示されますが、ポートにアクセスするとオートスキャンに切り替わります。メニュー画面からオートスキャンを終了すれば、モードは停止し、同じバスにいる他のユーザーはその時点で表示されていたポートに切り替わります。
パネルレイモード実行中	<ul style="list-style-type: none">◆ ハードウェアの仕様上、ローカルコンソールがパネルレイモードを使用するとリモートユーザーのバスを使用して、パネルレイビューを表示させます。◆ ローカルコンソールでパネルレイモードを使用している時に、リモートユーザーがログオン後にポートにアクセスするとパネルレイモードでの表示になります。これはローカルコンソールがリモートユーザーのバスを使用してパネルレイモードを実行しているためです。パネルレイを終了させると通常のポートアクセスが出来ます。◆ パネルレイモードは、そのモードを最初に起動したユーザーが停止するまで継続しますが、アドミニストレーターはパネルレイモードを優先的に操作できます。◆ パネルレイモードの実行ユーザーだけがスキップモード (p.277 参照)を実行できます。

(表は次のページに続きます)

操作	ルール
パネルレイモード実行中 (続き)	<ul style="list-style-type: none"> ◆ パネルレイモードの実行ユーザーだけがポートを切り替えられます。その他のユーザーは、パネルレイモードの実行ユーザーが選択したポートに自動的に切り替わりますが、そのポートへのアクセス権限のないユーザーはポートを参照できません。 ◆ 各ユーザーはパネルレイモードで参照するパネルの数を増減できますが、パネルの数を減らすと画質が劣る場合があります。

ユーザーとバス

- ◆ KN1108VA/KN1116VA は個別バス切り替えに対応しており、他のユーザーに影響を与えずにポートを切り替えられます。例えば、リモートアクセスとローカルコンソールが同時にアクセスしている時に、リモートアクセスユーザーだけ別のバスのポートに切り替えると、そのユーザーだけが新しいバスを使用し、ローカルコンソールのユーザーは元のバス(選択ポート)での操作を続けられます。ただし、KN1108VA/KN1116VA はリモートアクセスは 1 バスだけしか使えないため、他のユーザーも一緒に切り替わるまたは、最初にアクセスしたリモートアクセスユーザーがセッションを終了するまでは切り替えが出来ない制限(firstlogin transfer 機能を参照)が発生します。
- ◆ ローカルコンソールユーザーがオートスキャンモードまたはパネルレイモードを実行している場合、リモートアクセスユーザーは個別にバス切り替えはできません。パネルレイがバスを使用するため、オートスキャンのような自動切換えの挙動となります。

第13章

ログサーバー

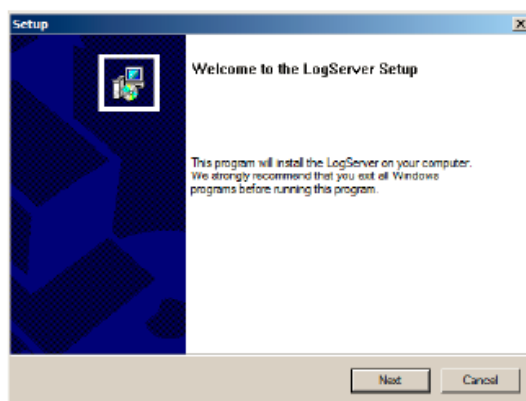
Windows 用アプリ「ログサーバー」は、KN1108VA/KN1116VA 本体で検知したイベントを記録し、検索可能なデータベースに書き込む管理ユーティリティです。本章ではログサーバーのインストール方法および設定方法について説明します。

インストール

1. ログサーバーとして使用するコンピューターで、ウェブブラウザを使って IP-KVM スイッチにログインしてください(p.62 参照)。
2. 画面上部の「Download」(ダウンロード)タブをクリックし、ログサーバープログラムをダウンロードしてください。
3. ログサーバーをダウンロードしたフォルダーに移動し、「LogSetup.exe」のアイコンをダブルクリックしてください。この操作で WindowsClient の接続画面が起動します。

注意: ブラウザーからファイルを実行できない場合、ファイルをディスクに保存し、ディスクからファイルを実行するようにしてください。

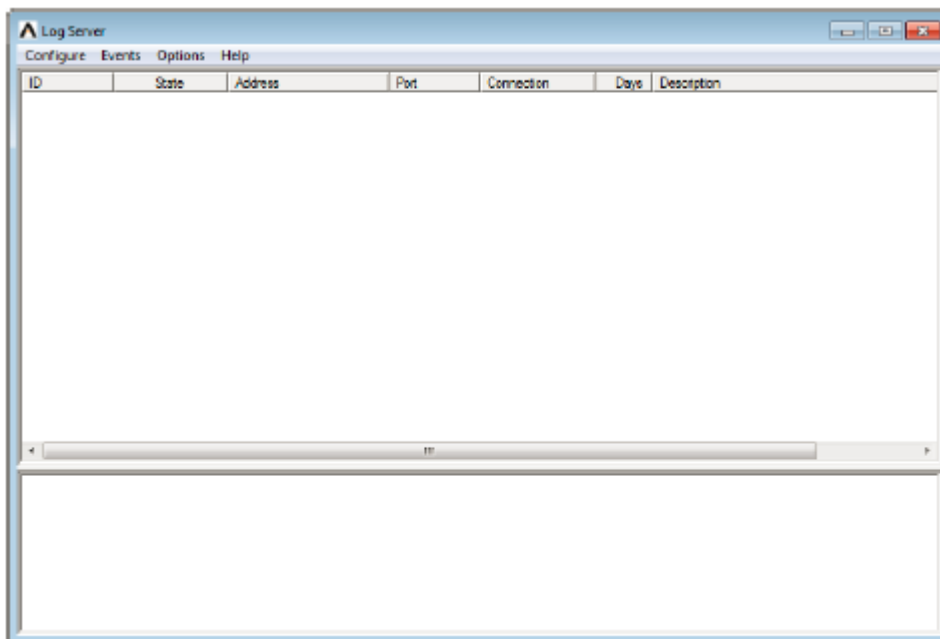
以下のようなログサーバーのインストーラーの画面が表示されます。



4. 「Next」(次へ) ボタンをクリックし、インストーラーの画面の指示に従ってインストールしてください。インストールが完了すると、ログサーバーのアイコンがお使いのコンピューターのデスクトップ上に作成されます。

ログサーバーの起動

ログサーバーを起動する場合は、ログサーバーのアイコンをダブルクリックするか、コマンドラインからログサーバーのフルパスを入力して実行してください。ログサーバーを起動すると以下のような画面が表示されます。



-
- 注意:**
1. ログサーバーとして使用するコンピューターの MAC アドレスを、事前に KN1108VA/KN1116VA の ANMS メニューで設定しておく必要があります。
 2. ログサーバーを使用する場合、Microsoft Jet OLEDB 4.0 ドライバーがインストールされている必要があります。
-

この画面は以下の 3 つの部分から構成されています。

- ◆ 上部のメニューバー
- ◆ 中央の製品一覧表示パネル
- ◆ 下部のイベントリストパネル

これらは以下のセクションで詳しく説明していきます。

メニューバー

メニューバーは以下の 4 項目から構成されています。

- ◆ Configure (設定)
- ◆ Events (イベント)
- ◆ Options (オプション)
- ◆ Help (ヘルプ)

これらは以下のセクションで詳しく説明していきます。

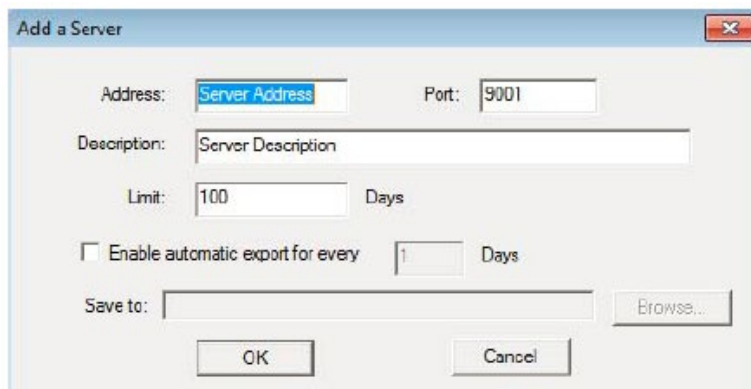
注意: メニューバーが無効になっているように見える場合は、一覧のウィンドウをクリックして手前に表示することで有効にしてください。

設定

「Configure」(設定)メニューには、「Add」(追加)、「Edit」(変更)、「Delete」(削除)の 3 つの項目があります。リストに複数の IP-KVM スイッチを追加したり、リストにある IP-KVM スイッチの情報を編集したり、リストから IP-KVM スイッチを削除したりするために使用します。

- ◆ 一覧に KN1108VA/KN1116VA を追加する場合は「**Add**」(追加)をクリックしてください。
- ◆ 一覧表示された機器を編集する場合は「**Edit**」(変更)を、また、削除する場合は「**Delete**」(削除)をそれぞれクリックしてください。

「Add」(追加)または「Edit」(変更)を選択すると、以下のようなダイアログが表示されます。



The screenshot shows a dialog box titled "Add a Server". It contains the following fields and controls:

- Address:** A text box containing "Server Address" (highlighted in blue).
- Port:** A text box containing "9001".
- Description:** A text box containing "Server Description".
- Limit:** A text box containing "100" followed by the label "Days".
- Enable automatic export for every:** A checkbox that is currently unchecked, followed by a text box containing "1" and the label "Days".
- Save to:** A text box followed by a "Browse..." button.
- Buttons:** "OK" and "Cancel" buttons at the bottom.

ダイアログ内における各項目の詳細は下表のとおりです。

項目	説明
Address (アドレス)	ログサーバーが稼働しているコンピューターの IP アドレスまたは DNS 名(ネットワーク管理者によって DNS 名が設定されている場合)を入力します。
Port (ポート)	「Device Management」(デバイス管理)でログサーバーに割り当てられたポート番号を入力します。
Description (説明)	機器の補足説明を入力します。
Limit (期限)	ログサーバー内にイベントを保管する日数を設定します。ここで設定した日数が経過すると、メンテナンス機能で削除できます。
Enable automatic export for every (次の期間ごとに自動エクスポートする)	この項目にチェックを入れ、日数を入力すると、その日数ごとにログサーバーがログファイルにログを自動エクスポートします。「参照」をクリックして、ログファイルの保存先となるフォルダーを選択してください。

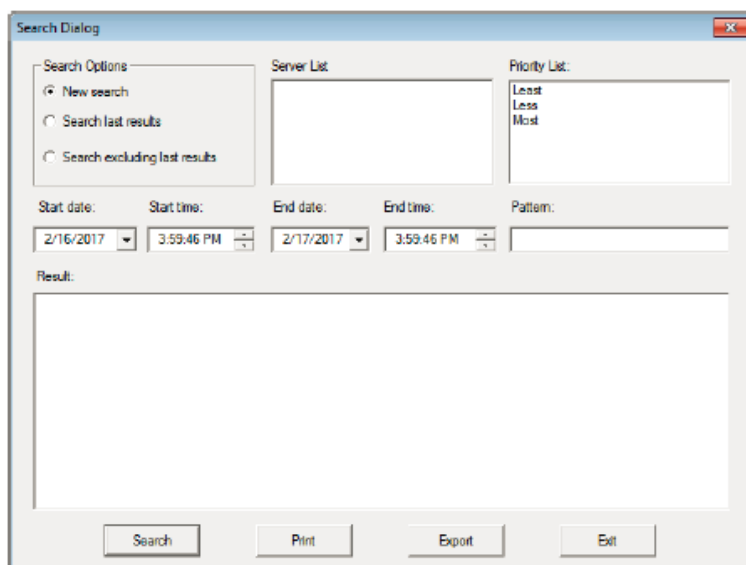
項目の入力または編集が終わった場合は、「OK」ボタンをクリックして操作を終了してください。

イベント

「Events」(イベント)メニューは、「Search」(検索)、「Maintenance」(メンテナンス)の各メニューから構成されています。

検索

「Search」(検索)メニューでは、特定の単語や文字列を含むイベントを検索できます。このメニューを開くと、以下のような画面が表示されます。



画面の各項目の詳細は下表のとおりです。

項目	説明
Search Options (検索オプション)	検索範囲のオプションを選択するラジオボタンを提供します。
New Search (新しい検索)	この項目が選択されると、選択された機器に対して、データベース内の全イベントを対象に検索します。
Search last results (前回の結果から検索)	前回の検索結果を対象に二次検索を行います。
Search excluding last results (前回の結果以外から検索)	前回の検索結果以外を対象に二次検索を行います。
Server List (サーバーリスト)	IP-KVM スイッチは IP アドレスにしたがって一覧表示されます。検索の対象となる機器をこの一覧から選択してください。ここでは複数の機器を選択することも可能です。機器が選択されていない場合は、すべての機器を対象に検索を行います。
Priority (優先度)	表示する検索結果の詳細の度合いを設定します。「Least」を選択すると概要を、「Most」を選択すると詳細をそれぞれ表示します。結果表示の色分けはそれぞれ、「Least」は黒、「Less」は青、「Most」は赤となっております。

(表は次のページに続きます)

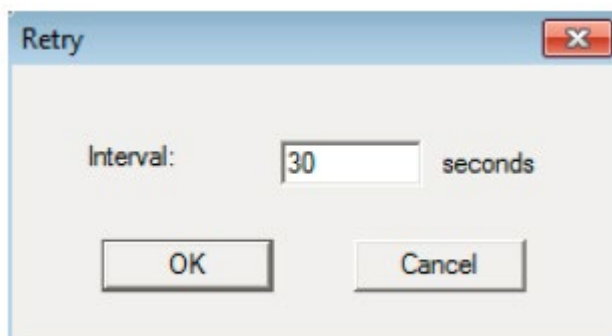
項目	説明
Start Date (開始日)	検索の対象となる期間の開始日(日付)を設定します。 YYYY/MM/DD のフォーマットで入力してください。例: 2009/11/04
Start Time (開始時刻)	検索の対象となる期間の開始日(時刻)を設定します。 HH:MM:SS のフォーマットで入力してください。
End Date (終了日)	検索の対象となる期間の終了日(日付)を設定します。 YYYY/MM/DD のフォーマットで入力してください。
End Time (終了時刻)	検索の対象となる期間の終了日(時刻)を設定します。 HH:MM:SS のフォーマットで入力してください。
Pattern (パターン)	検索したい文字列を指定します。ワイルドカード(%)を使った検索にも対応しています。例えば、「h%ds」という文字列を検索すると、「hands」と「hoods」の2件がヒットします。
Results (結果)	条件に合致するイベントが一覧表示されます。
Search (検索)	検索を開始します。
Print (印刷)	検索結果を印刷します。
Export (エクスポート)	検索結果をファイルに保存します。
Exit (終了)	ログサーバーを終了します。

メンテナンス

管理者は、このメニューからデータベースを手動でメンテナンスできます(例:期限内のレコードの削除など)。

オプション

「Network Retry」(ネットワーク再試行)の項目では、接続に失敗した場合にログサーバーが再接続まで待機する時間(秒)を設定できます。この項目をクリックすると、以下のようなダイアログが表示されます。



秒数を入力したら、「OK」ボタンをクリックしてダイアログを終了してください。

ヘルプ

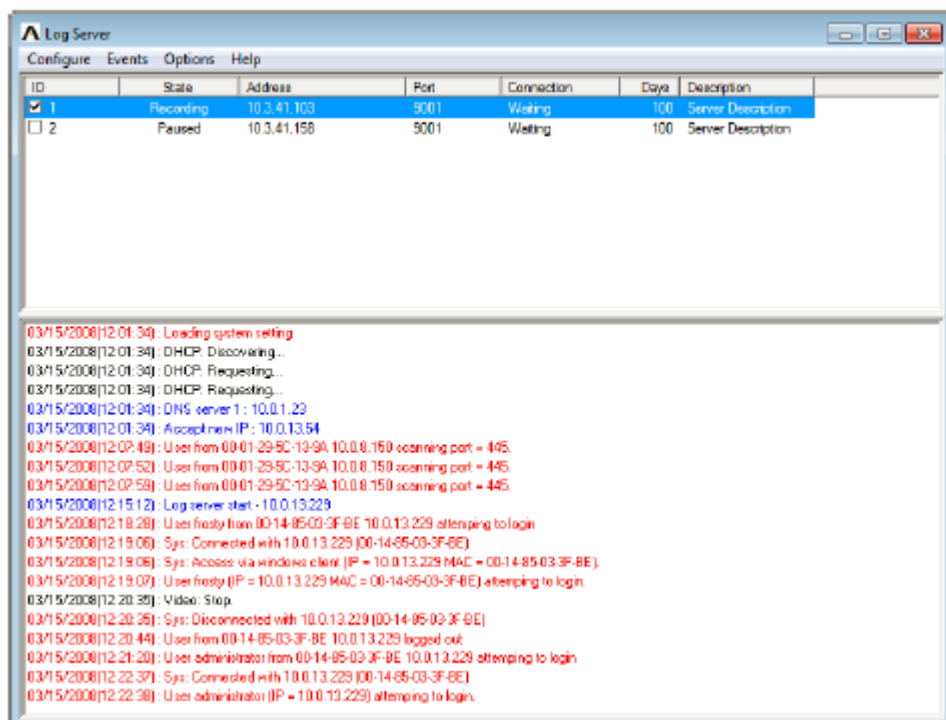
Windows のオンラインヘルプファイルを呼び出す場合は、「Help」(ヘルプ)メニューの「Contents」(コンテンツ)サブメニューをクリックしてください。ヘルプファイルには、ログサーバーのセットアップ、操作、トラブルシューティングの各方法について記載されています。

ログサーバーメイン画面

概要

ログサーバーのメイン画面は2つのメインパネルに分かれています。

- ◆ 上部のリストパネルには、ログサーバーで記録対象となっているすべての機器が表示されます。
- ◆ 下部のイベントパネルには、選択中の機器の情報が表示されます(選択機器は反転表示されます)。
- ◆ 一覧から機器を選択する場合は、対象となる機器の行を選択してください。



リストパネル

リストパネルには以下の項目が表示されます。

項目	説明
ID	ログサーバーに追加されているデバイスを一覧表示します。チェックボックスを使うと、ログを参照したいデバイスを選択できます。
State (状態)	デバイスの ID 番号を表示し、ログサーバーがこの機器のログを記録するかを選択します。ID のチェックボックスにチェックが入っていると、この欄には「Recording」(記録中)と表示され、ログが記録されます。ID のチェックボックスにチェックが入っていないと、この欄には「Paused」(一時停止)と表示され、ログは記録されません。 注意: リスト上で選択されていない機器であっても、チェックボックスにチェックが入っている場合、その機器はログサーバーのログ記録の対象となります。また、チェックが外れている間は、ログサーバーでログが記録されません。
Address (アドレス)	ログサーバーへの登録時に設定された IP アドレスまたは DNS 名です。
Port (ポート)	機器に割り当てられたアクセスポートナンバーです。
Connection (接続)	<ul style="list-style-type: none">◆ ログサーバーが機器に接続されている場合、この項目には「Connected」(接続済み)と表示されます。◆ ログサーバーが接続されていない場合、この項目には「Waiting」(待機中)と表示されます。これは、ログサーバーの MAC アドレスが正しく設定されていないことを意味しますので、「Device Management」(デバイス管理)タブの「ANMS」メニューで正しく設定してください。
Days(日数)	記録されたイベントログがデータベース内に保存される期間を日数で表示します。
Description (説明)	機器をログサーバーに登録した時に設定した説明が表示されます。

イベントパネル

下部パネルには、選択中の機器のイベントログが表示されます。リストパネルで選択されていなくても、「Recording」にチェックが入っていれば、その機器のログは記録されます。チェックが外れている間は記録されず、再度有効にすると、その時点から記録が再開されます。

付録

製品仕様

	KN1108VA	KN1116VA
コンピューター接続数		
ダイレクト	8	16
最大	128(カスケード接続)	256(カスケード接続)
コンソール接続数		
ローカル	1	
リモート	1	
コンピューター側 対応インターフェース	キーボード/マウス:PS/2、USB(Win、Mac、Oracle 社 SPARC(Sun))、シリアル	
コンソール側 対応インターフェース	キーボード/マウス:PS/2、USB	
ポート選択	プッシュボタン、ホットキー、GUI	
コネクター		
KVM ポート	キーボード/マウス/モニター /スピーカー/マイク:RJ-45 メ ス×8	キーボード/マウス/モニター /スピーカー/マイク:RJ-45 メ ス×16
コンソールポート	キーボード:USB Type-A メス×1、ミニ DIN 6 ピン メス×1 マウス:USB Type-A メス×1、ミニ DIN 6 ピン メス×1 モニター:D-sub 15 ピン メス×1 スピーカー:ステレオミニジャック×1 マイク:ステレオミニジャック×1	
電源	3 極 AC 電源ソケット(IEC 60320 C14)×2	
シリアル	RJ-45 メス×2	
モデム	RJ-45 メス×1	
LAN ポート	RJ-45 メス×2	
PON	RJ-45 メス×1	
USB ポート	USB/バーチャルメディア:USB Type-A メス×3	

(表は次のページに続きます)

	KN1108VA	KN1116VA
ラップトップ USB コンソール(LUC)ポート	ミニ USB Type-B メス×1	
スイッチ		
ポート選択	プッシュボタン×2	
リセット	ピンホール型スイッチ×1	
電源	ロッカースイッチ×2	
LED		
オンライン	8(Green)	16(Green)
電源	2(Blue)	
リンク 10 / 100 / 1000 Mbps	2(Red / Orange / Green)	
エミュレーション		
キーボード/マウス	PS/2、USB	
スキャンインターバル	1~255 秒(ユーザー設定)	
最大入力電力定格	AC 100V~240V、50/60Hz、1.0A (日本仕様は PSE 対応 3P/100V 電源コードを 2 本同梱)	
消費電力	AC110V:13.6W:100BTU/h AC220V:14.5W:104BTU/h 注意: ● ワット単位の測定値は、外部負荷がない場合の装置の標準的な消費電力を示します。 ● BTU/h 単位での測定値は、デバイスに完全に負荷がかかった状態の消費電力を示します。	AC110V:14W:102BTU/h AC220V:15W:107BTU/h 注意: ● ワット単位の測定値は、外部負荷がない場合の装置の標準的な消費電力を示します。 ● BTU/h 単位での測定値は、デバイスに完全に負荷がかかった状態の消費電力を示します。

(表は次のページに続きます)

	KN1108VA	KN1116VA
解像度		
ローカル	1920×1200@60Hz※	
リモート	1920×1200@60Hz※	
動作環境		
動作温度	0～40℃	
保管温度	-20～60℃	
湿度	0～80% RH、結露なきこと	
本体		
ケース材料	メタル	
重量	3.52 kg (7.75 lb)	3.56 kg (7.84 lb)
フェイスプレート サイズ (W×D×H)	439×288×44 mm	

IP アドレスの設定

管理者が初回ログインする際は、他のユーザーがネットワーク経由でアクセスできるよう、IP-KVM スイッチに IP アドレスを設定する必要があります。設定方法は 3 通りありますが、いずれも使用する PC が同じネットワークセグメントにあることを確認してください。ログイン後、スイッチ本体に固定 IP を設定できます(p.202「操作モード」参照)。

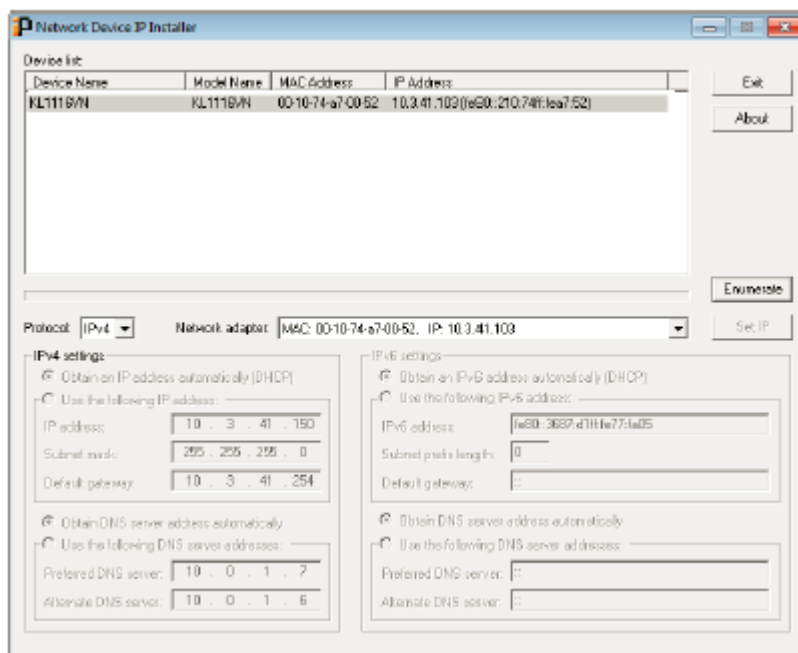
ローカルコンソール

最も簡単な IP アドレスの設定方法はローカルコンソールから設定する方法です。設定方法の詳細については p.205「ネットワーク」をご参照ください。

IP インストーラー

Windows を使用している場合は、「IP インストーラー」ツールで IP-KVM スイッチに IP アドレスを設定できます。ツールは弊社ウェブサイトの「サポートとダウンロード」ページから、製品型番で検索してダウンロードしてください。ダウンロード後は、案内に従って設定を行います。

1. ダウンロードしたファイル「IPInstaller.zip」をお使いのコンピューター上の適切なフォルダーに解凍してください。
2. 手順 1 で IP インストーラーを解凍したフォルダーに移動し、IP インストーラーの実行ファイル (IPInstaller.exe) を起動してください。以下のようなダイアログが表示されます。



3. 「Device List」(デバイスリスト)から IP アドレスを設定する機器を選択してください。

注意:

1. 一覧に何も表示されない、また、対象となる機器が表示されない場合は、「Enumerate」(一覧表示)をクリックして、「Device List」(デバイスリスト)を更新してください。
2. 一覧に複数のデバイスが表示されている場合は、製品本体に記載されている MAC アドレスを使って識別してください。

4. IP アドレスを自動取得する場合は「Obtain an IP address automatically (DHCP)」、固定 IP を設定する場合は「Use the following IP address」を選択し、IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイを入力してください。
5. 「Set IP」(IP を設定する)ボタンをクリックしてください。
6. IP アドレスを変更すると KN1108VA/KN1116VA 再起動します。再起動後に IP アドレスが「Device List」(デバイスリスト)に表示されたら、IP アドレスが正しいことを確認してから「Exit」(終了)ボタンをクリックしてください。IP インストーラーについての詳細は p.206 をご参照ください。

ブラウザ

1. リモートアクセスする PC の IP アドレスを「192.168.0.XXX」に設定してください (XXX は 1～255 の範囲で、60 以外の任意の値)。KN1108VA/KN1116VA に「10.0.6.x」のような IP が設定されている場合は、PC も「10.0.6.yyy」と同じネットワークセグメントにしてください。
2. ウェブブラウザのアドレスバーに KN1108VA/KN1116VA のデフォルト IP アドレス (192.168.0.60) を指定してアクセスしてください。
3. KN1108VA/KN1116VA が使用しているネットワークで有効な固定 IP アドレスを設定してください。

必要であれば、手順 1 で設定を変更したコンピューターの IP アドレスをログアウト後に元の値に戻してください。

IPv6

KN1108VA/KN1116VA は、IPv6 の「リンクローカルアドレス」と「ステートレス自動設定」、「ステートフル自動設定(DHCPv6)」の 3 種類に対応しています。

リンクローカルアドレス

製品本体に電源を入れると、自動的に IPv6 のリンクローカルアドレスが設定されます(例: fe80::210:74ff:fe61:1ef)。このリンクローカルアドレスの内容を確認する場合は、IP-KVM スイッチに IPv4 のアドレスでログインし、「Device Management」(デバイス管理)→「Device Information」(デバイス情報)メニューを開いてください。アドレスが「General」(全般)リスト(p.202 参照)に表示されます。

製品本体の IPv6 アドレスの内容が確定すると、ブラウザや Windows・Java の各クライアントソフトウェアからのログインにこのアドレスを使うことができます。

例えば、ブラウザからログインする場合には、URL バーにアドレスを次のように入力してください。

`http://[fe80::2001:74ff:fe6e:59%5]`

また、クライアントソフトウェアからログインする場合には、サーバーパネルの「IP」欄(p.63 参照)でアドレスを次のように入力してください。

`fe80::2001:74ff:fe6e:59%5`

-
- 注意:**
1. IPv6 リンクローカルアドレスを使ってログインする場合は、クライアントコンピューターと IP-KVM スイッチを同一のローカルネットワークセグメントにセットアップしてください。
 2. 「%5」の部分は、クライアントコンピューターによって使用される「%インターフェース」です。クライアントコンピューターの IPv6 アドレスを確認する場合は、コマンドラインから下記のコマンドを実行してください。
`ipconfig /all`
「%」値は IPv6 アドレスの最後に現れます。
-

ステートレス自動設定

IP-KVM スイッチがセットアップされているネットワーク環境で、IPv6 ステートレス自動設定機能に対応したデバイス(例:ルーター)を使用している場合、IP-KVM スイッチは、このデバイスからプレフィックス情報を取得して、IPv6 アドレスを生成できます。例えば、「2001::74ff:fe6e:59」です。

先に述べたように、アドレスは「Device Management」(デバイス管理)→「Device Information」(デバイス情報)メニューの「General」(全般)リスト(p.202 参照)に表示されます。

IP-KVM スイッチの IPv6 アドレスの内容が確定すると、ブラウザや Windows・Java の各クライアントソフトウェアからログインする際に、このアドレスを使用できます。

例えば、ブラウザからログインする場合には、URL バーにアドレスを次のように入力してください。

`http://[2001::74ff:fe6e:59]`

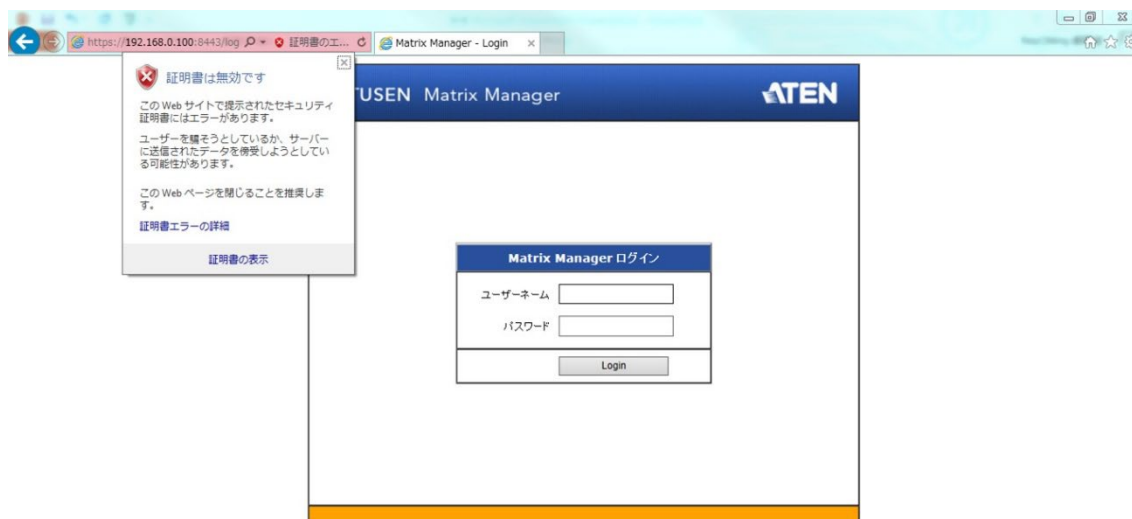
また、クライアントソフトウェアからログインする場合には、「Server」(サーバー)パネルの「IP」欄(p.63「WindowsClient 接続画面」参照)にアドレスを次のように入力してください。

`2001::74ff:fe6e:59`

信頼された証明書

概要

ブラウザ経由で IP-KVM スイッチにログインすると、以下のようなセキュリティー警告ダイアログが表示されます。また、デバイスの証明書の信頼性が低いため、操作を続行するかを問うメッセージが表示されます。



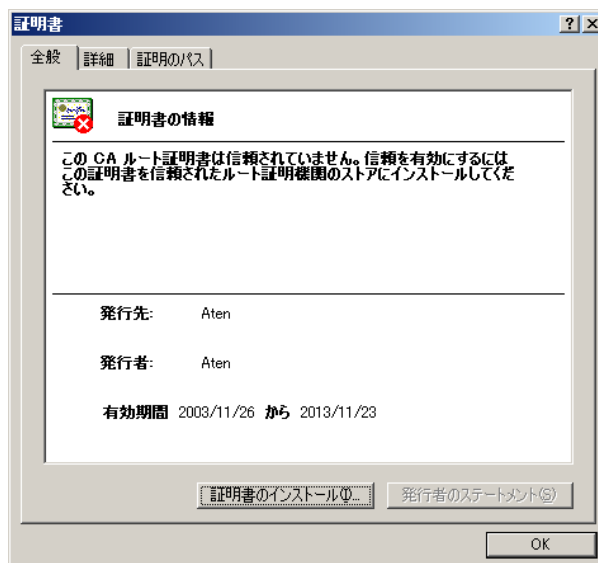
この証明書は信頼できるものですが、証明書の名前が Microsoft の信頼された認証局のリストに存在しないため、このようなダイアログが表示されます。このダイアログには以下のいずれかの方法で対応してください。

- 1) ダイアログの警告を受け入れず、「Yes」ボタンを押して、処理を続行する。
 - 2) 証明書をインストールし、信頼できるものと認識させる。
- ◆ 別のユーザーのコンピューターから操作している場合は「Yes」ボタンを押して、この証明書を現在のセッションでのみ受け入れてください。
 - ◆ ご自身のコンピューターから操作している場合は、証明書をお使いのコンピューターにインストールしてください。証明書がインストールされると、信頼できる証明書として認識されます。方法の詳細については後述しますので、そちらをご参照ください。

証明書のインストール

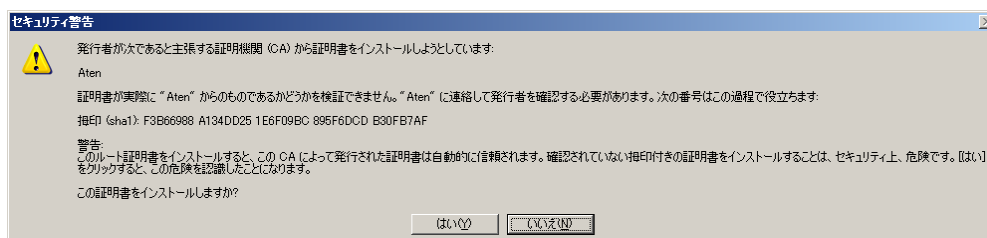
証明書のインストールは以下の手順で作業してください。

1. 「セキュリティの警告」ダイアログボックスで、「証明書の表示」ボタンをクリックします。これをクリックすると以下のような「証明書」ダイアログボックスが表示されます。



注意: 上図内の赤い枠で囲まれている「X」の印は、この証明書は信頼できないと認識されていることを表しています。

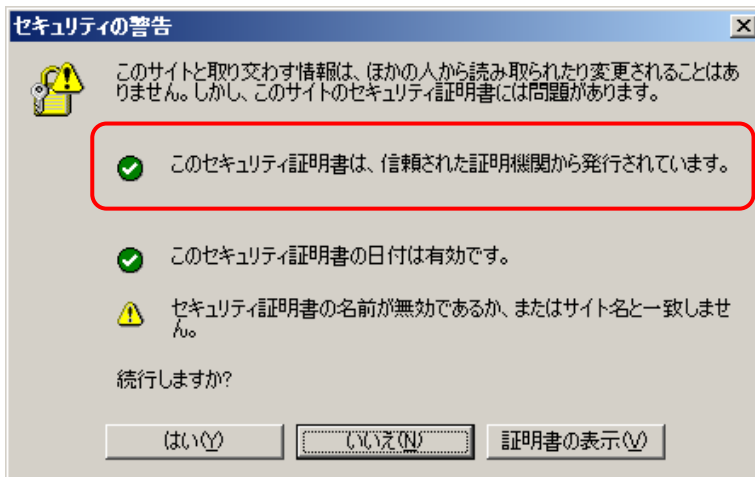
2. 「証明書のインストール」ボタンをクリックします。
3. インストールウィザードの指示に従って、インストールを進めていきます。特に不都合がない場合は、デフォルト値でインストールをしてください。そうすると、以下のような警告ダイアログが表示されます。



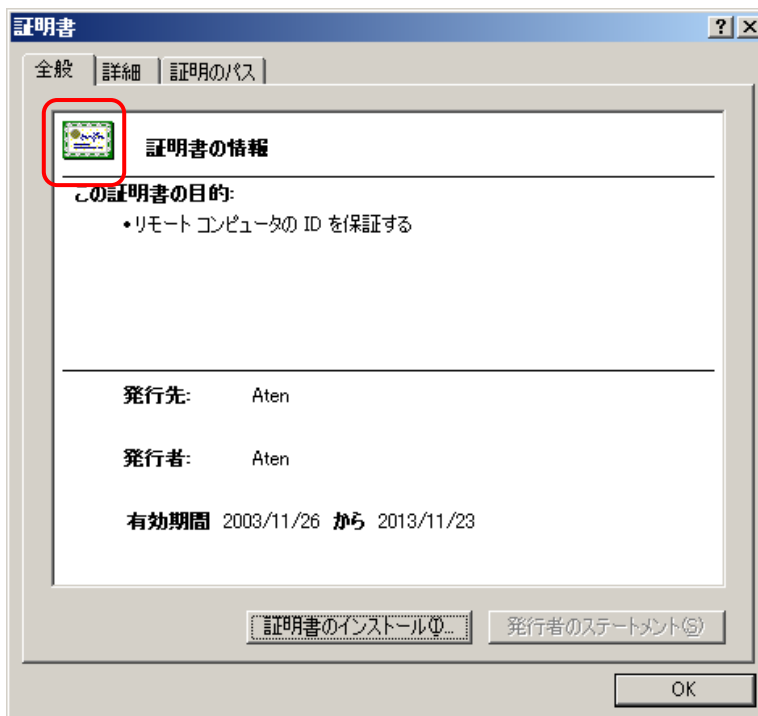
4. ダイアログに表示されている「はい」ボタンを押してください
5. ダイアログから「完了」ボタンを押してインストール作業を完了させてください。
6. 「OK」ボタンを押すとダイアログが終了します。

証明書のインストール完了

この作業により、証明書は信頼できるものに変更されました。



「証明書の表示」ボタンをクリックすると、インストール前に見られた「×」の印が消え、証明書が信頼できるものであるというメッセージが表示されます。



自己署名(プライベート)証明書

オリジナルの自己署名暗号鍵や証明書を作成したい場合は、フリーツール「openssl.exe」をウェブサイト(www.openssl.org)からダウンロードできます。オリジナルのプライベートキーや証明書を作成する場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. ダウンロードした openssl.exe を解凍したディレクトリーに移動してください。
2. 以下のパラメーターを指定して openssl.exe を実行してください。

```
openssl req -new -newkey rsa:1024 -days 3653 -nodes -x509  
-keyout CA.key -out CA.cer -config openssl.cnf
```

注意:

1. 上記のコマンドは 1 行で入力してください。パラメーターの入力途中で [Enter] キーを押さないでください。
2. 入力値にスペースが含まれている場合は、その値をダブルクォートで囲んでください。(例: "ATEN International")

以下のパラメーターを使用して、作成時に入力するキーを少なくすることも可能です。

```
/C /ST /L /O /OU /CN /emailAddress.
```

例

```
openssl req -new -newkey rsa:1024 -days 3653 -nodes -x509 -keyout CA.key -out CA.cer -  
config openssl.cnf -subj "/C=yourcountry/ST=yourstateorprovince/L=yourlocationor  
city/O=yourorganiztion/OU=yourorganizationalunit/CN=yourcommonname/emailAddress=name@  
yourcompany.com"
```

入力例

```
openssl req -new -newkey rsa:1024 -days 3653 -nodes -x509 -keyout CA.key -out CA.cer -  
config openssl.cnf -subj "/C=CA/ST=BC/L=Richmond/O=ATEN  
International/OU=ATEN/CN=ATEN/emailAddress=eservice@aten.com.tw"
```

ファイルのインポート

openssl.exe のプログラムが終了すると、このプログラムを実行したディレクトリーに「CA.key」(プライベートキー) と「CA.cer」(自己署名済 SSL 証明書)という2つのファイルが作成されます。これらのファイルは、「Security」(セキュリティー)メニューの「Private Certificate」(プライベート認証)メニューでアップロードします (p.232 参照)。

トラブルシューティング

管理

問題	解決法
ファームウェアをアップグレード後も、ブラウザでログインすると古いバージョン情報が表示される	製品本体には実際に新しいバージョンのファームウェアが適用されていても、ウェブブラウザにはキャッシュされたページが表示されている可能性があります。以下の方法でキャッシュをクリアして、再度ログインしてください。 ◆ IE をお使いの場合:[ツール]→[インターネットオプション]→[インターネット一時ファイル]→[ファイルの削除] ◆ Firefox をお使いの場合:[ツール]→[プライバシー情報の消去]
KN1108VA/KN1116VA のデフォルトのネットワーク設定が DHCP であるにもかかわらず、ネットワークは固定アドレスを使用しており、DHCP サーバーがない。	ローカルコンソールから KN1108VA/KN1116VA に固定 IP アドレスを設定してください。詳細については p.205 をご参照ください。

全般

問題	解決法
「ローカル」と「リモート」の概念がよくわからない。	詳細については p.17 をご参照ください。
動作に異常が見られる。	IP-KVM スイッチのリセットボタンを短押しして、再起動してみてください(p.31 参照)。また、機器類にアース線が外れていないかご確認ください
マウスやキーボードが適切にリセットされなかったため、反応が見られない。	コンソールポートに接続されているケーブルを一旦抜いて、接続しなおしてください。

(表は次のページに続きます)

問題	解決法
製品本体をローカルリセットしたことにより、突然ネットワークの通信が遮断される。	IP-KVM スイッチとのセッションを終了し、30 秒程度待機してから再ログインしてください。
マウスのポインターがどちらか分からなくなる	ローカルとリモートの 2 つのマウスポインターが表示されて混乱する場合は、マウス表示の切り替え機能を使って片方のポインターを小さくすることができます。詳細については p.98 をご参照ください。
英語以外の言語を入力すると文字が表示されない。	ローカル側とリモート側で OS キーボード言語が異なることに起因します。ローカルとリモートの両方でキーボード言語の設定が同じであるか確認してください。
Sun キーボードをエミュレートしていると、OK モードにならない([Stop] [A])。	OK モードを開始するには、次の手順に従ってキー操作を行ってください。 <ol style="list-style-type: none"> 1. [Ctrl]キーを押して、指を離してください。 2. [T]キーを押したままにしてください。 3. [A]キーを押したままにしてください。 4. [T]キーと[A]キーから同時に指を離してください。
セカンドコンソールモニターにゴーストが映る。	セカンドコンソールモニターと製品本体との距離が離れすぎています。VGA ケーブルの長さは最大 20m で、場合によっては、より短いケーブルを使用する必要があります。現在のものより短く、適切な長さの VGA ケーブルに交換してください。
与えられたアカウントでログインできない。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 正しいユーザーネームとパスワードを使用しているか確認してください。 2. ログインした後に各サーバーへアクセスするために必要な権限が、管理者から与えられているか確認してください。 3. KN1108VA/KN1116VA が CC2000 で管理されている場合は、以下のいずれかで対応してください。1. IP-KVM スイッチ側で CC 管理設定を無効にする(p.215 参照) 2. CC サーバー側で管理対象から除外する(詳細は CC2000 のマニュアルを参照)。

(表は次のページに続きます)

問題	解決法
正しい IP アドレスとポート番号を指定しても IP-KVM スイッチにアクセスできない。	IP-KVM スイッチがルーターを超えた先にある場合は、ルーター側でポート転送(またはバーチャルサーバー)機能を設定しているか確認してください。ポート転送に関する詳細は p.325 をご参照ください。
ウェブブラウザからログインした際に、「404 Object Not Found」のエラーが発生する。	ログイン文字列が設定されている場合は、ウェブブラウザでアクセスする際に、IP-KVM スイッチの IP アドレスの後ろにスラッシュを続け、その後ろに正しい文字列を入力してください(p.228 参照)。
突然ネットワークの通信が遮断される。	IP-KVM スイッチとのセッションを終了し、30 秒程度待機してから再ログインしてください。経由するネットワークスイッチやリモート端末の省エネ設定を無効にするほか、一般のインターネット回線で接続している場合は帯域保証型の回線に変えるなど対策を行ってください。
クライアントコンピューターでリモートのサーバー画面が表示されない。	サーバーに接続しているコンピューターモジュールのファームウェアのバージョンが、製品本体のメインファームウェアのバージョンと同じであるか確認してください。コンピューターモジュールのファームウェアアップグレードの詳細については p.256 をご参照ください。 サーバーの解像度を 1280×1024 以下に設定してください。
クライアントコンピューターでリモートのサーバー画面は表示されないが、ローカルコンソールでマウスは表示される。ただし、このマウスをクリックしても何の反応もない。	左[Alt]キーを 1 度押してから、右[Alt]キーを 1 度押してください。
クライアントコンピューターの表示に歪みが見られ、自動同期を実行しても解決しない。	解像度の異なるコンピューターが接続されているポートに一旦切り替えてから、元のポートを表示し直してください。 この方法でも解決しない場合は、そのポートに接続されているコンピューターの解像度とリフレッシュレートを変更してください。変更し終わったら、新しい解像度に設定することも、元の解像度に戻すことも可能です。

(表は次のページに続きます)

問題	解決法
<p>現在使用しているキーボードのロックキーの状態とコントロールパネルのロックキーLED ランプの状態が一致しない。</p>	<p>ログイン直後、コントロールパネルの LED 表示がキーボードの状態と一致しない場合があります。その際は、LED アイコンをクリックして手動で同期してください。一度同期すれば、以後は自動で状態が反映されます。</p>
<p>ログインすると、ウェブブラウザ上に CA ルート認証が信頼されていない、または、認証エラーのメッセージが返ってくる。</p>	<p>証明書の名前が信頼済み証明書リストにないことに起因します。この証明書は信頼できるものですので、これを受け入れてください。詳細については p.301 をご参照ください。</p>
<p>複数のユーザーで操作している際に、操作中のポートに排他(ないしは占有)の権限を持っていたにもかかわらず、「Port Access」(ポートアクセス)タブを呼び出し、占有していたポートに戻ると、別のユーザーに操作権限が移っていた。なぜこのような現象が起こるのか？</p>	<p>メニュー画面からツリーで再度選択してポートに戻ろうとすると、再接続の前にバスセッションを一旦解放します。別のユーザーがポートで待機していた場合は、解放した時に次のユーザーに権限が移行します。権限を保持したまま操作画面に戻る正しい方法は、「Port Access」(ポートアクセス)メニューの右上にある「Close」(閉じる)ボタンをクリックしてください。</p>
<p>IP インストーラーのデバイスリストに、ATEN IP-KVM スイッチが一覧表示されない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ◆ 自動検出を正常に機能させるには、ネットワーク内でブロードキャスト機能が有効になっているか、またはファイアーウォールなどで遮断していないか確認してください。 ◆ 自動検出が正常に機能するように、ファイアーウォールやウイルス対策ソフトウェアを一時的に無効にしてください。 ◆ ATEN IP-KVM スイッチと PC が同じネットワーク・セグメントにあるか確認してください。

マウス

問題	解決法
マウスやキーボードの操作に対する反応がない。	<p>コンピューターモジュールのファームウェアのバージョンが製品本体のメインファームウェアのバージョンと同じか確認してください。詳細は p.256 をご参照ください。</p> <p>IP-KVM スイッチのコンソールポートからデバイスを抜き差ししてみてください。</p>
マウスの追従が極端に遅い。	<p>転送されるデータ量が多いため、マウスの表示が動作に追いつかないことが考えられます。ビデオ品質を下げて (p.87 参照)、データ転送量を減らして改善できるかお試しください。</p>
サーバーに接続すると、マウスポインターが 2 つ表示される。	<p>ポインターの種類は変更できます。詳細については p.115 をご参照ください。</p>
マウスポインターがシングルポインターモードの場合、コントロールパネルにアクセスできない。	<p>コントロールパネルの起動直後に、ポインターをデュアルモードに変更してください。</p>
なぜデュアルポインターモードがあるのか？	<p>リモートサーバーのポインターが実際に現在の場所にあることがわかるようにするためです。</p> <p>ネットワークのラグなどによって、マウスカーソルの遅延が発生しても、目視でどれぐらいか確認するようになっています。</p>
マウスのポインターが 2 つあって混乱する。	<p>ローカルとリモートの 2 つのマウスポインターが表示されて混乱する場合は、マウス表示の切り替え機能を使って片方のポインターを小さくすることができます。マウス表示の切り替え機能については p.98 を、また、マウスポインターの種類については p.115 をそれぞれご参照ください。</p>

(表は次のページに続きます)

問題	解決法
Windowsにログインすると、ローカル、リモートのマウスポインターが同期しない。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「Mouse Sync Mode」(マウス同期モード)の設定状況を確認してください(p.91 参照)。「Automatic」(自動)に設定されている場合は、「Manual」(手動)に変更してください(マウス同期に関する詳細は p.93 を参照)。 2. 「Manual」(手動)モードの場合は、自動同期機能を使ってローカルとリモートのモニターを同期させてください(p.87 参照)。 3. 上記の方法でも解決しない場合は、マウス調整機能(p.99 参照)を使ってポインターを同期させてください。 4. 上記の方法でも解決しない場合は、p.337 を参照にしながら、これ以外のマウス同期の方法を試してみてください。
Mac にログインすると、ローカルとリモートのマウスポインターが同期しない。	自動でマウス同期を行うには、「default」(デフォルト)または「Mac2」に設定します。「default」(デフォルト)ではマウス同期がうまくいかない場合は、「Mac2」に設定してみてください(p.92 参照)。
Sun にログインすると、ローカル、リモートのマウスポインターが同期しない。	自動マウスダイナシクによる同期は、Windows および Mac(G4 以降)の USB マウスにのみ対応しています。Sun をお使いの環境では、手動でポインターを同期させる必要があります。詳細については、p.91「マウスダイナシクモード」、p.93「手動によるマウス同期」をご参照ください。 上記の方法で同期したら、p.337「その他のマウス同期方法」の「Sun/Linux」を参考にして、Sun 用の設定を行ってください。
Linux にログインすると、ローカル、リモートのマウスポインターが同期しない。	自動マウスダイナシクによる同期は、Windows および Mac(G4 以降)の USB マウスにのみ対応しています。Linux をお使いの環境では、手動でポインターを同期させる必要があります。詳細については、p.91「マウスダイナシクモード」、p. 93「手動によるマウス同期」、p.92「Mac/Linux」をお使いの場合」をご参照ください。 上記の方法で同期したら、p.337「その他のマウス同期方法」の「Sun/Linux」を参考にして、Linux 用の設定を行ってください。

(表は次のページに続きます)

問題	解決法
<p>IP-KVM スイッチと CS1308/CS1316 を KA7170 でカスケード接続すると、KA7170 のオンライン LED が点滅し続けて、カスケード接続できない。</p>	<p>KA7170 を使って CS1308/CS1316 をカスケード接続する場合、マウス同期モードを手動モードに設定する必要があります。次の手順に従って作業を行い、カスケード接続を正しくセットアップしてください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. CS1308/CS1316 から KA7170 を取り外してください。 2. KA7170 を任意のソースデバイス(PC)に接続してください。 3. KA7170 が接続している KVM ポートをクライアントビューアで開いてください。 4. クライアントビューアで、コントロールパネルにアクセスし、マウスダイナシンクモードを手動モードに設定してください。詳細については、p.91「マウスダイナシンクモード」を参照してください。 5. KA7170 をソースデバイス(PC)から取り外してください。 6. KA7170 を CS1308/CS1316 に接続し直してください。 7. 同様の設定が煩雑な場合は、上記設定が不要の KA7120 の利用をご検討ください。

バーチャルメディア

問題	解決法
バーチャルメディアが動作しない。	コンピューターモジュールの型番が KVM スイッチに対応しているかご確認ください。また、ターゲットサーバーが USB ストレージデバイスを許可しているかご確認ください。同様に新しいファームウェアと BIOS バージョンがある場合(USB をサポートするものは、更新して動作できるかお試しください)。
コントロールパネルにバーチャルメディアのアイコンが表示されない。	<ol style="list-style-type: none"> 1. バーチャルメディア機能は、KA7166、KA7168、KA7169、KA7175、KA7176、KA7177、KA7178、KA7189 のコンピューターモジュールを使用したときのみ、ご利用いただけます。 2. ローカルクライアントコンピューター上で管理者権限が与えられている必要があります(Windows 側の制限事項です)。
バーチャルメディアのドライブからサーバーをブートできない。	サーバーの BIOS が USB ドライブからのブートに対応していないことが考えられます。お使いのコンピューターのメインボードの最新のファームウェアと BIOS バージョンを確認し、メインボードの BIOS をアップグレードしてください。
USB フロッピードライブをサーバーに直接挿入した場合はサーバーをブートできるが、そのドライブをバーチャルメディアドライブとしてマッピングするとサーバーをリモートからブートできない。	USB フロッピーのドライブには、EFI と CBI の 2 種類のフォーマットタイプがあります。これらは両方とも OS レベルの操作でバーチャル機能を使用できますが、現時点において、ブートなどの BIOS レベルの操作に対応しているのは EFI のみです。
フォルダーをバーチャルメディアデバイスとしてマウントできない。	マウントするフォルダーが FAT16 ファイルシステムでフォーマットされている場合、ファイル内容が 2GB を超えるとマウントできません。

WindowsClient

問題	解決法
「ログイン失敗」のエラーが表示されて、WindowsClient ビューアが起動できない。	<ol style="list-style-type: none">1. IP-KVM スイッチのファームウェアを最新のバージョンにアップグレードしているか確認してください。2. 必要なサービスポート(例:80、443、9000)をファイアウォールで許可しているか確認してください。詳細は p.206「サービスポート」を参照してください。3. 接続先の IP-KVM 管理画面から WindowsClient をダウンロードして利用してください。
リモートとローカルのマウスポインターが同期していない。	<ol style="list-style-type: none">1. 自動同期機能 (p.87「ビデオ設定」参照)を使ってローカルとリモートのモニターを同期させてください。2. 上記の方法でも解決しない場合は、マウスの調整機能 (p.93「手動設定によるマウス同期」参照)を使って同期を取ってください。3. 上記のいずれの方法でも解決しない場合、マウスの表示切り替え機能 (p.98 参照)を使ってください。
KN1108VA/KN1116VA にブラウザからアクセスし、WindowsClient ビューアを起動すると、アンチウイルスソフトがトロイの木馬として警告を出す	WindowsClient ビューアは IE11 環境だと ActiveX プラグイン (windows.ocx) を使用しており、一部のアンチウイルスソフトが誤ってウイルスやトロイの木馬と判定することがあります。弊社では安全性を確認済みですので、プラグインをアンチウイルスの例外リストに追加してください。不安な場合は、webClient またはダウンロード版の WinClient/JavaClient ビューアのご利用をおすすめします。

(表は次のページに続きます)

問題	解決法
ファームウェアのアップグレード後に、WindowsClient Active X ビューアや WindowsClient アプリケーションが起動しない。	<p>この現象は、IE11 環境の.ocx ファイルの古いバージョンが削除されていないことに起因するため、古いファイルを削除する必要があります。ファイルを削除するには、以下の 2 種類の方法があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> Active Xビューアを使用している場合:IE を起動→[ツール]→[アドオンの管理]を選択し、WindowsClient に一致するものをすべて無効にするか削除してください。 WindowsClient アプリケーションを使用している場合:エクスプローラーを起動し、「WinClient.ocx」を検索し、一致するものをすべて削除してください。
リモートウィンドウの一部がモニターに表示されない。	<ol style="list-style-type: none"> 自動同期を実行してください(p.84 参照)。 「Keep Screen Size」(画面サイズを維持する)の項目にチェックが入っていない場合(p.87 参照)は、自動同期機能(p.87 参照)を使ってローカルとリモートのモニターを同期してください。 「Keep Screen Size」(画面サイズを維持する)の項目にチェックが入っている場合は、画面からはみ出している部分もスクロールすることで表示できます。
リモート画面が 90° 回転している。	「Keep Screen Size」(画面サイズを維持する)の項目にチェックを入れてください(p.87 参照)。
WindowsClient を起動していると、Net Meeting を起動できない。	「Keep Screen Size」(画面サイズを維持する)の項目にチェックを入れてください(p.87 参照)。

(表は次のページに続きます)

問題	解決法
<p>ログイン後に WindowsClient ActiveX ビューアを開くことができない。</p>	<ol style="list-style-type: none"> 1. WindowsClient のアドオンをクライアントコンピューターにインストールする権限がないことが考えられます。このソフトウェアをインストールする場合は、初回起動だけ、クライアントコンピューターで管理者権限があるユーザーに操作を依頼してください。2 回目以降は自身でプログラムを起動できるようになります。 2. Vista をお使いの場合、この IP-KVM スイッチの URL アドレスを、信頼されたサイトのリストに追加してください。 3. Internet Explorer の場合は、[ツール]→[インターネットオプション]→[セキュリティ]→[信頼済みサイト]→[サイト]で追加できます。
<p>Windows Vista で、WindowsClient ActiveX ビューアを起動した後、ドライバーやリムーバブルディスクをマウントしようとすると、「ドライバーが準備できていません」という内容のメッセージが表示される。</p>	<p>これは、Vista の UAC(ユーザーアカウントコントロール)に起因するものです。この問題を解決するには、下記の 2 つの方法があります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. クライアントコンピューターの管理者の場合は、このプログラムのアイコンを右クリックし、「別のユーザーとして実行する」を選択してください。その後でダイアログが表示されますので、ここから管理者のアカウントを選択して、このユーザーとしてプログラムを実行してください。 2. クライアントコンピューターの管理者ではない場合は、管理者に依頼して、UAC を無効にするようにしてください。
<p>WindowsClient アプリケーションを起動すると、IP-KVM スイッチがサーバーリスト画面に表示されません。</p>	<p>「Device Management」(デバイス管理)タブの「Access Port」(アクセスポート)セクションの「Program」(プログラム、p.206 参照)で設定されているポートと、このダイアログの「Server」(サーバー)欄にある「Port」(ポート)の項目の値が同じである機器だけが、サーバーリストに表示されます。この 2 つの項目の値を確認してください。</p>
<p>Windows Client の Active X ビューアと WindowsClient アプリケーションが IP-KVM スイッチに接続できない。</p>	<p>お使いのコンピューターに Direct X (8.0 以降のバージョン)のインストールが必要です。</p>

JavaClient

接続と操作に関する問題は下表を参考にしてください。

問題	解決法
IP-KVM スイッチに接続できない。	<ol style="list-style-type: none">1. お使いのクライアントコンピューターに最新バージョンの Java をインストールしてください。2. アクセスに使用する IP アドレスとポート番号が正しいか確認してください(詳細は p.67 参照)。3. Java を再起動して、操作をやり直してください。
「ログイン失敗」のエラーが表示されて、JavaClient ビューアが起動できない。	<ol style="list-style-type: none">1. IP-KVM スイッチのファームウェアを最新のバージョンにアップグレードしているか確認してください。2. 必要なサービスポート(例:80、443、9000)をファイアウォールで許可しているか確認してください。詳細は p.206「サービスポート」を参照してください。3. ビューアを終了し、再試行してください。
最新バージョンの Java JRE をインストールしたにもかかわらず、パフォーマンスと安定性の面に問題がある。	まれに最新のバージョンの Java の使用時に、IP-KVM スイッチの動作が安定しない場合がありますので、この場合はバージョンが1つ、ないし2つ古いものをインストールしてみてください。
ファームウェアをアップグレードしたにもかかわらず、Java アプレットビューアや JavaClient アプリケーションでログインすると、新しいファームウェアを適用する前のバージョン情報が表示される。	ログアウトしてから、以下の手順に従って Java のインターネット一時ファイルを削除してください。 <ol style="list-style-type: none">1. コントロールパネルから「Java」メニューを開いてください。2. 「インターネット一時ファイル」パネルから、「設定」ボタンをクリックしてください。3. 「ファイルの削除」ボタンをクリックしてください。4. 「一時ファイルの削除」ダイアログで、「了解」ボタンをクリックしてファイルを削除してください。
英語以外の言語を入力すると文字が表示されない。	<p>お使いのコンピューターのキーボード言語を確認してください。</p> <p>本製品が提供しているオンスクリーンキーボード機能を使って、オンスクリーンキーボードの言語を他のシステムが使用している言語と同じになるように設定してください(p.94 参照)。</p>

(表は次のページに続きます)

問題	解決法
Java のパフォーマンスが悪い。	プログラムを一旦終了し、再起動してください。
Windows の「メニュー」ボタンを押しても反応しない。	Java では Windows のメニューキーはサポートされていません。
デスクトップにフォルダーを追加して、バーチャルメディアドライブとしてマウントしようとする、このフォルダーが選択できない。	フォルダー選択の入力欄で、追加したいフォルダーのルートディレクトリーを入力してください。その後で、ルートディレクトリーの配下にあるフォルダーが表示され、選択したいフォルダーに移動できるようになります。

Sun

問題	解決法
D-sub15 ピンのコネクターを使用すると、ビデオ表示の問題が発生する（例：Sun Blade 1000 Server）*。	<p>ディスプレイの解像度は 1024×768@60Hz に設定する必要があります。</p> <p>テキストモードの場合：</p> <ol style="list-style-type: none"> OK プロンプトを起動し、以下のコマンドを実行します。 <pre>setenv output-device screen:r1024x768x60 reset-all</pre> <p>XWindow の場合：</p> <ol style="list-style-type: none"> コンソールを開き、以下のコマンドを実行します。 <pre>m64config -res 1024x768x60</pre> ログアウトします。 もう一度ログインします。
13W3のコネクターを使用すると、ビデオ表示の問題が発生する。（例：Sun Ultra Server）*	<p>ディスプレイの解像度は 1024×768@60Hz に設定する必要があります。</p> <p>テキストモードの場合：</p> <ol style="list-style-type: none"> OK プロンプトを起動し、以下のコマンドを実行します。 <pre>setenv output-device screen:r1024x768x60 reset-all</pre> <p>XWindow の場合：</p> <ol style="list-style-type: none"> コンソールを開き、以下のコマンドを実行します。 <pre>fbconfig -res 1024x768x60</pre> ログアウトします。 もう一度ログインします。

- * Sun VGA カードに関するトラブルの多くは、上記の方法で解決できます。上記の手順で対応しても解決しない場合は Sun VGA カードのマニュアルを一度ご覧ください。

Mac

問題	解決法
Safari を使って IP-KVM スイッチにログインした際に、スナップショット機能を使用するとブラウザが応答なしになる。	Safari を強制終了し、再起動してください。この場合、スナップショット機能は使用しないでください。
	Safari でスナップショット機能を使用する場合は、Mac OS 10.4.11、Safari3.0.4 にアップグレードしてください。

Red Hat

問題	解決法
サーバーとしてインストールされた Red Hat 9.0 (2.4.20-8) を、KA7175 もしくは KA7176 で本体に接続した場合、キーボード・マウスが正常に動作しない。	マウス同期モードとして「AS3.0」を選択してください。詳細については p.92「Mac/Linux 環境の場合」をご参照ください。
デスクトップシステムとしてインストールされた Red Hat 9.0 (2.4.20-8) を、KA7175 もしくは KA7176 で本体に接続した場合、キーボード・マウスが正常に動作しない。	お使いのキーボードとマウスを USB2.0 ハブに接続してから、このハブを Red Hat 9.0 サーバーに接続してください。

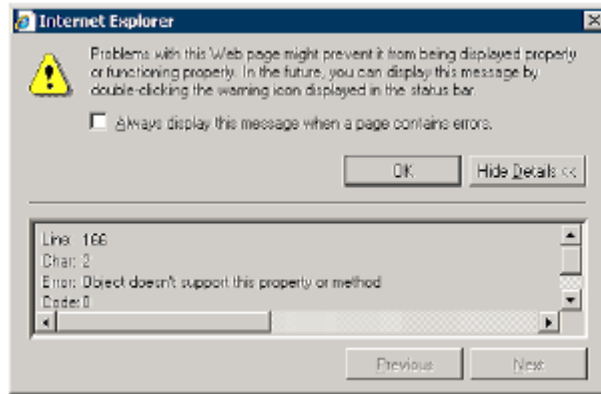
ログサーバー

問題	解決法
ログサーバープログラムが起動しない。	<p>ログサーバーはデータベースへのアクセスに Microsoft Jet OLEDB 4.0 ドライバーを必要とします。</p> <p>このドライバーは Windows ME、2000、XP には、あらかじめインストールされています。</p> <p>Windows 98 または NT をお使いの場合、Microsoft のダウンロードサイト (http://www.microsoft.com) から「MDAC 2.7 RTM Refresh (2.70.9001.0)」ドライバーファイルをダウンロードしてください。</p> <p>このドライバーは Windows Office Suite に使用されるため、Windows Office Suite のインストールによっても入手が可能です。ドライバーファイルまたは Windows Office Suite をインストールすると、ログサーバーが動作可能になります。</p>

パネルレイモード

問題	解決法
パネルレイモードが低解像度で表示される。	この現象は、画面がパネルに合うように縮小されることに起因します。画面に表示されるパネル数を増やしてください。
複数のリモートユーザーが同時ログインした場合、一部のユーザーのモニターは画面の一部しか表示されない。	最初にパネルレイモードを起動したユーザーは、画面表示の設定を最低でも4分割に変更してください。
1つ前、または1つ後ろのポートに移動しようとする、画面が2つ前のポートに移動したり、ポートが移動しなかったりする場合があります。	<p>これは、ネットワークのタイムラグの問題により時々発生します。パネルレイモードでは、事前に選択した一定の時間間隔でポートを自動的に表示していきます。ユーザーからの入力を受け取る間に、パネルは既にポートを1つ進めますが、表示処理が追いついていない場合はディスプレイへの表示が遅れるため、ポートが切り替わっていないように見える場合があります。</p> <p>したがって、ユーザーが1ポート先に切り替えた場合は2つ先のポートに移動したように見えたり、逆に、1ポート前のポートに切り替えた場合は移動していないように見えたりするという現象が発生します。</p>

ビューアを開くと、ウェブページが表示されなかったり、正常に動作しなかったりすることがあり、下図のようなエラーメッセージが表示される。



1. Internet Explorer のセキュリティ設定をリセットし、アクティブスクリプト、ActiveX コントロール、Java アプレットを有効にしてください。

デフォルトでは、Internet Explorer 6 や Internet Explorer 5.x は、制限付きサイトには「高」のセキュリティレベルが、また、Windows Server 2003 の場合は、制限付きサイトとインターネットゾーンに「高」のセキュリティレベルがそれぞれ設定されています。アクティブスクリプト、ActiveX コントロール、Java アプレットを有効にする場合は、下記の手順に従って操作してください。

- a) Internet Explorer を起動してください。
 - b) 「ツール」メニューで「インターネットオプション」をクリックしてください。
 - c) 「インターネットオプション」ダイアログで、「セキュリティ」タブをクリックしてください。
 - d) デフォルトレベルをクリックしてください。
 - e) 「OK」ボタンをクリックしてください。
2. アクティブスクリプト、ActiveX、Java がそれぞれブロックされていないか確認してください。
一部のクライアントコンピューターではうまくいくものの、その他のコンピューターではうまくいかない場合は、クライアントコンピューターの Internet Explorer、またはウイルス対策プログラムやファイアーウォールのような別のプログラムが、スクリプトや ActiveX コントロール、または Java アプレットをブロックするように設定されていないか確認してください。
 3. お使いのウイルス対策プログラムで、インターネット一時ファイルや「Downloaded Program Files」フォルダーをスキャンするように設定していないか確認してください。

4. インターネット一時ファイルを削除してください。
お使いのクライアントコンピューターからインターネット一時ファイルを削除する場合は、下記の手順に従って操作してください。
- a) Internet Explorer を起動してください。
 - b) 「ツール」メニューで、「インターネットオプション」をクリックしてください。
 - c) 「全般」タブをクリックしてください。
 - d) 「削除」をクリックしてください。
 - e) 「ファイルの削除」をクリックしてください。
 - f) 「OK」をクリックしてください。
 - g) 「Cookie」にチェックをつけ、「削除」をクリックしてください。
 - h) 「OK」をクリックしてください。

注意: 削除メニューは、お使いの IE のバージョンによって異なる場合があります。詳細は IE のヘルプとサポートを参照してください。

5. Microsoft DirectX の最新バージョンがインストールされているか確認してください。これは Microsoft のウェブサイトからダウンロードできます。詳細は、Microsoft 社のウェブサイトをご確認ください。

<http://www.microsoft.com/windows/directx/default.aspx?url=/windows/directx/downloads/default.htm>

Java JRE の最新バージョンがインストールされているか確認してください。これは Java のウェブサイト (www.java.com) からダウンロードできます。

ポートの転送

IP-KVM スイッチがルーター内のセグメントに構築されている場合、外部からのアクセスをルーターが転送できるように、ルーター側でポート転送の設定をする必要があります。IP-KVM スイッチにはルーター機能はありません。ポート転送のパラメーター設定や、特定のポートに送信されたデータの転送先となるデバイスの設定は、ルーター側で行ってください。

例えば、特定のルーターに接続した IP-KVM スイッチの IP アドレスが「192.168.1.180」の場合、ルーターの設定プログラムにログインした後、ポート転送(場合によってはバーチャルサーバー)の設定画面にアクセスし、先ほどの IP アドレス「192.168.1.180」と開放したいポート(例えばインターネットアクセスでは 9000 番を使用)を設定します。

ルーターの設定方法は、製品ごとに異なりますので、ポート転送の詳細については、お使いのルーターのユーザーマニュアルをご参照いただくか、そのルーターの製造元にお問い合わせください。

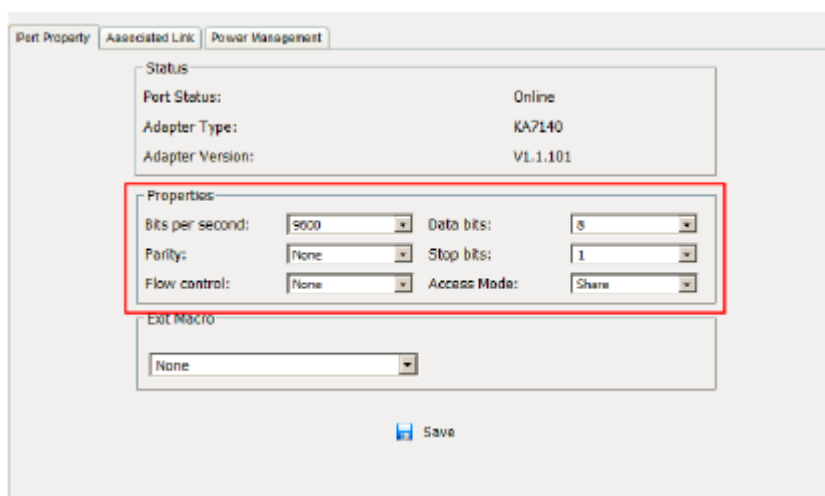
KA7140 の設定と操作

KA7140 は IP-KVM スイッチとシリアルデバイスの接続に使用するコンピューターモジュールです。

設定方法

KA7140 を使ってシリアルデバイスを接続する場合は、そのシリアルデバイスのパラメーターと同じ値を IP-KVM スイッチ側で設定する必要があります。以下の手順に従って設定を行ってください。

1. 「Port Access」(ポートアクセス)タブのサイドバーで、KA7140 が接続されているポートを選択してください。
2. メニューバーから「Port Configuration」(ポート設定)を選択してください。
「Port Properties」(ポートプロパティ)画面が選択された状態で画面が開きます。



3. 「Properties」(プロパティ)セクションで、各リストをドロップダウンさせ、接続されているシリアルコンソールデバイスで使用している値になるようにポートプロパティの値を選択してください。KA7140 で設定できるポートプロパティの項目は下表のとおりです。

項目	説明
Bits per second (Baud Rate) (bps、ボーレート)	ポートのデータ転送速度を設定します。ドロップダウンで提供している 300～38400 の範囲の項目のうち、お使いのシリアルコンソールデバイスの環境に適した値を選択してください。デフォルトでは 9600 に設定されています(この値は大半のシリアルコンソールデバイスにおける基本的な設定値です)。
Data Bits (データビット)	データ 1 文字を転送する際に使用するビット数を設定します。お使いのシリアルコンソールデバイスのデータビットの設定に合うように、7 または 8 を設定してください。デフォルトでは 8 に設定されています(この値は大半のシリアルコンソールデバイスでのデフォルト値として設定されています)。
Parity (パリティ)	転送されたデータの整合性を確認する際に、この項目で設定されたパリティビットを使用します。設定できる値は、「None」(なし)、「Odd」(奇数)、「Even」(偶数)です。お使いのシリアルコンソールデバイスの環境に適した値を選択してください。デフォルトでは「Odd」(奇数)に設定されています。
Stop Bits (ストップビット)	文字が転送されたことを表すストップビットを設定します。お使いのシリアルコンソールデバイスのストップビットの設定に合うように、1 または 2 を設定してください。デフォルトでは 1 に設定されています(この値は大半のシリアルコンソールデバイスでのデフォルト値として設定されています)。
Flow Control (フロー制御)	データフローの制御方法を設定します。設定できる値は、「None」(なし)、「Hardware」(ハードウェア)、「XON/XOFF」です。お使いのシリアルコンソールデバイスの環境に適した値を選択してください。デフォルトでは「None」(なし)に設定されています。 注意: 「None」(なし)はボーレートが 9600 以下に設定されたときのみ有効な値です。ボーレートが 9600 を超える値に設定されている環境では、この項目を「Hardware」(ハードウェア)、または「XON/XOFF」に設定してください。
Access Mode (アクセスモード)	シリアルコンソールデバイスのアクセスモードを設定します。設定できる値は、「Share」(共有)、「Occupy」(占有)、「Exclusive」(排他)です。デフォルトでは「Share」(共有)に設定されています。この機能に関する詳細は p.168「アクセスモード」をご参照ください。

4. 各項目の設定が終わったら、「Save」(保存)ボタンをクリックしてください。

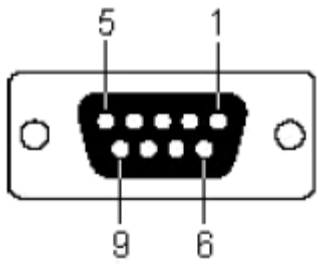
操作方法

ポートに接続されたデバイス进行操作する場合は、「Port Access」(ポートアクセス)タブでそのポートをダブルクリックし、ポートが切り替わったらそのデバイス呼び出すコマンドを実行してください。

KA7140 ピンアサイン

KA7140 のピンアサインの詳細は下表のとおりです。

ピン	ピンアサイン
1	DCD
2	RXD
3	TXD
4	DTR
5	GND
6	DSR
7	RTS
8	CTS
9	N/A











DB9 ピン メス

キーボードエミュレーション

Mac キーボード



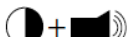



キーマッピングのエミュレーション機能により、PC 互換キーボードから Mac システムのキーボードのファンクションキーを使用できます。詳細は下表をご参照ください。

PC 互換キーボード	Mac キーボード
[Shift]	Shift
[Ctrl]	Ctrl
	
[Ctrl] [1]	
[Ctrl] [2]	
[Ctrl] [3]	
[Ctrl] [4]	
[Alt]	Alt
[Print Screen]	F13
[Scroll Lock]	F14
	=
[Enter]	Return
[Backspace]	Delete
[Insert]	Help
[Ctrl] 	F15

注意: 上記の組み合わせでキーを入力する場合は、最初に入力するキー ([Ctrl]キー) を離してから、次のキーを入力するようにしてください。

Sun キーボード

[Ctrl]キーと他のキーを組み合わせることで入力することによって、PC 互換キーボードから、キーマッピングのエミュレーション機能を利用して Sun システムのキーボードのファンクションキーを使用できます。詳細は下表をご参照ください。

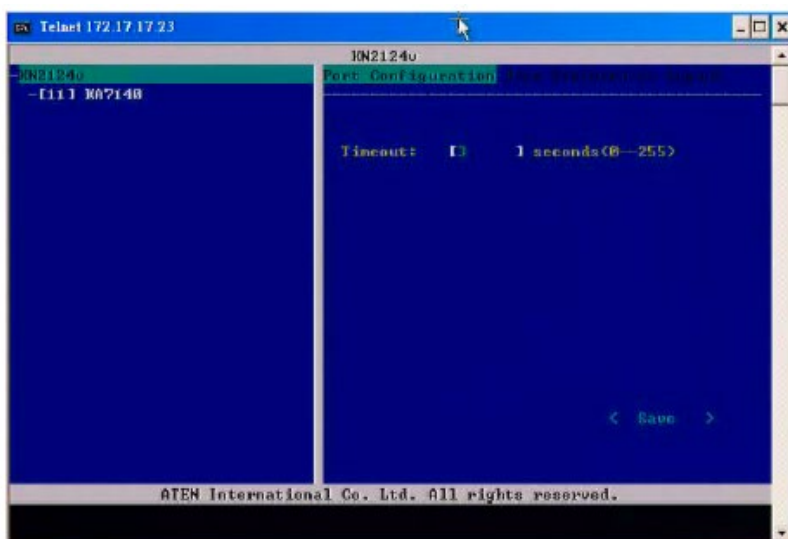
PC 互換キーボード	Sun キーボード
[Ctrl] [T]	Stop
[Ctrl] [F2]	Again
[Ctrl] [F3]	Props
[Ctrl] [F4]	Undo
[Ctrl] [F5]	Front
[Ctrl] [F6]	Copy
[Ctrl] [F7]	Open
[Ctrl] [F8]	Paste
[Ctrl] [F9]	Find
[Ctrl] [F10]	Cut
[Ctrl] [1]	
[Ctrl] [2]	
[Ctrl] [3]	
[Ctrl] [4]	
[Ctrl] [H]	Help
	Compose
	Meta

注意: 上記の組み合わせでキーを入力する場合は、最初に入力するキー ([Ctrl]キー) を離してから、次のキーを入力するようにしてください。

内部シリアルインターフェースの設定

本製品では、接続デバイスのシリアルインターフェースのパラメーターを、アクセスサーバーから設定できる機能を提供しています。パラメーターの設定を行う場合は、下記の手順に従って操作してください。

1. アクセスサーバーから、コマンドライン(ターミナル)セッションを開くか、ハイパーターミナルや PuTTY といったサードパーティーのシリアルアプリケーションを起動してください。
2. IP-KVM スイッチに設定された IP アドレスに Telnet 接続、または SSH 接続してください。
3. 普段お使いのアカウントのユーザーネームとパスワードを使ってログインし、アクセス画面を立ち上げてください。



ナビゲーション

左側のパネルの一番上には KVM スイッチが表示され、その下に、この KVM スイッチに接続されているシリアル機器が表示されます。また、右側のパネルの一番上には設定パラメーターが表示され、その下の部分には設定内容が表示されます。

- ◆ ハイライトバーを左右のパネル間で動かしたり、設定パラメーターを選択したりする場合は、左右のカーソルキーを使ってください。
- ◆ 左側のパネルで KVM スイッチとシリアル機器を切り替えたり、右側のパネルで設定アイテムを選択したりする場合は、上下のカーソルキーを使ってください。

操作方法

- ◆ 左側のパネルでデバイスを選択する場合は、上下のカーソルキー(↑および↓)を移動させてください。[Enter]キーを押すと、そのデバイスでコマンドライン(ターミナル)セッションを開きます。
- ◆ セッションを終了する場合は、アクセスページに戻るホットキー(次のセクションおよび p.334 参照)を押してください。
- ◆ この機能を終了する場合は、ハイライトバーを画面右側のパネルにある「Logout」(ログアウト)に移動させ、下カーソルキーで「Exit」まで移動して、[Enter]キーを押してください。

スイッチレベルでの設定

左側のパネルで KVM スイッチが選択されている際に右側のパネルで設定可能な項目は下表のとおりです。

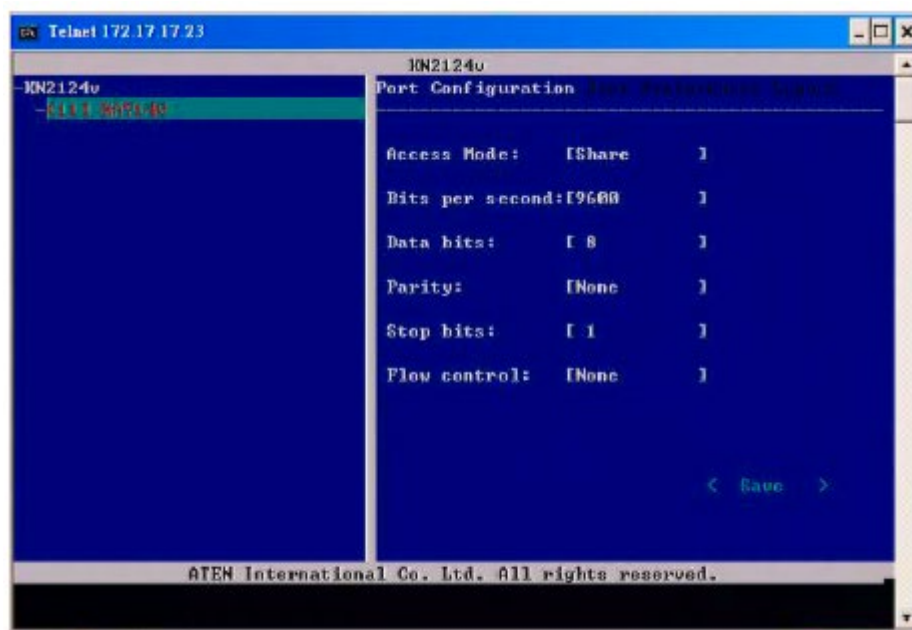
項目	説明
Port Configuration (ポート設定)	<p>ポート設定が選択されている時は、下カーソルキーを押して現在のタイムアウト値を選択してください。現在の値を上書きする場合は、新しいタイムアウト値を入力してください。</p> <p>注意: 入力値を消去する方法はありません。値を変更したい場合は、上カーソルキーを使ってそのフィールドを離れ、下カーソルキーで戻ってきてください。戻ってくると新しい値を入力できます。</p> <p>操作を終了する場合は、下カーソルキーで「Save」(保存)まで移動し、[Enter]キーを押してください。</p>

(表は次のページに続きます)

項目	説明
User Preferences (ユーザー設定)	<p>現在作業しているセッションから、アクセス画面に戻るホットキーを設定できます。</p> <p>ユーザー設定が選択されている場合、下カーソルキーを使って、現在のホットキーの文字に移動してください。現在のホットキーの文字を上書きする場合は、新しい文字を入力してください。</p> <p>操作を終了する場合は、下カーソルキーで「Save」(保存)まで移動し、[Enter]キーを押してください。</p>
Logout (ログアウト)	<p>ログアウトが選択されている場合は、下カーソルキーを使って「Exit」(終了)に移動し、[Enter]キーを押してください。</p>

ポートレベルでの設定

シリアルインターフェースデバイスが左側のパネルで選択されている場合は、下図のような画面が表示されます。



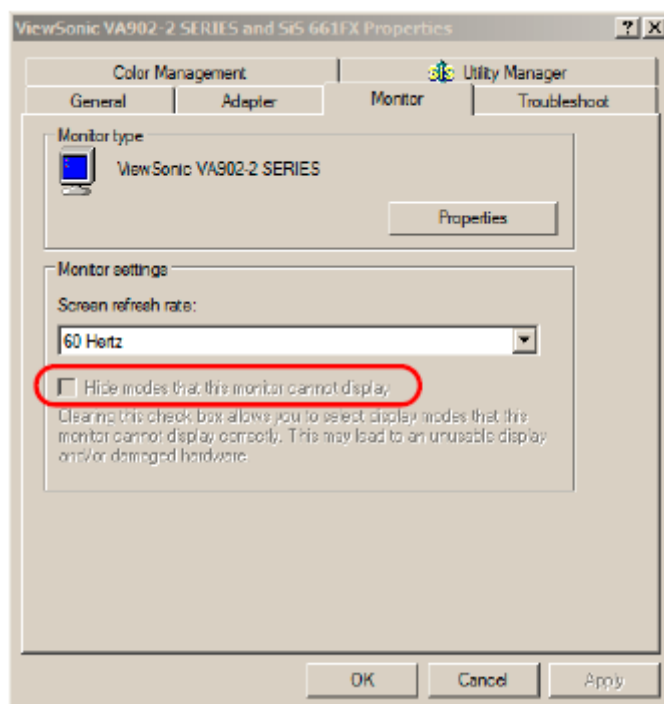
シリアル機器が選択されている際に右側のパネルで設定可能な項目は下表のとおりです。

項目	説明
Port Configuration (ポート設定)	<p>シリアルパラメーターを設定する場合は、下記の手順に従って操作してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 上下のカーソルキーを使って、目的のアイテムまで移動してください。 2. [Enter]キーを押して、リストを展開してください。 3. 上下のカーソルキーを使って項目を選択したら、[Enter]キーを押してください。 <p>操作を終了する場合は、下カーソルキーで「Save」(保存)まで移動し、[Enter]キーを押してください。</p>
User Preferences (ユーザー設定)	<p>現在作業しているセッションから、アクセス画面に戻るホットキーを設定できます。</p> <p>ユーザー設定が選択されている場合、下カーソルキーを使って、現在のホットキーの文字に移動してください。現在のホットキーの文字を上書きする場合は、新しい文字を入力してください。</p> <p>操作を終了する場合は、下カーソルキーで「Save」(保存)まで移動し、[Enter]キーを押してください。</p>
Logout (ログアウト)	<p>ログアウトが選択されている場合は、下カーソルキーを使って「Exit」(終了)に移動し、[Enter]キーを押してください。</p>

その他のビデオ解像度の設定

Windows がインストールされたコンピューターをお使いで、なおかつ、特殊なリフレッシュレートに設定してご利用になる場合は、以下の手順で設定を行ってください。

1. [コントロールパネル]→[画面]→[設定]→[詳細設定]→[モニター]を開いてください。
2. 下図のようなダイアログボックスで、「このモニターでは表示できないモードを隠す」の項目にチェックが入っていないか確認してください。



3. 「画面のリフレッシュレート」リストの右端の矢印ボタンをクリックして、お使いの環境で使用するリフレッシュレートをリストから選択してください。

注意: 選択されたリフレッシュレートがお使いのモニターで対応していることをご確認ください。サポート外の解像度を選択すると、お使いのモニターに深刻なダメージを与えることがあります。

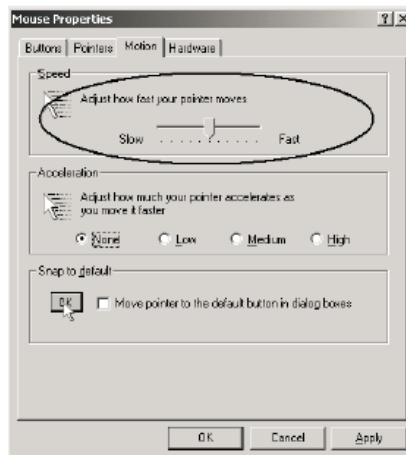
その他のマウス同期方法

一部のコンピュータでマウスのポインターに関する問題が、本マニュアルに記載されているマウス同期方法で解決できない場合は、下記の方法をお試しください。

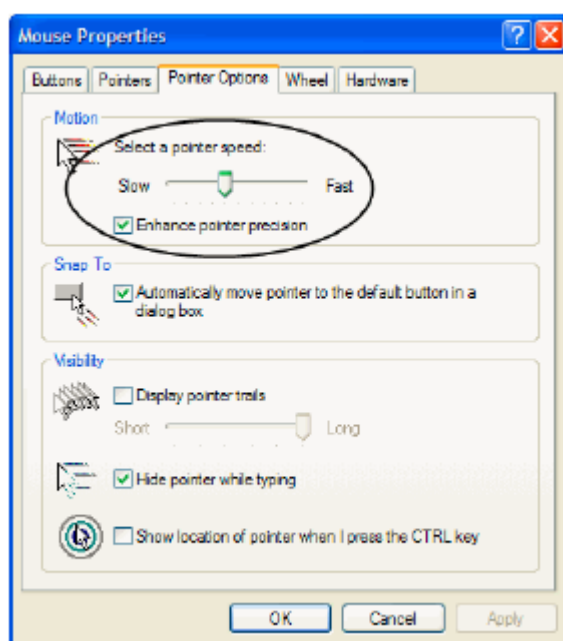
- 注意:**
1. 以下の操作は、IP-KVM スイッチのポートに接続されているコンピュータ側で実行してください。このコンピュータは、IP-KVM スイッチへのアクセスに使っているコンピュータとは異なりますので、ご注意ください。
 2. ローカルおよびリモートのマウスを同期させる場合は、Microsoft の OS に付属されているマウスドライバーを使用する必要があります。したがって、マウスに付属されているドライバーなどのサードパーティーのドライバーを使用している場合は、これを削除しなければなりません。

Windows

1. Windows2000 がインストールされているコンピュータをお使いの場合は、以下の手順で設定を行ってください。
 - a) 「マウスのプロパティ」ダイアログを表示してください（[コントロールパネル]→[マウス]→[マウスのプロパティ]）。
 - b) 「マウスのプロパティ」ダイアログから、「動作」タブを開いてください。
 - c) マウスの速度のスライダーを中間に移動させてください。
 - d) 「ポインターの加速」で、「いいえ」のラジオボタンを選択してください。



2. Windows XP または Windows Server 2003 がインストールされているコンピューターをお使いの場合は、以下の手順で設定を行ってください。
 - a) 「マウスのプロパティ」ダイアログを表示してください([コントロールパネル]→[マウス])。
 - b) 「ポインターオプション」タブを開いてください。
 - c) マウスの速度のスライダーを中間に移動させてください。
 - d) 「ポインターの精度を高める」の項目のチェックを外してください。



3. Windows ME がインストールされているコンピューターをお使いの場合は、マウスの速度を中間に設定し、マウスの加速機能を無効にしてください(この設定を行う場合は、ダイアログから「詳細...」ボタンをクリックする必要があります)。
4. Windows NT、Windows 98 または Windows 95 がインストールされているコンピューターをお使いの場合は、マウスの速度を中間に設定してください。

Sun/Linux

ターミナルセッションを開き、以下のコマンドを実行してください。

Sun の場合: `xset m 1`

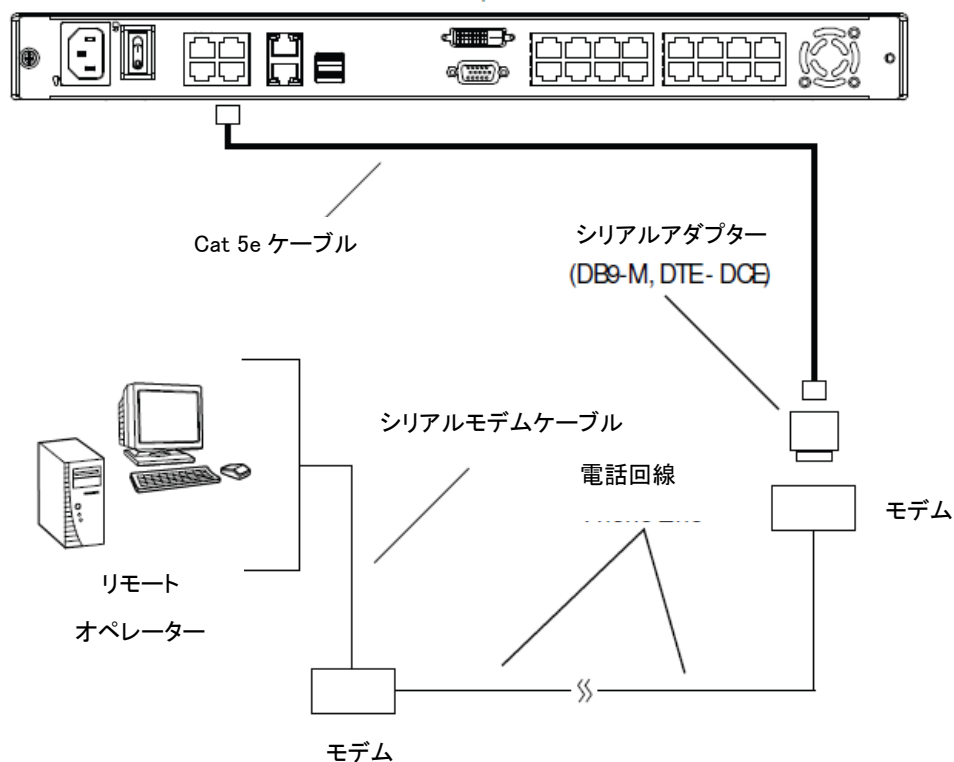
Linux の場合: `xset m 0`

PPP モデム操作

基本セットアップ

ウェブブラウザや専用アプリケーションを使用したアクセス方法の他に、KN1108VA/KN1116VA はアナログモデムを使った RS-232 ポート経由でのアクセス方法にも対応しています。この方法で接続する場合は、以下の手順で操作してください。

1. お使いの KN1108VA/KN1116VA および関連機器を下図のようにセットアップしてください。



2. お使いのコンピューターから、モデムダイヤルインプログラムを使って IP-KVM スイッチのモデムにダイヤルイン接続してください。

-
- 注意:**
1. IP-KVM スイッチのモデムに設定されているシリアル関連のパラメーターがご不明な場合は、その機器の管理者にお問い合わせください。
 2. Windows XP でのダイヤルインプログラムの設定例は p.342 をご参照ください。
-

3. 接続が確立したら、ウェブブラウザを立ち上げ、アドレスバーに「192.168.192.1」を入力して IP-KVM スイッチにアクセスしてください。

-
- 注意:**
1. デフォルトでは、モデム接続のユーザーネームとパスワードが、いずれもブランク(設定なし)になっています。
 2. モデムセッションでは、IP-KVM スイッチには「192.168.192.1」を、ユーザー側には「192.168.192.101」を、それぞれ IP アドレスとして使用します。
-

これ以降の操作は、ウェブブラウザや専用アプリケーションを使用した操作方法と同じです。

ダイヤルイン接続 セットアップ例 (Windows XP)

Windows XP からの IP-KVM スイッチへのダイヤルイン接続の設定は、以下の手順で操作してください。

1. Windows 上で、[スタート]→[コントロールパネル]→[ネットワーク接続]を開き、「新しい接続を作成する」をクリックしてください。
2. 「新しい接続ウィザードの開始」ダイアログが表示されたら、「次へ」ボタンをクリックしてください。
3. 「ネットワーク接続の種類」画面で、「職場のネットワークへ接続する」のラジオボタンを選択し、「次へ」ボタンをクリックしてください。
4. 「ネットワーク接続」画面で、「ダイヤルアップ接続」のラジオボタンを選択し、「次へ」ボタンをクリックしてください。
5. 「接続名」画面で、この接続につける名前(例:TPE-KN8132-01)を入力し、「次へ」ボタンをクリックしてください。
6. 「接続の利用範囲」画面で、ダイヤル接続を全ユーザーに許可する場合は「すべてのユーザー」を、現在操作しているユーザーのみに許可する場合は「自分のみ」を選択し、「次へ」ボタンをクリックしてください。

注意: お使いのコンピューターに現在ログインしているユーザーしか登録されていない場合は、このダイアログは表示されません。

7. 「ダイヤルする電話番号」画面で、IP-KVM スイッチに接続されているモデムの電話番号(必要であれば国番号や市外局番をつけること)を入力し、「次へ」ボタンをクリックしてください。
8. 「新しい接続ウィザードの完了」画面で、「この接続へのショートカットをデスクトップに追加する」のチェックボックスにチェックを入れて、「完了」ボタンをクリックしてください。

以上で接続に必要なセットアップは完了です。PPP 接続で IP-KVM スイッチにアクセスする場合は、デスクトップに作成したショートカットアイコンをダブルクリックしてください。

シリアルアダプターのピンアサイン

RJ-45 メス → DB-9 オス(黒)		DTE → DCE	
KN1108VA/ KN1116VA (RJ-45)	ピン(8)		モデム/デバイス (DB-9)
RTS	1	⇔	7
DTR	2	⇔	4
TXD	3	⇔	3
CTS	4	⇔	8
GND	5	⇔	5
RXD	6	⇔	2
DCD	7	⇔	1
DSR	8	⇔	6
9 NC 未使用			

対応 KVM スイッチ

本製品には以下の機種をカスケード接続して使用できます。

- ◆ KH1508A
- ◆ KH1516A
- ◆ CS1308
- ◆ CS1316

- 注意:**
1. カスケード接続する KVM スイッチの機種によっては、製品の機能の一部が制限される場合があります(例:接続した KVM スイッチがバーチャルメディアに対応していない場合)。
 2. 本製品は 3 段階以上のカスケード接続には対応していません。

バーチャルメディア対応

WindowsClient (ウェブブラウザ版・アプリケーション版共通)

- ◆ IDE CD-ROM/DVD-ROM ドライブ - 読み取り専用
- ◆ IDE ハードディスクドライブ - 読み取り専用
- ◆ USB CD-ROM/DVD-ROMドライブ - 読み取り専用
- ◆ USB ハードディスクドライブ - 読み取り/書き込み対応*
- ◆ USB フラッシュメモリ - 読み取り/書き込み対応*
- ◆ USB フロッピードライブ - 読み取り/書き込み対応
- ◆ スマートカードリーダー - 読み取り/書き込み対応* (KA7166、KA7168、KA7169、KA7177、KA7188、KA7189 のコンピューターモジュール使用時のみ)

注意:	これらのドライブは、ドライブまたはリムーバブルディスクとしてマウントできます (p.107「バーチャルメディア」参照)。リムーバブルディスクとしてマウントした場合、そのディスクにブート可能な OS が含まれていれば、そこからリモートサーバーをブートできます。さらに、そのディスクが複数のパーティションに分かれている場合、リモートサーバーはすべてのパーティションにアクセス可能です。
------------	--

- ◆ ISO ファイル - 読み取り専用
- ◆ フォルダー - 読み取り/書き込み対応

JavaClient (ウェブブラウザ版・アプリケーション版共通)

- ◆ ISO ファイル - 読み取り専用
- ◆ フォルダー - 読み取り/書き込み対応

WebClient ビューア

- ◆ ISO ファイル - 読み取り専用
- ◆ フォルダー - 読み取り/書き込み対応

ログイン情報の消去

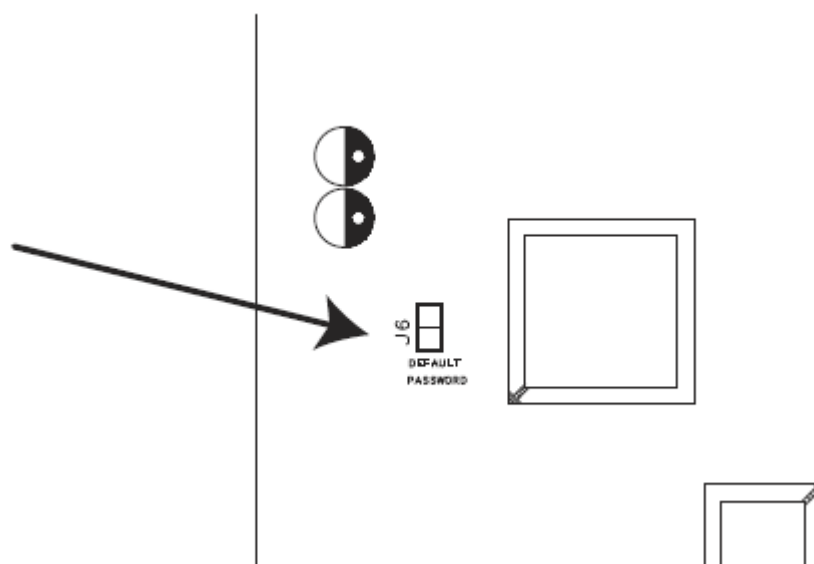
ユーザーネームやパスワードを忘れたなどの理由でアドミニストレーターとしてログインできなくなった場合は、以下の方法でログイン情報を消去できます。

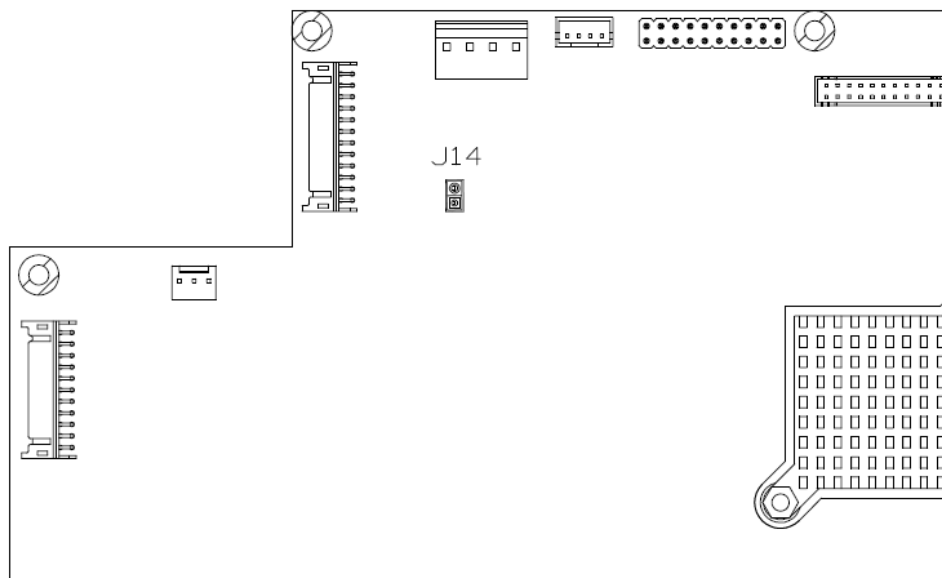
注意: 以下の操作を行うと、すべての設定項目が工場出荷時のデフォルト値に戻ってしまいますので、ご注意ください。

ログイン情報をクリアし、すべての設定項目を工場出荷時のデフォルト値に戻す場合は、以下の手順で操作してください。

1. 製品本体の電源を切り、ケースを外してください。
2. メインボード上の「J6」または「J14」と記載されているジャンパーを、ジャンパーキャップを使ってショートさせてください。

注意: メインボードには2種類のバージョンがあります。お使いの機器が「J6」と「J14」のどちらのジャンパーを使っているか、以下の図で確認してください。





3. 製品本体に電源を入れてください。
4. リンク LED ランプと 10/100 Mbps LED ランプがそれぞれ点滅したら、製品本体の電源を切ってください。
5. J6 または J14 のジャンパーからジャンパーキャップを外してください。
6. ケースを製品本体に取り付けて、電源を入れてください。

製品本体に電源が入ると、デフォルトのアドミニストレーターのユーザーネームとパスワードでログインできるようになります(p.55 参照)。

工場出荷時のデフォルト設定

OSD メニューの各項目の工場出荷時におけるデフォルト値は以下のとおりです。

設定	デフォルト値
Language (言語)	英語
GUI Hotkey (GUI ホットキー)	[Scroll Lock]キー2 度押し
Port ID Display (ポート ID 表示)	ポートナンバー + ポートネーム
Port ID Display Duration (ID 表示間隔)	3 秒
Scan Duration (スキャンインターバル)	5 秒
Screen Blanker (スクリーンブランカー)	0 分 (無効)
Beeper (ビープ音)	ON
Viewer (ビューアー)	自動検出
Welcome Message (ウェルカムメッセージ)	非表示
Accesible Ports (アクセス可能なポート)	◆ スーパーアドミニストレーター - 全ポートに対しフルアクセス ◆ その他のユーザー - 全ポートに対しアクセス不可